

2024年度

帝塚山学院大学便覧



帝塚山学院大学
Tezukayama Gakuin University

帝塚山学院大学便覧(2024年度入学生用)

大学便覧には、帝塚山学院大学での学生生活を送る上で必要な情報を掲載しています。大学生活の4年間を通して使用しますので、大切に保管してください。また、入学年度によって教育課程や卒業要件が異なります。必ず自身の入学年度の大学便覧を確認してください。

※ 2024年4月時点の内容を掲載しています。内容に変更がある場合は、大学ホームページおよび帝塚山学院大学ポータルにてお知らせします。

目次

I. 帝塚山学院大学について

1. 建学の精神と教育の基本理念	004
2. 大学組織図	005
3. 設置学部・学科と学位の種類	005
4. 帝塚山学院大学の沿革	006
5. 3つのポリシー	008

II. 学びについて

1. 帝塚山学院大学での学び	020
2. 帝塚山学院大学生の10のちから	022
3. 学びのサポート	025
4. 授業関連年間スケジュール	026
5. 授業	027
6. 単位	034
7. 履修登録	036
8. シラバス	039
9. テキスト	043
10. 教室	043
11. 授業アンケート	044
12. 試験	045
13. 成績評価・単位の認定・GPA制度	048
14. 留学制度	056
15. 卒業・卒業延期制度	058

III. 教育課程について

1. 教育課程表の見方	062
2. 基盤教育科目	066
3. リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科	070
4. リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 メジャーコース・マイナーコースについて	078
5. 総合心理学部 総合心理学科	088
6. 食環境学部 食イノベーション学科	096
7. 食環境学部 管理栄養学科	104
8. 資格専門科目	112

IV. 資格課程について

1. 博物館学芸員	116
2. 図書館司書	118
3. レクリエーション・インストラクター資格	119
4. 社会福祉主事任用資格	120
5. 社会教育士・社会教育主事任用資格	121
6. 公認心理師国家試験 受験資格(大学指定科目)	123
7. 認定心理士/認定心理士(心理調査)資格	126
8. 児童指導員任用資格	129
9. 児童福祉司任用資格	129
10. 栄養士資格	130
11. 管理栄養士国家試験 受験資格	132
12. 食品衛生管理者および食品衛生監視員任用資格	134
13. フードスペシャリスト 受験資格	136
14. 健康運動実践指導者 受験資格	138
15. 食育インストラクター資格3級 受験資格	140
16. 健康食品管理士 受験資格	141

V. 学生生活について	
1. 学生生活関連年間スケジュール	144
2. 学籍番号・学生証・通学証明書	145
3. 通学	146
4. 大学からの連絡・大学への連絡、問い合わせ	150
5. 学生生活のサポート	153
6. 学費	156
7. 奨学金	158
8. 教育ローン制度	161
9. スカラシップ制度	161
10. アルバイトの紹介	163
11. 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険	164
12. 下宿	166
13. 課外活動	167
14. 学生生活を送る上での注意事項	169
15. 学生の懲戒	172
16. ハラスメント防止	173
17. Voices 制度	174
18. 障がいがある人とともに	175
VI. 学籍の異動・各種申請書等について	
1. 学籍の異動	180
2. 証明書・申請書・届書・願書	183
3. 学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）	184
4. 証明書自動発行機	185
5. オープンバッジ（デジタル証明書）	186
VII. ICT 環境・各種システムについて	
1. BYOD	190
2. システム利用許可証	193
3. 帝塚山学院大学ポータル	193
4. WebClass	196
5. テヅカポートフォリオ	196
6. 就職支援 NAVI	204
7. 公式 SNS アカウント	205
VIII. キャリア形成について	208
IX. 学内施設について	
1. コモンズ	212
2. 図書館（ナレッジコモンズ）	214
3. PC ルーム	216
4. 体育館・テニスコート・グラウンド	217
5. クラブハウス	219
6. その他の施設	220
X. 学則・規程	222
XI. 付録	
1. 災害時の備え	236
2. AED（自動体外式除細動器）	238
3. 教育後援会・同窓会	239
4. 学院歌・校歌・祝歌（あかね歌）・学生の歌	240
巻末	
・ 帝塚山学院大学 周辺MAP	
・ 帝塚山学院大学周辺 ハザードマップ	
・ キャンパスマップ／大学事務局窓口一覧	

I . 帝塚山学院大学について

1. 建学の精神と教育の基本理念

本学の学則第2条は、本学の目的を次のように規定しています。

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、「力の教育」、すなわち意志の力、情の力、知の力、躯幹の力を含む全人教育を以って有為な人材を社会に送り出すという帝塚山学院建学の精神を継承しながら、豊かな教養を身につけ自学自習の教育によって求知心を育み、社会に貢献し得る品性高い人材を育成することを目的とする。

この規定の中に、本学の建学の精神と教育の基本理念が端的に表現されています。前段が建学の精神、後段が教育の基本理念です。この二つは、本学院の初代学院長庄野貞一が大正6（1917）年の帝塚山学院小学校開設に際して発表した「帝塚山学院小学部設立趣意書」を典拠としています。

そこでは「力の教育」とは、「意志の力、情の力、知の力、躯幹の力」を備えた人物の輩出であると説明されており、現代的には、全人教育を以って有為な人材を社会に送り出すことを意味します。これを建学の精神とし、教育の基本理念については、同じく「設立趣意書」にある「自学主義教育」を柱に据えています。学則にいう「自学自習の教育」とは、求知的態度をもって自ら問題を発見し、解決しようとする人材の育成を目指す教育のことです。

目指すべき人材像

建学の精神「力の教育」「自学主義」に基づき鍛えられた「社会貢献への意思と力」、そしてレジリエンスと気品をそなえた人物

校章・校旗の由来

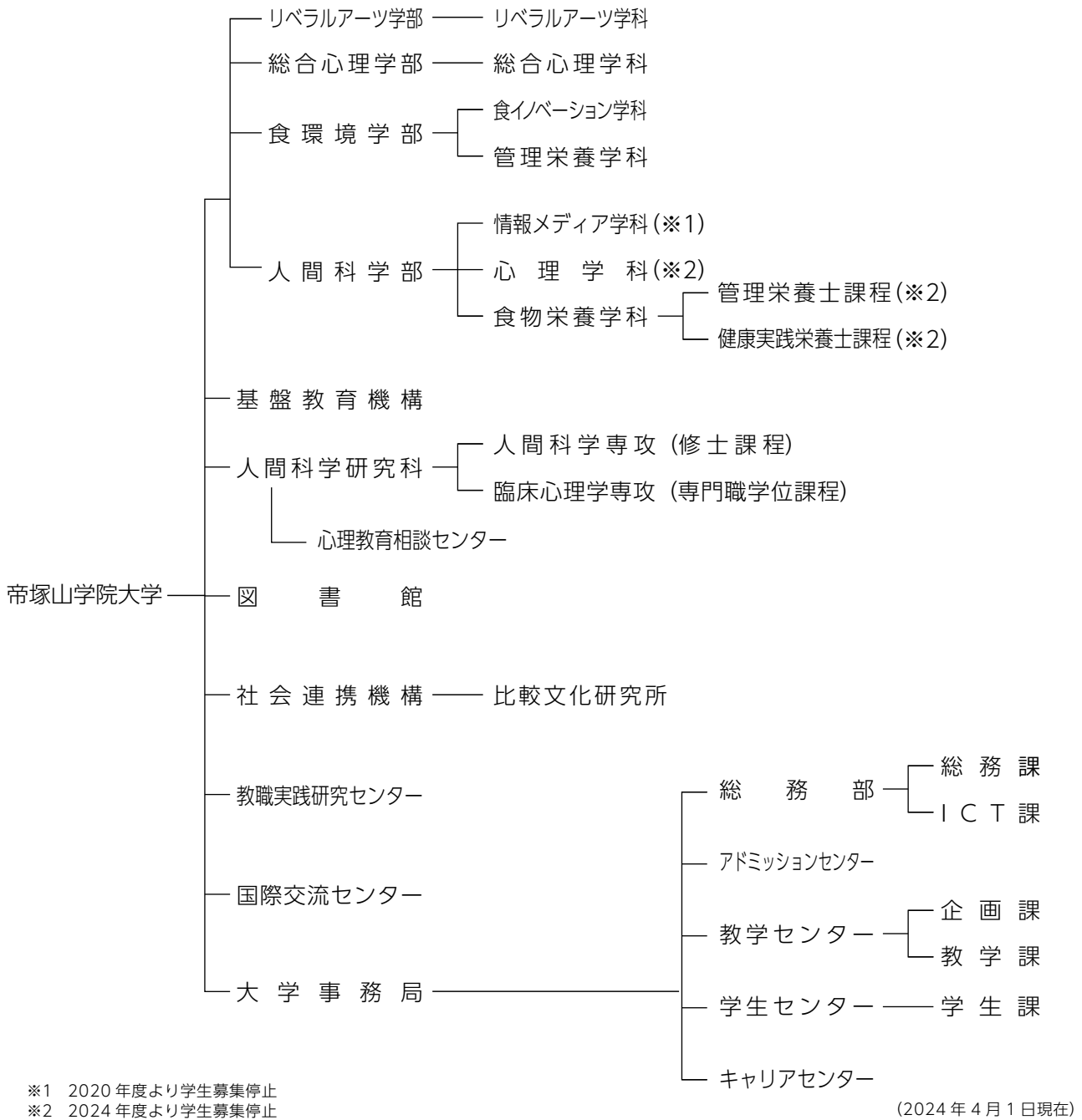


帝塚山学院の「帝」の字を中心に、品格を象徴する松を両側に配した校章。双葉からたゆみない成長を遂げ、実を結ぶさまを描いて、教育の理念を表現しています。



この校旗は昭和4年6月に制定されました。地色の青は草木がいきいきと成長する力を、ふちどりの白は純潔を意味しています。また中央に位置する校章には、「帝」の字に金、松の実にえんじが使われていますが、金は尊貴を、スクールカラーであるえんじは愛を象徴しています。

2. 大学組織図



※1 2020年度より学生募集停止
 ※2 2024年度より学生募集停止

(2024年4月1日現在)

3. 設置学部・学科と学位の種類

学部	学科	学位
リベラルアーツ学部 Liberal Arts	リベラルアーツ学科 Liberal Arts	学士 (リベラルアーツ) Bachelor of Arts
総合心理学部 Integrative Psychology	総合心理学科 Integrative Psychology	学士 (心理学) Bachelor of Psychology
食環境学部 Food and Nutrition Science	食イノベーション学科 Gastronomic Innovation	学士 (食産業学) Bachelor of Food Business and Management
	管理栄養学科 Nutritional Sciences	学士 (栄養学) Bachelor of Nutritional Sciences

※ 2024年4月現在 (募集停止学部・学科を除く)

4. 帝塚山学院大学の沿革

大正 5年 12月 財団法人帝塚山学院設立認可
 昭和 25年 4月 短期大学を大阪市住吉区に開学
 (文芸科、服飾科)



26年 3月 財団法人帝塚山学院を
 学校法人帝塚山学院に改組
 27年 4月 短期大学2科を改組
 (文科、家政科)
 41年 4月 大学を大阪狭山市(狭山キャンパス)
 に開学 文学部
 (日本文学科、英文学科、
 美学美術史学科)
 初代学長 森 磯吉 就任



42年 4月 二代学長 西本 三十二 就任
 44年 4月 短期大学2科を改組
 (文学科、家政学科)
 50年 4月 三代学長 庄野 英二 就任
 54年 6月 四代学長 原 龍之助 就任
 56年 4月 五代学長 庄野 英二 就任
 60年 4月 六代学長 原 龍之助 就任

61年 4月 短期大学を堺市
 (泉ヶ丘キャンパス)に移転
 63年 4月 大学文学部に国際文化学科を開設



平成 元年 4月 七代学長 山田 博光 就任
 9年 4月 八代学長 大谷 晃一 就任
 10年 4月 大学に人間文化学部を開設
 (文化学科、人間学科)
 11年 4月 大学人間文化学部を泉ヶ丘キャンパスに移転
 9月 短期大学廃止
 13年 4月 九代学長 皆川 基 就任
 14年 4月 文学部 2学科を名称変更
 (英文学科を英語コミュニケーション学科、
 美学美術史学科を芸術学科に変更)
 15年 4月 大学院開学
 (人間科学研究科 人間科学専攻)
 文学部を2学科に改組
 (コミュニケーション学科、
 国際文化学科)
 人間文化学部 男女共学化
 17年 4月 十代学長 加納 武 就任
 18年 4月 人間文化学部に食物栄養学科を開設
 (文化学科、人間学科、食物栄養学科)
 19年 4月 文学部を1学科に改組
 (現代コミュニケーション学科)
 文学部 男女共学化
 (全学男女共学化)
 大学院人間科学研究科に臨床心理学専攻
 (専門職学位課程)を開設
 十一代学長 酒井 信雄 就任
 21年 4月 文学部を改組し、リベラルアーツ学部を開設
 (リベラルアーツ学科)
 人間文化学部を改組し、人間科学部に名称
 変更
 (情報メディア学科、心理学科、
 食物栄養学科)

- 26年 4月 人間科学部食物栄養学科に
健康実践栄養士課程を開設
(情報メディア学科、心理学科、
食物栄養学科 管理栄養士課程、
健康実践栄養士課程)
十二代学長 津田 謹輔 就任
- 27年 4月 人間科学部にキャリア英語学科を開設
(キャリア英語学科、
情報メディア学科、心理学科、
食物栄養学科 管理栄養士課程、
健康実践栄養士課程)
- 28年 4月 大学開学50周年
- 令和 2年 4月 リベラルアーツ学部を再編
(リベラルアーツ学科)
人間科学部を改組
(心理学科、
食物栄養学科 管理栄養士課程、
健康実践栄養士課程)
基盤教育機構を設置
- 3年 4月 2つのキャンパスを泉ヶ丘キャンパスに
統合し、ワンキャンパス化
- 6年 1月 十三代学長 西川 隆蔵 就任
- 4月 人間科学部を改組し、総合心理学部を開設
(総合心理学科)
人間科学部を改組し、食環境学部を開設
(食イノベーション学科、管理栄養学科)



5. 3つのポリシー

本学では、建学の精神と教育の基本理念に基づき、目指すべき人材像と3つのポリシー「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」を定めています。

ディプロマ・ポリシーとは、教育理念に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるものです。

1. 全学

ディプロマ・ポリシー

本学では、ディプロマ・ポリシーに基づく能力を修得し、本学学則に基づく授業科目および単位数を修得した学生に対し卒業を認定し、学士の学位を授与する。

- I 市民としての教養と多様性への理解を身につけていること
- II 専門的素養を身につけていること
- III 論理的に考え、的確に表現する力を身につけていること
- IV 他者と協働し、課題を解決する力を身につけていること
- V 自らを理解し、目標を立て、実現に向けて、持続的に取り組むことができること
- VI 公共性と倫理性を持ち、社会・地域に貢献する意欲があること

2. リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科

ディプロマ・ポリシー

リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科では、ディプロマ・ポリシーに基づく能力を修得し、本学学則に基づく授業科目および単位数を修得した学生に対し卒業を認定し、学士（リベラルアーツ）を授与する。

<教養力>

- I 幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から社会の課題を理解できること

<専門力>

- II リベラルアーツの総合的、学際的学修分野より複数の分野にわたる専門知識と技能を有すること。その知識を基に課題解決のための企画力、実践力を身につけていること

<汎用的能力>

- III 学際的教養に基づいた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を身につけていること

汎用的能力（ジェネリックスキル）の詳細は以下のとおりである。

<情報収集・分析力、論理的思考・表現力>

- ・学際的教養に基づく広い視点に立った、的確な状況判断力、柔軟で客観的な論理的思考、そして自らの考えを的確かつ豊かに表現する力を身につけていること。

<コミュニケーション力、問題解決力>

- ・多様な人々や文化背景を理解し、違いを尊重しながら意見を交わし、他者と協働して課題を解決する力を身につけていること。

<自己理解力、主体的行動力>

- ・目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解し、主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。

<倫理性と自律力、地域貢献力>

- ・急速な変化をみせる社会や多様な価値観を持つ人々のために責任ある行動をとることができ、学際的教養に基づく広い視点に立って社会や地域に貢献する意欲があること。

カリキュラム・ポリシー

リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科では、幅広い一般的な知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から社会の課題を理解できるというディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のカリキュラム・ポリシーを定め、これらを基に教育課程を編成している。

- I 幅広い一般的な知識・教養、社会や文化への関心、多角的視点を養うため、基盤教育科目に導入学習、A群（先人の知を受けつぐ）、B群（世界と今を読み解く）、C群（未来をひらく）、キャリア形成、外国語、情報処理および資格基礎科目を開設する

Iの科目群の詳細は以下のとおりである。

<導入学習、A・B・C群>

- ・社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる、幅広い教養を身につけさせるための科目群

<キャリア形成>

- ・学びの基礎的技能、自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわり等から社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群

<外国語・情報処理>

- ・グローバル社会、高度情報化社会を生きていくうえで必要な基本的技能を身につけさせるための科目群

<資格基礎>

- ・社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群

- II リベラルアーツの総合的・学際的学修分野より複数の分野にわたる専門知識と技能、及び課題解決のための企画力・実践力を身につけさせるため、学科専門科目に基礎科目、基幹科目、展開科目および演習科目を開設する

II の科目群の詳細は以下のとおりである。

- ・複数分野をベースに自身の課題を設定する力、その課題を論理的思考を持って解決にあたる力、その過程や結果を他者に論理的かつ明確に説明できる表現力を身につけさせるための科目群
- ・日本を基軸として地域や時代の比較を含め社会と文化をより深く理解し、課題解決のためにそれらを用いた企画と実践ができる力を身につけさせるための科目群
- ・韓国語を一定程度駆使しながら、韓国社会・文化をより深く理解するための、幅広い専門的知識を身につけさせるための科目群
- ・実践的な英語コミュニケーション力を有し、グローバル化する社会について理解を深め、その課題解決のための企画力と実践力を身につけさせるための科目群
- ・情報伝達における表現とデータ活用に関する知識と技能を有し、課題解決のためにそれらを用いた企画と実践ができる力を身につけさせるための科目群
- ・社会のシステムとマネジメントについて理解を深め、そこでの課題解決のための企画力と実践力を身につけさせるための科目群

III ディプロマ・ポリシーで定めた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を養うための教育方法を授業科目に取り入れる

各科目は以下の教育方法により実施し、また学修成果の評価を行う。

- ・「情報収集・分析力」「論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「問題解決力」「自己理解力」「主体的行動力」「倫理性と自律力」「地域貢献力」等の汎用的能力を育成するため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を用いる。
- ・各科目の学修成果は、筆記試験、レポート等提出物、発表と討議等シラバスに明記した内容により、学修目標に即した多角的な方法で評価を行う。
- ・カリキュラム全体を通じた学修成果の達成度を測るため、ディプロマ・ポリシーを具体化した「帝塚山学院大学生の10のちから」を設定し、その達成度について、各学期末に学生が自己評価を行う機会を設ける。

アドミッション・ポリシー

リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、入学試験では、学力の三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を中心に論理的思考・表現への意欲、他者と協働し課題を解決する意思や意欲、公共性と倫理性及び社会貢献への意欲も評価の対象として多様な入学者選抜方式にて公正な選考を実施している。そのためのリベラルアーツ学部リベラルアーツ学科のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。

<教養力養成のためのレディネス>

- I 自身に関わる多様な社会や文化に関心を持ち、さまざまな視点から社会の課題を考え、その解決に取り組むための知識や技能の獲得に意欲を持っていること

<専門力養成のためのレディネス>

- II 高等学校等での教育課程を修得し、リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科での学びに必要な基礎学力を有していること

<論理的思考・表現への意欲>

- III 自分の考え、思いを適切にまとめ、表現する力を育む素養があること

<他者と協働し、課題を解決する意思・意欲>

- IV 多様な人々や文化を理解し、その違いを尊重しながら、他者と協働して課題を解決する態度や意欲を持っていること

<公共性と倫理性、社会貢献への意欲>

- V 社会的規範やルールを身につけ、社会や地域に貢献する意欲があること

3. 総合心理学部 総合心理学科

ディプロマ・ポリシー

総合心理学部総合心理学科では、ディプロマ・ポリシーに基づく能力を修得し、本学学則に基づく授業科目および単位数を修得した学生に対し卒業を認定し、学士（心理学）を授与する。

<教養力>

- I 幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から社会の課題を理解できること

<専門力>

- II 人間・文化・社会の諸現象を心理学的素養をもとに理解し、分析するための科学的・統計的知識、技能を有すること

<汎用的能力>

- III 心理学の知見に基づいた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を身につけていること

汎用的能力（ジェネリックスキル）の詳細は以下のとおりである。

<情報収集・分析力、論理的思考・表現力>

- ・心理学的観点から人間や社会に関する情報を収集し、それらを論理的に分析・考察して、その成果を適切な方法で表現し、実際場面に役立てる力を身につけていること。

<コミュニケーション力、問題解決力>

- ・心理学の知見に基づき、多様な価値観を受け入れ、相手の立場に立って考え、親しみやすい雰囲気を作成し、他者と信頼関係を築けること。他者と協働して問題に取り組み、解決する力を身につけていること。

<自己理解力、主体的行動力>

- ・目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解し、主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。

<倫理性と自律力、地域貢献力>

- ・学内での実習やグループワーク、あるいは学外組織での他者との関わりを通して、広く社会で活躍できるための倫理性と自律力を身につけていること。社会を広い視野から理解し、社会・地域に貢献する意欲と行動力を備えていること。

カリキュラム・ポリシー

総合心理学部総合心理学科では、幅広い一般的な知識・教養・心理学の専門的素養を身につけ、それらの知見に基づいた論理的思考や問題解決力等の汎用的能力を修得するというディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のカリキュラム・ポリシーを定め、これらを基に教育課程を編成している。

- I 幅広い一般的知識・教養、社会や文化への関心、多角的視点を養うため、基盤教育科目に導入学習、A群（先人の知を受けつぐ）、B群（世界と今を読み解く）、C群（未来をひらく）、キャリア形成、外国語、情報処理および資格基礎科目を開設する

I の科目群の詳細は以下のとおりである。

<導入学習、A・B・C群>

・社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる、幅広い教養を身につけさせるための科目群

<キャリア形成>

・学びの基礎的技能、自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわり等から社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群

<外国語・情報処理>

・グローバル社会、高度情報化社会を生きていくうえで必要な基本的技能を身につけさせるための科目群

<資格基礎>

・社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群

II 人間・文化・社会の諸現象を心理学的素養をもとに理解し、分析するための科学的・統計的知識、技能を身につけさせるため、学科専門科目に基礎科目、基幹科目、展開科目および演習科目を開設する

II の科目群の詳細は以下のとおりである。

・実践的な学びを通じて、心理学の研究法や専門的な技術と倫理観を身につけさせるための科目群

・心理学と、その関連分野の知識と技能を総合的に身につけさせるための科目群

III ディプロマ・ポリシーで定めた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を養うための教育方法を授業科目に取り入れる

各科目は以下の教育方法により実施し、また学修成果の評価を行う。

・「情報収集・分析力」「論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「問題解決力」「自己理解力」「主体的行動力」「倫理性と自律力」「地域貢献力」等の汎用的能力を育成するため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を用いる。

・各科目の学修成果は、筆記試験、レポート等提出物、発表と討議等シラバスに明記した内容により、学修目標に即した多角的な方法で評価を行う。

・カリキュラム全体を通じた学修成果の達成度を測るため、ディプロマ・ポリシーを具体化した「帝塚山学院大学生の10のちから」を設定し、その達成度について、各学期末に学生が自己評価を行う機会を設ける。

アドミッション・ポリシー

総合心理学部総合心理学科ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、入学試験では、学力の三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を中心に論理的思考・表現への意欲、他者と協働し課題を解決する意思や意欲、公共性と倫理性及び社会貢献への意欲も評価の対象として多様な入学者選抜方式にて公正な選考を実施している。そのための総合心理学部総合心理学科のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。

<教養力養成のためのレディネス>

I 自身が関わる多様な社会や文化に関心を持ち、さまざまな視点から社会の課題を考え、その解決に取り組むための知識や技能の獲得に意欲を持っていること

<専門力養成のためのレディネス>

II 高等学校等での教育課程を修得し、総合心理学部総合心理学科での学びに必要な基礎学力を有していること。基礎学力として、英語、国語および数値処理の知識を有していること

<論理的思考・表現への意欲>

Ⅲ 自分の考え、思いを適切にまとめ、表現する力を育む素養があること

<他者と協働し、課題を解決する意思・意欲>

Ⅳ 多様な人々や文化を理解し、その違いを尊重しながら、他者と協働して課題を解決する態度や意欲を持っていること

<公共性と倫理性、社会貢献への意欲>

Ⅴ 社会的規範やルールを身につけ、社会や地域に貢献する意欲があること

4. 食環境学部 食イノベーション学科

ディプロマ・ポリシー

食環境学部食イノベーション学科では、幅広い教養と食と栄養に関する専門的な知識を生かし、デジタル技術を活用して食に係る事業における課題や問題を解決し、新たな価値を創造できる人材を養成する。そのために以下のディプロマ・ポリシーに基づく能力を修得し、本学学則に基づく授業科目および単位数を修得した学生に対し卒業を認定し、学士（食産業学）を授与する。

<教養力>

Ⅰ 幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から社会の課題を理解できること

<専門力>

Ⅱ 食と栄養に関する幅広い知識を基に、フードビジネス分野やフードテック分野およびスポーツウェルネス分野等の専門知識を活用しながら、食産業における課題解決と新たな価値創造を実現する専門的知識・技能を有すること

<汎用的能力>

Ⅲ 食品学および栄養学の知見に基づいた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を身につけていること

汎用的能力（ジェネリックスキル）の詳細は以下のとおりである。

<情報収集・分析力、論理的思考・表現力>

・食品学および栄養学的観点から食に係る事業や課題に関する情報収集を行うことができ、それを分析して論理的に考え、表現する力を身につけていること。

<コミュニケーション力、問題解決力>

・食品学および栄養学の知見に基づき、食に係る事業の問題や課題に深い関心を持ち、コミュニケーションをとりながら、課題解決を組織的に主導できる力を身につけていること。

<自己理解力、主体的行動力>

・目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解し、主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。

<倫理性と自律力、地域貢献力>

・社会的規範やルールを身につけ、自らを律して、行動できる力を身につけていること。食に係る事業や課題解決の視点から社会・地域の現状や課題を理解し、貢献する意欲があること。

カリキュラム・ポリシー

食環境学部食イノベーション学科では、幅広い一般的な知識・教養・食品学および栄養学の専門的素養を身につけ、それらの知見に基づいた論理的思考や問題解決力等の汎用的能力を修得するというディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のカリキュラム・ポリシーを定め、これらを基に教育課程を編成している。

- I 幅広い一般的知識・教養、社会や文化への関心、多角的視点を養うため、基盤教育科目に導入学習、A群（先人の知を受けつぐ）、B群（世界と今を読み解く）、C群（未来をひらく）、キャリア形成、外国語、情報処理および資格基礎科目を開設する

Iの科目群の詳細は以下のとおりである。

<導入学習、A・B・C群>

- ・社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる、幅広い教養を身につけさせるための科目群

<キャリア形成>

- ・学びの基礎的技能、自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわり等から社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群

<外国語・情報処理>

- ・グローバル社会、高度情報化社会を生きていくうえで必要な基本的技能を身につけさせるための科目群

<資格基礎>

- ・社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群

- II 食と栄養に関する幅広い知識を基に、デジタル技術を活用した食に係る事業における課題解決と新たな価値創造に必要な専門的知識・技能を身につけさせるため、学科専門科目に基礎科目、専門分野科目、展開科目および演習科目を開設する

IIの科目群の詳細は以下のとおりである。

- ・食に関わる分野の基礎および人体の構造と機能を理解させるための科目群
- ・食と健康の関連について理解させるための科目群
- ・食事業の課題を解決するために必要な実践的スキルを修得させるための科目群

- III ディプロマ・ポリシーで定めた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を養うための教育方法を授業科目に取り入れる

各科目は以下の教育方法により実施し、また学修成果の評価を行う。

- ・「情報収集・分析力」「論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「問題解決力」「自己理解力」「主体的行動力」「倫理性と自律力」「地域貢献力」等の汎用的能力を育成するため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を用いる。
- ・各科目の学修成果は、筆記試験、レポート等提出物、発表と討議等シラバスに明記した内容により、学修目標に即した多角的な方法で評価を行う。
- ・カリキュラム全体を通じた学修成果の達成度を測るため、ディプロマ・ポリシーを具体化した「帝塚山学院大学生の10のちから」を設定し、その達成度について、各学期末に学生が自己評価を行う機会を設ける。

アドミッション・ポリシー

食環境学部食イノベーション学科ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、入学試験では、学力の三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を中心に論理的思考・表現への意欲、他者と協働し課題を解決する意思や意欲、公共性と倫理性及び社会貢献への意欲も評価の対象として多様な入学者選抜方式にて公正な選考を実施している。そのためのアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。

<教養力養成のためのレディネス>

- I 自身が関わる多様な社会や文化に関心を持ち、さまざまな視点から社会の課題を考え、その解決に取り組むための知識や技能の獲得に意欲を持っていること

<専門力養成のためのレディネス>

- Ⅱ ・食と栄養に関する幅広い知識修得に必要な基礎学力として、国語、英語、生物および化学の知識を有していること
 ・食産業における課題解決に興味を持ち、フードビジネス分野やフードテック分野およびスポーツウェルネス分野等を学び続ける意欲を持っていること

<論理的思考・表現への意欲>

- Ⅲ 自分の考え、思いを適切にまとめ、表現する力を育む素養があること

<他者と協働し、課題を解決する意思・意欲>

- Ⅳ 多様な人々や文化を理解し、その違いを尊重しながら、他者と協働して課題を解決する態度や意欲を持っていること

<公共性と倫理性、社会貢献への意欲>

- Ⅴ 社会的規範やルールを身につけ、社会や地域に貢献する意欲があること

5. 食環境学部 管理栄養学科

ディプロマ・ポリシー

食環境学部管理栄養学科では、幅広い教養と食と栄養に関する専門的な知識を生かし、傷病者の健康管理や現代社会における人々の栄養ケアを担う専門職業人として、食と栄養の様々な環境変化を理解し、創造的に対応できる人材を養成する。そのために以下のディプロマ・ポリシーに基づく能力を修得し、本学学則に基づく授業科目および単位数を修得した学生に対し卒業を認定し、学士（栄養学）を授与する。

<教養力>

- Ⅰ 幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から社会の課題を理解できること

<専門力>

- Ⅱ 食と栄養に関する幅広い知識を基に、健康管理や栄養ケアなどの栄養・食生活の課題を創造的に対応し解決する専門職業人に必要な専門的知識・技能を有すること

<汎用的能力>

- Ⅲ 食品学および栄養学の知見に基づいた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を身につけていること

汎用的能力（ジェネリックスキル）の詳細は以下のとおりである。

<情報収集・分析力、論理的思考・表現力>

- ・食品学および栄養学的観点から食に係る事業や課題に関する情報収集を行うことができ、それを分析して論理的に考え、表現する力を身につけていること。

<コミュニケーション力、問題解決力>

- ・食品学および栄養学の知見に基づき、食や健康に関わる問題に深い関心を持ち、コミュニケーションをとりながら、課題解決を組織的に主導できる力を身につけていること。

<自己理解力、主体的行動力>

- ・目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解し、主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を身につけていること。

<倫理性と自律力、地域貢献力>

- ・社会的規範やルールを身につけ、自らを律して、行動できる力を身につけていること。食や健康の視点から社会・地域の現状や課題を理解し、貢献する意欲があること。

カリキュラム・ポリシー

食環境学部管理栄養学科では、幅広い一般的な知識・教養・食品学および栄養学の専門的素養を身につけ、それらの知見に基づいた論理的思考や問題解決力等の汎用的能力を修得するというディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のカリキュラム・ポリシーを定め、これらを基に教育課程を編成している。

- I 幅広い一般的な知識・教養、社会や文化への関心、多角的視点を養うため、基盤教育科目に導入学習、A群（先人の知を受けつぐ）、B群（世界と今を読み解く）、C群（未来をひらく）、キャリア形成、外国語、情報処理および資格基礎科目を開設する

Iの科目群の詳細は以下のとおりである。

<導入学習、A・B・C群>

- ・社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる、幅広い教養を身につけさせるための科目群

<キャリア形成>

- ・学びの基礎的技能、自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわり等から社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群

<外国語・情報処理>

- ・グローバル社会、高度情報化社会を生きていくうえで必要な基本的技能を身につけさせるための科目群

<資格基礎>

- ・社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群

- II 食と栄養に関する幅広い知識を基に、健康管理や栄養ケアなどの栄養・食生活の課題を創造的に対応し解決する専門職業人に必要な専門的知識・技能を身につけさせるため、学科専門科目に基礎科目、専門基礎分野科目、専門分野科目および演習科目を開設する

IIの科目群の詳細は以下のとおりである。

- ・食に関わる分野およびコメディカル領域の基礎を理解させるための科目群
- ・食と健康の関連について理解させるための科目群
- ・傷病者の健康管理や現代社会における人々の栄養ケアに必要な実践的スキルを修得させるための科目群

- III ディプロマ・ポリシーで定めた情報収集・分析力、論理的思考・表現力、コミュニケーション力、問題解決力、自己理解力、主体的行動力、倫理性と自律力、地域貢献力を養うための教育方法を授業科目に取り入れる

各科目は以下の教育方法により実施し、また学修成果の評価を行う。

- ・「情報収集・分析力」「論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「問題解決力」「自己理解力」「主体的行動力」「倫理性と自律力」「地域貢献力」等の汎用的能力を育成するため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を用いる。
- ・各科目の学修成果は、筆記試験、レポート等提出物、発表と討議等シラバスに明記した内容により、学修目標に即した多角的な方法で評価を行う。
- ・カリキュラム全体を通じた学修成果の達成度を測るため、ディプロマ・ポリシーを具体化した「帝塚山学院大学生の10のちから」を設定し、その達成度について、各学期末に学生が自己評価を行う機会を設ける。

アドミッション・ポリシー

食環境学部管理栄養学科ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、入学試験では、学力の三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を中心に論理的思考・表現への意欲、他者と協働し課題を

解決する意思や意欲、公共性と倫理性及び社会貢献への意欲も評価の対象として多様な入学者選抜方式にて公正な選考を実施している。そのためのアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。

<教養力養成のためのレディネス>

- I 自身が関わる多様な社会や文化に関心を持ち、さまざまな視点から社会の課題を考え、その解決に取り組むための知識や技能の獲得に意欲を持っていること

<専門力養成のためのレディネス>

- II ・食と栄養に関する幅広い知識修得に必要な基礎学力として、国語、英語、生物および化学の知識を有していること
・健康管理に果たす現代生活の「食」のありかたを科学的に追求し実践することに興味を持ち、質の高い管理栄養士となるために学び続ける意欲を持っていること

<論理的思考・表現への意欲>

- III 自分の考え、思いを適切にまとめ、表現する力を育む素養があること

<他者と協働し、課題を解決する意思・意欲>

- IV 多様な人々や文化を理解し、その違いを尊重しながら、他者と協働して課題を解決する態度や意欲を持っていること

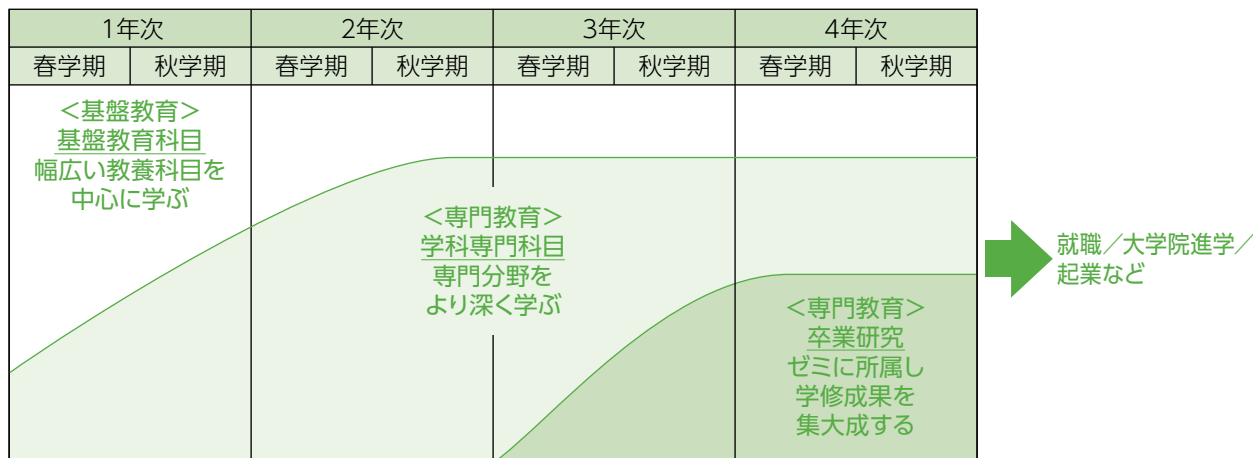
<公共性と倫理性、社会貢献への意欲>

- V 社会的規範やルールを身につけ、社会や地域に貢献する意欲があること

Ⅱ. 学びについて

1. 帝塚山学院大学での学び

本学の教育課程は、学びの基盤である「基盤教育」と、学科別の専門的な学びである「専門教育」で構成されています。



1. 基盤教育

「基盤教育」では、幅広い教養科目を中心に学ぶ「基盤教育科目」を配置しています。学科の専門的な学びや高度なスキル習得のために必要な、学びの土台を固めるために、本学独自のコンセプトで教育を展開しています。

1) 導入学習科目

導入学習科目では、大学での学びに必要な基礎スキルを実践的に身につける学びを展開します。

科目の例

・「基礎演習」

ノートテイキング、レポート作成、プレゼンテーションなど、大学での学びに必要な基礎スキルを体験的に学び、大学の学びの基礎力であると同時に社会人基礎力でもある汎用的能力を「倫理性と自律力」を中心にまんべんなく養います。また、各学科の特色により能動的に学ぶ姿勢を養うとともに、学生一人ひとりに応じた学修・生活全般の支援を行います。

・「日本語表現法」

伝わる文章、読んでもらえる文章を書く演習を行い、大学で学修を進めていく上で、また、社会において自立した人間として存在するのに必要な表現力、コミュニケーション力を身につけます。

2) A群・B群・C群科目

「A群（先人の知を受けつぐ）」「B群（世界と今を読み解く）」「C群（未来をひらく）」の科目群とし、現代社会の流れから教養を身につける学びを展開します。

科目の例

・A群「思想の世界」

ヨーロッパの思想や哲学を歴史のおよび社会的背景に照らして学ぶことによって、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という根源的な問いについて考え、自らが社会で生きていく際に直面する判断に向き合う思考力を身につけます。

・B群「人権を考える」

人権を知ることで、自分自身と社会との関係を自ら考えるとともに、人権問題に対する視野を広げ、自らの問題としてとらえられるようになることを目指します。

・C群「ソーシャルメディア論」

さまざまなソーシャルメディアの特徴や、情報発信におけるメディアリテラシーの重要性について理解を深め、情報収集・共有・発信のための知識を身につけます。

3) キャリア形成科目

生涯にわたるキャリア形成の基本的思考をベースに、キャリア形成に必要な力を段階的に身につける学びを展開します。

科目の例

- ・「キャリアデザインⅠ」

会社の成り立ち・仕事のしくみについて学びます。働く組織、働き方の違い、といった社会・会社のことや、自律と自立、アイデンティティといった自己理解について学び、就業（就職）に関する基本的な知識と将来に備える基礎力を身につけます。

- ・「キャリアデザインⅡ」

社会を構成する会社相互のつながり、業界・業種、職種の違いや、産業社会、求められる人材、資格について学びます。また、生きていく上で必要となるライフプラン・マネープランの立て方、人生の目的について学び、社会活動で必要とされる基礎的な力（知識、行動力等）を身につけます。

4) 外国語科目

英語のほか、フランス、中国、韓国のことばと文化を学ぶ科目を配置しています。

科目の例

- ・「総合英語」「実践コミュニケーション英語」

グローバル社会を生きていくうえで必要な英語の4技能（「リーディング」「ライティング」「リスニング」「スピーキング」）を統合的に向上させ、自分の考えを英語で発信することができる基礎力を身につけます。

- ・「フランスのことばと文化」「中国のことばと文化」「韓国のことばと文化」

それぞれの言語の基本的な文法や、会話に必要な語彙・表現を学ぶとともに、その言語が使われている地域の生活、文化について理解を深めます。

5) 情報処理科目

全学生が必ず履修する「情報活用基礎」をはじめ、資格取得を目指す科目、プログラミングやデータサイエンス・AIについて学ぶ科目を配置しています。

科目の例

- ・「情報活用基礎」

パソコンを利用する上で必要な基本的な知識、情報入手・発信の基本となるインターネットや電子メールの活用技術やエチケットをはじめ、Word、PowerPoint、Excel、HTMLを使ったWebページの作成まで、基本的なICT活用力を身につけます。

- ・「情報活用」

文書作成・表計算実務能力の保証資格として世界的に認識されている「Microsoft Office Specialist (MOS)」Word、Excelの取得を目指します。

- ・「データサイエンス・AI 概論」「データサイエンス・AI 実習」

概論ではデータサイエンス・AIの基礎を学び、実習では各学科の専門分野に関連する研究テーマまたは産学連携プロジェクトのテーマを題材として、実データを用いた実習を行い、実社会のビッグデータやAIをビジネスシーンで活用できるようになるための力を身につけます。

※「データサイエンス・AI 概論」は、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）制度」の認定を受けています。（認定有効期限：2028（令和10）年3月31日まで）

2. 専門教育

学科専門科目

各学科、専門分野をより深く学ぶための「学科専門科目」を配置しています。詳細は各学科の教育課程を参照してください。

2. 帝塚山学院大学生の10のちから

本学では、学部生を対象に、卒業時達成目標として「帝塚山学院大学生の10のちから」を定めています。これは、ディプロマ・ポリシーに基づいて、卒業までにどのような力が身についたのかを多面的に評価するために定義しています。

1. 「帝塚山学院大学生の10のちから」

「帝塚山学院大学生の10のちから」は、下表のとおりです。これらのちからは、授業や課外活動など大学生活全般を通して身につけることを目標としています。どの授業でどのちからを特に身につけられるかは、シラバスや学位プログラム（各学科の教育課程）ごとのカリキュラム・マップで示されています。

ディプロマ・ポリシー	10のちから	ちからの説明	
I 市民としての教養と多様性への理解を身につけていること。	教養力	現代を生きる社会人としての教養と知識・技能を修得し、活用できる	主に授業の内容を通して身につける知識・技能
	II 専門的素養を身につけていること。	専門力	
III 論理的に考え、的確に表現する力を身につけていること。	情報収集・分析力	多様な情報源から、確かな情報を集めて、分析し活用できる	授業への参加や課外活動などを通して身につける汎用的能力
	IV 他者と協働し、課題を解決する力を身につけていること。	論理的思考・表現力	
V 自らを理解し、目標を立て、実際に向けて、持続的に取り組むことができること。	コミュニケーション力	他者に自分の意見を適切に伝えることができ、互いに理解しあって、信頼関係を築いて協働できる	
	問題解決力	問題解決において、その方法を主体的に考え、工夫しながら解決に導ける	
VI 公共性と倫理性を持ち、社会・地域に貢献する意欲があること。	自己理解力	自分自身を客観的・冷静にとらえて、自分の特徴、強みや弱みを理解し、成長目標を立てられる	
	主体的行動力	学修場面、あるいは日常生活において、主体的に目標・目的をたて、挑戦・実行し、最後までやり抜ける	
	倫理性と自律力	社会人として必要な倫理性を備えながら、自律した一人の人間として社会に参画できる	
	地域貢献力	社会・地域の課題や状況を理解し、その解決と発展のために積極的に関与できる	

※本学では、知識・技能だけではなく、どんな時でも役立つ汎用的能力を学生生活を通して身につけることを重視しています。

2. ディプロマ・ポリシールーブリック

ディプロマ・ポリシールーブリックは、「帝塚山学院大学生の 10 のちから」の達成度を測り、4 年間の学修到達目標の水準を表すものです。このルーブリックは、学修の目標として、また自分の学びの進行状況を把握し、不足しているちからを強化したり、得意なちからを伸ばしたりするためのツールとして活用してください。

ちから	レベル4	レベル3(卒業時到達レベル)	レベル2	レベル1
教養力	学位プログラムに基づく基盤教育科目を体系的に履修し、卒業に必要な単位数を修得するとともに、学修内容に対して自分の知見や考えを持ち、社会人としての教養と知識・技能を活用できる。	学位プログラムに基づく基盤教育科目を体系的に履修し、卒業に必要な単位数を修得するとともに、社会人としての教養と知識・技能を身につけている。	学位プログラムに基づく基盤教育科目について、必修科目を修得し、基本的な一般的知識・技能を身につけている。	学位プログラムに基づく基盤教育科目について、初年次に配当された基礎的科目を修得している。
専門力	学位プログラムに基づく専門科目を体系的に履修し、卒業に必要な単位数を修得するとともに、学修した専門知識・技能を活用した研究を発表できる。	学位プログラムに基づく専門科目について体系的に履修し、卒業に必要な単位数を修得するとともに、社会人として生かしていける専門知識・技能を身につけている。	学位プログラムに基づく専門科目について、興味のある科目や属する学年の必修科目を修得し、基本的な知識・技能を身につけている。	学位プログラムに基づく専門科目について、初年次に配当された基礎的科目を修得している。
情報収集・分析力	I 幅広い情報源から、最適で確かな情報を集め、情報を整理・統合・分析して論理的思考につなげられる。 II 情報を整理・統合・分析するために各種ソフトを効果的に活用できる。	I 複数の手法で情報を収集し、整理・統合できる。 II 情報を整理・統合するために、各種ソフトを活用できる。	I 複数の手法で情報を収集し、要点を整理できる。 II ICT 機器や主要ソフトを用いて、文書やプレゼンファイルとして情報収集・整理結果を示せる。	I 具体的な指示に従って、情報を収集できる。 II ICT 機器や主要ソフトの基本的操作ができる。
論理的思考・表現力	I 複雑な事象に対して、根拠を重ねて論理的に考え、一定の説得力をもった自らの結論を導ける。 II 複雑な事柄について、問題の詳細と自分の知見や考えを、論理的かつわかりやすく表現できる。	I やや複雑な事象に対して、根拠に基づいた論理的な意見や判断を導ける。 II やや複雑な事柄について、問題の概要と自分の知見や考えを、わかりやすく表現できる。	I 事実や他者の意見を根拠として示しつつ、意見や判断を示せる。 II 文章表現・口頭表現のルールに従って、身近な事柄について、問題の概要と自分の知見や考えを整理して表現できる。	I ものごとを客観的に捉え、事実と意見を区別できる。 II 文章表現・口頭表現のルールに従って、身近な事柄について自分の知見や考えを表現できる。
コミュニケーション力	今後の社会生活で直面する諸場面で、異なる文化や価値観の人々と、互いに理解しあって、信頼関係を築き協働していく素地ができている。	他者に自分の意見を適切に伝えることができ、互いに理解しあって、信頼関係を築いて協働できる。	他者と意見を交わしながら、一定の目的に向かって協働できる。	他者の発言を聞いた上で、自分の意見を伝えられる。
問題解決力	今後の社会生活で直面する諸場面で、課題解決の方法を主体的に考えて実行し、自己評価をもとに改善していく素地ができている。	学修場面、あるいは日常生活での課題に対して、その解決方法を主体的に考えて実行し、結果を自己評価できる。	学修場面、あるいは日常生活での課題に対して、その解決方法を考え、実行できる。	学修場面、あるいは日常生活での課題に対して、その解決方法を考え、提案できる。
自己理解力	今後の社会生活で直面する諸場面で、自分自身を常に客観的・冷静にとらえ、自己理解のもとに成長目標を見直していく素地ができている。	経験をもとに自分自身を客観的・冷静にとらえて、自分の特徴、強みや弱みを理解し、これからの成長目標を立てられる。	自分の特徴、強みや弱み、自身の成長を実際の経験を基に他者に説明できる。	授業や学内外の活動を通じて、自らの興味関心や特徴、長所や短所について自分なりに把握している。
主体的行動力	今後の社会生活で直面する諸場面で、主体的に目標・目的をたて、挑戦・実行し、最後までやり抜いていく素地ができている。	学修場面、あるいは日常生活で、主体的に目標・目的をたて、挑戦・実行し、最後までやり抜ける。	学修場面、あるいは日常生活で、やらなければならないことを、自主的に計画を立て、実行できる。	学修場面、あるいは日常生活で、やらなければならないことを、自主的に実行できる。
倫理性と自律力	今後の社会生活において、社会のルールを理解した上で、自身の倫理的視点を常に意識し、自律した一人の人間として、様々な場面における判断・行動に反映していく素地ができている。	社会のルールを理解した上で、自身の倫理的視点を常に意識し、自律的に個々の場面における判断・行動に反映できる。	自身が取るべき行動規範について考え、倫理的視点と結びつけて説明できる。社会のルールを理解し、自分を律して、様々な場面において TPO に合わせた言葉遣いや態度を取れる。	現在自身が持っている倫理的視点について説明できる。自分を律して、大学生生活や受講のマナーを理解し守れる。
地域貢献力	今後の社会生活において、社会・地域の課題や状況を理解し、その解決と発展のために積極的に関与する意欲と行動力を備えている。	社会・地域の諸問題について、他者と協力しながら、その解決と発展のために積極的に関与できる。	身近な範囲の問題や課題を解決するために、他者と関わって行動できる。	身近な範囲の問題や課題に気づき、その解決策を考える意欲がある。

3. 「帝塚山学院大学生の10のちから」を身につけるために

本学の教育課程は卒業時にディプロマ・ポリシー（帝塚山学院大学生の10のちから）を達成できるように編成されています。どの授業でどのちからを特に身につけることができるか、わかりやすく示したものが「カリキュラム・マップ」と「カリキュラム・ツリー」です。また、各科目のシラバスには、科目の履修を通じて具体的にどのように身につけることができるかということを具体的に記載しています。

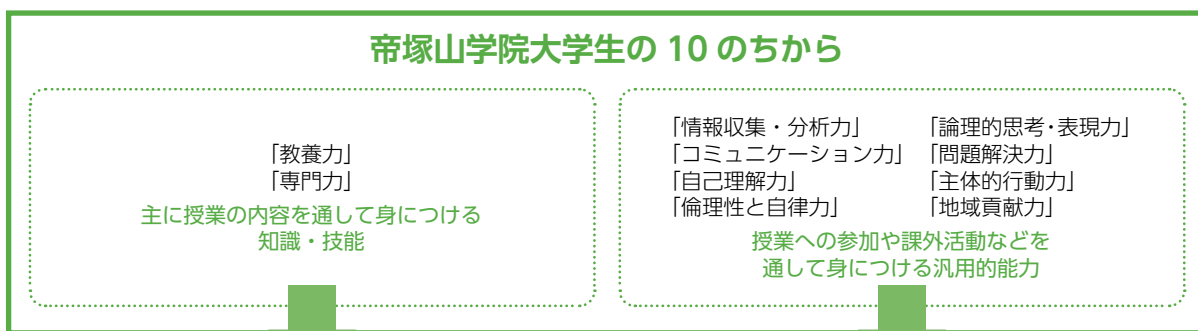
事前にこれらの情報をよく確認し、自分に必要なちからや伸ばしたいちからなどを踏まえて科目を履修してください。

ディプロマ・ポリシー

どのような能力を身につけた者に卒業を認定し学位を授与するかといった基本方針

達成度を測定するため具体化

帝塚山学院大学生の10のちから



カリキュラム・ツリー

卒業までに身につける知識・技能と、そのために科目がどのように配置されているか、各科目の関連性を具体的に示した表

カリキュラム・マップ

どの科目で、どの10のちからを身につけることができるかの一覧表

配属年度	学則科目コード	科目名	単位	履修区分	必修選択の別	ディプロマ・ポリシー（10のちから）との関係										備考	
						情報収集・分析力	コミュニケーション力	自己理解力	倫理性と自律力	論理的思考・表現力	問題解決力	主体的行動力	地域貢献力				
基礎教育科目																	
導入学程																	
1	250010	基礎演習Ⅰ	①	1	選択	●										BC	1年次必修
1	250020	基礎演習Ⅱ	②	1	選択	●										BC	1年次必修
2	250030	基礎演習Ⅲ	③	1	選択	●										BC	1年次必修
2	250040	基礎演習Ⅳ	④	1	選択	●										BC	2年次必修
1	250050	日本語基礎		2	選択	●										BC	
1	250051	カレッジコミュニケーションⅠ		2	選択	●										BC	
2	250052	カレッジコミュニケーションⅡ		2	選択	●										BC	
2	250053	英語基礎		2	選択	●										BC	
A群（先人の知を継ぐ）																	
1	250000	専攻科目														RA	1年次必修

シラバス

【授業の目的・概要】欄
カリキュラム・ツリーの
「カリキュラム上の科目の
目的・役割」を反映



【授業の進め方・授業手法】欄
カリキュラム・マップで示
されたちからをどのような
方法で身につけるのかを具
体的に記載

3. 学びのサポート

本学では、学生のみなさんからの学びの相談に対し、教職員一丸となってサポートを行っています。

1. アドバイザー教員制度

学業をはじめとした学生生活全般をサポートするため、学生一人ひとりに「アドバイザー教員」を配置しています。学生は、在学中の全期間を通じて、継続的にアドバイザー教員からのアドバイスやサポートを受けることができます。(3 回生以上はゼミ担当教員がアドバイザー教員となります。)

2. オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生からの様々な相談に応じるため、専任教員がそれぞれ教員研究室に在室している時間のことです。学生は予約なしで自由に訪問することができます。

アドバイザー教員や所属学科の教員だけでなく、どの学部・学科の教員を訪ねてもかまいません。この時間を積極的に活用し、授業内容に関する質問や勉強の方法、将来の進路や学生生活上の諸問題を解決してください。

オフィスアワーについて

●いつ？

シラバス「オフィスアワー」欄に記載のとおり、専任教員は授業実施期間中、学生からの授業相談に応じるオフィスアワーを設定しています。

具体的な日時は、次のいずれかで確認してください。

- ・帝塚山学院大学ポータル「指定リンク」および「キャビネット」掲載のオフィスアワー一覧
- ・研究室前の掲示

●どこで？

原則、教員の研究室で実施します。

●注意することは？

- ・授業調整期間、集中講義期間や長期休暇中は事前に予約をしてください。
- ・オフィスアワーに設定している時間帯であっても、臨時の会議や出張などで在室できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・専任教員以外が担当する授業については、多くの場合授業の前後に相談に応じる時間を設定しています。質問や相談がある場合は、教員に直接声をかけてください。その他、WebClass やメールで受け付けている場合もありますので、シラバスを確認してください。



オフィスアワーの時間でなくても、都合が合えば教員はいつでも相談に応じますので、気軽に研究室を訪ねてください。(研究室の場所は『履修ガイド・時間割表』内「学舎配置図」を参照)

3. 事務局相談窓口

授業のこと、履修のこと、成績のことなど学業の相談は、教学課で受け付けています。ひとりで悩まずに、ぜひ気軽に窓口を訪ねてください。内容によっては、教員と連携しながら相談に応じます。

学業に関する相談窓口

教学課 TEL : 072-296-1331 【自動アナウンス 2 番】
E-mail : kyomu@tezukayama.ac.jp




本館 2 階
事務局

※窓口取扱時間 月～金 9:00～16:50 (土日祝閉室)

4. 授業関連年間スケジュール

本学は、セメスター(学期)制を採用しています。セメスター制とは、1年を春学期(4月1日～9月30日)と秋学期(10月1日～3月31日)に分け、学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる制度です。

1. 春学期・秋学期の主なスケジュール

春 学 期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・新入生ガイダンス／新学期ガイダンス／アドバイジング・デイ ・春学期テキスト販売 ・履修登録(1次)／人数調整科目の履修可否確認 ・履修登録(2次)／人数調整科目の履修可否確認 ・春学期授業開始 ・履修登録締切 		
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期・通年科目履修辞退受付期間 		
	6月			
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験時間割発表 ・春学期授業アンケート ・春学期授業終了 ・授業調整期間(補講、学期末試験等実施) 		
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業調整期間 ・事務局一斉休暇 ・集中講義期間 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <夏季休業(夏季休暇)> 8月11日から 秋学期ガイダンス開始前日まで </div>	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・集中講義期間 ・春学期成績通知(成績通知書郵送) ・修正登録(1次)／人数調整科目の履修可否確認 ・秋学期ガイダンス／アドバイジング・デイ ・秋学期テキスト販売 		
秋 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・秋学期授業開始 ・修正登録(2次)／人数調整科目の履修可否確認 ・修正登録締切 		
	10月			
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋学期科目履修辞退受付期間 		
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・年内授業最終 ・集中講義期間 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <冬季休業(冬季休暇)> 年内授業最終日の翌日から 新年授業再開前日まで </div>	
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業再開 ・学期末試験時間割発表 ・秋学期授業アンケート ・秋学期授業終了 ・授業調整期間(補講、学期末試験等実施) 		
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業調整期間 ・集中講義期間 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋学期成績通知(成績通知書郵送) ・卒業式 ・次年度時間割／シラバス公開 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <学年末休業(春季休暇)> 3月10日から 新学期ガイダンス開始前日まで </div>		

※授業日数の関係で、秋学期は9月下旬に開始されることが多くなっています。

※休業期間中の集中講義期間においては授業(補講を含む)を行うことがあります。

5. 授業

本学は、集合形態で授業を実施することを原則としています。ただし、大学が教育上の必要性和効果があると認められた一部の科目についてはオンデマンド形態（自宅等の教室外の場所で動画配信や音声教材配信による授業を受講し、課題に取り組む授業形態）での授業を実施します。

1. 授業期間と授業時間帯

1) 授業期間

授業は学年暦に基づき実施されます。

① 学期

春学期：4月1日から9月30日

秋学期：10月1日から翌年3月31日

各学期中に、それぞれ14週の授業があります。ただし、授業日数の関係で、秋学期は9月下旬に開始されることが多くなっています。

② 授業調整期間

14週の授業期間外に「授業調整期間」が定められており、授業回数や授業の進行状況に応じて、補講や試験等が実施されます。授業期間中に授業調整日が設けられる場合があります。

③ 集中講義

原則として休業期間中の集中講義期間内に実施されます。

Point!



2024年度のスケジュールは『履修ガイド・時間割表』内「学年暦」で確認することができます。

2) 授業時間帯

1回の授業時間は100分です。授業時間帯は、次のとおりです。

1時限	9:20~11:00
2時限（前半）	11:10~12:50（昼休み 12:50~13:40）
2時限（後半）	11:50~13:30（昼休み 11:00~11:50）
3時限	13:40~15:20
4時限	15:30~17:10
5時限	17:20~19:00
6時限	19:10~20:50

※ 2時限（前半）（後半）の振り分けは、時間割表で確認してください。

※ 学部の授業で6時限を使用する予定はありません。

3) 1週における授業の回数

週1回1時限の授業を基本としますが、週2回の授業や、2時限連続の授業もあります。詳しくは『履修ガイド・時間割表』を参照してください。

2. 授業実施方法

本学で実施している授業形態は、次のとおりです。授業形態別の受講方法は『履修ガイド・時間割表』を参照してください。

①集合形態

大学に登校し、教室等に集まって対面で授業を受講します。

②オンデマンド形態

教室外の場所（自宅等）で、WebClass 等を通じて配信される動画や教材によって授業を受講します。

③その他

「現地講義」等、学外に集まって対面で授業を受講する場合があります。

Point!



各授業の実施方法はシラバスで確認することができます。
(P.39 「8. シラバス」の「3. シラバスの確認方法」を参照)

3. 「集合授業」と「オンデマンド授業」の区分

授業は「集合授業」と「オンデマンド授業」に区分されます。

区分	授業実施方法
集合授業	全授業回数を集合形態で行う。
	集合形態とオンデマンド形態（全授業回数の2分の1未満）の併用で行う。
オンデマンド授業	集合形態とオンデマンド形態（全授業回数の2分の1以上）の併用で行う。
	全授業回数をオンデマンド形態で行う。

※卒業要件に含むことのできる「オンデマンド授業」の単位数は60単位までです。

※半期に履修することのできる全回オンデマンド形態の授業は、一日1科目（半期5科目）までです。
ただし、前学期末までの累計 GPA が 3.00 以上の場合、申し出により一日2科目（半期10科目）まで履修することができます。

4. 授業科目

1) 授業科目の分類

授業科目は、大きく「基盤教育科目」と「学科専門科目」に分類されています。さらに、自由科目として「資格専門科目」が加わります。それぞれに属する各授業科目については、「教育課程表」を参照してください。

2) 授業科目の区分

授業科目は、「必修科目」「選択科目」「自由科目」のいずれかに区分されています。「選択科目」には「選択必修科目」が含まれます。

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択科目 (選択必修科目を含む)	指定された範囲から自由に選択し、卒業に必要な単位（卒業要件単位）を修得する科目 ※選択科目のうち、指定された範囲から所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない科目を選択必修科目といいます。
自由科目	卒業要件単位数には算入されない科目（GPAからも除外されます） ※GPAの詳細はP.48～51「13. 成績評価・単位の認定・GPA制度」を参照してください。

Point!



「履修」とは受講を希望する授業科目を登録して学修することを指し、「修得」とはその授業の成績が一定水準に達して合格することを指します。
「必修」「選択」「自由」の別は、教育課程表に記載されています。
選択必修科目は各学科の「卒業に必要な総単位数」の頁を確認してください。

Ⅱ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表/カリキュラム・マップ (基礎教育科目)

学号	科目名	履修区分	GPA										備考	
			履修	履修	履修	履修	履修	履修	履修	履修	履修	履修		
基礎教育科目														
導入学習														
25001	導入学習Ⅰ	1	必修	●									BC	1年次必修
25002	導入学習Ⅱ	1	必修	●									BC	1年次必修
25003	導入学習Ⅲ	1	必修	●									BC	2年次必修
25004	導入学習Ⅳ	1	必修	●									BC	2年次必修
25005	社会実習Ⅰ	2	必修	●									BC	
25006	社会実習Ⅱ	2	必修	●									BC	
25007	社会実習Ⅲ	2	必修	●									BC	
25008	社会実習Ⅳ	2	必修	●									BC	
A群 (先人の知を受けつづ)														
25100	先人の知を受けつづ	1,2	必修	●									BA	1年次必修
25101	先人の知を受けつづ	2	必修	●									BA	2年次必修

2024年度入学生 卒業に必要な総単位数 (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

科目分類・分野	卒業要件詳細		卒業要件単位数合計
導入学習	2単位 必修	「日本語表現法」必修	124単位
A群 (先人の知を受けつづ)	2単位 選択必修		
B群 (世界と向きあふ)	2単位 選択必修		
C群 (未来をひらく)	2単位 選択必修		
キャリア形成	4単位 必修	「キャリアデザイン・Ⅰ」必修	
外国語	8単位 選択必修	英語 4単位選択必修	
情報処理	2単位 必修	「情報活用基礎A・B」必修	
資格基礎	選択		
基礎科目	2単位 必修	「リベラルアーツ入門」必修	
専門科目	6単位 必修		
履修科目	28単位 選択必修	自身の専攻より18単位以上かつ、専攻以外の履修が卒業単位以上の合計28単位以上を修得すること	必修・選択必修科目の単位を含み 48単位
実習科目	8単位 必修	「専門実習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」必修	
演習科目	8単位 必修		
上記基礎教育科目・上記専門科目以外の履修科目	選択		

また、授業科目は開講期間により「通年科目」「春学期科目」「秋学期科目」の3種類に分けられています。

通年科目	1年を通して授業が行われる科目
春学期科目	春学期に授業が行われる科目 ※春学期を前半、後半に分け、授業が行われる「春学期前半科目」「春学期後半科目」や、夏季休業期間に行われる「春学期集中講義科目」を含みます。
秋学期科目	秋学期に授業が行われる科目 ※秋学期を前半、後半に分け、授業が行われる「秋学期前半科目」「秋学期後半科目」や、冬季休業期間に行われる「秋学期集中講義科目」を含みます。

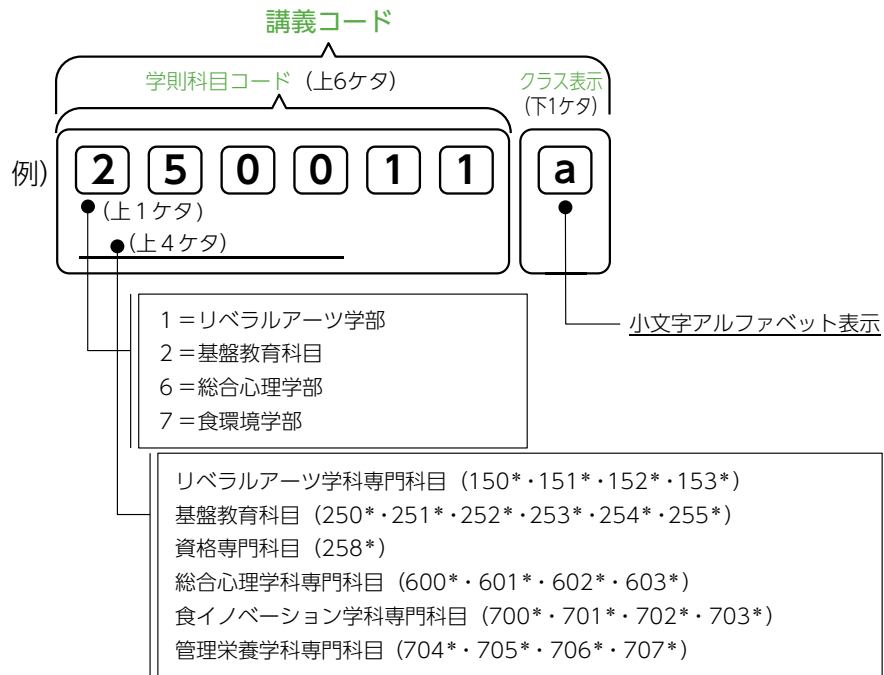
Point!



授業実施時期の区別は、『履修ガイド・時間割表』およびシラバスに記載されています。

3) 講義コード

授業科目には、それぞれ次のように構成された7ケタの「講義コード」が割り振られています。講義コードは時間割表またはシラバス検索画面で確認することができます。



5. 授業への出席

学生は、単位を修得しようとする授業に出席しなければなりません。授業では、毎回必ず出席をとります。以下の事由により欠席する場合は大学事務局に申し出の上、所定の手続きを行ってください。公欠対象となる事由で欠席をし、定められた期間内に手続きをした学生に対しては、欠席として取り扱いません。

事由	公欠	手続き
傷病などの理由により、連続して2週間以上にわたって授業を欠席する場合	対象外	長期欠席による欠席は公欠としない。所定の「長期欠席届」に欠席理由を証明する書類を添えて、教学課に提出すること。※「長期欠席届」は欠席の時期と理由を授業担当教員に連絡するためのものです。欠席期間中の授業の進度や課題等については、直接授業担当教員に確認してください。
学校において予防すべき感染症により欠席した場合	対象	登校開始後2週間以内に所定の「講義欠席届（公欠）」に診断書または学校指定の証明書を添えて、教学課に提出すること。学校において予防すべき感染症への対応および罹患した場合の手続については、『履修ガイド・時間割表』を参照すること。
忌引きにより欠席した場合	対象	登校開始後2週間以内に所定の「講義欠席届（公欠）」に忌引きであることを証明する書類を添えて、教学課に提出すること。忌引きとして認められる欠席日数は、欄外「忌引きで認められる欠席日数」のとおり連続した日数とする。
正課の学外実習により欠席する場合	対象	実習期間が決定次第、所定の「講義欠席届（公欠）」を教学課に提出すること。公欠として認められる欠席日数は、当該実習の日数とする。
就職活動による欠席であることを報告する場合	対象外	就職活動による欠席は公欠としない。就職活動による欠席であることを報告する場合は、事前にキャリアセンターにて手続きの上、登校開始後2週間以内に該当科目の授業担当教員に所定の「就職活動証明書」を提出すること。ただし、資格科目および実験・実習を伴う科目については受け付けない。
事前に学生課に届け出ている課外活動（行事・試合）により欠席することを報告する場合	対象外	課外活動による欠席は公欠としない。事前に学生課に届け出ている課外活動（行事・試合）による欠席であることを報告する場合は、学生課にて手続の上、課外活動終了後7日以内に「講義欠席届（課外活動）」を該当科目の授業担当教員へ提出すること。

※裁判員制度に基づき授業を欠席する場合は、事前に教学課に相談してください。

忌引きで認められる欠席日数

父母	7日
同居の祖父母	5日
兄弟姉妹	5日
別居の祖父母	3日
同居の三親等以下の親族	3日
別居の三親等以下の親族	2日
その他の親族	1日

※親族：六親等内の血族及び配偶者と三親等内の姻族

※遠隔地の場合は旅程を考慮する場合がある。

6. 休講・補講

以下に該当する場合は、休講とします。休講は「帝塚山学院大学ポータル」（以下ポータル）にて通知します。休講についての電話照会には応じられません。

- ①授業担当教員にやむを得ない理由が生じた場合
 - ②授業開始時間から 20 分を経過しても授業科目担当教員が来室せず、授業を開始できない場合（自然休講）。
 - ③大学行事が行われる場合
 - ④自然災害や交通ストライキ等（次項「7. 台風等非常時の授業」参照）
- 休講となった授業については、原則として補講を実施します。補講は、ポータルにて通知します。

7. 台風等非常時の授業

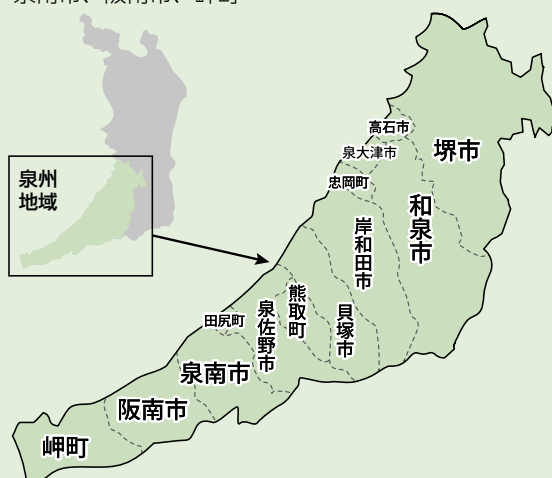
1) 警報発令時における授業・試験の取り扱い（集合形態）

大阪府の「泉州地域」に区分される市町（図参照）に気象庁による「特別警報」（種類を問わない）または「暴風警報」が発令された場合は、次の表のとおり取り扱います。

警報発令時の取り扱い

午前 7 時までに解除された場合	平常どおり 1 時限から授業実施
午前 7 時を過ぎて午前 11 時 30 分までに解除された場合	1、2 時限は休講 3 時限から授業実施
午前 11 時 30 分を過ぎて解除された場合	終日休講

※泉州地域：堺市、和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町



- ・警報発令時の休講については、大学ホームページ「重要なお知らせ」よりお知らせします。
- ・行わなかった授業の補講、試験については、あらためてポータルより連絡します。
- ・泉州地域以外に居住する学生でその居住区域に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合は、欠席した授業または試験について申し出により公欠として取り扱います。教学課にて手続きをしてください。（泉州地域に「特別警報」または「暴風警報」が発令されていなければ、授業、試験は実施されます。）
- ・授業および試験開始後に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合は、直ちにその時限の授業および試験を中止します。ただし、状況により当該時限終了まで実施する場合があります。大学の指示に従って行動してください。
- ・特別警報ではない大雨警報、大雪警報、波浪警報、高潮警報および注意報のいずれかが発令された場合は休講になりません。

2) 自然災害や交通ストライキ等による交通機関運休時における授業・試験の取り扱い (集合形態)

自然災害 (台風・大雨・地震等) や交通ストライキ等により、①南海電鉄高野線 (難波駅～橋本駅の全区間)、②泉北高速鉄道のいずれか一つの交通機関が運休となった場合は、次の表のとおり取り扱います。

自然災害や交通ストライキ等による交通機関運休時の取り扱い

午前7時までに 運転再開した場合	平常どおり 1時限から授業実施
午前7時を過ぎて午前11時30分までに 運転再開した場合	1、2時限は休講 3時限から授業実施
午前11時30分を過ぎて 運転再開した場合	終日休講

以下の③④⑤の交通機関が運休となった場合も、上の表のとおり取り扱います。

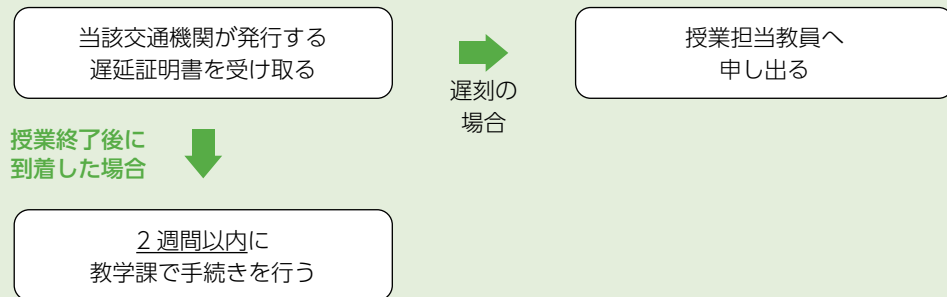
- ③ JR 大阪環状線および大阪メトロが同時に運休
- ④ JR 阪和線および南海電鉄本線が同時に運休
- ⑤ 南海電鉄金剛駅および泉北高速鉄道泉ヶ丘駅よりキャンパス間の南海バスが同時に運休

- ・ 交通機関運休時の休講については、大学ホームページ「重要なお知らせ」よりお知らせします。
- ・ 上記①～⑤が運行している場合は、授業、試験を実施します。
- ・ 上記①～⑤以外の通学経路上の交通機関が運休となった場合は、欠席した授業、試験について申し出により公欠として取り扱うため、教学課にて手続きをしてください。
- ・ 上記①～⑤のいずれかの交通機関より計画運休が発表された場合は、学長が授業、試験の実施について判断し、大学ホームページ「重要なお知らせ」よりお知らせします。
- ※ 上記①～⑤の基準に関わらず、学長が学生の安全確保のために必要と認めた場合や通学困難等と認めた場合、休講措置を取ることがあります。
- ・ 行わなかった授業の補講、試験については、後日ポータルより連絡します。

3) 事故等による交通機関の一時的な運転見合わせにおける授業・試験の取り扱い (集合形態)

事故等により、交通機関が一時的に運転見合わせとなった場合は、平常どおり授業を実施します。通学経路上の交通機関が一時的に運転見合わせとなった場合は、欠席した授業、試験について申し出により公欠として取り扱います。教学課にて手続きをしてください。

事故等による一時的な交通機関運休時の取り扱い



6. 単位

1. 単位と学修時間

単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数値で表したもので、45 時間の学修時間をもって 1 単位と定められています。授業時間だけではなく、授業時間外の学修も含まれます。

予習や復習など、授業時間外の自主的な学修が必要であることを意識して授業に臨んでください。

単位の考え方

$$\boxed{1 \text{ 単位}} = \boxed{\text{授業時間}} + \boxed{\text{授業時間外の学修}} = \boxed{45 \text{ 時間}}$$

$$\boxed{1 \text{ 単位の科目}} = \boxed{\text{授業 30 時間}} + \boxed{\text{授業時間外学修 15 時間}} = \boxed{\text{学修時間 45 時間}}$$

$$\boxed{2 \text{ 単位の科目}} = \boxed{\text{授業 30 時間}} + \boxed{\text{授業時間外学修 60 時間}} = \boxed{\text{学修時間 90 時間}}$$

※授業時間は 100 分×14 週をもって 30 時間とみなします。

※連続授業科目や通年科目については、上記を倍にして考えてください。

2. 卒業に必要な単位数と年間に履修できる単位数

1) 卒業に必要な単位数

大学を卒業するためには、各学部・学科ごとに定められた教育課程に従って授業科目を履修し、以下に示す所定の卒業要件単位数以上を修得しなければなりません。詳細は、P.70 以降に記載されている所属学科の「卒業に必要な総単位数」を参照してください。

学部・学科		卒業に必要な総単位数
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	124 単位
総合心理学部	総合心理学科	124 単位
食環境学部	食イノベーション学科	124 単位
	管理栄養学科	124 単位

2) 年間に履修できる単位数の上限（CAP（キャップ）制）

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、年間に履修登録できる単位数の上限を設ける制度です。

学部・学科		年間に履修できる単位数
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	44 単位
総合心理学部	総合心理学科	44 単位
食環境学部	食イノベーション学科	44 単位
	管理栄養学科	48 単位

ただし、前年度末または前学期末までの累計 GPA に応じて、年間に履修できる単位数の上限が緩和されます。

学部・学科		CAP	緩和後の CAP	
			前年度末または前学期末までの累計 GPA が 3.00 以上の場合	前年度末または前学期末までの累計 GPA が 3.50 以上の場合
リベラル アーツ学部	リベラルアーツ学科	44 単位	48 単位	50 単位
総合心理学部	総合心理学科	44 単位	48 単位	50 単位
食環境学部	食イノベーション学科	44 単位	48 単位	50 単位
	管理栄養学科	48 単位	—	50 単位

3) 年間に履修登録できる上限単位数に含まれない科目

以下の科目は年間に履修登録できる上限単位数に含まれません。

- ・自由科目
- ・集中講義科目として開講する演習科目、実習科目
- ・「カレッジコミュニティ」
- ・「プロジェクト型キャリア研究」
- ・「インターンシップ」
- ・「現地講義（日本学）」
- ・「現地講義（韓国）」「短期英語研修」「短期韓国語研修」（リベラルアーツ学部入学生）
- ・単位互換制度による他大学開設科目

4) 必修演習科目の履修条件

履修規程に基づき、3 回生、4 回生配当の必修演習科目の履修には、以下の条件を満たす必要があります。

なお、4 回生配当の必修演習科目の履修は、原則として 3 回生配当の必修演習科目を修得済みであることが前提条件です。（※）

学部・学科		必修演習科目履修条件	
		3 回生配当科目	4 回生配当科目（※）
リベラル アーツ学部	リベラルアーツ学科	卒業要件単位数のうち、48 単位以上を修得していること および原則として「リベラルアーツ入門」「日本語表現法」を修得していること	設定せず
総合心理学部	総合心理学科	卒業要件単位数のうち、60 単位以上を修得していること	設定せず
食環境学部	食イノベーション学科	卒業要件単位数のうち、60 単位以上を修得していること	設定せず
	管理栄養学科	卒業要件単位数のうち、70 単位以上を修得していること	卒業要件単位数のうち、90 単位以上を修得していること

7. 履修登録

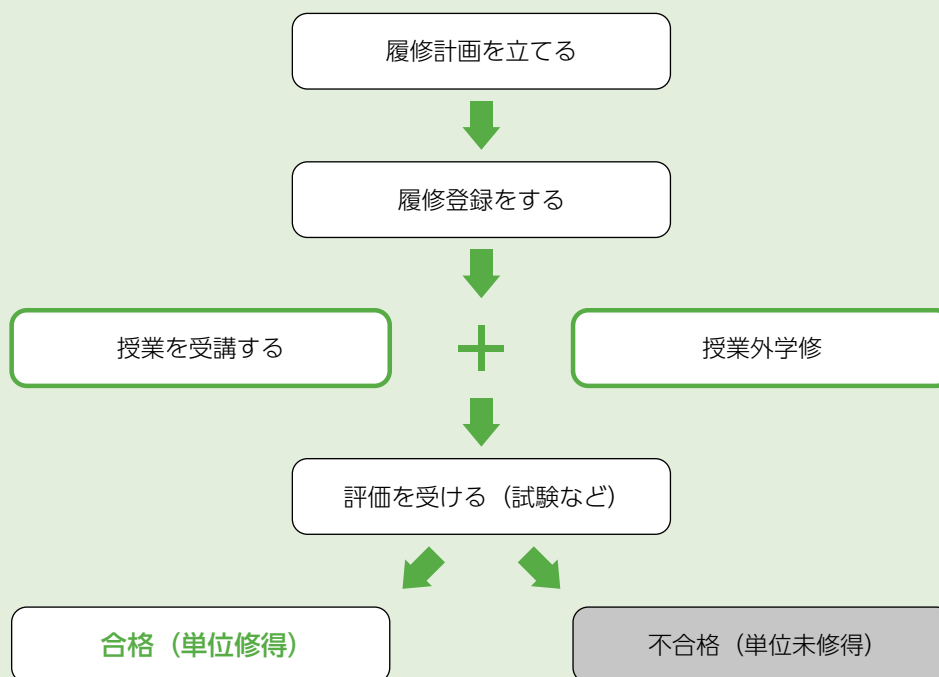
1. 履修

「履修」とは、「大学で決められた授業科目を修めること」を意味します。つまり、学科ごとに定められた教育課程の中から、受講を希望する授業科目を登録して学修することを「履修」といいます。

大学では、各学期でどの科目を履修するのか、1年でどのくらいの単位の修得を目指すのかを、学生自身が「履修計画」を立て、履修する授業科目を決定します。

学期ごとに実施される新学期ガイダンスでの説明や、『帝塚山学院大学便覧』『履修ガイド・時間割表』『シラバス』を確認の上、各自で履修計画を立て、卒業や資格の取得を目指してください。

履修から単位修得までの流れ



2. 履修登録（春学期）、修正登録（秋学期）

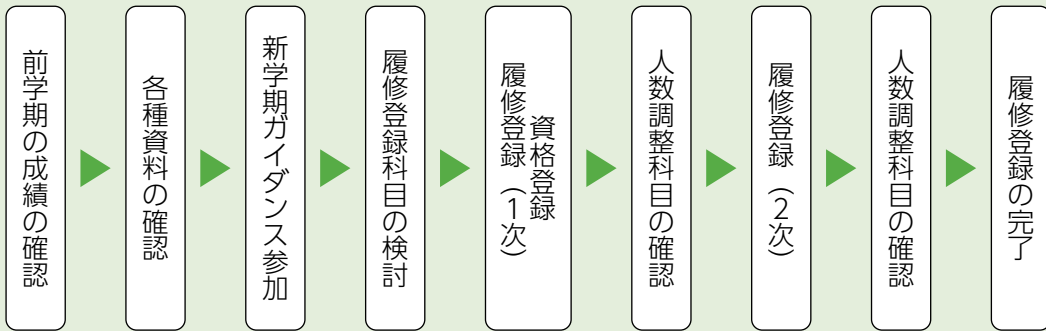
「履修登録」とは、学生自身が春学期の指定の期間内に、その年度において履修する授業科目を届け出る手続きのことを指します。この手続きを怠った場合や登録を誤った場合は、授業科目の受講が認められず、単位修得ができません。履修登録にあたっては、慎重に授業科目を選択し、正確に手続きを行ってください。

「修正登録」とは、春学期に履修した授業科目の成績等をふまえ、履修計画の修正が必要な場合、秋学期の指定の期間内に限り、ポータルにて修正登録ができる手続きのことを指します。修正登録では、年間に履修できる単位数の範囲内において、新たに秋学期科目を追加することや、4月に登録した秋学期科目を変更または削除することが可能ですが、春学期科目（集中講義を含む）や通年科目の変更はできません。

履修登録および修正登録は、ポータルを通して行います。学内からはもちろん、自宅からもアクセス可能です。新学期ガイダンスでの説明や、『帝塚山学院大学便覧』『履修ガイド・時間割表』『シラバス』を十分確認し、本人が責任を持って行ってください。履修登録および修正登録の方法、注意事項は『履修ガイド・時間割表』を参照してください。

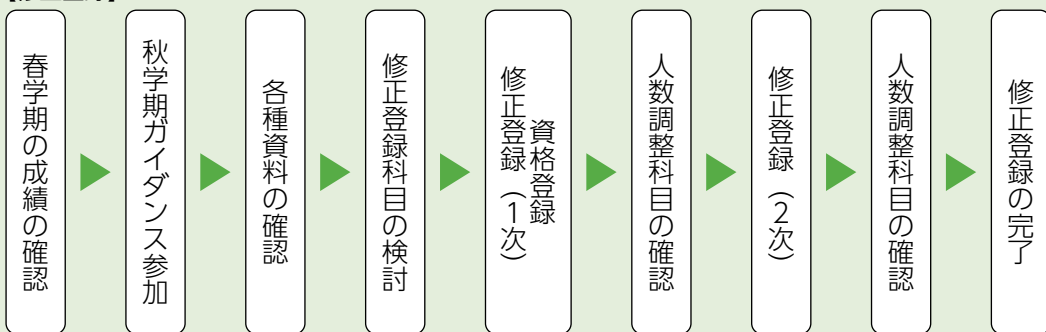
履修登録・修正登録の流れ

【履修登録】



※上記項目のうち、「前学期の成績の確認」は2～4回生に該当する項目、それ以外は全回生に該当する項目です。

【修正登録】



※上記項目は全回生に該当する項目です。

3. 履修資格

1) 履修資格

- ①各学年において履修することができる授業科目は、自身の学年および下位の学年に配当されている科目です。配当学年が上位の学年の授業科目は履修できません。
- ②シラバスの「履修上の注意」欄に履修上の注意事項が付されている場合があります。履修を希望する授業科目については、必ずシラバスを確認の上、その指示に従ってください。履修の条件が設定されている授業科目は、その条件を満たしていない場合、履修が認められません。
- ③「クラス指定科目」など、授業科目においてクラス分けがある場合は、その指示に従わなければなりません。(特に指定がない場合は、自由にクラスを選択することができます。)
- ④「事前登録科目」や「人数調整科目」など、登録の前にあらかじめ手続きが必要な授業科目があります。これらの授業科目について所定の手続きを行っていない場合、当該授業科目の履修が認められません。

2) 他学科開講科目

所属学科以外の学科専門科目を「他学科開講科目」として履修することができます。

他学科開講科目として履修が認められる授業科目は開講学科の教育課程表の他履修欄に記載されています。また、他学科開講科目の修得単位の卒業単位への算入方法については、各学科の卒業要件を参照してください。

【他学科開講科目の確認方法】

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)															
配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修別の別	ディプロマ・ポリシー (「10のちから」との関係)							カリキュラム・マップ上の位置づけ	他履修	備考
						DPⅠ 教養能力	DPⅡ 専門情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	DPⅢ 問題解決力	自己理解力	主体的行動力			
リベラルアーツ学科専門科目															
基礎科目															
1	150000	リベラルアーツ入門	2	講義	必修			●						LL	
1	150003	現代文化論	2	講義	選択	●		●						LL	○ 必選
1	150004	言語ストラテジー	2	講義	選択	●					●			LL	○ 必選
1	150005	異文化理解論	2	講義	選択	●		●						LL	○ 必選
1	150006	日本語と外国語	2	講義	選択	●	●							LL	○ 必選
1	150007	隣国を知ろう(韓国)	2	講義	選択	●		●						LL	○ 必選
1	150008	社会デザイン論	2	講義	選択	●						●		LL	○ 必選
1	150009	情報デザイン論	2	講義	選択	●		●						LL	○ 必選

- ・「他履修」欄に「○」がついている科目は、開講学科以外の学生も他学科開講科目として履修することができます。ただし、対象の学科が限定されている場合があります。
- ・「他履修」欄に「△」がついている科目は、食イノベーション学科、管理栄養学科の学生のみ他学科開講科目として履修することができます。

4. 履修できない科目

- ①単位を「修得済み」または「認定済み」の授業科目は履修できません。
- ②複数のクラスが開講されており、曜日・時限が異なっている場合でも、同一科目（科目名、学則科目コードが同じ授業科目）は1つのクラスしか履修できません。
- ③各学期内の同一曜日・時限には、2つ以上の授業科目を同時に履修できません。ただし全回オンデマンド形態の科目で GPA 値による緩和を受ける場合や、学期内で前半と後半に分割されている授業科目については、2科目の同時履修が可能です。

5. 科目の閉講

履修登録者数が「5名以下」となった授業科目については、原則として開講しません。ただし、修学上必要と認められる授業科目や資格科目である場合は、この限りではありません。

6. 履修辞退 (GPA 制度に基づいた履修取り下げ)

登録した授業科目の変更や取消は原則として認められません。ただし、指定された期間内に限り、登録した科目の「履修辞退」が認められます。

「履修辞退」とは、各期開講後一定期間を経過した時点で、自分自身の判断により、既に登録している授業科目を辞退（削除）することができる制度です。受講を開始したものの、やむを得ない理由により履修計画を変更する場合には行います。履修辞退した授業科目の評価は行われませんので、GPA 算出の対象とならず、成績証明書にも記載されません。「履修辞退」した授業科目の単位数はCAP 制で定められた上限単位数から除外されます。履修辞退を希望する場合は、指定の期間内に所定の手続きを行ってください。

なお、この制度では履修辞退のみが可能で、追加登録は認められませんので、卒業に必要な単位等を十分確認し、慎重に履修計画を立てた上で手続きを行ってください。

7. 成績評価

成績の評価は、試験やレポートの結果、平常の成績等を総合的に判断して100点法により行い、60点以上を合格とします。詳細は、P.48～54「13. 成績評価・単位の認定・GPA 制度」を参照してください。

8. シラバス

1. シラバスとは

シラバスとは、授業を担当する教員が、その授業科目の目的、到達目標、概要、成績評価方法、準備学習、授業計画、授業形態、テキスト、履修上の注意などについて記載したものです。履修する科目を選択したり、学修計画を立てる上でよりどころとなるものです。大学での学びを有意義なものとするため、シラバスを活用し、各回の授業内容の確認や予習復習など、事前準備をして授業に臨んでください。

2. シラバスの項目

シラバス項目	記載内容
ディプロマ・ポリシー (10のちから)との 関連	授業を通して養う「10のちから」 <知識・技能> 基盤教育科目は「教養力」、学科専門科目は「専門力」 <汎用的能力> 「情報収集・分析力」「論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「問題解決力」 「自己理解力」「主体的行動力」「倫理性と自律力」「地域貢献力」のいずれか
授業の目的	授業の存在意義（何のためにこの授業を学ぶのか）
授業の到達目標	授業の目的をより具体化
授業概要	授業で扱う内容の全体像、背景やキーワード、狙い等
授業の進め方・授業手法	授業形式、どのように授業を進めるか、該当する10のちからの汎用的能力をどのように養うのか
実務経験のある 教員による教育内容	授業担当者に実務経験がある場合、その経験が授業にどのように活かされるか
評価方法	評価方法、評価割合、到達目標との対応
準備学習	毎回の授業に必要な予習・復習と必要な時間数、その他の準備学習
授業計画	・ 授業形態と授業計画 <授業形態> － 集合形態 / オンデマンド形態 / 併用の別 － オンデマンド形態の場合は、オンデマンドの方法（動画配信 / 教材配信） <授業計画> － 各回で扱う授業内容 － 授業形態併用の場合は、集合形態 / オンデマンド形態の実施回 － レポートや小テストの実施回
フィードバックの方法	課題や試験、レポートに対するフィードバックの方法
テキスト	授業で使用するテキスト（記載テキストは、学期ごとに設定される販売期間にオンライン販売サイトで購入することができる）
参考文献	テキスト以外に授業の参考となる文献（参考文献は本学図書館に所蔵されている）
オフィスアワー (授業相談)	・ 専任教員が研究室に在室し、学生からの質問・相談等に応じる曜日・時間帯 ・ オンデマンド形態の授業を実施する科目については、質問の受付方法
担当教員からの メッセージ	授業の魅力や受講にあたっての心がまえ・注意事項等
履修上の注意	・ 履修する上での注意事項や、履修の条件、人数調整、クラス指定、別途必要となる費用等 ・ オンデマンド形態の授業に関しては、出席とみなす条件（「課題の提出をもって提出とみなす」等）
授業 URL / E-mail / 参考 URL	授業で使用したり、参考にしたりする Web サイト、担当教員の E-mail アドレス

3. シラバスの確認方法

シラバスは Web で公開しています。

大学ホームページ > 在学生の方 > 在学生向けシステム・情報 > シラバス検索



また、WebClass から該当科目のシラバスを直接参照することができます。

4. ナンバリングコードについて

ナンバリングコードとは、授業科目に科目分類や特定の番号を付番することで、その番号を用いて学修の段階や順序等を示し、カリキュラムの体系性を表すものです。ナンバリングコードは教育課程表およびシラバスに記載しています。

【ナンバリングのルール】

1 年次	秋学期				総合英語I2 実践コミュニケーション 英語I2 資格英語II	情報活用基礎B 情報活用A プログラミング言語I データサイエンスA概論	基礎演習II		キャリアデザインII ホスピタリティ入門	図書館情報資源概論
	2	思想の世界 日本の歴史 民族と文化 ことばの世界	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る 人権を考える	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化 健康を管理する						
	春学期				総合英語I1 実践コミュニケーション 英語I1 資格英語I	情報活用基礎A プログラミング言語I	基礎演習I 日本語表現法	カレッジコミュニティ	キャリアデザインI	図書館概論
	1 ②	日本語を知る 教養としての日本文化 西洋の文化を考える 子どもの文化 芸術を鑑賞する	平和を考える メディアを考える 情報リテラシー 心理学 くらしと化学 生物を知る	書いて学ぶ文芸 描いて学ぶアート 健康とスポーツA 健康とスポーツB 教育を考える						
		1	2	3	1	2	1	2	3	1
カリキュラム・ ツリー上の 位置づけ	BA			BS		BC			CZ	

例) 「基礎演習 I」のナンバリングコード

BC1-1
① ②

- ①カリキュラム・ツリー上の位置づけ
- ②レベル (学年と開講時期)

①カリキュラム・ツリー上の位置づけ

- B : 基盤教育科目
- L : リベラルアーツ学科専門科目
- F : 食環境学部食イノベーション学科専門科目
- N : 食環境学部管理栄養学科専門科目
- Z : 資格専門科目
- C : 資格基礎科目
- H : 総合心理学科専門科目

②学年と開講時期

- 1 : 1年次春学期 2 : 1年次秋学期 3 : 2年次春学期 4 : 2年次秋学期
- 5 : 3年次春学期 6 : 3年次秋学期 7 : 4年次春学期 8 : 4年次秋学期

II. 学びについて

【カリキュラム・ツリー上の位置づけおよびナンバリングコードの記載場所】

①教育課程表

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)											カリキュラム・ツリー上の位置づけ	備考		
配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修選択の別	ディプロマ・ポリシー (F10のちから) との関係								
						教養力	専門力	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力			問題解決力	自己理解力
リベラルアーツ学科専門科目														
基礎科目														
1	150000	リベラルアーツ入門	2	講義	必修								LL	
1	150003	現代文化論	2	講義	選択		●						LL	○ 学選
1	150004	言語ストラテジー	2	講義	選択		●					●	LL	○ 社教選
1	150005	異文化理解論	2	講義	選択		●		●				LL	○
1	150006	日本語と外国語	2	講義	選択		●	●					LL	○
1	150007	隣国を知ろう(韓国)	2	講義	選択		●		●				LL	○
1	150008	社会デザイン論	2	講義	選択		●						LL	○
1	150009	情報デザイン論	2	講義	選択		●		●				LL	○
基幹科目														
日本文学・文化構想専攻														
1	151020	日本神話・古典文学概論	2	講義	選択		●		●				LJ	○
1	151021	近現代文学概論	2	講義	選択		●		●				LJ	○
1	151022	児童文学概論	2	講義	選択		●		●				LJ	○
1	151023	現地講義(日本文学)	2	演習	選択		●					●	LJ	○ 学選
1	151024	絵本ワークショップ	2	演習	選択		●					●	LJ	○
1	151025	絵本論	2	講義	選択		●		●				LJ	○
1	151026	日本文化史	2	講義	選択		●		●				LJ	○ 学選
2	151027	日本伝統文化	2	講義	選択		●		●				LJ	○ 学選
2	151028	日本神話・古典文学講読	2	講義	選択		●		●				LJ	○
2	151029	近現代文学講読	2	講義	選択		●		●				LJ	○

②シラバス

帝塚山学院大学・大学院WEBサービス				Help
シラバス参照				PRINT
講義名	基礎演習 I-a [L]			
(副題)				
講義開講時期	春学期	講義区分	演習	
基準単位数	1	時間	30.00	
代表曜日	水曜日	代表時限	2時限	
校地	泉ヶ丘キャンパス			
科目分類名	基盤教育科目			
科目分野名	導入学習			
配当学年	1・2・3			
ナンバリングコード	BC1-1			
担当教員				
職種	氏名	所属		

9. テキスト

1. テキストについて

履修する授業科目のシラバスを確認し、各自必要なテキストを購入してください。

2. テキストの購入について

テキストは大学が指定するオンラインの販売サイトで購入することができます。シラバスで授業に必要なテキストを確認し、各自販売期間内に必ず手続きを行ってください。ただし、一部学内販売を行うテキストがありますので、注意してください。購入方法・販売期間等の詳細は新学期ガイダンス時にお知らせします。

注文から受け取りの流れ

- ① 履修する科目のシラバスで指定テキストをよく確認する。
- ② 新学期ガイダンス時に配信されるマニュアルを参照の上、テキストを注文する。
- ③ テキスト受取時に、代金を支払う（現金のみ対応）。

10. 教室

1. 教室について

1) 通常教室

授業が入っていない時限は、自習や昼食、課外活動等に使用することができます。空き教室を自習で使用する場合は、届出不要です。課外活動で教室を使用する場合は、施設・設備予約システムより申請してください。施設・設備予約システムについては『履修ガイド・時間割表』を参照してください。

2) 実験・実習室

原則、自習や昼食、課外活動等での使用はできません。

3) PCルーム

PCルームについては、P.216「3. PCルーム」を参照してください。

2. 教室変更について

1) 学期開始時の変更

学期の開始時は人数調整等の関係で、時間割表に記載の教室から教室が変更される場合があります。特に学期初めの1ヶ月間は、最新の教室をポータル「カレンダー」より確認し、教室を間違えることのないよう注意してください。

2) 学期中の変更

教室変更が生じた場合は、ポータルやWebClassを通してお知らせします。臨時の場合は、教室前の掲示にてお知らせする場合があります。

11. 授業アンケート

1. 授業アンケート

本学では、授業改善を目的として、「授業アンケート」を実施し、結果を公表しています。回答は事務局において統計的に処理されます。担当教員に回答者の学籍番号・氏名は開示されず、成績評価にも一切関係しませんので、みなさんの率直なご意見とご協力をお願いします。

2. 実施時期

春学期・通年科目：7月中旬

秋学期・通年科目：1月中旬

集中講義科目：集中講義期間中

※一部の科目で上記期間外に授業アンケートを実施する場合があります。

3. 実施方法

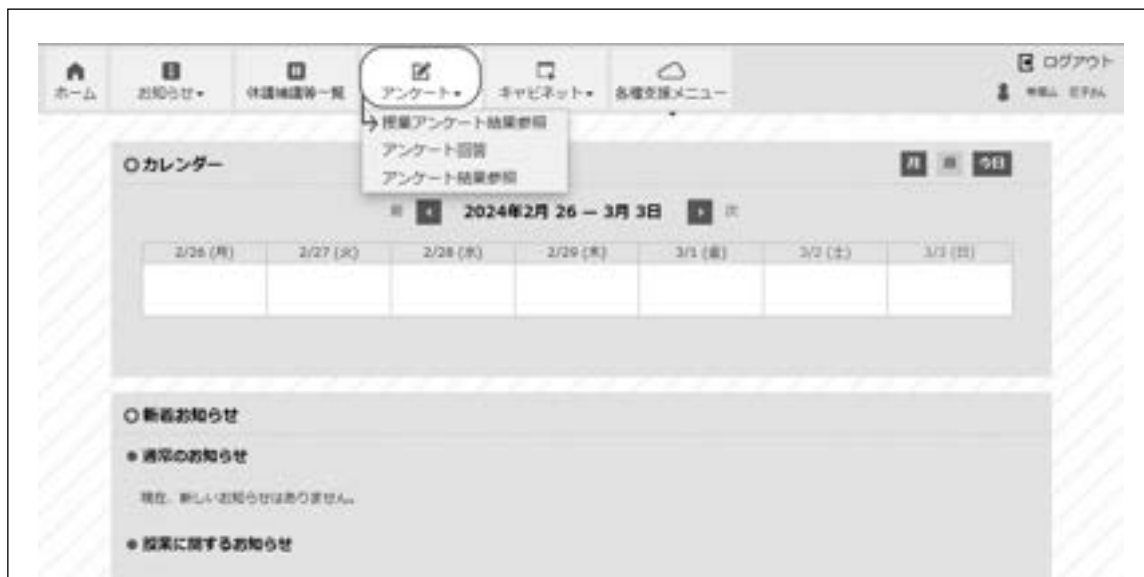
帝塚山学院大学ポータル（以下「ポータル」）を使用してアンケートを実施します。回答方法については、実施前にポータルより配信する「授業アンケートマニュアル」を参照してください。

ポータル > アンケート > 授業アンケート

4. アンケート結果参照

ポータルよりアンケート結果および授業担当教員からのコメントを参照することができます。

ポータル > アンケート > 授業アンケート結果参照



12. 試験

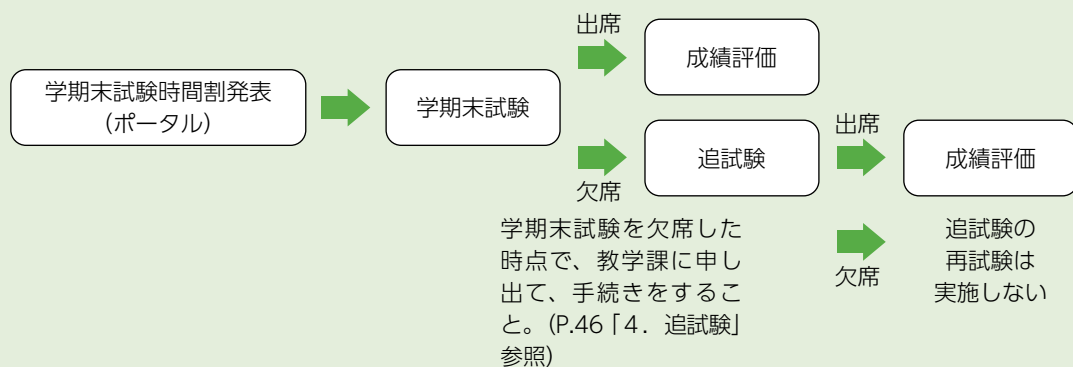
1. 試験の種類

試験には、次の種類があります。ただし、科目によってはレポート、作品、実技等をもって試験にかえることもあります。

【試験の種類】

① 学期末試験	<p>規定の授業回数終了後、原則として授業調整期間に実施される試験です。学期末試験の時間割は授業時間割と異なることもあるため、必ず試験時間割で確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規定の授業回数（半期 14 回、通年 28 回）終了後に実施します。 ・ 学期末試験の科目や試験日時などについては、学期末試験の約 1 か月前にポータルを通してお知らせする「試験時間割」にて確認してください。 ・ 科目により、複数回試験がある場合があります。 ・ 「追試験」の制度を適用します。
② 到達度の確認 (授業内試験)	<p>学期末試験以外に規定の授業回数内に行う試験です。担当教員が実施日等を決定して学生に指示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規定の授業回数（半期 14 回、通年 28 回）のなかで実施します。 ・ 担当教員が授業内で実施日等の連絡を行います。 ・ 「追試験」の制度は適用されません。 ・ シラバスには「到達度の確認」と記載しています。 ・ 授業期間中に休講があった場合には、授業調整期間に補講日が設定され、授業内試験の実施が授業調整期間中になる場合もあります。
③ 追試験	<p>病気、事故その他やむを得ない理由で学期末試験を欠席した者に対して行う試験です。なお、レポートによる評価を行う科目については、病気、事故その他やむを得ない理由により、期日までに提出できなかったレポートを受け付けることを指します。</p>

学期末試験・追試験の流れ



2. 学期末試験時間帯

学期末試験は原則 60 分で行います。

1時限	9:20~10:20
2時限 (前半)	11:10~12:10
2時限 (後半)	11:50~12:50
3時限	13:40~14:40
4時限	15:30~16:30
5時限	17:20~18:20

3. 学期末試験の受験資格

学期末試験の受験資格は、次の者に与えられます。

- ① 指定された期間内に履修科目の登録をしている者
- ② 学費完納の者

※履修登録をしていない者、学費未納の者（学費の延納を認められている者は除く）、また、教授会において受験することが不相当と認められた者には、学期末試験を受験する資格が与えられません。

4. 追試験

追試験を受けようとする者は、病気、事故その他正当な理由を明記した「試験欠席届・追試験願」に欠席理由を証明する書類を添付の上、指定された日までに教学課に提出し、追試験を願い出なければなりません。

なお、欠席理由によって、提出書類、追試験料、成績評価が異なりますので注意してください。

【追試験の種類】

	対象学生	提出書類	追試験料	成績評価
公欠の場合	学校保健安全法施行規則に定める学校において予防すべき感染症・忌引（親族）・実習等により学期末試験を欠席した者	・「試験欠席届・追試験願」 ・欠席事由を証明する書類	不要	試験結果の10割評価
公欠以外の 場合	上記以外の事由で試験を欠席した者	・「試験欠席届・追試験願」 ・欠席事由を証明する書類 ・追試験料を支払った際に証明書自動発行機から発行される申請書	1科目につき1,000円 ※証明書自動発行機にて支払う。発行機から出力される申請書の備考欄に受験科目名を記入して、教学課に提出する。	試験結果の8割評価

留意事項

- ・当該試験を欠席した証明書類がない場合や、当該試験日の日付と異なる日付の書類、通学区間外の延着証明書など無効な書類で追試験を申し込むことはできません。
- ・追試験を欠席した場合は、理由のいかんにかかわらず再度受験することはできません。この場合、手数料は返金されません。
- ・追試験の手続きは、受験する本人が行ってください。（個別の事情がある場合は、父母等の手続きを認めます。）

5. 試験における遵守事項

- ・ 学生証を持参すること。
- ・ 試験監督者の指示に従うこと。
- ・ 不正行為をしないこと。

試験において不正行為をした者は「試験における不正行為の処分に関する規程」に従って処分されます。不正行為の態様によっては別途処置を受けるとともに、学則第45条によって懲戒されることがあります。なお、指定されたもの以外のものを持ち込んだ場合は、試験問題との関連の有無にかかわらず、不正行為とみなされます。各自、厳粛な態度で試験に臨むとともに、不正と紛らわしい行為も厳に慎んでください。

- ・ 指定された座席で受験すること。許可なく席・机を移動してはならない。学期末試験実施時の座席表に自分の学籍番号がない場合は、速やかに教学課まで申し出ること。
- ・ 学生証は定期入等から出し、机の右上隅に置くこと。長机の場合は別途指示される場合がある。
- ・ 学生証を忘れた場合は受験できないため、学生課にて仮学生証を借用すること。その際、定期券または運転免許証等、本人を証明するものを持参すること。(手続き中の試験時間の配慮はない。)
- ・ 机上には、学生証、筆記用具、持ち込み指定のあったもの以外置かないこと。
- ・ 試験中、スマートフォン・スマートウォッチ等通信機能が付いた機器の電源を切り、カバンにしまうこと。時計代わりに使用することも禁止する。
- ・ 試験時間に 20 分以上遅刻した場合は、受験資格を失う。
- ・ 試験開始後 20 分間は退出することはできない。
- ・ 試験終了の合図と同時に筆記用具を置き、答案を机上に伏せ監督者の指示に従うこと。なお、試験終了前に答案を提出する場合は、机上に伏せて退出すること。
- ・ 退出後は廊下等で騒がないこと。

6. レポート

レポート提出については、授業担当教員の指示に従わなければならない。

【主なレポート提出方法】

WebClass	教員の指示に従い、提出すること。
レポートボックス	教員からの指定により、レポートボックスでの提出の場合は、本館 2 階ステューデントコモンズ内のレポートボックスに提出すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートボックスに貼り付けの題目を必ず確認すること。 ・ レポートの冒頭部分または、表紙に科目、担当教員名、題目、学籍番号、氏名を記載したものをホッチキスで留めること。 ・ 本人控えとしてレポートのコピーを必ず保管しておくこと。 ・ 無記名の場合は、レポートは受理されない。 ・ 別の提出ボックスに入れてしまった場合は、すみやかに教学課へ申し出ること。

※提出締切日時を過ぎたレポートは受理しません。学内でのパソコンやプリンターのトラブルによる提出の遅れであつても一切認められません。各自余裕をもってレポートを作成し、提出すること。

7. 試験関連の規程

各自、試験関連の各規程を確認してください。(ポータル「キャビネット」参照)

「帝塚山学院大学履修規程」第 9 章 試験

「帝塚山学院大学試験における不正行為の処分に関する規程」

13. 成績評価・単位の認定・GPA 制度

1. 成績評価

成績評価は 100 点法により行い、60 点以上を合格とします。

【成績評価基準】

区分	評価	得点	GP
合格	秀	100 点～ 90 点	4.0
	優	89 点～ 80 点	3.0
	良	79 点～ 70 点	2.0
	可	69 点～ 60 点	1.0
	認定	他大学で修得した科目、 所定の学外活動を本学単位として認定した科目等	対象外
不合格	不可	59 点～ 0 点	0
	失格	授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席し、 担当教員より失格と評価された科目	

※学業成績・単位修得証明書(以下「成績証明書」)には、「秀」「優」「良」「可」をもって記載し、単位認定科目は認定と記載します。

※「不可」「失格」の科目については、成績証明書には記載しません。

※履修辞退を行った科目についても成績証明書には記載しません。

※授業時間数の 1/3 以上を欠席した場合は、原則として当該科目の単位修得が認められず、試験受験やレポート提出に関わらず、授業担当教員において「失格」と評価されます。

2. 単位の認定

合格した科目の単位は、原則、各学期末に認定されます。認定された単位は、成績通知書やポータルにて確認することができます。集中講義科目や資格取得による単位認定、留学や単位互換制度による単位認定等、通常と異なる時期に単位を認定する場合は、別途ポータルよりお知らせします。なお、学期の途中で退学・休学をした場合、その学期に履修している科目の単位は認定されません（除籍となった場合も同様です）。

3. GPA 制度

学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく真剣な学習に役立つように、在学生全員を対象として履修した卒業要件科目の成績の平均を数値で表した Grade Point Average (以下「GPA」という)を算出しています。

この GPA は、学習の質を評価する成績評価の国際標準となっており、「合格」した科目だけではなく「不合格」となった科目も成績算出対象となるのが大きな特徴のひとつです。したがって、学生には自分の履修（履修登録を含む）に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

在学中のみなさんにとっては、履修登録した科目が GPA 算出対象となり、GPA が「成績通知書」に記載されています。

学期ごとに算出される GPA を参考に、今後の学習計画に役立ててください。

なお、「成績証明書」には、GPA および「不合格となった科目」を記載しません。

1) GPA の概要

GPA は、学生が履修した卒業要件科目の成績の平均を数値で表したもので、学期ごとの GPA と入学時から通算の累計 GPA の 2 つの GPA が算出されます。

本学が導入する GPA の算出式は次に示すとおりです。

- ① 試験得点に応じて 5 段階 (4.0、3.0、2.0、1.0、0) の評価点 (Grade Point、以下「GP」という) を設定します。なお、「不合格」となった科目や「失格」となった科目は GP が 0 点となります。(ただし、「他大学等で修得した科目」や「所定の学外活動を本学単位として認定した認定科目」「所定の手続により履修辞退が認められた科目」は GP のカウント対象外となります。)
- ② 各履修科目の GP に科目の単位数をかけた値を全履修科目で合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割った値が GPA となります。

【成績評価基準と Grade Point】

評 価	得 点	GP
合 格		
秀	100 点 ~ 90 点	4.0
優	89 点 ~ 80 点	3.0
良	79 点 ~ 70 点	2.0
可	69 点 ~ 60 点	1.0
認 定	他大学等で修得した科目、 所定の学外活動を 本学単位として認定した科目 等	対 象 外
不 合 格		
不 可	59 点 ~ 0 点	0
失 格	授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席し、 担当教員より失格と評価された科目	

※不合格科目を再履修した場合にも、GPA には再履修前と再履修後の成績がそれぞれ算入されます。

2) GPA の算出式

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修科目 (注) GP} \times \text{単位数} \text{ の総和}}{\text{履修科目 (注) 単位数の総和}}$$

注：履修科目には不合格科目を含む

GPA に基づく学修面談

学生のみなさんが日々の学修に専念し、大学生活を意義あるものとするよう、学びのサポートの一環として、GPA に基づく学修面談を実施しています。

- ・学期の GPA が 1.5 未満の学生には、アドバイザー教員による学修指導面談を行います。
- ・GPA 1.0 未満が 2 学期連続した場合は、学生本人および父母等と学科長が面談を行います。

3) GPA に関する Q&A

Q. GPA とは何ですか？

A GPA は、学生が履修した卒業要件科目の成績の平均を数値で表したもので、学期ごとの GPA と入学時から通算の累計 GPA の 2 つの GPA が算出されます。

Q. Grade Point (GP) とは何ですか？

A GP とは、各科目の成績を、その得点に応じて 5 段階 (4.0、3.0、2.0、1.0、0) にわけて数値化したものです。その GP に科目の単位数を加味し、平均値を算出したものが GPA です。

Q. 各科目の成績の GP はどのように設定されるのですか？

A 各科目の得点に応じて次のようにグレード・ポイントを設定します。100～90 点は GP 4.0、89～80 点を GP 3.0、79～70 点を GP 2.0、69～60 点を GP 1.0、59 点以下「不可」および「失格」を GP 0 とします。

Q. GPA の目的は何ですか？なぜ GPA を算出するのですか？

A GPA 導入は、より厳格な成績評価を実現することを目的としています。「合格科目」だけでなく「不合格科目」も成績評価の対象とする GPA を取り入れることにより、今まで以上に真剣な履修登録、授業への取り組みが期待されます。また、明確で客観的な「総合的成績評価」を GPA として示すことにより、学生が自分自身の学修成果を把握しやすくすることも狙いとしています。

Q. GPA は本学独自の制度ですか？

A GPA は本学独自の制度ではありません。GPA は厳格な成績評価方法として、米国の大学における成績評価制度に基づいています。
いま日本の大学には、国際競争力を強化した世界レベルの質の高い高等教育機関としての整備が求められています。GPA は教育の国際化に対応するとともに、「海外から見ても分かりやすい成績評価」システムとして導入されます。

Q. GPA は何の役に立つのですか？

A 学業結果を総合的に判断する指標として役立ちます。学生は学期ごとに記載される自分の GPA を確認することで、学修の状況を客観的に把握することができます。

Q. GPA はどのように利用されるのですか？

A 学生が自らの学業成績の状況を的確に把握し、適切な履修計画とそれに基づく学修への取組みに役立てるために使用されます。各教員は学生の履修指導等にこの GPA を使用します。その他、GPA の活用例は以下のとおりです。

【GPA の活用例】

- ・履修上限単位数の緩和
- ・1 日に履修することができる全回オンデマンド科目数の緩和
- ・学科による履修指導
- ・人数調整科目、専門演習 (ゼミ) 等の選考における参考
- ・留学の選考における参考
- ・就職活動での学校推薦の選考における参考
- ・修学支援制度や奨学金の選考における参考

Q. GPA の算出はどのように行われるのですか？

- A** GPA は次のように算出します。
- ① 履修登録科目の成績に応じて与えられた各科目の GP に、各科目の単位数をかけて合計します。
 - ② ①で得られた値を履修登録科目の総単位数で割ります。
 - ③ ②で得られた値を小数点第 3 位で四捨五入します。
- なお、「他大学等で修得した科目」や「所定の学外活動を本学単位として認定した認定科目」「所定の手続により履修辞退が認められた辞退科目」は計算式に含まれません。

Q. 学生への GPA 通知は、どのように行われるのですか？

- A** 全学生について、「成績通知書」には学期ごとの GPA および通算の累計 GPA を記載します。「成績証明書」へは GPA および「不合格となった科目」は記載しません。学生に通知する GPA は、小数点第 2 位（小数点第 3 位を四捨五入）までの値とします。

Q. 自身の GPA の順位を知ることはできますか？

- A** P.196～203「5. テヅカポートフォリオ」において、同一入学年・同一所属（学科・課程）における累計 GPA 値の分布と自身の値の位置を、図表で確認することができます。また、自身の GPA 順位を具体的に確認したい場合は、「GPA 順位確認願」を提出することで、前学期までの GPA 順位を確認することができます。詳細は教学センターまでお問い合わせください。

Q. 不合格の取り扱いはどうなりますか？

- A** 「不可」（59～0点）、「失格」は、すべて GP を 0（ゼロ）として GPA の算出対象とします。

Q. 再履修した科目の GP はどうなりますか？

- A** 以前に不合格となった科目成績や再履修科目についても累計 GPA 算出対象とします。（「他大学等で修得した科目」や「所定の学外活動を本学単位として認定した認定科目」「所定の手続により履修辞退が認められた辞退科目」を除く。）

Q. 資格課程科目は GPA の算出対象となりますか？

- A** 卒業要件科目のみを GPA の算出対象とします。資格専門科目等、卒業単位に算入されない科目は GPA の算出対象としません。

Q. 累計 GPA とは何ですか？

- A** GPA は、1 学期（春学期または秋学期・通年）の履修登録科目の成績だけを対象とした「学期ごとの GPA」と、成績評価の確定した入学時からの履修登録科目の全成績を対象とする「累計 GPA」の 2 種類が算出されます。

GPT (Grade Point Total) について

学修成果を表すものとして、GPT という指標を用いることもあります。GPT は「(履修科目 GP × 単位数) の総和」で算出され、学修の質に加え、学修量の観点も含まれていることが特徴です。自身の GPT は P.196～203「5. テヅカポートフォリオ」で確認することができます。

4. 成績の通知

1) 成績通知書

春学期終了時の成績通知書は、9月上旬に学生本人および父母等の連名宛に郵送します。ただし、集中講義科目、単位互換科目の成績は記載されていないことがあります。

秋学期終了時の成績通知書は、1～3回生は3月中旬に学生本人および父母等の連名宛に郵送、卒業生については卒業式当日に配付します。

本学では、父母等と連携した修学支援を行うことが教育上有効な取り組みであると考え、学生本人および父母等の連名宛に各学期終了時の「成績通知書」を郵送し、学業に関する問い合わせや相談に応じています。

2) ポータルでの成績確認

成績はポータル上でも確認することができます。

各学期の成績は、成績通知書の郵送時期に合わせて開示します。ただし、卒業年次生の秋学期終了時の成績については、卒業判定終了後、直ちに開示します。(卒業の可否については、学生本人および父母等の連名宛に郵送にて通知します。)

【ポータルによる成績確認方法】

ポータル > 各種支援メニュー > 学修支援メニュー >

Web 履修申請 > 履修状況表示 (時間割)

The screenshot shows the '履修状況表示 (時間割)' page on the university's web portal. The page header includes the university name '帝塚山学院大学・大学院WEBサービス' and the user's name '帝塚山 花子'. The main content area displays a table with student information and a list of courses.

学籍番号	110001	郵便番号	1100101
氏名	帝塚山 花子	住所1	大阪府大東市山崎
学部	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	住所2	9-1-101
学年	1年 秋学期	住所3	

At the bottom of the page, there is a '履修状況表示' button and a '登学期' label.

5. 成績通知書の見方

(A) 科目ごとの成績評価欄

	科目名	単位	評価	年度	時期
①	【基盤教育科目】				
②	(導入学習)				
	基礎演習Ⅰ-b [L]	1	80 優	2020	春学期
	基礎演習Ⅱ-b [L]	1	100 秀	2020	秋学期
③	基礎演習Ⅲ [L]	1	89 優	2021	春学期
	基礎演習Ⅳ [L]	1	89 優	2021	秋学期
	日本語表現法-j [Ⅲ]	2	89 優	2020	春学期

- ① 科目の分類が【 】で示されます(基盤教育科目、○○学科専門科目、自由科目等)。
※ 自由科目に記載されている科目は、卒業要件単位数に参入されません。
- ② 科目の分野が()で示されます(導入学習、A・B・C群、基礎科目、基幹科目、○○課程等)。
- ③ 科目名、単位、評価、履修年度、履修時期が記載されます。

所属：リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科
995989 菅塚山 花子

成績通知書

2022年9月5日 発行

科目名	単	評	年	時	科目名	単	評	年	時
【基盤教育科目】					基礎演習Ⅰ-b [L]	1	80	2020	春
(導入学習)					基礎演習Ⅱ-b [L]	1	100	2020	秋
基礎演習Ⅲ [L]	1	89	2021	春	基礎演習Ⅳ [L]	1	89	2021	秋
日本語表現法-j [Ⅲ]	2	89	2020	春					

【GPA欄】

専攻	年度	学期	GPA	平均	偏差値
2020	専攻前	3.55	3.50		
2020	専攻中	3.53	3.50		
2021	専攻前	3.54	3.50		
2021	専攻中	3.58	3.45		

(B) 卒業要件集計表

科目群名称	基盤教育科目	導入学習	A群	B群	C群	キャリア形成	外国語他	情報処理	現地研修	資格基礎
要件必要単位数1	38									
要件必要単位数2	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(4)	(8)	(2)		
修得済単位数	42	6	2	1	4	10	14	2	0	0
科目群名称1	学科専門科目				関連科目					総計
要件必要単位数1	48				6					
要件必要単位数2	(8)	(28)	(8)			余剰修得単位	他学科関連	単位互換		124
修得済単位数	42	12	30	0	0	0	2	0		86

- 要件必要単位数1：科目の分類ごとに必要な卒業要件単位数が記載されています。
- 要件必要単位数2：科目の分野ごとに必要な卒業要件単位数が記載されています。
※ <リベラルアーツ学科の学生のみ> 「プログラミング言語Ⅰ」「プログラミング言語Ⅱ」の分類は(情報処理)ですが、卒業要件の集計上[外国語他]の欄に集計されます。
- 修得済単位数：これまでに修得した単位数が記載されています。
※ <余剰修得単位> ②を超えて修得した単位は「余剰修得単位」として卒業要件単位に含まれますが、本集計欄内(関連科目)の[余剰修得単位]には表示されないため、各自での把握が必要となります。

(C) GPA 欄

学期ごとのGPAが記載されます。

6. 成績問い合わせ

成績に疑義がある場合は、教学課を通して授業担当者に問い合わせることができます。次の期限または期間内に教学課に「成績に関する照会」の書類を提出してください。

成績問い合わせ

- [春学期科目] 当該年度の9月20日まで
- [通年・秋学期科目] 当該年度の3月20日まで
- [その他（集中講義等）] ポータル上での公表後1週間以内

7. 成績分布の公表

本学では、教育の質を保証する取り組みの一環として、学生・教職員に向けて成績分布の学内公表を実施しています。各科目の成績について、到達目標に対する絶対評価とは別に、相対的な位置も知ることができます。詳細はポータルにてお知らせします。

成績分布の公表

- [対象科目] 原則として、履修者11名以上の全科目
- [公表時期] 春学期成績：10月
秋学期成績：翌年度4月
- [公表項目] 履修者の秀・優・良・可・不可の各割合（%）（失格者を除く）
GP平均（失格者を除く）・素点平均（失格者を除く）・履修者数・失格者の割合

8. 資格取得に対する単位認定制度

1) 制度の目的

本制度は、学生の学習意欲を喚起し、その学習成果を積極的に評価することを目的としています。また、本制度により、履修単位数が抑えられるため、他の選択科目等を履修することや、引き続き上のレベルの資格取得を目指す等、更なる学修の充実をはかることができます。

2) 対象となる検定試験と認定単位・科目

対象となる検定	スコア・級	認定単位	認定対象科目
TOEIC® (L&R) ※ TOEIC® IP を含む	450 以上	2 単位	「総合英語 I 1」 「総合英語 I 2」
	550 以上	4 単位	「総合英語 I 1」 「総合英語 I 2」 「総合英語 II 1」 「総合英語 II 2」
実用英語技能検定試験 (英検)	準 2 級	2 単位	「総合英語 I 1」 「総合英語 I 2」
	2 級～1 級	4 単位	「総合英語 I 1」 「総合英語 I 2」 「総合英語 II 1」 「総合英語 II 2」
韓国語能力試験 (TOPIK)	2 級～3 級	4 単位	「総合韓国語 I A」 「総合韓国語 I B」
	4 級～6 級	8 単位	「総合韓国語 I A」 「総合韓国語 I B」 「総合韓国語 II A」 「総合韓国語 II B」
「ハングル」能力検定試験	4 級～3 級	4 単位	「総合韓国語 I A」 「総合韓国語 I B」
	準 2 級～1 級	8 単位	「総合韓国語 I A」 「総合韓国語 I B」 「総合韓国語 II A」 「総合韓国語 II B」
Microsoft Office Specialist (MOS) Word	一般レベル (スペシャリスト)	1 単位	「情報活用 A」
Microsoft Office Specialist (MOS) Excel	一般レベル (スペシャリスト)	1 単位	「情報活用 B」

3) 申請手続き

- ①申請窓口 教学課
- ②申請期限 ・春学期科目の単位認定を希望する場合：履修登録（1次）締切日
・秋学期科目の単位認定を希望する場合：修正登録（1次）締切日
- ③提出書類 ・「資格・検定試験による単位認定願」
・当該技能検査・検定試験における認定証、合格証、もしくはこれに相当する証書
※申請日より過去2年以内に発行された証明書に限る。

4) さらなる学習意欲への対応

本学では、資格取得に対する単位認定を受けた学生を対象に、一人ひとりの学習意欲に応じた資格講座科目や上位科目の履修推奨のほか、レベルアップを目指す勉強会の企画等、さらなる学びのための仕組みを用意しています。

また、本学が指定する各種検定を受験し、合格または規定の点数を達成した場合に検定料の半額を支給するライセンススカラシップ制度を設けています。詳細は P.162 「3. ライセンススカラシップ」を参照してください。

14. 留学制度

1. 留学の種類

国際交流センター運営

- 1) 派遣留学
 - A【交換留学制度】
 - B【国際交流基金派遣留学制度】
 - C【学生企画】

リベラルアーツ学部運営

- 2) 認定留学
- 3) 語学研修
- 4) 私費留学

1) 派遣留学

国際交流センターが運営する留学制度。下記の3つの制度があります。希望する学生は必ず説明会に参加し、国際交流センターの説明に従い、進めていきます。在学留学または休学留学のいずれかを選択することが可能です。

在学留学と休学留学

●在学留学

留学期間は本学在籍期間として認められる。要件を満たす場合のみ本学の卒業に必要な単位として単位の認定を行うことができます。

●休学留学

留学期間は本学在籍期間として認められず、単位認定は行いません。

A【交換留学制度】

本学が交換協定を結んでいる海外の教育機関との間での学生の派遣・受入

B【国際交流基金派遣留学制度】

本学が交流協定を結んでいる海外の教育機関への学生派遣

C【学生企画】

国際交流基金派遣留学制度の中の1つ。留学先の選択から留学の企画・申請などすべて自分で行う制度。協定校以外への留学も可能。

2) 認定留学

リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科が運営する在学の認定留学制度

3) 語学研修

リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科が運営する在学の短期語学研修

4) 私費留学

自分で留学先を決定し、願書提出から留学に関わるすべての手続きを自分で行い、留学する制度。本学からの奨学金支給はありません。基本は休学留学となりますが、留学先が本校協定校でかつ所定の要件を満たす場合に限り、在学留学が認められます。在学留学を希望する場合、現地プログラム開始日の3か月前までに本学へ申請の必要があります。

2. 学費等支払いならびに奨学金の支給について

在学留学の場合、留学期間中の本学学費を全額納入する必要があります。派遣留学で休学留学を選択した場合は休学期間中の授業料・在籍料が免除されますが、私費留学で休学留学を選択した場合は休学期間中の在籍料を納入する必要があります。

運営母体	留学の種類	在学留学		休学留学	
		学費等納付	奨学金支給	学費等納付	奨学金支給
国際交流センター	1-A 交換留学	× 納入不要	○ 給付あり	× 納入不要	○ 給付あり
	1-B国際交流基金派遣留学	○ 納入必要	○ 給付あり	× 納入不要	○ 給付あり
	1-C 学生企画	○ 納入必要	○ 給付あり ^{※1}	× 納入不要	○ 給付あり ^{※1}
リベラル アーツ学部	2 認定留学	○ 納入必要	○ 給付あり ^{※2}		
	3 語学研修	○ 納入必要	× 給付なし		
学生個人	4 私費留学	○ 納入必要	× 給付なし	○ 在籍料のみ納入必要	× 給付なし

※ 1：奨学金支給は企画が認められた際に決まります。

※ 2：該当者には留学終了後、支給されます。

3. 留学期間の単位認定

在学留学の場合、教授会においてその学習内容が本学の開講科目に相当すると認められ、かつ所定の授業時間を満たしている場合に限り、留学先の教育機関で修得した科目が本学の単位として認定されます。ただし、単位数に上限があり、所属学科によっては授業科目の特性上認定できない場合があります。留学期間は在学期間に算入されるので、卒業に必要な単位を修得すれば、4年での卒業が可能です。

休学留学の場合、留学先の教育機関で修得した科目は本学の単位として認定されず、休学期間は在学期間に算入されないため、卒業が延期されます。

いずれの留学の場合も、3・4回生配当必修演習科目の履修や卒業単位等について、事務局およびゼミ担当教員と事前に相談するようにしてください。

15. 卒業・卒業延期制度

1. 卒業について

1) 卒業の時期

卒業の時期は、原則として学年または学期の終わりとします。

2) 卒業の認定

下記の卒業要件を満たした場合に、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定し、卒業証書・学位を授与します。3月卒業の場合は2月下旬に、春学期卒業（9月卒業）の場合は9月中旬に卒業の案内を父母等宛に郵送します。

卒業要件

- ・学則第37条に定める期間（※）在学している。
 ※通算4年以上の在学（休学期間は含まない）
 ※ただし、学則第39条による例外あり
- ・別表「卒業に必要な単位数」（各学科の教育課程の頁参照）の中から所定の履修方法にしたがって、次の単位数を修得している。

リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科	124 単位
総合心理学部総合心理学科	124 単位
食環境学部食イノベーション学科	124 単位
食環境学部管理栄養学科	124 単位

卒業要件を満たすことができず、卒業不可となる場合は、上記と同時期に父母等宛に書面で通知します。

卒業不可となった場合の学費の取り扱いについて

修業年限（4年）を超えて在学し、卒業要件単位数の不足により卒業が延期となった場合は、以下のとおり学費が減免されます。

- ① 卒業不足単位数が8単位以下で、かつ履修登録単位数（年間）が16単位以下の場合、授業料の半額と、教育充実費および実験実習費の全額が免除されます。
 - ② 上記①の対象とならない場合、教育充実費および実験実習費の全額が免除されます。
- 詳細については、学則第43条を参照してください。

2. 卒業延期制度について

卒業年次生で、卒業に必要な要件を満たすものの、合理的な理由により卒業を延期し引き続き在学を希望する場合は、「卒業延期制度」を利用することができます。

1) 申請条件

次の条件を満たしている場合、「卒業延期願」を提出することができます。

- ・卒業に必要な要件を満たす卒業年次生であること
- ・授業料等納付金を完納していること
- ・引き続き在学することにより在学期間が8年を超えないこと

ただし、上記申請条件を満たしていても、審査の結果、卒業延期が認められない場合があります。

2) 期間

卒業に必要な要件を満たした学年の翌年度1年間。ただし、1回に限り再延長ができます。（最長2年間）

3) 納付金

授業料等の納付金については在籍料として、春学期 6 万円、秋学期 6 万円を各納付期限までに納入してください。

4) 卒業時期

卒業の時期は延長後の在学期間が終了する年度または学期末の最終日とします。

5) 身分

卒業延期を許可された学生は、4 年次生として扱われます。よって、図書館などの学内諸施設・設備利用、学生証の発行、および学則に基づく懲戒処分についてもその対象となります。

6) 授業科目の履修

- ・ 授業科目の履修を希望する場合は、半期 10 単位まで（通年 20 単位まで）の履修が認められます。ただし、授業科目の履修については別途受講料（1 単位につき 5,000 円）が必要です。なお、資格取得課程専門科目を履修する場合は、事前に教学課で相談してください。
- ・ 履修した授業科目は、単位認定の対象となります。

7) 手続き

- ・ 卒業延期を希望する学生は、指定の提出期間内に「卒業延期願」を学生課に提出してください。申請手続きの日程は、1 月中旬および 8 月中旬にポータルにてお知らせします。
- ・ 審査の結果、卒業延期を許可された学生には、在籍料等納付書を送付します。期限までに納付してください。
- ・ 期限までに在籍料等が納付されなかった場合は、卒業延期の許可を取り消します。この場合、授業料または在籍料等納付金を完納している期間の終期をもって卒業とします。
- ・ 卒業延期の許可を取り消したい場合は、指定の提出期間内に「卒業延期願の取り下げ願」を学生課に提出してください。卒業延期の願い出を取り消し、卒業に必要な要件を満たした年度末または学期末での卒業を認めます。

Ⅲ. 教育課程について

1. 教育課程表の見方

帝塚山学院大学の教育課程は、幅広い教養科目を中心に学ぶ「基盤教育」（基盤教育科目）と専門分野をより深く学ぶ「専門教育」（学科専門科目）で構成されています。また、それらに加え、資格取得（図書館司書・博物館学芸員）に特化して学ぶ「資格専門科目」があります。みなさんはこの教育課程に沿って、学科ごと、資格ごとに必要な科目を履修し、単位を修得し、4年後の卒業や資格取得を目指して学びを進めていきます。

【卒業要件】

卒業するために満たさなければならない条件のことを「卒業要件」といいます。本学の大学便覧には、学科ごとに「卒業に必要な総単位数」として記載されています。

【配当年次別一覧】

教育課程の各科目を配当年次別／科目分類・分野別に示した一覧です。緑色の網かけになっている科目は必修科目です。

【教育課程表】

教育課程の各科目の配当年次、単位数、ディプロマ・ポリシー（「10のちから」）との関係、ナンバリング、他学科開講科目（「他履修」）等を示した一覧です。

【教育課程表／カリキュラム・マップの見方】

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修選択の別	ディプロマ・ポリシー（「10のちから」）との関係										カリキュラム・ツリー上の位置づけ	他履修	備考
						DP I 教養 力	DP II 専門 力	DP III										
						論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								⑧	⑨	⑩		

① 配当年次	当該授業科目を履修することができる年次（学年）を示しています。各学年において履修することのできる授業科目は、自身の学年および下位の学年に配当されている科目です。配当学年が上位の学年の授業科目は履修できません。
② 学則科目コード	授業科目ごとに割り振られている6ケタの番号です。入学から卒業まで変わることはありません。学則科目コードが同一の場合は、原則として重複履修できません。なお、履修登録・修正登録の際は、下1ケタに「クラス」を表示した講義コード（7ケタ）を利用します。講義コードの詳細はP.30を参照してください。
③ 科目名	科目の名称を示しています。
④ 単位	科目を履修、修得した場合の単位数を示しています。
⑤ 講義区分	「講義」は講義科目、「演習」は演習科目、「実験・実習」は実験実習科目を示しています。
⑥ 必修選択の別	「必修」は必修科目、「選択」は選択科目、「自由」は自由科目を示しています。詳細はP.28を参照してください。
⑦ ディプロマ・ポリシー（「10のちから」）との関係	当該授業科目を通して身につける「帝塚山学院大学生の10のちから」との対応を示しています。詳細はP.22～23を参照してください。
⑧ カリキュラム・ツリー上の位置づけ	学修の段階や順序等を示し、カリキュラムの体系性を表すものです。
⑨ 他履修	・「○」がついている科目は、開講学科以外の学生も他学科開講科目として履修することができます。ただし、対象の学科が限定される場合があります。 ・「△」がついている科目は、食イノベーション学科、管理栄養学科の学生のみ他学科開講科目として履修することができます。
⑩ 備考	・必修の場合は「必修」と記載されています。 ・資格要件科目の場合は、資格名が略称で記載されています。 ・他履修の対象が限定されている場合は、対象学科がアルファベットで記載されています。

【カリキュラム・ツリー】

カリキュラム・ツリーは「帝塚山学院大学生の10のちから」のうち、「教養力」と「専門力」について、カリキュラム・ポリシーをもとに、「何ができるようになるための科目群なのか」「カリキュラム上の科目の目的・役割は何か」ということを具体的に示しています。卒業までにどのような知識・技能を身につけるのか、それを実現するためにはそれぞれの科目をどのような順番で履修する必要があるのかといった各科目の関連性を、わかりやすく表現しています。なお、ナンバリングコードはカリキュラム・ツリーと対応しています。

カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーの役割は、P.24「帝塚山学院大学生の10のちから」を身につけるためににも記載しています。

【学科・機構別記載ページ】

	卒業要件	配当年次別一覧	教育課程表／カリキュラム・マップ	カリキュラム・ツリー
基盤教育科目	－	－	P.66－67	各学科のページに記載
リベラルアーツ学科専門科目	P.70	P.71	P.72－75	P.76－77
総合心理学科専門科目	P.88	P.89	P.90－91	P.92－93
食イノベーション学科専門科目	P.96	P.97	P.98－99	P.100－101
管理栄養学科専門科目	P.104	P.105	P.106－107	P.108－109

基盤教育科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ（基盤教育科目）

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修別の別	ディプロマ・ポリシー（10のちから）との関係										カリキュラム・ツリーの位置づけ	備考
						DP I		DP II		DP III							
						教養	専門	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力		
基盤教育科目																	
導入学習																	
1	250010	基礎演習Ⅰ ①	1	演習	選択	●									●	BC	1年次必修
1	250020	基礎演習Ⅱ ②	1	演習	選択	●									●	BC	1年次必修
2	250030	基礎演習Ⅲ ③	1	演習	選択	●			●							BC	2年次必修
2	250040	基礎演習Ⅳ ④	1	演習	選択	●			●							BC	2年次必修
1	250050	日本語表現法	2	講義	必修	●			●							BC	
1	250051	カレッジコミュニティⅠ	2	演習	選択	●									●	BC	
2	250052	カレッジコミュニティⅡ	2	演習	選択	●									●	BC	
2	250053	読書演習	2	演習	選択	●				●						BC	
A群（先人の知を受けつぐ）																	
1	251000	思想の世界	2	講義	選択	●			●							BA	社教選
1	251001	日本の歴史	2	講義	選択	●				●						BA	
1	251002	民族と文化	2	講義	選択	●		●								BA	学選
1	251003	ことばの世界	2	講義	選択	●			●							BA	
1	251004	日本語を知る	2	講義	選択	●			●							BA	
1	251005	教養としての日本文化	2	講義	選択	●			●							BA	学選
1	251006	西洋の文化を考える	2	講義	選択	●			●							BA	学選
1	251007	子どもの文化	2	講義	選択	●			●							BA	
1	251008	芸術を鑑賞する	2	講義	選択	●			●							BA	学選
2	251009	伝統文化演習	1	演習	選択	●									●	BA	
B群（世界と今を読み解く）																	
1	251200	日本の憲法	2	講義	選択	●									●	BA	
1	251201	くらしと法律	2	講義	選択	●									●	BA	
1	251202	現代社会を考える	2	講義	選択	●								●		BA	社教選
1	251203	東アジアを知る	2	講義	選択	●			●							BA	学選
1	251204	人権を考える	2	講義	選択	●				●						BA	社教選
1	251205	平和を考える	2	講義	選択	●				●						BA	
1	251206	メディアを考える	2	講義	選択	●				●						BA	
1	251207	情報リテラシー	2	講義	選択	●			●							BA	
1	251208	心理学	2	講義	選択	●			●							BA	社福選
1	251209	くらしと化学	2	講義	選択	●			●							BA	
1	251210	生物を知る	2	講義	選択	●			●							BA	
2	251211	データリテラシー	2	演習	選択	●			●							BA	
2	251212	社会と言語	2	講義	選択	●			●							BA	
C群（未来をひらく）																	
1	251400	科学と倫理	2	講義	選択	●				●						BA	
1	251401	ソーシャルメディア論	2	講義	選択	●		●								BA	
1	251402	先端技術と文化	2	講義	選択	●			●							BA	
1	251403	健康を管理する	2	講義	選択	●					●					BA	
1	251404	書いて学ぶ文芸	2	演習	選択	●			●							BA	
1	251405	描いて学ぶアート	2	演習	選択	●			●							BA	
1	251406	健康とスポーツA	1	実験・実習	選択	●								●		BA	健運必
1	251407	健康とスポーツB	1	実験・実習	選択	●								●		BA	健運必
2	251408	生涯スポーツ実習A	1	実験・実習	選択	●							●			BA	レク必
2	251409	生涯スポーツ実習B	1	実験・実習	選択	●							●			BA	レク必
1	251410	教育を考える	2	講義	選択	●			●							BA	社教選
キャリア形成																	
1	254000	キャリアデザインⅠ	2	講義	必修	●					●					BC	
1	254001	キャリアデザインⅡ	2	講義	必修	●					●					BC	
1	254002	ホスピタリティ入門	2	講義	選択	●								●		BC	
2	254003	数理リテラシー	2	講義	選択	●			●							BC	2年次必修
2	254004	キャリアデザインⅢ	2	講義	選択	●									●	BC	
2	254005	キャリアデザインⅣ	2	講義	選択	●									●	BC	
2	254009	プロジェクト型キャリア研究	2	演習	選択	●				●						BC	
3	254010	インターンシップA ⑤	2	演習	選択	●								●		BC	
3	254007	インターンシップB ⑤	2	演習	選択	●								●		BC	

・基盤教育科目の卒業要件単位については、各学科の「卒業に必要な総単位数」の頁を参照のこと。

・①「基礎演習Ⅰ」の学則科目コードを、Lは「250011」、Hは「250012」、F・Nは「250013」とする。

・②「基礎演習Ⅱ」の学則科目コードを、Lは「250021」、Hは「250022」、F・Nは「250023」とする。

・③「基礎演習Ⅲ」の学則科目コードを、Lは「250031」、Hは「250032」、F・Nは「250033」とする。

・④「基礎演習Ⅳ」の学則科目コードを、Lは「250041」、Hは「250042」、F・Nは「250043」とする。

・⑤「インターンシップA」「インターンシップB」は所定の要件を満たす就労型インターンシップを行う科目であり、オリエンテーション・事後報告会における事前・事後指導が含まれる。

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (基盤教育科目)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修選択別	ディプロマ・ポリシー (「10のうちから」) との関係										カリキュラム・ツリーでの位置づけ	備考
						DP I	DP II	DP III							地域貢献力		
						教養力	専門力	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力			
外国語																	
1	252000	総合英語 I 1	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
1	252001	総合英語 I 2	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
2	252002	総合英語 II 1	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
2	252003	総合英語 II 2	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
1	252004	実践コミュニケーション英語 I 1	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
1	252005	実践コミュニケーション英語 I 2	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
2	252006	実践コミュニケーション英語 II 1	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
2	252007	実践コミュニケーション英語 II 2	1	演習	選択	●										BS	L(選必)H・F・N(必修)
1	252008	資格英語 I	1	演習	選択	●										BS	
1	252009	資格英語 II	1	演習	選択	●										BS	
2	252208	フランスのことばと文化 I	2	演習	選択	●										BS	
2	252209	フランスのことばと文化 II	2	演習	選択	●										BS	
2	252410	中国のことばと文化 I	2	演習	選択	●										BS	
2	252411	中国のことばと文化 II	2	演習	選択	●										BS	
2	252612	韓国のことばと文化 I	2	演習	選択	●										BS	
2	252613	韓国のことばと文化 II	2	演習	選択	●										BS	
情報処理																	
1	253000	情報活用基礎 A	1	演習	必修	●	●									BS	
1	253002	情報活用基礎 B	1	演習	必修	●	●									BS	
1	253004	情報活用 A	1	演習	選択	●	●									BS	
1	253005	情報活用 B	1	演習	選択	●	●									BS	
1	253006	プログラミング言語 I	2	実験実習	選択	●		●								BS	L(選必)
1	253007	プログラミング言語 II	2	実験実習	選択	●		●								BS	L(選必)
1	253008	データサイエンス・AI概論	2	講義	選択	●	●									BS	
3	253009	データサイエンス・AI実習	2	実験実習	選択	●	●									BS	
資格基礎																	
1	256100	図書館概論	2	講義	選択	●								●		CZ	司書必/社教選
1	256101	図書館情報資源概論	2	講義	選択	●								●		CZ	司書必/社教選
2	256200	博物館概論	2	講義	選択	●								●		CZ	学必/社教選
2	256201	博物館経営論	2	講義	選択	●								●		CZ	学必/社教選
2	256300	生涯学習概論 I	2	講義	選択	●								●		CZ	社教必
2	256301	生涯学習概論 II	2	講義	選択	●								●		CZ	学必/司書必/社教必
2	256500	レクリエーション概論	2	講義	選択	●		●								CZ	社教選/レク必
2	256501	レクリエーション実技	1	演習	選択	●								●		CZ	レク必
3	256502	レクリエーション現場実習	1	実験実習	選択	●								●		CZ	レク必

- ・ 基盤教育科目の卒業要件単位については、各学科の「卒業に必要な総単位数」の頁を参照のこと。
- ・ 原則として、「総合英語 I・II」「実践コミュニケーション英語 I・II」は同一クラスの1(春学期)・2(秋学期)を連続履修すること。
- ・ 原則として、「フランスのことばと文化」「中国のことばと文化」「韓国のことばと文化」は I を履修した後に II を履修すること。

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

2024年度入学生 卒業に必要な総単位数 (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

科目分類・分野		卒業要件詳細			卒業要件 単位数合計
基盤教育科目	導入学習	2単位 必修	「日本語表現法」 必修		必修・選択必修科目の 単位を含み 38単位
	A群 (先人の知を受けつぐ)	2単位 選択必修			
	B群 (世界と今を読み解く)	2単位 選択必修			
	C群 (未来をひらく)	2単位 選択必修			
	キャリア形成	4単位 必修	「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」 必修		
	外国語	8単位 選択必修	英語 4単位 選択必修		
	情報処理	2単位 必修	「情報活用基礎A・B」 必修		
資格基礎	選択				
学科専門科目	基礎科目	2単位 必修	「リベラルアーツ入門」 必修		必修・選択必修科目の 単位を含み 48単位
		6単位 選択必修			
	基幹科目	28単位 選択必修	自身の専攻より16単位以上、かつ自身の専攻以外の3専攻から各4単位以上の合計28単位以上を修得すること		
	展開科目				
演習科目	8単位 必修	「専門演習Ⅰ・Ⅱ」 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」 必修			
関連科目	上記基盤教育科目・ 学科専門科目の余剰修得単位	選択		38単位	
	他学科開講科目	選択上限			
	単位互換制度による修得単位	30単位	上限8単位		

■ 履修についての注意

- ① 導入学習科目(選択)のうち、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の2科目2単位は1年次に、「基礎演習Ⅲ・Ⅳ」の2科目2単位は2年次に必ず履修(必履修)すること。
- ② キャリア形成科目(選択)のうち、「数理リテラシー」の1科目2単位は2年次に必ず履修すること。
- ③ 外国語は以下のいずれかの方法で修得すること。
 - 1) 外国語(英語)の8科目8単位を修得
 - 2) 外国語(英語)の4科目4単位と、情報処理科目(「プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ」)から2科目4単位の計8単位を修得
[選択必修 対象科目]
・英語は、「総合英語Ⅰ1・2、Ⅱ1・2」「実践コミュニケーション英語Ⅰ1・2、Ⅱ1・2」から4科目4単位、または全8科目8単位
・情報処理科目は、「プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位
- ④ リベラルアーツ学科では「メジャー・マイナーコース制度」を導入している。
メジャー・マイナーコース制度の詳細は、別頁「メジャーコース・マイナーコースについて」を必ず確認すること。
- ⑤ 関連科目の修得単位は、単位互換制度での修得単位分を含め、38単位を上限として卒業単位数に算入する。他学科開講科目の修得単位は30単位、単位互換制度による修得単位は8単位を上限として卒業単位数に算入する。
- ⑥ 他学科開講科目として履修可能な科目は、教育課程表において、以下の記号により示す。
○……他学科履修可能科目

■ 資格取得について

博物館学芸員 図書館司書 レクリエーション・インストラクター資格 社会福祉主事任用資格 社会教育士・社会教育主事任用資格	資格取得を希望する学生は、「資格取得について」の項を熟読し資格取得に必要な科目を履修すること	資格専門科目(学則科目コードが258ではじまる科目)は卒業要件単位数に算入されない
--	--	---

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 配当年度別科目一覧(リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

必修科目

カッコ内は単位数。記載がない科目の単位数は2単位。

	1年次	2年次	3年次	4年次
〈導入学習〉	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1)	日本語表現法 カレッジコミュニティⅠ	基礎演習Ⅲ(1) カレッジコミュニティⅡ 基礎演習Ⅳ(1) 読書演習	
〈A群(先人の知を受けつぐ)〉	思想の世界 日本の歴史 民族と文化 ことばの世界	日本語を知る 教養としての日本文化 西洋の文化を考える 子どもの文化	芸術を鑑賞する 伝統文化演習(1)	
〈B群(世界と今を読み解く)〉	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る	人権を考える 平和を考える メディアを考える 情報リテラシー	心理学 くらしと化学 生物を知る	データリテラシー 社会と言語
〈C群(未来をひらく)〉	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化	健康を管理する 書いて学ぶ文芸 描いて学ぶアート	健康とスポーツA(1) 健康とスポーツB(1) 教育を考える	生涯スポーツ実習A(1) 生涯スポーツ実習B(1)
〈キャリア形成〉	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ	ホスピタリティ入門	数理リテラシー キャリアデザインⅢ	キャリアデザインⅣ プロジェクト型キャリア研究
〈外国語〉	総合英語Ⅰ・Ⅱ 異文化コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 資格英語Ⅰ(1) 資格英語Ⅱ(1)		総合英語Ⅰ・Ⅱ 中国のことばと文化Ⅰ 異文化コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 中国のことばと文化Ⅱ フランスのことばと文化Ⅰ 韓国のことばと文化Ⅰ フランスのことばと文化Ⅱ 韓国のことばと文化Ⅱ	
〈情報処理〉	情報活用基礎A(1) 情報活用基礎B(1) データサイエンス・AI概論	情報活用A(1) 情報活用B(1)	プログラミング言語Ⅰ プログラミング言語Ⅱ	データサイエンス・AI実習
〈資格基礎〉	図書館概論 図書館情報資源概論		博物館概論 博物館経営論	生涯学習概論Ⅰ 生涯学習概論Ⅱ レクリエーション概論 レクリエーション実技(1)

	専攻	1年次	2年次	3年次	4年次	
リベラルアーツ学科専門科目	〈基礎科目〉	リベラルアーツ入門 日本語と外国語 現代文化論 言語ストラテジー 異文化理解論	日本語と外国語 隣国を知ろう(韓国) 社会デザイン論 情報デザイン論			
	日本学・文化構想専攻	日本語・古典文学概論 近現代文学概論 児童文学概論 現地講義(日本学) 絵本ワークショップ	絵本論 日本文化史	日本伝統文化 日本神話・古典文学講読 近現代文学講読 児童文学講読 近・現代史	児童文学史 近現代文学史 古典文学史 マンガ論 創作研究	日本史研究 文化構想論 日本神話・古典文学作品研究 近現代文学作品研究 児童文学作品研究 文化財・歴史遺産論
	韓国語韓国文化専攻	総合韓国語ⅠA 総合韓国語ⅠB 韓国語コミュニケーションⅠA 韓国語コミュニケーションⅠB	短期韓国語研修 韓国語研究A 韓国語研究B	総合韓国語ⅡA 総合韓国語ⅡB 韓国語コミュニケーションⅡA 韓国語コミュニケーションⅡB 韓国語コミュニケーションⅡB 韓国語コミュニケーションⅡB 韓国語資格講座A(1) 韓国の社会と文化	留学準備講座(韓国) 韓国語研究C 韓国語研究D 日韓異文化理解論 韓国語資格講座A(1) 韓国語資格講座B(1)	総合韓国語Ⅲ 総合韓国語Ⅳ 韓国語コミュニケーションⅢA 韓国語コミュニケーションⅢB 韓国語コミュニケーションⅢB 韓国語特殊研究A 韓国語特殊研究B 韓国語特殊研究C 韓国語特殊研究D 韓国・朝鮮特殊研究 韓国・朝鮮事情
	グローバル英語専攻	Practical English Communication A Practical English Communication B 短期英語研修		グローバル英語入門 Business Communication A Business Communication B 英語資格講座A(1) 英語資格講座B(1)	留学準備講座(英語圏) 子どもの英語とICT ビジネスマナー入門 エアラインサービス英語論	上級英語資格講座A 上級英語資格講座B English for Specific Purposes 英語文学と映画 Global Issues
	情報クリエイティブ専攻	プレゼンテーション技法 コンテンツ制作基礎 デジタルデザイン基礎		UIデザイン実習 音楽・サウンド基礎 クリエイティブプログラミング実習 造形研究 デジタル映像実習 映像制作基礎 広告デザイン演習	現代アート論 アニメーション論 映像メディア概論 ソフトウェア開発論 イメージ創造論 データベース論 IoT-インタラクティブシステム論	インターネット論 クラウドシステム実習 先端表現研究 アートプロデュース アート構想研究 3DCG実習
	社会マネジメント専攻			ビジネス経済論 現代経営論 公共政策論 観光学	ソーシャルメディア企画論 社会マネジメント調査論 エンターテインメントビジネス論	経営・マーケティング研究 観光・地域創生研究 ソーシャルメディア研究
	〈演習科目〉				専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
	〈現地研修科目〉	現地研修A 現地研修B 現地研修C 現地研修D	現地研修E 現地研修F(1) 現地研修G(1)			

関連科目
上記基礎教育科目、学科専門科目の余剰修得単位
他学科開講科目・単位互換制度による修得単位

自由科目	資格専門科目	博物館学芸員	資格専門科目	資格専門科目	資格専門科目
図書館司書	図書館サービス概論 図書・図書館史	図書館制度・経営論 図書館情報技術論 情報サービス論	児童サービス論 図書館基礎特論 図書館サービス特論	図書館情報資源特論 図書館施設論	情報サービス演習Ⅰ(1) 情報サービス演習Ⅱ(1) 情報資源組織論 図書館総合演習(1)
博物館学芸員		博物館資料論		博物館資料保存論 博物館展示論	情報資源組織論演習Ⅰ(1) 情報資源組織論演習Ⅱ(1) 図書館実習(1) 博物館実習Ⅰ(1) 博物館実習Ⅱ

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修の別	ディプロマ・ポリシー (10のちから) との関係										他履修	備考
						DP I		DP II		DP III							
						教養	専門	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力		
リベラルアーツ学科専門科目																	
基礎科目																	
1	150000	リベラルアーツ入門	2	講義	必修										LL		
1	150003	現代文化論	2	講義	選択										LL	○ 学選	
1	150004	言語ストラテジー	2	講義	選択										LL	○	
1	150005	異文化理解論	2	講義	選択										LL	○ 社教選	
1	150006	日本語と外国語	2	講義	選択										LL	○	
1	150007	隣国を知ろう(韓国)	2	講義	選択										LL	○	
1	150008	社会デザイン論	2	講義	選択										LL	○	
1	150009	情報デザイン論	2	講義	選択										LL	○	
基幹科目																	
日本文学・文化構想専攻																	
1	151020	日本神話・古典文学概論	2	講義	選択										LJ	○	
1	151021	近現代文学概論	2	講義	選択										LJ	○	
1	151022	児童文学概論	2	講義	選択										LJ	○	
1	151023	現地講義(日本文学)	2	演習	選択										LJ	○ 学選	
1	151024	絵本ワークショップ	2	演習	選択										LJ	○	
1	151025	絵本論	2	講義	選択										LJ	○	
1	151026	日本文化史	2	講義	選択										LJ	○ 学選	
2	151027	日本伝統文化	2	講義	選択										LJ	○ 学選	
2	151028	日本神話・古典文学講読	2	講義	選択										LJ	○	
2	151029	近現代文学講読	2	講義	選択										LJ	○	
2	151030	児童文学講読	2	講義	選択										LJ	○	
2	151031	近・現代史	2	講義	選択										LJ	○	
2	151032	児童文学史	2	講義	選択										LJ	○	
2	151033	近現代文学史	2	講義	選択										LJ	○	
2	151034	古典文学史	2	講義	選択										LJ	○	
2	151035	マンガ論	2	講義	選択										LJ	○	
2	151036	創作研究	2	演習	選択										LJ	○	
韓国語韓国文化専攻																	
1	151217	総合韓国語ⅠA ①	2	演習	選択										LK	週2	
1	151218	総合韓国語ⅠB ①	2	演習	選択										LK	週2	
1	151219	韓国語コミュニケーションⅠA ①	2	演習	選択										LK	週2	
1	151220	韓国語コミュニケーションⅠB ①	2	演習	選択										LK	週2	
1	151204	短期韓国語研修	2	演習	選択										LK		
1	151205	韓国語研究A	2	演習	選択										LK		
1	151206	韓国語研究B	2	演習	選択										LK		
2	151221	総合韓国語ⅡA ②	2	演習	選択										LK	週2	
2	151222	総合韓国語ⅡB ②	2	演習	選択										LK	週2	
2	151223	韓国語コミュニケーションⅡA ②	2	演習	選択										LK	週2	
2	151224	韓国語コミュニケーションⅡB ②	2	演習	選択										LK	週2	
2	151211	現地講義(韓国)	2	演習	選択										LK		
2	151212	韓国の社会と文化	2	講義	選択										LK	○	
2	151213	留学準備講座(韓国)	2	講義	選択										LK		
2	151214	韓国語研究C	2	演習	選択										LK		
2	151215	韓国語研究D	2	演習	選択										LK		
2	151216	日韓異文化理解論	2	講義	選択										LK	○	
2	151225	韓国語資格講座A	1	演習	選択										LK		
2	151226	韓国語資格講座B	1	演習	選択										LK		

- ① 「韓国語コミュニケーションⅠA・ⅠB」の履修希望者は、「総合韓国語ⅠA、ⅠB」を同時履修すること。
- ② 「韓国語コミュニケーションⅡA・ⅡB」の履修希望者は、「総合韓国語ⅡA、ⅡB」を同時履修すること。

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

配当年次	学則 科目 コード	科目名	単位	講義 区分	必修 選択 別	ディプロマ・ポリシー (「10のちから」) との関係										カリ キュ ラム ・ ツ リ ー の 位 置 づ け	他 履 修	備 考	
						DP I	DP II	DP III							倫 理 性 と 自 律 力				地 域 貢 献 力
						教 養 力	専 門 力	情 報 収 集 ・ 分 析 力	論 理 的 思 考 ・ 表 現 力	コ ミュ ニ ケー ション 力	問 題 解 決 力	自 己 理 解 力	主 体 的 行 動 力						
グローバル英語専攻																			
1	151400	Practical English Communication A	2	演習	選択	●			●							LG	○	週2	
1	151401	Practical English Communication B	2	演習	選択	●			●							LG	○	週2	
1	151402	短期英語研修	2	実習	選択	●									●	LG	○		
2	151403	グローバル英語入門	2	講義	選択	●				●						LG	○		
2	151404	Business Communication A	2	演習	選択	●			●							LG	○	週2	
2	151405	Business Communication B	2	演習	選択	●			●							LG	○	週2	
2	151406	英語資格講座A	1	演習	選択	●					●					LG	○		
2	151407	英語資格講座B	1	演習	選択	●					●					LG	○		
2	151408	留学準備講座(英語圏)	2	講義	選択	●						●				LG	○		
2	151409	子どもの英語とICT	2	講義	選択	●			●							LG	○		
2	151411	ビジネスマナー入門	2	講義	選択	●								●		LG	○		
2	151412	エアラインサービスビジネス論	2	講義	選択	●					●					LG	○		
情報クリエイティブ専攻																			
1	151600	プレゼンテーション技法	2	講義	選択	●			●							LI			
1	151613	コンテンツ制作基礎	2	講義	選択	●	●									LI			
1	151614	デジタルデザイン基礎	2	講義	選択	●						●				LI			
2	151601	UIデザイン実習	2	実習	選択	●				●						LI			
2	151602	音楽・サウンド基礎	2	演習	選択	●		●								LI			
2	151603	クリエイティブプログラミング実習	2	実習	選択	●		●								LI	○		
2	151604	造形研究	2	演習	選択	●						●				LI	○		
2	151605	デジタル映像実習	2	実習	選択	●				●						LI			
2	151606	映像制作基礎	2	演習	選択	●			●							LI			
2	151607	広告デザイン実習	2	演習	選択	●			●							LI			
2	151608	現代アート論	2	講義	選択	●		●								LI	○	学選	
2	151609	アニメーション論	2	講義	選択	●	●									LI	○		
2	151610	映像メディア概論	2	講義	選択	●		●								LI	○		
2	151611	ソフトウェア開発論	2	講義	選択	●		●								LI			
2	151612	イメージ創造論	2	講義	選択	●	●									LI	○	学選	
2	151615	データベース論	2	講義	選択	●		●								LI	○		
2	151616	IoT・インタラクティブシステム論	2	講義	選択	●			●							LI	○		
社会マネジメント専攻																			
2	151800	ビジネス経済論	2	講義	選択	●	●									LM	○		
2	151801	現代経営論	2	講義	選択	●		●								LM	○		
2	151802	公共政策論	2	講義	選択	●									●	LM	○		
2	151803	観光学	2	講義	選択	●								●	LM	○			
2	151804	ソーシャルメディア企画論	2	講義	選択	●	●									LM	○		
2	151805	社会マネジメント調査論	2	講義	選択	●	●									LM	○		
2	151806	エンターテインメント・ビジネス論	2	講義	選択	●								●		LM	○		

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修別の別	ディプロマ・ポリシー (10のちから) との関係										他履修	備考	
						DP I		DP II										カリキュラム・ツリーの位置づけ
						教養	専門	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力			
展開科目																		
日本文学・文化構想専攻																		
3	152010	日本史研究	2	講義	選択	●	●								LJ			
3	152011	日本神話・古典文学作品研究	2	講義	選択	●	●								LJ			
3	152012	近現代文学作品研究	2	講義	選択	●	●								LJ			
3	152013	児童文学作品研究	2	講義	選択	●	●								LJ			
3	152014	文化財・歴史遺産論	2	講義	選択	●	●								LJ			
3	152015	文化構想論	2	講義	選択	●	●								LJ			
3	152016	文芸・シナリオ論	2	講義	選択	●	●								LJ	○		
3	152017	ポップカルチャー論	2	講義	選択	●	●								LJ	○		
3	152018	美学文化表現論	2	講義	選択	●						●			LJ	○		
3	152019	出版・編集文化論	2	講義	選択	●						●			LJ			
韓国語韓国文化専攻																		
3	152211	総合韓国語Ⅲ	2	演習	選択	●	●								LK			
3	152212	総合韓国語Ⅳ	2	演習	選択	●	●								LK			
3	152213	韓国語コミュニケーションⅢA	2	演習	選択	●	●								LK	週2		
3	152214	韓国語コミュニケーションⅢB	2	演習	選択	●	●								LK	週2		
3	152204	日韓文化交流論	2	講義	選択	●	●								LK	○		
3	152205	韓国・朝鮮事情	2	講義	選択	●	●								LK	○		
3	152206	韓国語特殊研究A	2	演習	選択	●		●							LK			
3	152207	韓国語特殊研究B	2	演習	選択	●		●							LK			
3	152208	韓国語特殊研究C	2	演習	選択	●		●							LK			
3	152209	韓国語特殊研究D	2	演習	選択	●		●							LK			
3	152210	韓国・朝鮮特殊研究	2	講義	選択	●	●								LK	○		
グローバル英語専攻																		
3	152400	上級英語資格講座A	2	講義	選択	●						●			LG	○		
3	152401	上級英語資格講座B	2	講義	選択	●						●			LG	○		
3	152402	English for Specific Purposes	2	講義	選択	●		●							LG	○		
3	152403	英語文学と映画	2	講義	選択	●		●							LG	○		
3	152409	Global Issues	2	演習	選択	●							●		LG	○		
3	152410	Advanced Writing I	1	演習	選択	●		●							LG	○		
3	152411	Advanced Writing II	1	演習	選択	●		●							LG	○		
3	152412	Presentation Skills	2	演習	選択	●		●							LG	○		
3	152413	Discussion Topics	2	演習	選択	●		●							LG	○		
3	152408	国際ビジネス入門	2	講義	選択	●		●							LG	○		
情報クリエイティブ専攻																		
3	152602	インターネット論	2	講義	選択	●	●								LI			
3	152603	クラウドシステム実習	2	実験実習	選択	●			●						LI			
3	152604	先端表現研究	2	演習	選択	●							●		LI			
3	152605	アートプロデュース	2	講義	選択	●						●			LI	○		
3	152606	アート構想研究	2	講義	選択	●			●						LI			
3	152607	3DCG実習	2	実験実習	選択	●			●						LI			
3	152608	メディア表現技法A	2	講義	選択	●		●							LI			
3	152609	メディア表現技法B	2	講義	選択	●		●							LI			
3	152610	DTP実習	2	実験実習	選択	●			●						LI			
3	152611	プログラミング研究	2	演習	選択	●		●							LI	○		
3	152612	データサイエンス・AI研究	2	演習	選択	●	●								LI	○		
社会マネジメント専攻																		
3	152800	経営・マーケティング研究	2	講義	選択	●				●					LM			
3	152801	観光・地域創生研究	2	講義	選択	●							●		LM			
3	152802	ソーシャルメディア研究	2	講義	選択	●	●								LM			
3	152803	社会マネジメント調査演習	2	演習	選択	●	●								LM			
3	152804	社会探求プロジェクト演習Ⅰ	2	演習	選択	●							●		LM			
3	152805	社会探求プロジェクト演習Ⅱ	2	演習	選択	●							●		LM			

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部

管理栄養学部

資格専門科目

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修 選択 の別	ディプロマ・ポリシー (「10のちから」) との関係										カリキュラム・ツリー での位置づけ	他履修	備考	
						DP I	DP II	DP III							倫理性と自律力				地域貢献力
						教養力	専門力	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力						
演習科目																			
3	153010	専門演習 I ①	2	演習	必修		●	●								LL			
3	153020	専門演習 II ①	2	演習	必修		●	●								LL			
4	153030	卒業研究 I	2	演習	必修		●	●								LL			
4	153040	卒業研究 II	2	演習	必修		●	●								LL			
1	153200	現地研修A	2	講義	選択	●							●		LK, LG	○			
1	153201	現地研修B	2	講義	選択	●							●		LK, LG	○			
1	153202	現地研修C	2	講義	選択	●							●		LK, LG	○			
1	153203	現地研修D	2	講義	選択	●							●		LK, LG	○			
1	153204	現地研修E	2	講義	選択	●							●		LK, LG	○			
1	153205	現地研修F	1	講義	選択	●							●		LK, LG	○			
1	153206	現地研修G	1	講義	選択	●							●		LK, LG	○			

・ ① 3回生「専門演習」のクラスは、2回生で開催される説明会を経て、事前登録により決定する。

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 カリキュラム・ツリー(リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科)

ディプロマ・ポリシー	幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解できること。										リベラルアーツの総合的、学際的学修分野より複数				
カリキュラム・ポリシー	基盤教育科目										リベラルアーツ学科専門科目				
カリキュラム・ポリシーの詳細(具体化)	社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる、幅広い教養を身につけさせるための科目群			グローバル社会、高度情報化社会を生きていくうえで必要な基本的技能を身につけさせるための科目群			学びの基礎的・自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわり等から社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群			社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群		複数分野をベースに自身の課題を設定する力、その課題を論理的思考を持って解決にあたる力、その過程や結果を他者に論理的かつ明確に説明できる表現力を身につけさせるための科目群			
カリキュラム上の科目の目的・役割	先人たちがたどった道のり、築いてきたものを理解する	我々が生きる世界と今を読み解く	未来を見出し、自分自身をデザインする	英語など母語以外の言語で基本的なコミュニケーションを行う技能を身につけるとともに、社会や文化の多様性を理解する	情報機器を操作し、諸問題にICTを活用できる基本的な技能を身につける	大学における学びに必要な基礎的・専門の学びへの準備を行う	地域社会とのかかわりや知と向き合う読書活動から、社会や人間のもつ課題を理解する	社会的・職業的自立に必要知識・技能の基礎を身につける	卒業研究II	卒業研究I	専門演習II	文化財・歴史遺産論	文化構想論	出版・編集文化論	ポップカルチャー論
4年次	秋学期	8													
	春学期	7													
3年次	秋学期	6						インターシッパA インターシッパB			専門演習II	文化財・歴史遺産論	文化構想論	出版・編集文化論	ポップカルチャー論
	春学期							インターシッパA インターシッパB	レクリエーション概論	専門演習I	日本史研究 美学文化表現論	日本神話・古典文学講読	近現代文学作品研究 文芸・シナリオ論	児童文学作品研究	児童文学表現論
2年次	秋学期	4	生涯スポーツ実習B	総合英語II2 英語コミュニケーション 英語II フランスのことばと文化II 中国のことばと文化II 韓国のことばと文化II	情報活用B	基礎演習IV	キャリアデザインI ガジェット制作実習 レクリエーション実技	博物館概論 生涯学習概論II レクリエーション実技			日本伝統文化 日本神話・古典文学講読	近現代文学講読 児童文学講読			
	春学期	3	伝統文化演習 社会と言語 生涯スポーツ実習A	総合英語II1 英語コミュニケーション 英語II フランスのことばと文化II 中国のことばと文化II 韓国のことばと文化II	情報活用B 情報活用A プログラミング言語I デザイン実習I	基礎演習III	ガジェット制作実習 読書演習	数理リテラシー キャリアデザインII ガジェット制作実習 レクリエーション概論	博物館概論 生涯学習概論I レクリエーション概論		近・現代史	児童文学史	近現代文学史 古典文学史 創作研究		
1年次	秋学期	2	日本の憲法 思想の世界 日本の歴史 民族と文化 ことばの世界	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化 健康を管理する	総合英語I2 英語コミュニケーション 英語II 資格英語II	情報活用基礎B 情報活用A プログラミング言語I デザイン実習I	基礎演習II	キャリアデザインI ホスピタリティ入門	図書館情報資源概論 異文化理解論 異国を知ろう(韓国) 社会デザイン論 情報デザイン論	異文化理解論 異国を知ろう(韓国) 社会デザイン論 情報デザイン論	日本神話・古典文学講読	近現代文学概論 児童文学概論	現地講義(日本学) 日本文化史		
	春学期	1	日本語を知る 数百年の日本文化 西洋の文化を考える 子どもの文化 芸術を鑑賞する	平和を考える メディアを考える 情報リテラシー 心理学 健康とスポーツB 健康とスポーツA 教育を考える	総合英語I1 英語コミュニケーション 英語II 資格英語I	情報活用基礎A プログラミング言語I 日本語表現法	基礎演習I	レクリエーション実習 キャリアデザインI	図書館概論	リベラルアーツ入門 現代文化論 言語ストラテジー 日本語と外国語		現地講義(日本学)		絵本ワークショップ 絵本論	
カリキュラム・ツリー上の位置づけ	1	2	3	1	2	1	2	3	1	1	1	2	3	4	
	BA			BS		BC			CZ	LL	LJ				

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

カリキュラム・ツリーはカリキュラムの体系性を示すためのモデルです。年度によって開講時期が変わる場合があります。

の分野にわたる専門知識と技能を有すること。その知識を元に課題解決のための企画力、実践力を身につけていること。														関連科目	
の分野にわたる専門知識と技能、及び課題解決のための企画力・実践力を身につけさせるため、学科専門科目に基礎科目、基幹科目、															
文化をより深 実践ができ	韓国語を一定程度駆使し ながら、韓国社会・文化を より深く理解するための、 幅広い専門知識を身に つけさせるための科目群	韓国語を一定程度駆使し ながら、韓国社会・文化に ついて深く理解する力を身 につける	ビジネスコ ミュニケー ション力及び グローバルビ ジネスに関 する知識を有し、その課 題解決のための企画力と実践 力を身につける	英語文化 や社会に関 する知識を ある程度有 し、国際問 題について 理解を深め、その解 決のための 企画と実践 ができる	映像表現に 関する知識 と技能を有 し、課題解 決のための 映像に関す る企画とそ の実践がで きる	現代アート に関する知 識と技能を 有し、課題 解決のため の現代アート に関する企画 と実践がで きる	デザインに 関する知識 と技能を有 し、課題解 決のため のデザインに 関する企画 と実践がで きる	プログラミングに 関する知識と 技能を有し、 課題解決の ためのプログラ ミングに 関する企画 と実践がで きる	データサイ エンス・AIに 関する知識と 技能を有し、 課題解決の ためのデータサイ エンス・AIに 関する企画 と実践がで きる	経営・マーケ ティングに 関する知識 と技能を有し、 その課題解 決のための企画 力と実践力を 身につける	観光・地域 創生に関す る知識と技能 を有し、その 課題解決の ための企画 力と実践力を 身につける	ソーシャル メディアに 関する知識 と技能を有し、 その課題解 決のための企画 力と実践力を 身につける	心理学に 関する基礎 的な知識を ある程度有 し、課題解 決のため の知識を 活かした 企画とそ の実践が できる	「食」に 関する基礎 的な知識を ある程度有 し、課題解 決のため の知識を 活かした 企画とそ の実践が できる	
	総合韓国語Ⅳ 韓国コミュニケーション 出版・編集文化論	韓国・朝鮮特殊研究 韓国語特殊研究B 韓国語特殊研究D	上級英語資格講座B Advanced Writing Presentation Skills	英語文学と映画	メディア表現技法 アート表現研究	アート構想研究		プログラミング研究 データサイエンス実習	経営マーケティング研究 観光・地域創生研究 社会探究プロジェクト演習Ⅱ					知覚・認知心理学	
	総合韓国語Ⅲ 韓国コミュニケーション 韓国語特殊研究A 韓国語特殊研究C	韓国・朝鮮事情 韓国語特殊研究A 韓国語特殊研究C	上級英語資格講座A English for Specific Purposes Advanced Writing 国際ビジネス入門	英語文学と映画 Global Issues Discussion Topics	3DCG実習 メディア表現技法	先端表現研究 アートプロデュース	DTP実習	インターネット論 クラウドシステム実習	社会マネジメント調査演習 社会探究プロジェクト演習Ⅰ					社会心理学概論 食文化論	
近現代文学講読	総合韓国語ⅡB 韓国語コミュニケーションⅡB 韓国語研究D 韓国語資格講座B	韓国語研究D 現地講義(韓国) 韓国語資格講座B	Business Communication B 英語資格講座B ITイノベーション		デジタル映像実習 アニメーション論	UIデザイン実習	クリエイティブプログラミング実習	現代経営論 観光学 社会マネジメント調査論						産業心理学概論 食品産業論 食とデザイン	
近・現代史	総合韓国語ⅡA 韓国語コミュニケーションⅡA 韓国語研究C 韓国語資格講座A	韓国語研究C 日韓異文化理解論 韓国語資格講座A	グローバル英語入門 Business Communication A 英語資格講座A 留学準備講座(英語圏) ビジネス入門 子どもの英語とICT		音楽・サウンド基礎 映像制作基礎 造形研究 映像メディア概論	広告デザイン演習 現代アート論		ソフトウェア開発論 データベース論	ビジネス経済論 公共政策論 エンターテインメント・ビジネス論	ソーシャルメディア実習				感情・人格心理学I 発達心理学I アグリビジネス	
	総合韓国語ⅠB 韓国語コミュニケーションⅠB 韓国語研究B		Practical English Communication B 短期英語研修												フードテック概論
	総合韓国語ⅠA 韓国語コミュニケーションⅠA 韓国語研究A		Practical English Communication A											(心理学) 心理調査概論	(生物を知る) 食生活論
5	1	2	1	2	1	2	3	4	5	1	2	3			
LJ	LK		LG		LI					LM			-	-	

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学科部

総合心理学部
総合心理学学科部

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 メジャーコース・マイナーコースについて

リベラルアーツ学科には、5つの専攻「日本学・文化構想専攻」「韓国語韓国文化専攻」「グローバル英語専攻」「情報クリエイティブ専攻」「社会マネジメント専攻」があり、**卒業要件として「自身の専攻より16単位以上、かつ自身の専攻以外の3専攻から各4単位以上の合計28単位以上を修得する」ことが必要ですが、加えて体系的な学びを実現するために「メジャーコース・マイナーコース制度」を設けています。**

メジャーコース・マイナーコース制度とは、「①深く学びたいメジャーコースを選び、②メジャーコースの他にも興味のある分野を学生のマイナーコースとして見つけ出し、体系だった学びを実現する」ための制度です。メジャーコース・マイナーコースを組み合わせ、自分らしいゴールをめざしてください。

メジャーコース（5専攻17コース）

日本学・文化構想専攻
<ul style="list-style-type: none"> 歴史学コース 日本神話・古典文学コース 近現代文学コース 児童文学コース 文化構想コース
韓国語韓国文化専攻
<ul style="list-style-type: none"> 韓国語コース 韓国文化コース
グローバル英語専攻
<ul style="list-style-type: none"> ビジネスコミュニケーションコース 多文化コミュニケーションコース
情報クリエイティブ専攻
<ul style="list-style-type: none"> 映像コース 現代アートコース デザインコース プログラミングコース データサイエンス・AIコース
社会マネジメント専攻
<ul style="list-style-type: none"> 経営・マーケティングコース 観光・地域創生コース ソーシャルメディアコース

マイナーコース（19コース）

日本学・文化構想
<ul style="list-style-type: none"> 歴史学マイナーコース 日本神話・古典文学マイナーコース 近現代文学マイナーコース 児童文学マイナーコース 文化構想マイナーコース
グローバル英語
<ul style="list-style-type: none"> ビジネスコミュニケーションマイナーコース 多文化コミュニケーションマイナーコース
情報クリエイティブ
<ul style="list-style-type: none"> 映像マイナーコース 現代アートマイナーコース デザインマイナーコース プログラミングマイナーコース データサイエンス・AIマイナーコース
社会マネジメント
<ul style="list-style-type: none"> 経営・マーケティングマイナーコース 観光・地域創生マイナーコース ソーシャルメディアマイナーコース
外国語資格 ※
<ul style="list-style-type: none"> 英語資格マイナーコース 注意：メジャーコースが「グローバル英語専攻」の場合選択できません。 韓国語資格マイナーコース 注意：メジャーコースが「韓国語韓国文化専攻」の場合選択できません。 <p>※マイナーコースとして、英語資格・韓国語資格の両方を選択することは可能です。</p>
心理学
<ul style="list-style-type: none"> 心理学マイナーコース
食環境
<ul style="list-style-type: none"> 食環境マイナーコース

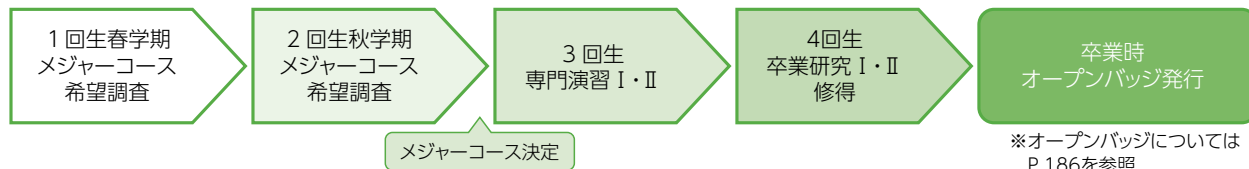
【メジャーコース】

自身が希望するコースのある専攻から16単位以上を修得し、コース担当教員の演習科目（3回生「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4回生「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」）を修得します。

毎年希望調査を実施しますが、2回生秋学期終了後に最終確認し、3回生の演習科目「専門演習Ⅰ・Ⅱ」のクラスが確定することで、メジャーコースが決定します。

※希望者が多い場合は人数調整を行います。

<メジャーコース 卒業までの大まかな流れ>

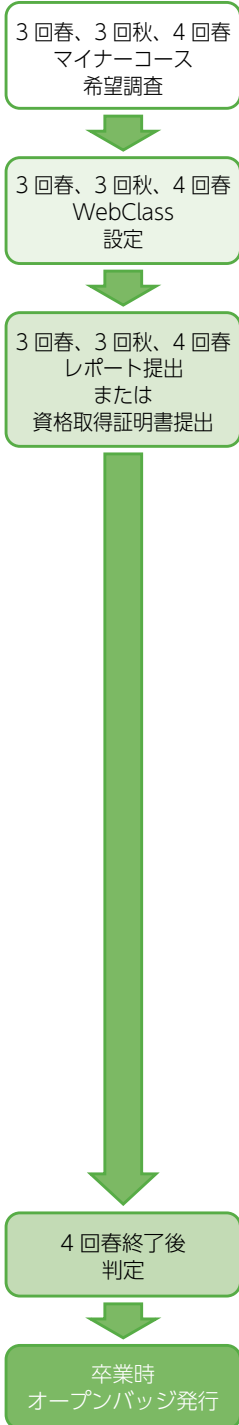


※オープンバッジについては
P.186を参照

【マイナーコース】

1. 自身が希望するメジャーコースのある専攻以外から、マイナーコースを選択し、定められた科目を4回生春学期末までに修得します。2回生メジャーコース決定後、3回生春学期に全員に希望調査を行います。
※多くの組み合わせがある為、時間割が重複する可能性があります。希望する全てのマイナーコースの科目を履修できるわけではありません。
2. 1に加えて、4回生春学期末までの所定の期間（別途指示）に、「マイナーコース修了レポート」もしくは大学在学中に取得した資格取得証明書（外国語資格コースの場合）を提出します。
レポートの提出はマイナーコースで定められた条件を満たしていることが必要です。
レポートは教員による審査が行われ、審査を合格したマイナーコース修了者には、卒業時にマイナーコース修了証としてオープンバッジが発行されます。（オープンバッジについてはP.186を参照）
※マイナーコースの申請にかかわらず、修得した科目は卒業要件単位として算入されます。

<マイナーコース 卒業までの大まかな流れ>



WebClass連絡用講義に設定されている「マイナーコース希望調査」に毎回必ず回答し、登録許可をとる。
マイナーコース希望調査実施日程
3・4回生春学期：4月中旬、3回生秋学期：10月初旬
※日程の詳細は別途指示

マイナーコース登録が許可されると、コースがWebClass上で設定される。
※アンケートに回答していない者の登録は原則認められない。

マイナーコース修了レポート

1. レポートの様式・テーマ
 - ・字数2,000字～10,000字
 - ・レポート様式は「帝塚山学院大学レポート作成共通要領（最新版）」に従う。
 - ・レポートテーマ
 - ◇共通テーマ：「マイナーコースでの学びがメジャーコースにおける卒業研究にどう活かせるか。どのように活用しようと考えているか。」
 - ◇コースごとのサブテーマ：「マイナーコース修了レポート」サブテーマ一覧は毎年度、春学期ガイダンスで発表される。
 - ・レポートタイトルは下記の要領でつける。具体的な内容をサブタイトルとしてつける。

タイトル：歴史学マイナーコース修了レポート
サブタイトル：例) 江戸時代の日本文化とジャポニズム

2. レポート提出方法
 - ・WebClass上の各自が登録したマイナーコースのレポート提出先に提出する。
3・4回生春学期：7月上旬、3回生秋学期：11月上旬
※原則、要件8単位を修得してからレポート提出。ただし、当該学期中に要件を満たす見込みがある場合は提出可能とする。
3. レポート提出締切
3・4回生春学期：8月上旬、3回生秋学期：12月下旬
※日程の詳細は別途指示

資格取得証明書（外国語資格コースのみ）

1. 資格取得証明書提出方法
教学課へ証明書のコピーを提出
2. 資格取得証明書提出期間
3・4回生春学期：8月上旬、3回生秋学期：12月下旬
※日程の詳細は別途指示

4回生春学期終了後に、教学課でマイナーコースの判定を行う。

判定で合格の場合、卒業時にオープンバッジが発行される。
※オープンバッジについてはP.186を参照

Ⅲ. 教育課程について

メジャーコース科目一覧

カッコ内は単位数。記載がない科目の単位数は2単位

専攻	日本学・文化構想専攻					
コース	歴史学	日本神話・古典文学	近現代文学	児童文学	文化構想	
3・4年次 演習科目	専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ					
3年次 展開科目	日本史研究	日本神話・古典文学作品研究	近現代文学作品研究	児童文学作品研究		
			文芸・シナリオ論			
	美学文化表現論				美学文化表現論	
	文化構想論					
2年次 基幹科目	文化財・歴史遺産論		出版・編集文化論	ポップカルチャー論		
	日本伝統文化		近現代文学講読	児童文学講読	近現代文学講読	
	近・現代史			児童文学史	近・現代史	
	近現代文学史					
	古典文学史					
1年次 基幹科目	日本神話・古典文学講読		マンガ論			
	創作研究					
	日本神話・古典文学概論		近現代文学概論	児童文学概論		
	現地講義（日本学）					
				絵本ワークショップ		
絵本論						
日本文化史						

専攻	韓国語韓国文化専攻	
コース	韓国語	韓国文化
3・4年次 演習科目	専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	
3年次 展開科目	韓国語特殊研究A	日韓文化交流論
	韓国語特殊研究B	韓国・朝鮮事情
	韓国語特殊研究C	韓国・朝鮮特殊研究
	韓国語特殊研究D	
	韓国語コミュニケーションⅢA	
	韓国語コミュニケーションⅢB	
2年次 基幹科目	総合韓国語Ⅲ 総合韓国語Ⅳ	
	韓国語コミュニケーションⅡA 韓国語コミュニケーションⅡB	
	総合韓国語ⅡA 総合韓国語ⅡB	
	韓国語研究C	現地講義（韓国）
	韓国語研究D	韓国の社会と文化
	韓国語資格講座A（1） 韓国語資格講座B（1） 留学準備講座（韓国）	
	日韓異文化理解論	
	1年次 基幹科目	韓国語コミュニケーションⅠA 韓国語コミュニケーションⅠB
総合韓国語ⅠA 総合韓国語ⅠB		
短期韓国語研修		
韓国語研究A		
韓国語研究B		
現地研修A～E・現地研修F（1）・現地研修G（1）		

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部

管理栄養学部

資格専門科目

メジャーコース科目一覧

専攻	グローバル英語専攻	
コース	ビジネスコミュニケーション	多文化コミュニケーション
3・4年次 演習科目	専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	
3年次 展開科目	Presentation Skills	Global Issues
	Advanced WritingⅠ	Discussion Topics
	Advanced WritingⅡ	
	上級英語資格講座A	
	上級英語資格講座B	
	国際ビジネス入門	英語文学と映画
2年次 基幹科目	English for Specific Purposes	
	グローバル英語入門	
	英語資格講座A(1)	
	英語資格講座B(1)	
	Business Communication A	
	Business Communication B	
	留学準備講座(英語圏)	
	ビジネスマナー入門	子どもの英語とICT
エアラインサービスビジネス論		
1年次 基幹科目	Practical English Communication A	
	Practical English Communication B	
	短期英語研修	
	現地研修A～E・現地研修F(1)・現地研修G(1)	

専攻	情報クリエイティブ専攻				
コース	映像	現代アート	デザイン	プログラミング	データサイエンス・AI
3・4年次 演習科目	専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ				
3年次 展開科目	3DCG実習	アートプロデュース	DTP実習	インターネット論	
	メディア表現技法B	アート構想研究		クラウドシステム実習	
	メディア表現技法A	先端表現研究		プログラミング研究	データサイエンス・AI研究
2年次 基幹科目	イメージ創造論				
	現代アート論				
	音楽・サウンド基礎				
	映像メディア概論			ソフトウェア開発論	
	アニメーション論			データベース論	
	映像制作基礎	造形研究	広告デザイン演習	クリエイティブプログラミング実習	
デジタル映像実習		UIデザイン実習	IoT・インタラクティブシステム論		
1年次 基幹科目	プレゼンテーション技法				
	コンテンツ制作基礎				
	デジタルデザイン基礎				

教育課程について

基盤教育科目

リベラル
アーツ
学部

総合
心理
学
学部

食
環境
学
部
食
イ
ノ
バ
ー
シ
ョ
ン
学
科

食
環境
学
部
管
理
栄
養
学
科

資格専門科目

メジャーコース科目一覧

専攻	社会マネジメント専攻		
コース	経営・マーケティング	観光・地域創生	ソーシャルメディア
3・4年次 演習科目	専門演習Ⅰ・Ⅱ 卒業研究Ⅰ・Ⅱ		
3年次 展開科目	社会マネジメント調査演習		
	社会探求プロジェクト演習Ⅰ		
	経営・マーケティング研究	観光・地域創生研究	ソーシャルメディア研究
2年次 基幹科目	社会探求プロジェクト演習Ⅱ		
	ビジネス経済論	公共政策論	ソーシャルメディア企画論
	エンターテインメント・ビジネス論		
	現代経営論	観光学	
1年次 基礎科目	社会マネジメント調査論		
	社会デザイン論		

教育課程について

基盤教育科目

リベラル
アーツ
学部

総合
心理
学部

食
環境
学部
食
イノ
ベー
ション
学部

食
環境
学部
管
理
栄
養
学部

資格
専門
科目

マイナーコース科目一覧

コース	配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考	
日本学・文化構想 自身が希望するコースから8単位以上を修得すること	歴史学 マイナーコース	1	251001	日本の歴史	2	選択	基盤	
		1	151026	日本文化史	2	選択	L 基幹	
		2	151033	近現代文学史	2	選択	L 基幹	
		2	151027	日本伝統文化	2	選択	L 基幹	
		2	151034	古典文学史	2	選択	L 基幹	
		3	152010	日本史研究	2	選択	L 展開	
		3	152014	文化財・歴史遺産論	2	選択	L 展開	
	日本神話・古典文学 マイナーコース	1	151020	日本神話・古典文学概論	2	選択	L 基幹	
		1	151026	日本文化史	2	選択	L 基幹	
		2	151028	日本神話・古典文学講読	2	選択	L 基幹	
		2	151034	古典文学史	2	選択	L 基幹	
		2	151033	近現代文学史	2	選択	L 基幹	
		3	152011	日本神話・古典文学作品研究	2	選択	L 展開	
		3	152015	文化構想論	2	選択	L 展開	
	近現代文学 マイナーコース	1	151021	近現代文学概論	2	選択	L 基幹	
		1	151026	日本文化史	2	選択	L 基幹	
		2	151029	近現代文学講読	2	選択	L 基幹	
		2	151033	近現代文学史	2	選択	L 基幹	
		2	151032	児童文学史	2	選択	L 基幹	
		3	152012	近現代文学作品研究	2	選択	L 展開	
		3	152016	文芸・シナリオ論	2	選択	L 展開	
	児童文学 マイナーコース	1	151022	児童文学概論	2	選択	L 基幹	
		1	151025	絵本論	2	選択	L 基幹	
		2	151030	児童文学講読	2	選択	L 基幹	
		2	151032	児童文学史	2	選択	L 基幹	
		3	152013	児童文学作品研究	2	選択	L 展開	
	文化構想 マイナーコース	3	152017	ポップカルチャー論	2	選択	L 展開	
		1	150003	現代文化論	2	選択	L 基礎	
		1	151026	日本文化史	2	選択	L 基幹	
		2	151034	古典文学史	2	選択	L 基幹	
		2	151033	近現代文学史	2	選択	L 基幹	
		3	152015	文化構想論	2	選択	L 展開	
		3	152017	ポップカルチャー論	2	選択	L 展開	
グローバル英語 自身が希望するコースから8単位以上を修得すること	ビジネスコミュニケーション マイナーコース	1	151204	短期英語研修	2	選択	L 基幹	
		2	151404	Business Communication A	2	選択	L 基幹	
		2	151405	Business Communication B	2	選択	L 基幹	
		2	151411	ビジネスマナー入門	2	選択	L 基幹	
		2	151412	エアラインサービスビジネス論	2	選択	L 基幹	
		3	152400	上級英語資格講座A	2	選択	L 展開	
		3	152402	English for Specific Purposes	2	選択	L 展開	
		3	152408	国際ビジネス入門	2	選択	L 展開	
		3	152410	上級英語資格講座B	2	選択	L 展開	
		3	152412	Presentation Skills	2	選択	L 展開	
	多文化コミュニケーション マイナーコース	1	150005	異文化理解論	2	選択	L 基礎	
		1	151204	短期英語研修	2	選択	L 基幹	
		2	151406	英語資格講座A	1	選択	L 基幹	
	2	151407	英語資格講座B	1	選択	L 基幹		
	2	151409	子どもの英語とICT	2	選択	L 基幹		
	3	152400	上級英語資格講座A	2	選択	L 展開		
	3	152401	上級英語資格講座B	2	選択	L 展開		
	3	152402	English for Specific Purposes	2	選択	L 展開		
	3	152409	Global Issues	2	選択	L 展開		
	3	152413	Discussion Topics	2	選択	L 展開		

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

管理栄養学部

資格専門科目

マイナーコース科目一覧

コース	配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考	
情報クリエイティブ 自身が希望するコースから8単位以上を修得すること	映像マイナーコース	1	151613	コンテンツ制作基礎	2	必修	L 基幹	
		2	151606	映像制作基礎	2	必修	L 基幹	
		2	151605	デジタル映像実習	2	選択	L 基幹	
		2	151602	音楽・サウンド基礎	2	選択	L 基幹	
		3	152608	メディア表現技法A	2	選択	L 展開	
		3	152609	メディア表現技法B	2	選択	L 展開	
		3	152607	3DCG実習	2	選択	L 展開	
	現代アートマイナーコース	1	150003	現代文化論	2	必修	L 基礎	
		2	151612	イメージ創造論	2	選択	L 基幹	
		2	151608	現代アート論	2	選択	L 基幹	
		2	151604	造形研究	2	選択	L 基幹	
		3	152606	アート構想研究	2	選択	L 展開	
		3	152605	アートプロデュース	2	選択	L 展開	
		3	152604	先端表現研究	2	選択	L 展開	
	デザインマイナーコース	1	151613	コンテンツ制作基礎	2	必修	L 基幹	
		1	151600	プレゼンテーション技法	2	必修	L 基幹	
		1	151614	デジタルデザイン基礎	2	必修	L 基幹	
		2	151607	広告デザイン演習	2	選択	L 基幹	
		2	151601	UIデザイン実習	2	選択	L 基幹	
		3	152610	DTP実習	2	選択	L 展開	
	プログラミングマイナーコース	1	253006	プログラミング言語Ⅰ	2	必修	基盤	
		1	253007	プログラミング言語Ⅱ	2	必修	基盤	
		2	151611	ソフトウェア開発論	2	選択	L 基幹	2 単位選択
		2	151603	クリエイティブプログラミング実習	2	選択	L 基幹	
		2	151615	データベース論	2	選択	L 基幹	
		2	151616	IoT・インタラクティブシステム論	2	選択	L 基幹	
		3	152602	インターネット論	2	選択	L 展開	2 単位選択
		3	152603	クラウドシステム実習	2	選択	L 展開	
		データサイエンス・AIマイナーコース	1	253006	プログラミング言語Ⅰ	2	必修	基盤
	1		253007	プログラミング言語Ⅱ	2	必修	基盤	
	2		151611	ソフトウェア開発論	2	選択	L 基幹	
	2		151603	クリエイティブプログラミング実習	2	選択	L 基幹	
	2		151616	IoT・インタラクティブシステム論	2	選択	L 基幹	
2	151615		データベース論	2	選択	L 基幹		
3	152603		クラウドシステム実習	2	選択	L 展開		
3	152602		インターネット論	2	選択	L 展開		
3	152612		データサイエンス・AI研究	2	選択	L 展開		
社会マネジメント 自身が希望するコースから8単位以上を修得すること	経営・マーケティングマイナーコース	1	150008	社会デザイン論	2	選択	L 基礎	
		2	151800	ビジネス経済論	2	選択	L 基幹	
		2	151801	現代経営論	2	選択	L 基幹	
		2	151805	社会マネジメント調査論	2	選択	L 基幹	
		2	151806	エンターテインメント・ビジネス論	2	選択	L 基幹	
		3	152800	経営・マーケティング研究	2	選択	L 展開	
		3	152803	社会マネジメント調査演習	2	選択	L 展開	
	観光・地域創生マイナーコース	1	150008	社会デザイン論	2	選択	L 基礎	
		2	151802	公共政策論	2	選択	L 基幹	
		2	151803	観光学	2	選択	L 基幹	
		2	151805	社会マネジメント調査論	2	選択	L 基幹	
		2	151806	エンターテインメント・ビジネス論	2	選択	L 基幹	
		3	152801	観光・地域創生研究	2	選択	L 展開	
		3	152803	社会マネジメント調査演習	2	選択	L 展開	
		ソーシャルメディアマイナーコース	1	150008	社会デザイン論	2	選択	L 基礎
	2		151801	現代経営論	2	選択	L 基幹	
	2		151804	ソーシャルメディア企画論	2	選択	L 基幹	
	2		151805	社会マネジメント調査論	2	選択	L 基幹	
	2		151806	エンターテインメント・ビジネス論	2	選択	L 基幹	
	3		152802	ソーシャルメディア研究	2	選択	L 展開	
	3		152803	社会マネジメント調査演習	2	選択	L 展開	

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学科

食環境学部

管理栄養学科

資格専門科目

マイナーコース科目一覧

コース	配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考	
外国語資格 自身が希望するコースから8単位以上を修得すること、および、下記の資格を取得すること。 英語資格 TOEIC®公開テストスコア500点(公式認定証を指定の期日までに提出すること) ※ TOEIC®IPを含む 韓国語資格 「ハングル」能力検定試験4級(合格証明書を指定の期日までに提出すること)	英語資格 マイナーコース	2	252002	総合英語Ⅱ 1	1	選択	基盤	
		2	252003	総合英語Ⅱ 2	1	選択	基盤	
		2	252006	実践コミュニケーション英語Ⅱ 1	1	選択	基盤	
		2	252007	実践コミュニケーション英語Ⅱ 2	1	選択	基盤	
		1	252008	資格英語Ⅰ	1	選択	基盤	
		1	252009	資格英語Ⅱ	1	選択	基盤	
		2	151406	英語資格講座A	1	選択	L基幹	
		2	151407	英語資格講座B	1	選択	L基幹	
	韓国語資格 マイナーコース	3	152400	上級英語資格講座A	2	選択	L展開	
		3	152401	上級英語資格講座B	2	選択	L展開	
		1	151217	総合韓国語Ⅰ A	2	選択	L基幹	
		1	151218	総合韓国語Ⅰ B	2	選択	L基幹	
		1	151219	韓国語コミュニケーションⅠ A	2	選択	L基幹	
		1	151220	韓国語コミュニケーションⅠ B	2	選択	L基幹	
		2	151221	総合韓国語Ⅱ A	2	選択	L基幹	
		2	151222	総合韓国語Ⅱ B	2	選択	L基幹	
心理学	心理学 マイナーコース	2	151225	韓国語資格講座A	1	選択	L基幹	
		2	151226	韓国語資格講座B	1	選択	L基幹	
		1	151205	韓国語研究A	2	選択	L基幹	2単位選択
		2	151211	現地講義(韓国)	2	選択	L基幹	
		1	251208	心理学	2	必修	基盤	
		1	600004	心理調査概論	2	選択	H基礎	
		2	601008	感情・人格心理学	2	選択	H基幹	
		2	601010	発達心理学Ⅰ	2	選択	H基幹	
2	601015	産業心理学概論	2	選択	H基幹			
食環境	食環境 マイナーコース	3	602011	知覚・認知心理学	2	選択	H展開	
		3	602013	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	選択	H展開	
		1	251210	生物を知る	2	必修	基盤	
		1	702026	食生活論	2	選択	F展開	
		1	702005	フードテック概論	2	選択	F展開	
		2	702000	食品産業論	2	選択	F展開	
		2	702006	食とデザイン	2	選択	F展開	
		2	702027	アグリビジネス	2	選択	F展開	
3	702028	食文化論	2	選択	F展開			

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

総合心理学部
総合心理学科

2024年度入学生 卒業に必要な総単位数 (総合心理学部 総合心理学科)

科目分類・分野		卒業要件詳細			卒業要件 単位数合計
基盤教育科目	導入学習	2単位 必修	「日本語表現法」 必修		必修・選択必修科目の 単位を含み 28単位
	A群 (先人の知を受けつぐ)	2単位 選択必修			
	B群 (世界と今を読み解く)	2単位 選択必修			
	C群 (未来をひらく)	2単位 選択必修			
	キャリア形成	4単位 必修	「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」 必修		
	外国語	8単位 必修	「総合英語Ⅰ・Ⅱ」「実践コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」 必修		
	情報処理 資格基礎	2単位 必修 選択	「情報活用基礎A・B」 必修		
学科専門科目	基礎科目	6単位 必修	「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」 「心理学統計法Ⅰ」 必修		必修・選択必修科目の 単位を含み 68単位
	基幹科目	24単位 選択必修			
	展開科目	選択			
	演習科目	8単位 必修	「専門演習Ⅰ・Ⅱ」 「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」 必修		
関連科目	上記基盤教育科目・ 学科専門科目の余剰修得単位	選択			20単位
	他学科開講科目	選択上限			
	単位互換制度による修得単位	20単位	上限8単位		

■ 履修についての注意

- ① 導入学習科目(選択)のうち、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の2科目2単位は1年次に、「基礎演習Ⅲ・Ⅳ」の2科目2単位は2年次に必ず履修(必履修)すること。
- ② キャリア形成科目(選択)のうち、「数理リテラシー」の1科目2単位は2年次に必ず履修すること。
- ③ 外国語(英語) 科目について
「総合英語Ⅰ1・2、Ⅱ1・2」「実践コミュニケーション英語Ⅰ1・2、Ⅱ1・2」の計8単位を修得すること。
- ④ 関連科目の修得単位は、単位互換制度での修得単位分を含め、20単位を上限として卒業単位数に算入する。単位互換制度による修得単位は、8単位を上限として卒業単位数に算入する。
- ⑤ 他学科開講科目として履修可能な科目は、教育課程表において、他履修欄に以下の記号により示す。
○……他学科履修可能科目

■ 資格取得について

博物館学芸員	資格取得を希望する学生は、「資格取得について」の項を熟読し資格取得に必要な科目を履修すること	資格専門科目(学則科目コードが258ではじまる科目)は卒業要件単位数に算入されない
図書館司書		
レクリエーション・インストラクター資格		
社会福祉主事任用資格		
社会教育士・社会教育主事任用資格		
公認心理師国家試験 受験資格(大学指定科目)		
認定心理士/認定心理士(心理調査)資格		
児童指導員任用資格		
児童福祉司任用資格		

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

2024年度入学生 配当年次別科目一覧(総合心理学部 総合心理学科)

必修科目

カッコ内は単位数。記載がない科目の単位数は2単位。

	1年次			2年次		3年次	4年次
基盤教育科目	〈導入学習〉	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1)	日本語表現法 カレッジコミュニティⅠ	基礎演習Ⅲ(1) 基礎演習Ⅳ(1)	カレッジコミュニティⅡ 読書演習		
	〈A群(先人の知を受けつづ)〉	思想の世界 日本の歴史 民族と文化 ことばの世界	日本語を知る 教養としての日本文化 西洋の文化を考える 子どもの文化	芸術を鑑賞する	伝統文化演習(1)		
	〈B群(世界と今を読み解く)〉	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る	人権を考える 平和を考える メディアを考える 情報リテラシー	心理学 くらしと化学 生物を知る	データリテラシー 社会と言語		
	〈C群(未来をひらく)〉	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化	健康を管理する 書いて学ぶ文芸 描いて学ぶアート	健康とスポーツA(1) 健康とスポーツB(1) 教育を考える	生涯スポーツ実習A(1) 生涯スポーツ実習B(1)		
	〈キャリア形成〉	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ	ホスピタリティ入門		数理リテラシー キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ プロジェクト型キャリア研究	インターンシップA インターンシップB	
	〈外国語〉	総合英語Ⅰ・2 実践コミュニケーション英語Ⅰ・2 資格英語Ⅰ(1) 資格英語Ⅱ(1)			総合英語Ⅱ・2 中国のことばと文化Ⅰ 中国のことばと文化Ⅱ フランスのことばと文化Ⅰ フランスのことばと文化Ⅱ		
	〈情報処理〉	情報活用基礎A(1) 情報活用基礎B(1) データサイエンス・AI概論	情報活用A(1) 情報活用B(1)	プログラミング言語Ⅰ プログラミング言語Ⅱ		データサイエンス・AI実習	
	〈資格基礎〉	図書館概論 図書館情報資源概論			博物館概論 生涯学習概論Ⅰ 生涯学習概論Ⅱ	レクリエーション概論 レクリエーション実技(1)	レクリエーション現場実習(1)

	1年次	2年次	3年次	4年次		
総合心理学科専門科目	〈基礎科目〉	心理学基礎実験Ⅰ(1) 心理学基礎実験Ⅱ(1) 心理学概論Ⅰ 心理学概論Ⅱ	心理調査概論 心理統計法Ⅰ 解剖生理学 公衆衛生学			
	心理学・行動科学群		心理学実験 心理統計実習Ⅰ(1) 心理統計実習Ⅱ(1) 心理統計法Ⅱ 心理学研究法(4) 心理的アセスメント(4) 臨床心理学概論Ⅰ 臨床心理学概論Ⅱ 感情・人格心理学Ⅰ 感情・人格心理学Ⅱ 発達心理学Ⅰ 発達心理学Ⅱ 教育・学校心理学	学習・言語心理学 行動心理学 産業心理学概論 健康・医療心理学Ⅰ 健康・医療心理学Ⅱ 人体の構造と機能及び疾病 地域援助論Ⅰ 地域援助論Ⅱ 文化人類学Ⅰ 文化人類学Ⅱ 心理学英語文献講読A 心理学英語文献講読B		
	こども学・健康発達科学群		栄養学 生涯スポーツ論 社会保障論 公的扶助論 社会福祉原論Ⅰ 社会福祉原論Ⅱ	こどもとジェンダー こどもと教育の社会学 こども学 こどもと遊び こどもと表現 社会教育経営論Ⅰ 社会教育経営論Ⅱ		
	臨床心理学・行動科学群			心理演習(臨床心理学演習) 心理学的支援法A 心理学的支援法B 思春期青年期心理学 家族心理学Ⅰ 家族心理学Ⅱ 司法・犯罪心理学 異常心理学 精神疾患とその治療 精神医学特講	神経・生理心理学 知覚・認知心理学 産業・組織心理学 社会・集団・家族心理学Ⅰ 社会・集団・家族心理学Ⅱ 産業心理学実習(1) 社会心理学実習 マーケティング心理学 消費者行動論 心理学英語文献講読C	公認心理師の職責 関係行政論 心理実習(臨床心理学現場実習Ⅰ(1)) 心理実習(臨床心理学現場実習Ⅱ(1))
	こども学・健康発達科学群			障害者・障害児心理学Ⅰ 障害者・障害児心理学Ⅱ こどもとスポーツ こどもマーケティング スポーツ心理学 ポジティブ心理学 老年学 福祉心理学 精神保健	生涯学習支援論Ⅰ 生涯学習支援論Ⅱ 社会教育課題研究 地域連携実践演習A 地域連携実践演習B	社会教育演習(1) 社会教育実習(1)
	〈演習科目〉			専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ	卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 卒業研究(4)	

関連科目
上記共通科目、基盤教育科目の余剰修得単位
他学科開講科目・単位互換制度による修得単位

自由科目	資格専門科目	博物館学芸員
図書館司書	図書館サービス概論 図書・図書館史	図書館制度・経営論 図書館情報技術論 情報サービス論 児童サービス論
博物館学芸員		博物館資料論
		情報サービス演習Ⅰ(1) 情報資源組織論 情報サービス演習Ⅱ(1) 図書館総合演習(1)
		情報資源組織論演習Ⅰ(1) 情報資源組織論演習Ⅱ(1) 図書館実習(1)
		博物館資料保存論 博物館展示論
		博物館教育論 博物館情報・メディア論
		博物館実習Ⅰ(1) 博物館実習Ⅱ

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (総合心理学部 総合心理学科)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修別の別	ディプロマ・ポリシー (10のちから) との関係										カリキュラム・ツリーの位置づけ	他履修	備考
						DP I		DP II		DP III								
						教	専	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力			
総合心理学科専門科目																		
基礎科目																		
1	600000	心理学基礎実験Ⅰ	1	実験・実習	選択	●										HP	認必	
1	600001	心理学基礎実験Ⅱ	1	実験・実習	選択	●						●				HP	認必	
1	600002	心理学概論Ⅰ	2	講義	必修	●	●									HP	公必/認必	
1	600003	心理学概論Ⅱ	2	講義	必修	●	●									HP	認必	
1	600004	心理調査概論	2	講義	選択	●		●								HP	○ 認選/認(心)必	
1	600005	心理学統計法Ⅰ	2	講義	必修	●	●									HP	認選/認(心)必	
1	600006	解剖生理学	2	講義	選択	●	●									HK		
1	600007	公衆衛生学	2	講義	選択	●								●		HK	○ 社福選	
基幹科目																		
心理学・行動科学群																		
2	601000	心理学実験	2	実験・実習	選択	●						●				HP	公必/認必	
2	601001	心理統計実習Ⅰ	1	実験・実習	選択	●	●									HP	認(心)必	
2	601002	心理統計実習Ⅱ	1	実験・実習	選択	●	●									HP	認(心)必	
2	601003	心理学統計法Ⅱ	2	講義	選択	●	●									HP	公必/認(心)選	
2	601004	心理学研究法	4	講義	選択	●	●									HP	公必/認必	
2	601005	心理的アセスメント	4	講義	選択	●	●									HK	公必/認必	
2	601006	臨床心理学概論Ⅰ	2	講義	選択	●					●					HK	公必/認必	
2	601007	臨床心理学概論Ⅱ	2	講義	選択	●					●					HK	認選	
2	601008	感情・人格心理学Ⅰ	2	講義	選択	●					●					HK	○ 公必/認必	
2	601009	感情・人格心理学Ⅱ	2	講義	選択	●					●					HK	認選	
2	601010	発達心理学Ⅰ	2	講義	選択	●					●					HK	○ 公必/認必/他履修(L対象)	
2	601011	発達心理学Ⅱ	2	講義	選択	●					●					HK	認選	
2	601012	教育・学校心理学	2	講義	選択	●							●			HK	○ 公必/認必	
2	601013	学習・言語心理学	2	講義	選択	●	●									HK	○ 公必/認必	
2	601014	行動心理学	2	講義	選択	●					●					HK	○	
2	601015	産業心理学概論	2	講義	選択	●				●						HK	○	
2	601016	健康・医療心理学Ⅰ	2	講義	選択	●					●					HK	○	
2	601017	健康・医療心理学Ⅱ	2	講義	選択	●					●					HK	○ 公必	
2	601018	人体の構造と機能及び疾病	2	講義	選択	●	●									HK	公必	
2	601019	地域援助論Ⅰ	2	講義	選択	●							●			HK	○ 社教選	
2	601020	地域援助論Ⅱ	2	講義	選択	●							●			HK	○ 社教選	
2	601021	文化人類学Ⅰ	2	講義	選択	●	●									HK	○ 学選	
2	601022	文化人類学Ⅱ	2	講義	選択	●	●									HK	○ 学選	
2	601023	心理学英語文献講読A	2	演習	選択	●			●							HP		
2	601024	心理学英語文献講読B	2	演習	選択	●			●							HP		
こども学・健康発達科学群																		
2	601200	栄養学	2	講義	選択	●						●				HK	○ 社福選	
2	601201	生涯スポーツ論	2	講義	選択	●				●						HK	○ 社教選	
2	601202	社会保障論	2	講義	選択	●				●						HK	○ 社福選	
2	601203	公的扶助論	2	講義	選択	●				●						HK	○ 社福選	
2	601204	社会福祉原論Ⅰ	2	講義	選択	●							●			HK	○ 社福選/社教選	
2	601205	社会福祉原論Ⅱ	2	講義	選択	●							●			HK	○ 社福選/社教選	
2	601206	こどもとジェンダー	2	講義	選択	●						●				HK	○ 他履修(L対象)	
2	601207	こどもと教育の社会学	2	講義	選択	●						●				HK	○	
2	601208	こども学	2	講義	選択	●						●				HK		
2	601209	こどもと遊び	2	講義	選択	●	●									HK		
2	601210	こどもと表現	2	講義	選択	●	●									HK		
2	601211	社会教育経営論Ⅰ	2	講義	選択	●			●							HK	○ 社教必	
2	601212	社会教育経営論Ⅱ ①	2	講義	選択	●	●									HK	○ 社教必	

・①「社会教育経営論Ⅱ」を履修するためには、原則「社会教育経営論Ⅰ」を修得していなければならない。

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (総合心理学部 総合心理学科)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修選択別	ディプロマ・ポリシー (「10のうちから」) との関係										カリキュラム・ツリー上の位置づけ	他履修	備考
						DP I		DP II		DP III								
						教養	専門	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力			
展開科目																		
臨床心理学・行動科学群																		
3	602000	心理演習 (臨床心理学演習)	2	演習	選択	●										HP	公必/認必	
3	602001	心理学的支援法 A	2	講義	選択	●	●									HP	公必/認必	
3	602002	心理学的支援法 B	2	講義	選択	●			●							HP	認選	
3	602003	思春期青年期心理学	2	講義	選択	●					●					HK	○ 認選	
3	602004	家族心理学 I	2	講義	選択	●					●					HK	○ 認選	
3	602005	家族心理学 II	2	講義	選択	●					●					HK	○ 認選	
3	602006	司法・犯罪心理学	2	講義	選択	●							●			HK	公必	
3	602007	異常心理学	2	講義	選択	●	●									HK	○ 認選	
3	602008	精神疾患とその治療	2	講義	選択	●	●									HK	公必	
3	602009	精神医学特講	2	講義	選択	●	●									HK		
3	602010	神経・生理心理学	2	講義	選択	●	●									HK	○ 公必	
3	602011	知覚・認知心理学	2	講義	選択	●	●									HK	○ 公必/認必	
3	602012	産業・組織心理学	2	講義	選択	●				●						HK	○ 公必/認必	
3	602013	社会・集団・家族心理学 I	2	講義	選択	●					●					HK	○ 社教選/公必/認必	
3	602014	社会・集団・家族心理学 II	2	講義	選択	●					●					HK	○ 社教選/認選	
3	602015	産業心理学実習	1	実験・実習	選択	●				●						HP		
3	602016	社会心理学実習	2	実験・実習	選択	●						●				HP	認選/認(心)必	
3	602017	マーケティング心理学	2	講義	選択	●		●								HP		
3	602018	消費者行動論	2	講義	選択	●		●								HK		
3	602019	心理学英語文献講読 C	2	演習	選択	●			●							HP		
4	602020	公認心理師の職責	2	講義	選択	●							●			HK	公必	
4	602021	関係行政論	2	講義	選択	●							●			HK	公必	
4	602022	心理実習 (臨床心理学現場実習) I	1	実験・実習	選択	●							●			HP	公必	
4	602023	心理実習 (臨床心理学現場実習) II	1	実験・実習	選択	●							●			HP	公必	
こども学・健康発達科学群																		
3	602200	障害者・障害児心理学 I	2	講義	選択	●				●						HK	○ 社教選/公必	
3	602201	障害者・障害児心理学 II	2	講義	選択	●				●						HK	○ 社教選	
3	602202	こどもとスポーツ	2	演習	選択	●	●									HK		
3	602203	こどもマーケティング	2	演習	選択	●		●								HK		
3	602204	スポーツ心理学	2	講義	選択	●	●									HK		
3	602205	ポジティブ心理学	2	講義	選択	●	●									HK		
3	602206	老年学	2	講義	選択	●	●									HK	○	
3	602207	福祉心理学	2	講義	選択	●							●			HK	公必	
3	602208	精神保健	2	講義	選択	●	●									HK	社福選	
3	602209	生涯学習支援論 I	2	講義	選択	●							●			HK	○ 社教必	
3	602210	生涯学習支援論 II ①	2	講義	選択	●							●			HK	○ 社教必	
3	602211	社会教育課題研究 ②	2	演習	選択	●				●						HK	○ 社教必	
3	602212	地域連携実践演習 A	2	演習	選択	●							●			HP		
3	602213	地域連携実践演習 B	2	演習	選択	●							●			HP		
4	602214	社会教育演習 ③	1	演習	選択	●				●						HK	○ 社教必	
4	602215	社会教育実習 ③	1	実験・実習	選択	●				●						HK	○ 社教必	
演習科目																		
3	603000	専門演習 I ④	2	演習	必修	●		●								HP		
3	603001	専門演習 II ④	2	演習	必修	●		●								HP		
4	603002	卒業演習 I	2	演習	必修	●		●								HP		
4	603003	卒業演習 II	2	演習	必修	●		●								HP		
4	603004	卒業研究	4	演習	選択	●		●								HP	認(心)選	

- ・① 「生涯学習支援論 II」を履修するためには、原則「生涯学習支援論 I」を修得していなければならない。
- ・② 「社会教育課題研究」を履修するためには、原則「生涯学習概論 I・II」「社会教育経営論 I・II」を修得していなければならない。
- ・③ 「社会教育演習」「社会教育実習」を履修するためには、原則「社会教育課題研究」「生涯学習支援論 I・II」を修得していなければならない。
- ・④ 3回生科目「専門演習」のクラスは、2回生で開催される説明会を経て、事前登録により決定する。

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

管理栄養学部

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 カリキュラム・ツリー(総合心理学部 総合心理学科)

ディプロマ・ポリシー		幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解できること。							
カリキュラム・ポリシー		基盤教育科目 幅広い一般的知識・教養、社会や文化への関心、多角的視点を養うため、基盤教育科目に導入学習、A群(先人の知を受けつぐ)、B群(世界と今を読む(未来をひらく)、キャリア形成、外国語、情報処理および資格基礎科目を開設する							
カリキュラム・ポリシーの詳細(具体化)		社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる、幅広い教養を身につけさせるための科目群		グローバル社会、高度情報化社会を生き抜くうえで必要な基本的な技能を身につけさせるための科目群		学びの基礎的スキル、自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわり等から社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群			
カリキュラム上の科目の目的・役割		先人たちがたどった道のり、築いてきたものを理解する	我々が生きる世界と今を読み解く	未来を見通し、自分自身をデザインする	英語など母語以外の言語で基本的なコミュニケーションを行う技能を身につけるとともに、社会や文化の多様性を理解する	情報機器を操作し、諸問題にICTを活用できる基本的な技能を身につける	大学における学びに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、専門の学びへの準備を行う	地域社会とのかかわりや知と向き合う読書活動から、社会や人間のもつ課題を理解する	社会的・職業的自立を果たすために必要な知識・技能の基礎を身につける
4年次	秋学期 8								
	春学期 7								
3年次	秋学期 6								インターンシップA インターンシップB
	春学期 5					データサイエンス・AI実習			インターンシップA インターンシップB
2年次	秋学期 4			生涯スポーツ実習B	総合英語II2 実践コミュニケーション英語II2 フランスのことばと文化II 中国のことばと文化II 韓国のことばと文化II		基礎演習IV		キャリアデザインIV プロジェクト型キャリア研究
	春学期 3	伝統文化演習	データリテラシー 社会と言語	生涯スポーツ実習A	総合英語II1 実践コミュニケーション英語II1 フランスのことばと文化I 中国のことばと文化I 韓国のことばと文化I	情報活用B	基礎演習III	カレッジコミュニティII 読書演習	数理リテラシー キャリアデザインIII プロジェクト型キャリア研究
1年次	秋学期 2	思想の世界 日本の歴史 民族と文化 ことばの世界	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る 人権を考える 平和を考える	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化 健康を管理する 書いて学ぶ文芸 描いて学ぶアート 健康とスポーツA 健康とスポーツB 教育を考える	総合英語II2 実践コミュニケーション英語II2 資格英語II	情報活用基礎B 情報活用A プログラミング言語II データサイエンス・AI概論	基礎演習II		キャリアデザインII ホスピタリティ入門
	春学期 1	教養としての日本文化 西洋の文化を考える 子どもの文化 芸術を鑑賞する	メディアを考える 情報リテラシー 心理学 くらしと化学 生物を知る		総合英語II1 実践コミュニケーション英語II1 資格英語I	情報活用基礎A プログラミング言語I	基礎演習I 日本語表現法	カレッジコミュニティI	キャリアデザインI
カリキュラム・ツリー上の位置づけ		1	2	3	1	2	1	2	3
		BA			BS		BC		

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部
総合心理学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

カリキュラム・ツリーはカリキュラムの体系性を示すためのモデルです。年度によって開講時期が変わる場合があります。

	人間・文化・社会の諸現象を心理学的素養をもとに理解し、分析するための科学的・統計的知識、技能を有すること。							
	総合心理学専門科目							
み解く)、C群	人間・文化・社会の諸現象を心理学的素養をもとに理解し、分析するための科学的・統計的知識、技能を身につけさせるため、学科専門科目に基礎科目、基幹科目、展開科目および演習科目を開設する							
社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群	実践的な学びを通じて、心理学の研究法や専門的な技術と倫理観を身につけさせるための科目群			心理学と、その関連分野の知識と技能を総合的に身につけさせるための科目群				
	心理学の先行研究を踏まえて、自らの研究や進路を探索し、それを表現する力を身につける	実験・調査をもとにデータを統計的に分析する力を身につける	心理支援・対人援助における専門的な技術と倫理観を身につける	認知・行動を学び、心の基本的な仕組みを専門的に理解する力を身につける	臨床・異常を学び、心理的な苦悩や精神疾患を専門的に理解する力を身につける	発達・人格を学び、心理的な成長や変化を専門的に理解する力とともに、こどもの視点から社会を多角的に捉える視点を身につける	福祉・社会・文化を学び、生涯発達の観点から心身の健康を目指す力を身につける	地域・社会における課題を見つけ生涯学習など、幅広い文脈から考察する力を身につける
	卒業演習Ⅱ 卒業研究		心理実習(臨床心理学現場実習)Ⅱ					
	卒業演習Ⅰ 卒業研究		心理実習(臨床心理学現場実習)Ⅰ		公認心理師の職務		関係行政論	社会教育演習 社会教育実習
	専門演習Ⅱ	社会心理学実習	心理実習(臨床心理学演習) 心理学的支援法B 地域連携実践演習B	知覚・認知心理学 社会・集団・家族心理学Ⅱ	家族心理学Ⅱ 司法・犯罪心理学 精神医学特講		福祉心理学	障害者・障害児心理学Ⅱ スポーツ心理学 生涯学習支援論Ⅱ 社会教育課題研究
レクリエーション現場実習	産業心理学実習 心理学英語文献講読C 専門演習Ⅰ	マーケティング心理学	心理実習(臨床心理学演習) 心理学的支援法A 地域連携実践演習A	神経・生理心理学 産業・組織心理学 社会・集団・家族心理学Ⅰ 消費者行動論 ポジティブ心理学	家族心理学Ⅰ 異常心理学 精神疾患とその治療	思春期青年期心理学 こどもとスポーツ こどもマーケティング	老年学 精神保健	障害者・障害児心理学Ⅰ 生涯学習支援論Ⅰ
博物館経営論 生涯学習概論Ⅱ レクリエーション実技	心理学研究法 心理学英語文献講読B	心理統計実習Ⅱ	心理的アセスメント		臨床心理学概論Ⅱ 地域援助論Ⅱ	感情・人格心理学Ⅱ 教育・学校心理学 こどもと遊び こどもと表現	発達心理学Ⅱ 健康・医療心理学Ⅱ 文化人類学Ⅱ 公的扶助論 社会福祉原論Ⅱ	人体の構造と機能及び疾病 社会教育経営論Ⅱ
博物館概論 生涯学習概論Ⅰ レクリエーション概論	心理学研究法 心理学英語文献講読A	心理学実験 心理統計実習Ⅰ 心理統計法Ⅱ	心理的アセスメント	学習・言語心理学 行動心理学 産業心理学概論	臨床心理学概論Ⅰ 地域援助論Ⅰ	感情・人格心理学Ⅰ 発達心理学Ⅰ こども学	健康・医療心理学Ⅰ 文化人類学Ⅰ 社会保障論 社会福祉原論Ⅰ こどもとジェンダー	栄養学 生涯スポーツ論 社会教育経営論Ⅰ
図書館情報資源概論	心理学概論Ⅱ	心理学基礎実験Ⅱ 心理学統計法Ⅰ					公衆衛生学	
図書館概論	心理学概論Ⅰ	心理学基礎実験Ⅰ 心理調査概論						解剖生理学
1	1	2	3	1	2	3	4	5
CZ	HP			HK				

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学学部

食環境学部
食イノベーション学科

管理栄養学科

資格専門科目

食環境学部
食イノベーション学科

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 卒業に必要な総単位数 (食環境学部 食イノベーション学科)

科目分類・分野		卒業要件詳細			卒業要件 単位数合計
基盤教育科目	導入学習	2単位 必修	「日本語表現法」 必修		必修・選択必修科目の 単位を含み 26単位
	A群 (先人の知を受けつぐ)	6単位 選択必修			
	B群 (世界と今を読み解く)				
	C群 (未来をひらく)				
	キャリア形成	4単位 必修	「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」 必修		
	外国語	8単位 必修	「総合英語Ⅰ・Ⅱ」「実践コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」 必修		
	情報処理 資格基礎	2単位 必修 選択	「情報活用基礎A・B」 必修		
学科専門科目	基礎科目	2単位 必修 2単位 選択必修	「食イノベーション入門」 必修		必修・選択必修科目の 単位を含み 78単位
	専門分野	38単位 必修	必修科目は教育課程表を参照		
	展開科目	14単位 選択			
	演習科目	6単位 必修	「専門演習」 「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」 必修		
関連科目	上記基盤教育科目・ 学科専門科目の余剰修得単位	選択		20単位	
	他学科開講科目	選択上限			
	単位互換制度による修得単位	20単位	上限8単位		

■ 履修についての注意

- ① 導入学習科目(選択)のうち、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の2科目2単位は1年次に、「基礎演習Ⅲ・Ⅳ」の2科目2単位は2年次に必ず履修(必履修)すること。
- ② キャリア形成科目(選択)のうち、「数理リテラシー」の1科目2単位は2年次に必ず履修すること。
- ③ 外国語(英語) 科目について
「総合英語Ⅰ1・2、Ⅱ1・2」「実践コミュニケーション英語Ⅰ1・2、Ⅱ1・2」の計8単位を修得すること。
- ④ 基礎科目は「食イノベーション入門」の1科目2単位と、選択科目のうち「食のための化学」「健康医科学」から1科目2単位を取得すること。
- ⑤ 関連科目の修得単位は、単位互換制度での修得単位分を含め、20単位を上限として卒業単位数に算入する。また、単位互換制度による修得単位は、8単位を上限として卒業単位数に算入する。
- ⑥ 他学科開講科目として履修可能な科目は、教育課程表において、他履修欄に以下の記号により示す。
○……他学科履修可能科目
△……管理栄養学科履修可能科目

■ 資格取得について

レクリエーション・インストラクター資格 社会福祉主事任用資格 栄養士資格 フードスペシャリスト 受験資格 健康運動実践指導者 受験資格 食育インストラクター3級 受験資格	資格取得を希望する学生は、「資格取得について」の項を熟読し資格取得に必要な科目を履修すること	資格専門科目(学則科目コードが258ではじまる科目)は卒業要件単位数に算入されない
--	--	---

2024年度入学生 配当年次別科目一覧(食環境学部 食イノベーション学科)

必修科目

カッコ内は単位数。記載がない科目の単位数は2単位。

	1年次			2年次		3年次	4年次
〈導入学習〉	基礎演習I(1) 基礎演習II(1)	日本語表現法 カレッジコミュニティI		基礎演習III(1) 基礎演習IV(1)	カレッジコミュニティII 読書演習		
〈A群(先人の知を受けつぐ)〉	思想の世界 日本の歴史 民族と文化	日本語を知る ことばの世界 教養としての日本文化	西洋の文化を考える 子どもの文化 芸術を鑑賞する	伝統文化演習(1)			
〈B群(世界と今を読み解く)〉	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る	人権を考える 平和を考える メディアを考える 情報リテラシー	心理学 くらしと化学 生物を知る	データリテラシー 社会と言語			
〈C群(未来をひらく)〉	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化	健康を管理する 書いて学ぶ文芸 描いて学ぶアート	健康とスポーツA(1) 健康とスポーツB(1) 教育を考える	生涯スポーツ実習A(1) 生涯スポーツ実習B(1)			
〈キャリア形成〉	キャリアデザインI キャリアデザインII	ホスピタリティ入門		数理リテラシー キャリアデザインIII	キャリアデザインIV プロジェクト型キャリア研究	インターンシップA インターンシップB	
〈外国語〉	総合英語I1・2 実践コミュニケーション英語I1・2 資格英語I(1) 資格英語II(1)			総合英語II1・2 実践コミュニケーション英語II1・2 フランスのことばと文化I フランスのことばと文化II	中国のことばと文化I 中国のことばと文化II 韓国のことばと文化I 韓国のことばと文化II		
〈情報処理〉	情報活用基礎A(1) 情報活用基礎B(1) データサイエンス・AI概論	情報活用A(1) 情報活用B(1)	プログラミング言語I プログラミング言語II			データサイエンス・AI実習	
〈資格基礎〉	図書館概論 図書館情報資源概論			博物館概論 博物館経営論	生涯学習概論I 生涯学習概論II	レクリエーション概論 レクリエーション実技(1)	レクリエーション現場実習(1)

	1年次	2年次	3年次	4年次
〈基礎科目〉	食イノベーション入門 健康医科学 食のための化学			
社会生活と健康		公衆衛生学I 社会福祉論		
人体の構造と機能	解剖生理学I 解剖生理学II	予防医学 生化学	微生物学	
食品と衛生	食品学 食品学実験	食品加工学 食品加工学実習(1)	食品衛生学 食品衛生学実験(1)	
栄養と健康		基礎栄養学I 基礎栄養学II	基礎栄養学実験(1) 応用栄養学I	臨床栄養学総論 臨床栄養学実習(1)
栄養の指導		栄養教育論I 栄養教育論II	栄養教育論実習(1) 公衆栄養学I 公衆栄養学実習(1)	
給食の運営	調理学 調理学実習(基礎)	給食経営管理論I 給食経営管理論II	給食経営管理論実習(1) 調理学実習(応用)	給食経営管理論実習(1)
フードビジネス		食品産業論	マーケティング情報戦略論 企業の連携 食品の流通と消費	外書講読
フードテック	フードテック概論	食とデザイン	バイオテクノロジー論 食産業とプラットフォーム 食品開発	フードコーディネーター論 健康食品学
スポーツウェルネス	健康運動科学	健康運動方法論 スポーツ健康演習A スポーツ健康演習B	救急処置 スポーツ指導論 スポーツ栄養学	運動療法 スポーツ心理学
食育保育	保育総論A 保育総論B	保育総論演習(1)	こどもとジェンダー 発達心理学	
コミュニティ開発	食生活論	アグリビジネス	食文化論 公共政策論	観光・地域創生研究
〈演習科目〉		食イノベーション演習A	食イノベーション演習B 専門演習	卒業演習I 卒業演習II 卒業研究

関連科目 上記基礎教育科目、学科専門科目の余剰修得単位
他学科開講科目・単位互換制度による修得単位

自由科目	食イノベーション学科 (その他科目)			
------	-----------------------	--	--	--

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

管理栄養学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (食環境学部 食イノベーション学科)

配当年次	学則 科目 コード	科 目 名	単 位	講義 区分	必修 選択 の別	ディプロマ・ポリシー (10のうちから) との関係										他履修	備 考
						DP I		DP II		DP III							
						教 養 力	専 門 力	情 報 取 集 ・ 分 析 力	論 理 的 思 考 ・ 表 現 力	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力	問 題 解 決 力	自 己 理 解 力	主 体 的 行 動 力	倫 理 性 と 自 律 力	地 域 貢 献 力		
食イノベーション学科専門科目																	
基礎科目																	
1	700000	食イノベーション入門	2	講義	必修	●										FB	
1	700001	食のための化学	2	講義	選必	●				●						FB	フード選
1	700002	健康医科学	2	講義	選必	●		●								FB	○ 他履修(L・H対象)
専門分野																	
社会生活と健康																	
2	701000	公衆衛生学 I	2	講義	必修	●				●						FB	社福選/フード必 ○
2	701001	社会福祉論	2	講義	必修	●								●		FB	社福選 ○
人体の構造と機能																	
1	701002	生化学	2	講義	必修	●	●									FB	
3	701003	微生物学	2	講義	選択	●							●			FH	
1	701004	解剖生理学 I	2	講義	必修	●							●			FB	健運必 ○
1	701005	解剖生理学 II	2	講義	必修	●							●			FB	
1	701006	予防医学	2	講義	選択	●	●									FB	△ 健運必/健食必 ○
食品と衛生																	
1	701007	食品学	2	講義	必修	●	●									FH	フード必/食育必 ○
1	701008	食品学実験	2	実験・実習	必修	●		●								FH	フード必 ○
1	701009	食品加工学	2	講義	必修	●	●									FH	フード必 ○
2	701010	食品加工学実習	1	実験・実習	必修	●			●							FH	フード必 ○
2	701011	食品衛生学	2	講義	必修	●				●						FH	フード必 ○
2	701012	食品衛生学実験	1	実験・実習	必修	●		●								FH	
栄養と健康																	
2	701013	基礎栄養学 I	2	講義	必修	●							●			FB	社福選/フード必 ○
2	701014	基礎栄養学 II	2	講義	必修	●							●			FB	社福選/フード必 ○
2	701015	基礎栄養学実験	1	実験・実習	選択	●		●								FB	
2	701016	応用栄養学 I	2	講義	必修	●							●			FI	健運必 ○
3	701017	臨床栄養学総論	2	講義	選択	●				●						FI	
3	701018	臨床栄養学実習	1	実験・実習	選択	●		●								FI	
栄養の指導																	
2	701019	栄養教育論 I	2	講義	必修	●							●			FI	
2	701020	栄養教育論 II	2	講義	必修	●							●			FI	
3	701021	栄養教育論実習	1	実験・実習	選択	●				●						FI	
3	701022	公衆栄養学 I	2	講義	選択	●								●		FI	
3	701023	公衆栄養学実習	1	実験・実習	選択	●								●		FI	
給食の運営																	
2	701024	給食経営管理論 I	2	講義	必修	●							●			FI	
2	701025	給食経営管理論 II	2	講義	必修	●							●			FI	
3	701026	給食経営管理論実習	1	実験・実習	選択	●				●						FI	
1	701027	調理学	2	講義	必修	●							●			FH	フード必/食育必 ○
1	701028	調理学実習(基礎)	2	実験・実習	必修	●			●							FH	フード必/食育必 ○
3	701029	調理学実習(応用)	2	実験・実習	選択	●							●			FI	
4	701030	給食経営管理臨地実習 I (含給食の運営)	1	実験・実習	選択	●			●							FI	

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (食環境学部 食イノベーション学科)

配当年次	学則 科目 コード	科目名	単位	講義 区分	必修 選択 別の	ディプロマ・ポリシー (「10のちから」) との関係										カリ キュ ラム ・ ツ リ ー の 位 置 づ け	他 履 修	備 考
						DP I	DP II	DP III										
						教 養 力	専 門 力	情 報 収 集 ・ 分 析 力	論 理 的 思 考 ・ 表 現 力	コ ミュ ニ ケー ション 力	問 題 解 決 力	自 己 理 解 力	主 体 的 行 動 力	倫 理 性 と 自 律 力	地 域 貢 献 力			
展開科目																		
フードビジネス																		
2	702000	食品産業論	2	講義	選択	●	●								FI	○		
3	702001	マーケティング情報戦略論	2	講義	選択	●	●								FI	○		
3	702002	食品の流通と消費	2	講義	選択	●	●								FI	○	フード必	
3	702003	企業連携	2	演習	選択	●						●			FI	△		
4	702004	外書講読	2	講義	選択	●					●				FI	○	他履修(L・H対象)	
フードテック																		
1	702005	フードテック概論	2	講義	選択	●	●								FI	○		
2	702006	食とデザイン	2	講義	選択	●							●		FI	○		
3	702007	バイオテクノロジー論	2	講義	選択	●							●		FI	○		
3	702008	食産業とプラットフォーム	2	講義	選択	●							●		FI	○		
3	702009	食品開発	2	演習	選択	●				●					FI	△		
3	702010	フードコーディネート論	2	講義	選択	●			●						FI	○	フード必	
3	702011	健康食品学	2	講義	選択	●		●							FI	○	他履修(L・H対象)	
スポーツウェルネス																		
1	702012	健康運動科学	2	講義	選択	●				●					FI		健運必	
2	702013	健康運動方法論	2	講義	選択	●						●			FI	△	健運必	
2	702014	スポーツ健康演習A	2	演習	選択	●						●			FI	△	健運必	
2	702015	スポーツ健康演習B	2	演習	選択	●						●			FI	△	健運必	
2	702016	救急処置	2	講義	選択	●						●			FI	△	健運必	
3	702017	スポーツ指導論	2	講義	選択	●							●		FI	△	健運必	
3	702018	スポーツ栄養学	2	講義	選択	●		●							FI			
3	702019	運動療法	2	講義	選択	●				●					FI	○		
3	702020	スポーツ心理学	2	講義	選択	●	●								FI	△		
食育保育																		
1	702021	保育総論A	2	講義	選択	●							●		FI	○	他履修(H対象)	
1	702022	保育総論B	2	講義	選択	●							●		FI	○	他履修(H対象)	
2	702023	保育総論演習	1	演習	選択	●							●		FI	○	他履修(H対象)	
2	702024	こどもとジェンダー	2	講義	選択	●							●		FI	△		
2	702025	発達心理学	2	講義	選択	●					●				FI	△		
コミュニティ開発																		
1	702026	食生活論	2	講義	選択	●	●								FI	○	フード必	
2	702027	アグリビジネス	2	講義	選択	●				●					FI	○		
3	702028	食文化論	2	講義	選択	●				●					FI	○		
3	702029	公共政策論	2	講義	選択	●							●		FI	△		
4	702030	観光・地域創生研究	2	講義	選択	●							●		FI			
演習科目																		
2	703000	食イノベーション演習A	2	演習	選択		●						●		FI			
3	703001	食イノベーション演習B	2	演習	選択		●						●		FI			
3	703002	専門演習	2	演習	必修	●						●			FI			
4	703003	卒業演習Ⅰ	2	演習	必修	●					●				FI			
4	703004	卒業演習Ⅱ	2	演習	必修	●					●				FI			
4	703005	卒業研究	4	演習	選択	●							●		FI			

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

管理栄養学部

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 カリキュラム・ツリー(食環境学部 食イノベーション学科)

ディプロマ・ポリシー	幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解できること。									
カリキュラム・ポリシー	基盤教育科目									
カリキュラム・ポリシーの 詳細 (具体化)	社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる、幅広い教養を身につけさせるための科目群			グローバル社会、高度情報化社会を生き抜いていくうえで必要な基本的技能を身につけさせるための科目群		学びの基礎的スキル、自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわりや知と向き合う読書活動から、社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群		社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群		
カリキュラム上の科目の目的・役割	先人たちがたどった道のり、築いてきたものを理解する	我々が生きる世界と今を読み解く	未来を見通し、自分自身をデザインする	英語など母語以外の言語で基本的なコミュニケーションを行う技能を身につけるとともに、社会や文化の多様性を理解する	情報機器を操作し、諸問題にICTを活用できる基本的な技能を身につける	大学における学びに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、専門の学びへの準備を行う	地域社会とのかかわりや知と向き合う読書活動から、社会や人間のもつ課題を理解する	社会的・職業的自立を果たすために必要な知識・技能の基礎を身につける		
4年次	秋学期 8									
	春学期 7									
3年次	秋学期 6							インターンシップA インターンシップB		
	春学期 5					データサイエンス・AI実習		インターンシップA インターンシップB	レクリエーション現場実習	
2年次	秋学期 4			生涯スポーツ実習B	総合英語Ⅱ2 実践コミュニケーション英語Ⅱ フランスのことばと文化Ⅱ 中国のことばと文化Ⅱ 韓国のことばと文化Ⅱ			キャリアデザインⅣ プロジェクト型キャリア研究	博物館終論 生涯学習概論Ⅱ レクリエーション実技	
	春学期 3	伝統文化演習	データリテラシー 社会と言語	生涯スポーツ実習A	総合英語Ⅱ1 実践コミュニケーション英語Ⅰ フランスのことばと文化Ⅰ 中国のことばと文化Ⅰ 韓国のことばと文化Ⅰ	情報活用B	基礎演習Ⅲ	カレッジコミュニティⅡ 読書演習	数理リテラシー キャリアデザインⅢ プロジェクト型キャリア研究 レクリエーション概論	
1年次	秋学期 2	思想の世界 日本の歴史 民族と文化 ことばの世界	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る 人権を考える 平和を考える	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化 健康を管理する 書いて学ぶ文芸	総合英語Ⅱ2 実践コミュニケーション英語Ⅱ 資格英語Ⅱ	情報活用基礎B 情報活用A プログラミング言語Ⅱ データサイエンス・AI概論	基礎演習Ⅱ		キャリアデザインⅡ ホスピタリティ入門	図書館情報資源概論
	春学期 1	日本語を知る 教養としての日本文化 西洋の文化を考える 子どもの文化 芸術を鑑賞する	メディアを考える 情報リテラシー 心理学 くらしと化学 生物を知る	健康とスポーツA 健康とスポーツB 教育を考える	総合英語Ⅱ1 実践コミュニケーション英語Ⅰ 資格英語Ⅰ	情報活用基礎A プログラミング言語Ⅰ	基礎演習Ⅰ 日本語表現法	カレッジコミュニティⅠ	キャリアデザインⅠ	図書館概論
カリキュラム・ツリー上の位置づけ	1	2	3	1	2	1	2	3	1	
	BA			BS		BC		CZ		

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

カリキュラム・ツリーはカリキュラムの体系性を示すためのモデルです。年度によって開講時期が変わる場合があります。

食と栄養に関する幅広い知識を基に、フードビジネス分野やフードテック分野およびスポーツウェルネス分野等の専門知識を活用しながら、食産業における課題解決と新たな価値創造を実現する専門的知識・技能を有すること。

食イノベーション学科専門科目

食と栄養に関する幅広い知識を基に、デジタル技術を活用した食に係る事業における課題解決と新たな価値創造に必要な専門的知識・技能を身につけさせるため、学科専門科目に基礎科目、専門分野科目、展開科目および演習科目を開設する

食事業の課題を解決するために必要な実践的スキルを修得させるための科目群				食と健康の関連について理解させるための科目群		食に関わる分野の基礎および人体の構造と機能を理解させるための科目群				
各分野で学んだ知識・技術を統合し、総合的な判断ができるようになる	地域における人々の健康増進に寄与するための方法を修得する	食に関わる多様なビジネスとマーケティングおよびデジタル活用について理解する	健康増進における運動や食育の重要性を理解し、指導できるスキルを身につける	適切な食事を提供するのための実践的な調理の知識や技術を身につけ、給食運営に必要な実践的な知識や技術を学ぶ	栄養指導が実践できるための知識・技術を身につける。また、公衆栄養学の意義・役割、および健康づくり対策について理解する	食べ物と健康の関連について理解する	健康増進に寄与する栄養管理に必要な知識や技術を身につける	食べ物と健康の関連について理解する	人体の構造と機能を理解する	栄養と食の観点から健康増進・疾病予防の重要性について理解する
卒業演習II 卒業研究				給食経営管理臨地実習I (含給食の運営)						
卒業演習I 卒業研究	観光・地域創生研究	外書講読		給食経営管理臨地実習I (含給食の運営)						
専門演習	公共政策論	食品の流通と消費 企業連携 食産業とプラットフォーム フードコーディネーター論 健康食品学	スポーツ心理学		臨床栄養学総論 臨床栄養学実習 公衆栄養学実習					
食イノベーション演習B	食文化論	マーケティング情報総論 バイオテクノロジー論 食品開発	スポーツ指導論 スポーツ栄養学 運動療法	給食経営管理論実習 調理学実習(応用)	栄養教育論実習 公衆栄養学I	微生物学				
食イノベーション演習A		食品産業論 食とデザイン	スポーツ健康演習B	給食経営管理論II	応用栄養学I 栄養教育論II	食品衛生学実験	基礎栄養学II		公衆衛生学I 社会福祉論	
	アグリビジネス		健康運動方法論 スポーツ健康演習A 救急処置 保育総論演習 こどもとジェンダー 発達心理学	給食経営管理論I	栄養教育論I	食品加工学実習 食品衛生学	基礎栄養学I 基礎栄養学実験			
		フードテック概論	健康運動科学 保育総論A 保育総論B			食品学 食品学実験 調理学実習(基礎) 食品加工学		解剖生理学II 生化学		健康医科学
	食生活論					調理学		解剖生理学I 予防医学		食イノベーション入門 食のための化学
6	5	4	3	2	1	1	4	3	2	1
FI						FH		FB		

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

**食環境学部
管理栄養学科**

2024年度入学生 卒業に必要な総単位数 (食環境学部 管理栄養学科)

科目分類・分野		卒業要件詳細			卒業要件 単位数合計
基盤教育科目	導入学習	2単位 必修	「日本語表現法」 必修		必修・選択必修科目の 単位を含み 26単位
	A群 (先人の知を受けつぐ)	6単位 選択必修			
	B群 (世界と今を読み解く)				
	C群 (未来をひらく)				
	キャリア形成	4単位 必修	「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」 必修		
	外国語	8単位 必修	「総合英語Ⅰ・Ⅱ」「実践コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」 必修		
	情報処理 資格基礎	2単位 必修 選択	「情報活用基礎A・B」 必修		
学科専門科目	基礎科目	2単位 選択必修			必修・選択必修科目の 単位を含み 68単位
	専門分野	26単位 必修	必修科目は教育課程表を参照		
	展開科目	24単位 必修	必修科目は教育課程表を参照		
	演習科目	6単位 必修	「専門演習」「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」 必修		
4単位 選択必修					
関連科目	上記基盤教育科目・ 学科専門科目の余剰修得単位	選択		30単位	
	他学科開講科目	選択上限 20単位			
	単位互換制度による修得単位	20単位	上限8単位		

■ 履修についての注意

- ① 導入学習科目(選択)のうち、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の2科目2単位は1年次に、「基礎演習Ⅲ・Ⅳ」の2科目2単位は2年次に必ず履修(必履修)すること。
- ② キャリア形成科目(選択)のうち、「数理リテラシー」の1科目2単位は2年次に必ず履修すること。
- ③ 外国語(英語) 科目について
「総合英語Ⅰ・Ⅱ、ⅡⅠ・Ⅱ」「実践コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、ⅡⅠ・Ⅱ」の計8単位を修得すること。
- ④ 基礎科目は選択科目のうち「食のための化学」「健康医科学」から1科目2単位を取得すること。
- ⑤ 関連科目の修得単位は、単位互換制度での修得単位分を含め、30単位を上限として卒業単位数に算入する。他学科開講科目の修得単位は20単位、単位互換制度による修得単位は8単位を上限として卒業単位数に算入する。
- ⑥ 他学科開講科目として履修可能な科目は、教育課程表において、他履修欄に以下の記号により示す。

- ……他学科履修可能科目
- △……食イノベーション学科履修可能科目

■ 資格取得について

レクリエーション・インストラクター資格 社会福祉主事任用資格 栄養士資格 管理栄養士国家試験 受験資格 食品衛生管理者および 食品衛生監視員任用資格 フードスペシャリスト 受験資格 健康運動実践指導者 受験資格 食育インストラクター3級 受験資格 健康食品管理士 受験資格	資格取得を希望する学生は、 「資格取得について」 の項を熟読し 資格取得に必要な科目を 履修すること	資格専門科目(学則科目 コードが258で はじまる科目)は 卒業要件単位数に算入されない
---	--	---

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
総合心理学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 配当年次別科目一覧(食環境学部 管理栄養学科)

必修科目 カッコ内は単位数。記載がない科目の単位数は2単位。

	1年次			2年次		3年次	4年次
〈導入学習〉	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1)	日本語表現法 カレッジコミュニティⅠ		基礎演習Ⅲ(1) 基礎演習Ⅳ(1)	カレッジコミュニティⅡ 読書演習		
〈A群(先人の知を受けつぐ)〉	思想の世界 日本の歴史 民族と文化	ことばの世界 日本語を知る 教養としての日本文化	西洋の文化を考える 子どもの文化 芸術を鑑賞する	伝統文化演習(1)			
〈B群(世界と今を読み解く)〉	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る	人権を考える 平和を考える メディアを考える 情報リテラシー	心理学 くらしと化学 生物を知る	データリテラシー 社会と言語			
〈C群(未来をひらく)〉	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化	健康を管理する 書いて学ぶ文芸 描いて学ぶアート	健康とスポーツA(1) 健康とスポーツB(1) 教育を考える	生涯スポーツ実習A(1) 生涯スポーツ実習B(1)			
〈キャリア形成〉	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ	ホスピタリティ入門		数理リテラシー キャリアデザインⅢ	キャリアデザインⅣ プロジェクト型キャリア研究	インターンシップA インターンシップB	
〈外国語〉	総合英語Ⅰ・Ⅱ 実践コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 資格英語Ⅰ(1) 資格英語Ⅱ(1)			総合英語Ⅱ1・2 実践コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ フランスのことばと文化Ⅰ フランスのことばと文化Ⅱ	中国のことばと文化Ⅰ 中国のことばと文化Ⅱ 韓国のことばと文化Ⅰ 韓国のことばと文化Ⅱ		
〈情報処理〉	情報活用基礎A(1) 情報活用基礎B(1) データサイエンス・AI概論	情報活用A(1) 情報活用B(1)	プログラミング言語Ⅰ プログラミング言語Ⅱ			データサイエンス・AI実習	
〈資格基礎〉	図書館概論 図書館情報資源概論			博物館概論 博物館経営論	生涯学習概論Ⅰ 生涯学習概論Ⅱ	レクリエーション概論 レクリエーション実技(1)	レクリエーション現場実習(1)

	1年次	2年次	3年次	4年次
〈基礎科目〉	食のための化学 健康医科学			
社会・環境と健康		公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生学実習(1) 生涯スポーツ論	社会福祉論
〈専門基礎分野〉 人体の構造と機能 疾病の成り立ち	生化学 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ	解剖生理学実験 病理学Ⅰ 運動生理学	生化学実験(1) 病理学Ⅱ	微生物学 微生物学実験(1) 疾病論 薬理学
食べ物と健康	食品学 食品学実験 調理学	調理学実習 食生活論 食品加工学	食品加工学実習(1) 食品衛生学	食品衛生学実験(1) 食品の流通と消費 応用調理学実習 フードコーディネーター論 健康食品学
基礎栄養学		基礎栄養学Ⅰ 基礎栄養学Ⅱ	基礎栄養学実験(1)	外書講読
応用栄養学		応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ	応用栄養学実習(1)	介護食概論 スポーツ栄養学
栄養教育論		栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ		栄養カウンセリング論 栄養教育論実習(1)
臨床栄養学		臨床栄養学総論	臨床栄養学各論Ⅰ 臨床栄養学各論Ⅱ	栄養アセスメント 臨床栄養学実習
公衆栄養学		公衆栄養学Ⅰ	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習(1)	
給食経営管理論		給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ	給食経営管理論実習	
総合演習			管理栄養士演習Ⅰ(1)	管理栄養士演習Ⅱ(1)
臨地実習			公衆栄養臨地実習(1)	給食経営管理臨地実習Ⅰ(1) 給食経営管理臨地実習Ⅱ(1) 臨床栄養臨地実習(1)
〈演習科目〉			専門演習	卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 卒業研究(4) 管理栄養士総合演習(4)

関連科目	上記基礎教育科目、学科専門科目の余剰修得単位 他学科開講科目・他課程科目・単位互換制度による修得単位
------	---

自由科目	管理栄養学科 (その他科目)			
------	-------------------	--	--	--

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

管理栄養学科
食環境学部

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (食環境学部 管理栄養学科)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修選択の別	ディプロマ・ポリシー (10のちから) との関係										他履修	備考
						DP I		DP II		DP III							
						教	専	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力		
管理栄養学科専門科目																	
基礎科目																	
1	704000	食のための化学	2	講義	選必	●			●						NC	衛必/フード選	
1	704001	健康医科学	2	講義	選必	●		●							NC	健食必	
専門基礎分野																	
社会・環境と健康																	
2	705000	公衆衛生学Ⅰ	2	講義	必修	●					●			NC	社福選/フード健食必	○	○
2	705001	公衆衛生学Ⅱ	2	講義	選択	●					●			NC	社福選/衛必	○	
2	705002	公衆衛生学実習	1	実験・実習	選択	●				●				NC	衛必	○	
3	705003	社会福祉論	2	講義	必修	●							●	NC	社福選	○	○
2	705004	生涯スポーツ論	2	講義	選択	●				●				NC	社教選		
人体の構造と機能疾病の成り立ち																	
1	705005	生化学	2	講義	必修	●					●			NC	衛必/健食必	○	○
2	705006	生化学実験	1	実験・実習	選択	●		●						NC	衛必	○	
1	705007	解剖生理学Ⅰ	2	講義	必修	●					●			NC	健運必/衛必/健食必	○	○
1	705008	解剖生理学Ⅱ	2	講義	必修	●		●						NC	衛必/健食必	○	○
1	705009	解剖生理学実験	2	実験・実習	選択	●		●						NC	衛必	○	
1	705010	病理学Ⅰ	2	講義	必修	●					●			NC	衛必/健食必	○	○
2	705011	病理学Ⅱ	2	講義	選択	●					●			NC	衛必/健食必	○	
3	705012	微生物学	2	講義	選択	●					●			NC	衛必/健食必	○	
1	705013	運動生理学	2	講義	選択	●				●				NC	健運必	○	
3	705014	微生物学実験	1	実験・実習	選択	●					●			NC			
3	705015	疾病論	2	講義	選択	●		●						NC	△		
3	705016	薬理学	2	講義	選択	●		●						NC	健食必		
食べ物と健康																	
1	705017	食品学	2	講義	必修	●	●							NH	フード必/衛必/健食必	○	○
1	705018	食品学実験	2	実験・実習	必修	●		●						NH	フード必/衛必	○	○
1	705019	食品加工学	2	講義	必修	●	●							NH	フード必/衛必/健食必	○	○
2	705020	食品加工学実習	1	実験・実習	必修	●			●					NH	フード必/衛必	○	○
1	705021	調理学	2	講義	必修	●					●			NH	フード必/食育必	○	○
1	705022	調理学実習	2	実験・実習	必修	●			●					NH	フード必/食育必	○	○
2	705023	食品衛生学	2	講義	必修	●					●			NH	フード必/衛必/健食必	○	○
2	705024	食品衛生学実験	1	実験・実習	必修	●			●					NH	衛必/健食必	○	○
3	705025	応用調理学実習	2	実験・実習	選択	●					●			NH			
1	705026	食生活論	2	講義	選択	●							●	NH	フード必		
2	705027	食品の流通と消費	2	講義	選択	●	●							NH	フード必		
3	705028	フードコーディネーター論	2	講義	選択	●			●					NH	フード必		
3	705029	健康食品学	2	講義	選択	●		●						NH	健食必		
専門分野																	
基礎栄養学																	
2	706000	基礎栄養学Ⅰ	2	講義	必修	●		●						NC	社福選/フード必/衛必	○	○
2	706001	基礎栄養学Ⅱ	2	講義	必修	●		●						NC	社福選/フード必/衛必	○	○
2	706002	基礎栄養学実験	1	実験・実習	必修	●		●						NC	衛必	○	○
4	706003	外書講読	2	講義	選択	●	●							NC			
応用栄養学																	
2	706004	応用栄養学Ⅰ	2	講義	必修	●						●		NM	衛必	○	○
2	706005	応用栄養学Ⅱ	2	講義	選択	●					●			NM		○	
2	706006	応用栄養学実習	1	実験・実習	選択	●						●		NM		○	
4	706007	介護食概論(実習含む)	2	演習	選択	●					●			NM	△		
4	706008	スポーツ栄養学	2	講義	選択	●		●						NM	健運必	○	
栄養教育論																	
2	706009	栄養教育論Ⅰ	2	講義	必修	●					●			NM		○	○
2	706010	栄養教育論Ⅱ	2	講義	必修	●					●			NM		○	○
3	706011	栄養カウンセリング論	2	講義	選択	●			●					NM		○	
3	706012	栄養教育論実習	1	実験・実習	必修	●				●				NM		○	○
臨床栄養学																	
2	706013	臨床栄養学総論	2	講義	必修	●				●				NM	健食必	○	○
3	706014	臨床栄養学各論Ⅰ	2	講義	選択	●	●							NM	健食必	○	
3	706015	臨床栄養学各論Ⅱ	2	講義	選択	●				●				NM	健食必	○	
3	706016	栄養アセスメント	2	講義	選択	●		●						NM		○	
3	706017	臨床栄養学実習	2	実験・実習	必修	●			●					NM		○	○
4	706018	医療事務総論	2	講義	選択	●					●			NM	△		

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学科

食環境学部
食イノベーション学科

管理栄養学部
管理栄養学科

資格専門科目

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (食環境学部 管理栄養学科)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修 選択別	ディプロマ・ポリシー (「10のうちから」)との関係										カリキュラム・ツリーの位置づけ	他履修	備考	簡 単 栄 養 士	栄 養 士	
						DP I	DP II	DP III							倫 理 性 と 自 律 力						地 域 貢 献 力
						教 養 力	専 門 力	情 報 収 集 ・ 分 析 力	論 理 的 思 考 ・ 表 現 力	コ ミュ ニ ケー ション 力	問 題 解 決 力	自 己 理 解 力	主 体 的 行 動 力								
公衆栄養学																					
2	706019	公衆栄養学 I	2	講義	必修	●									●	NM	衛必	○	○		
3	706020	公衆栄養学 II	2	講義	選択	●									●	NM	衛必	○	○		
3	706021	公衆栄養学実習	1	実験・実習	選択	●									●	NM		○	○		
給食経営管理論																					
2	706022	給食経営管理論 I	2	講義	必修	●								●		NH		○	○		
2	706023	給食経営管理論 II	2	講義	必修	●								●		NH		○	○		
3	706024	給食経営管理論実習	2	実験・実習	必修	●				●						NH		○	○		
総合演習																					
3	706025	管理栄養士演習 I	1	演習	選択	●									●	NM		○			
4	706026	管理栄養士演習 II	1	演習	選択	●			●							NM		○			
臨地実習																					
4	706027	給食経営管理臨地実習 I (含給食の運営)	1	実験・実習	選択	●								●		NM		○	○		
4	706028	給食経営管理臨地実習 II	1	実験・実習	選択	●								●		NM		○			
4	706029	臨床栄養臨地実習	1	実験・実習	選択	●								●		NM		○			
3	706030	公衆栄養臨地実習	1	実験・実習	選択	●								●		NM		○			
演習科目																					
3	707000	専門演習	2	演習	必修	●								●		NM					
4	707001	卒業演習 I	2	演習	必修	●								●		NM					
4	707002	卒業演習 II	2	演習	必修	●								●		NM					
4	707003	卒業研究	4	演習	選択	●									●	NM					
4	707004	管理栄養士総合演習	4	演習	選択	●				●						NM					

教育課程について

基礎教育科目

リベラル
アーツ
学部

総合
心理
学部

食環境
学部
食イノベーション
学科

食環境
学部
管理栄養
学科

資格
専門
科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 カリキュラム・ツリー(食環境学部 管理栄養学科)

ディプロマ・ポリシー	幅広い一般的知識・教養を身につけ、かつ社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解できること。										食と栄養に関する幅広い		
カリキュラム・ポリシー	基盤教育科目										管理栄養学科専門科目		
カリキュラム・ポリシーの 詳細 (具体化)	社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会の課題を理解して自分自身のデザインにつながる。幅広い教養を身につけさせるための科目群			グローバル社会、高度情報化社会を生きていくうえで必要な基本的技能を身につけさせるための科目群			学びの基礎的・自立に向けて必要な知識・技能を身につけさせるとともに、地域社会とのかかわり等から社会や人間のもつ課題を理解し、専門の学びを経て社会的・職業的自立へと向かう準備を行わせるための科目群		社会教育等の資格の基礎となる知識を身につけさせるとともに、社会の課題を理解させるための科目群		傷病者の健康管理や現代社会に		
カリキュラム上の科目の目的・役割	先人たちがたどった知の道のり、築いてきたものを理解する	我々が生きる世界と今を読み解く	未来を見通し、自分自身をデザインする	英語など母語以外の言語で基本的なコミュニケーションを行う技能を身につけるとともに、社会や文化の多様性を理解する	情報機器を操作し、諸問題にICTを活用できる基本的な技能を身につける	大学における学びに必要な基礎的・専門的知識を身につけるとともに、専門の学びへの準備を行う	地域社会とのかかわりや知と向き合う読書活動から、社会や人間のもつ課題を理解する	社会的・職業的自立を果たすために必要な知識・技能の基礎を身につける			各分野で学習した知識・技術を統合し、総合的な判断ができるようになる	栄養管理を行うために必要とされる知識および技術を身につける	
4年次	秋学期										卒業演習Ⅱ	給食経営管理実地実習Ⅰ 給食経営管理実地実習Ⅱ 臨床栄養実地実習	
	8										卒業研究		
	春学期										卒業演習Ⅰ	給食経営管理実地実習Ⅰ (各給食の運営) 給食経営管理実地実習Ⅱ 臨床栄養実地実習	
	7										卒業研究		
3年次	秋学期								インターンシップA インターンシップB		専門演習	公衆栄養実地実習	
	6												
	春学期				データサイエンスA実習			インターンシップA インターンシップB	レクリエーション実習			公衆栄養実地実習	
	5												
2年次	秋学期		生涯スポーツ実習B	総合英語Ⅱ2 実践コミュニケーション英語Ⅱ フランスのことばと文化Ⅱ 中国のことばと文化Ⅱ 韓国のことばと文化Ⅱ		基礎演習Ⅳ		キャリアデザインⅣ プロジェクト型キャリア研究	博物館経営論 生涯学習概論Ⅱ レクリエーション実技				
	4												
	春学期	伝統文化演習	データリテラシー 社会と言語	生涯スポーツ実習A	総合英語Ⅱ1 実践コミュニケーション英語Ⅰ フランスのことばと文化Ⅰ 中国のことばと文化Ⅰ 韓国のことばと文化Ⅰ	情報活用B	基礎演習Ⅲ	カレッジコミュニティⅡ 読書演習	数理リテラシー キャリアデザインⅢ プロジェクト型キャリア研究	博物館概論 生涯学習概論Ⅰ レクリエーション概論			
	3												
1年次	秋学期				総合英語Ⅱ2 実践コミュニケーション英語Ⅱ 資格英語Ⅱ	情報活用基礎B 情報活用A プログラミング言語Ⅱ データサイエンスA概論	基礎演習Ⅱ		キャリアデザインⅡ ホスピタリティ入門	図書館情報資源概論			
	2	思想の世界 日本の歴史 民族と文化 ことばの世界	日本の憲法 くらしと法律 現代社会を考える 東アジアを知る 人権を考える 平和を考える メディアを考える	科学と倫理 ソーシャルメディア論 先端技術と文化 健康を管理する									
	春学期	日本語を知る 教養としての日本文化 西洋の文化を考える 子どもの文化 芸術を鑑賞する	情報リテラシー 心理学 くらしと化学 生物を知る	書いて学ぶ文芸 描いて学ぶアート 健康とスポーツA 健康とスポーツB 教育を考える	総合英語Ⅱ1 実践コミュニケーション英語Ⅰ 資格英語Ⅰ	情報活用基礎A プログラミング言語Ⅰ	基礎演習Ⅰ 日本語表現法	カレッジコミュニティⅠ キャリアデザインⅠ	図書館概論				
	1												
カリキュラム・ツリー上の位置づけ	1			2		3		1		7		6	
	BA			BS		BC		CZ		NM			

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

Ⅲ. 教育課程について

カリキュラム・ツリーはカリキュラムの体系性を示すためのモデルです。年度によって開講時期が変わる場合があります。

知識を基に、健康管理や栄養ケアなどの栄養・食生活の課題を創造的に対応し解決する専門職業人に必要な専門的知識・技能を有すること。										
知識を基に、健康管理や栄養ケアなどの栄養・食生活の課題を創造的に対応し解決する専門職業人に必要な専門的知識・技能を身につけさせるため、学科専門分野科目、専門分野科目および演習科目を開設する										
おける人々の栄養ケアに必要な実践的スキルを修得させるための科目群					食と健康の関連について理解させるための科目群		食に関わる分野およびコメディカル領域の基礎を理解させるための科目群			
栄養管理の実践を想定し、対象の栄養状態とその生活背景を総合的に評価できる力を身につける	疾病の原因、病態、症状、症候について人体の構造と機能に関連づけて理解し、病態に応じた栄養管理を実践する力を身につける	地域・職域の栄養課題に適切に対応する知識を身につける	栄養教育の意義や目的を理解し、行動変容モデルを用いた栄養教育を展開する力を身につける	栄養管理を遂行するための基本的事項やライフステージ別の栄養管理について理解する	食環境整備による利用者への栄養介入としての給食を理解する	健康を支える食事の実践の基本的な食生活と健康の関連、食事と調理の科学について理解する	栄養と健康の関わりを理解する	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	健康増進、疾病予防の重要性を理解し、取り組み、課題、今後の展望について考察できる	学科専門科目を学ぶための基礎を理解する
管理栄養士演習Ⅱ 管理栄養士総合演習										
管理栄養士演習Ⅱ 管理栄養士総合演習	医療事務総論			スポーツ栄養学 介護食概論(実習含む)			外書講読			
管理栄養士演習Ⅰ 管理栄養士総合演習	臨床栄養学各論Ⅱ 栄養アセスメント 臨床栄養学実習	公衆栄養学実習				フードコーディネーター論 健康食品学		微生物学実験 疾病論 薬理学		
管理栄養士演習Ⅰ	臨床栄養学各論Ⅰ	公衆栄養学Ⅱ	栄養カウンセリング論 栄養教育論実習		給食経営管理論実習	応用調理学実習		微生物学	社会福祉論	
		公衆栄養学Ⅰ	栄養教育論Ⅱ	応用栄養学Ⅱ 応用栄養学実習	給食経営管理論Ⅱ	食品の流通と消費	基礎栄養学Ⅱ 基礎栄養学実験	生化学実験	公衆衛生学Ⅱ 公衆衛生学実習	
	臨床栄養学総論		栄養教育論Ⅰ	応用栄養学Ⅰ	給食経営管理論Ⅰ	食品加工学実習 食品衛生学 食品衛生学実験	基礎栄養学Ⅰ	病理学Ⅱ	生涯スポーツ論 公衆衛生学Ⅰ	
						調理学実習 食品加工学		生化学 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学実験 病理学Ⅰ 運動生理学		健康医科学
						食品学 食品学実験 調理学 食生活論		解剖生理学Ⅰ		食のための化学
5	4	3	2	1	2	1	4	3	2	1
NM					NH		NC			

教育課程について

基礎教育科目

リベラルアーツ学部

総合心理学部

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

資格專門科目

Ⅲ. 教育課程について

2024年度入学生 教育課程表／カリキュラム・マップ (資格専門科目)

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	講義区分	必修選択の別	ディプロマ・ポリシー (10のちから) との関係											備考
						DP I		DP II		DP III							
						教養力	専門力	情報収集・分析力	論理的思考・表現力	コミュニケーション力	問題解決力	自己理解力	主体的行動力	倫理性と自律力	地域貢献力		
資格専門科目																	
図書館司書課程																	
2	258100	図書館制度・経営論	2	講義	自由	●									●	司必	
2	258101	図書館情報技術論	2	講義	自由	●		●								司必	
1	258102	図書館サービス概論	2	講義	自由	●			●							司必	
2	258103	情報サービス論	2	講義	自由	●				●						司必	
2	258104	児童サービス論	2	講義	自由	●									●	司必	
3	258105	情報サービス演習 I	1	演習	自由	●		●								司必	
3	258106	情報サービス演習 II	1	演習	自由	●		●								司必	
3	258107	情報資源組織論	2	講義	自由	●			●							司必	
4	258108	情報資源組織論演習 I	1	演習	自由	●			●							司必	
4	258109	情報資源組織論演習 II	1	演習	自由	●			●							司必	
2	258110	図書館基礎特論	2	講義	自由	●									●	司選	
2	258111	図書館サービス特論	2	講義	自由	●									●	司選	
2	258112	図書館情報資源特論	2	講義	自由	●									●	司選	
1	258113	図書・図書館史	2	講義	自由	●									●	司選	
2	258114	図書館施設論	2	講義	自由	●									●	司選	
3	258115	図書館総合演習	1	演習	自由	●							●			司選	
4	258116	図書館実習	1	実験・実習	自由	●									●	司選	
博物館学芸員課程																	
2	258200	博物館資料論	2	講義	自由	●					●					学必	
3	258201	博物館資料保存論	2	講義	自由	●		●								学必	
3	258202	博物館展示論	2	講義	自由	●			●							学必	
3	258203	博物館教育論	2	講義	自由	●									●	学必、社教選	
3	258204	博物館情報・メディア論	2	講義	自由	●		●								学必	
4	258205	博物館実習 I	1	実験・実習	自由	●							●			学必	
4	258206	博物館実習 II	2	実験・実習	自由	●							●			学必	

・資格の取得要件・注意事項については、次項「Ⅳ、資格課程について」を参照のこと。

教育課程について

基盤教育科目

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

総合心理学部
総合心理学科

食環境学部
食イノベーション学科

食環境学部
管理栄養学科

資格専門科目

IV. 資格課程について

資格取得について

大学教育の目的の一つには、現代的教養を有する社会人の育成と専門的職業人の養成があり、本学ではそのために、在学中にいくつかの資格が取得できるように教育課程を編成しています。

新たな時代の担い手となる学生が、学部教育の中で幅広い教養と現代的な専門性を磨き、その基礎の上に立って将来の進路をも考慮した資格取得に挑むことを期待しています。

2024年度入学生

取得できる資格		リベラル アーツ 学部	総合心理 学部	食環境学部		必要な費用の有無		
		リベラル アーツ 学科	総合心理 学科	食イノベー ション学科	管理栄養 学科	実習費	交通費・ 検査費等	受験料・ 申請料等
1	博物館学芸員	○	○			○	○	
2	図書館司書	○	○					
3	レクリエーション・ インストラクター資格	○	○	○	○		○	○
4	社会福祉主事任用資格	○	○	○	○			
5	社会教育士・社会教育主事任用資格	○	○			○	○	
6	公認心理師国家試験 受験資格 (大学指定科目)		○				○	(在学中は 不要)
7	認定心理士/ 認定心理士(心理調査) 資格		○					○
8	児童指導員任用資格		○					
9	児童福祉司任用資格		○					
10	栄養士資格			○	○		○	○
11	管理栄養士国家試験 受験資格				○		○	○
12	食品衛生管理者および 食品衛生監視員任用資格				○			○
13	フードスペシャリスト 受験資格			○	○			○
14	健康運動実践指導者 受験資格			○	○			○
15	食育インストラクター資格3級 受験資格			○	○			○
16	健康食品管理士 受験資格				○			○

※別途必要となる費用の詳細については、各資格の頁を参照してください。



履修登録の際に、履修申請画面にある「資格入力」から取得を希望する資格をすべて登録してください。(詳細は『履修ガイド・時間割表』参照)

1. 博物館学芸員

1. 概要

博物館学芸員とは、「博物館法」に定められた専門的職員で、博物館資料の収集・整理、保管・保存、展示、調査研究、教育普及活動等、博物館資料と関連する事業に従事します。

【学芸員になるには】

博物館等で任用されなければなりません。採用方法等については、各博物館にお問い合わせください。

2. 取得要件

所定の単位を修得すること。

3. 交付

取得要件を満たした者には、卒業時に博物館学芸員の資格認定証（本学様式）が授与されます。

4. 必要な費用

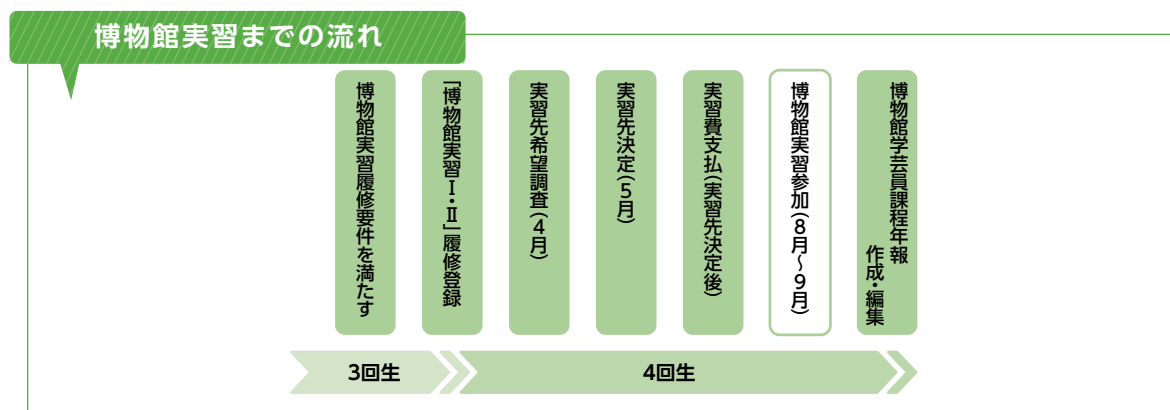
博物館実習費 5,000 円が必要です。また、実習先に応じて、往復交通費、教材費、入館料等が別途必要となります。

（実習費等に変更が生じる場合は授業で案内します。）

5. 博物館実習

「博物館実習」は、授業科目（「博物館実習」）の履修と博物館での実習を行い、合格することにより単位が与えられます。学芸員として必要な知識・技術等を修得するため、学内実習（週 1 回）のほか、博物館施設等での館園実習（夏季休業期間を中心に 4～6 日間）・見学実習を行います。この他、本学収蔵資料の整理、『博物館学芸員課程年報』の作成実習を行います。博物館実習に関する手続きや実習日の支払期日等についてはポータルを通してお知らせしますので、注意してください。

「博物館実習」の履修には、原則として、「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」を含む博物館学芸員資格のための必修専門科目を 3 科目以上修得していることが条件です。



博物館学芸員専門科目

■リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 2024年度入学生

■総合心理学部 総合心理学科 2024年度入学生

省令科目		配当年次	学則科目コード	本学開設科目	単位	必修 選択の別	科目 種別	備 考
科目名	単位							
生涯学習概論	2	2	256301	生涯学習概論Ⅱ ①	2	必修	基盤	
博物館概論	2	2	256200	博物館概論	2	必修	基盤	
博物館経営論	2	2	256201	博物館経営論	2	必修	基盤	
博物館資料論	2	2	258200	※博物館資料論	2	必修		
博物館資料保存論	2	3	258201	※博物館資料保存論	2	必修		
博物館展示論	2	3	258202	※博物館展示論	2	必修		
博物館教育論	2	3	258203	※博物館教育論	2	必修		
博物館情報・メディア論	2	3	258204	※博物館情報・メディア論	2	必修		
博物館実習	3	4	258205	※博物館実習Ⅰ ②	1	必修		
		4	258206	※博物館実習Ⅱ ②③	2	必修		
文化史		1	251005	教養としての日本文化	2	選択	基盤	2 区分以上にわたり 4 科目 8 単位修得すること
		1	251006	西洋の文化を考える	2	選択	基盤	
		1	150003	現代文化論	2	選択	L 専門	
		1	151023	現地講義 (日本学)	2	選択	L 専門	
		1	151026	日本文化史	2	選択	L 専門	
考古学・民俗学		2	151027	日本伝統文化	2	選択	L 専門	
		1	251002	民族と文化	2	選択	基盤	
		1	251203	東アジアを知る	2	選択	基盤	
		2	601021	文化人類学Ⅰ	2	選択	H 専門	
美術史		2	601022	文化人類学Ⅱ	2	選択	H 専門	
		1	251008	芸術を鑑賞する	2	選択	基盤	
		2	151612	イメージ創造論	2	選択	L 専門	
		2	151608	現代アート論	2	選択	L 専門	

- ①「生涯学習概論Ⅱ」は、図書館司書専門科目・社会教育主事任用資格の「生涯学習概論Ⅱ」としても認定する。
- ②「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」の履修は、「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」の単位を修得していることが条件である。
- ③「博物館実習Ⅱ」の履修は、「博物館実習Ⅰ」の単位を修得していることが条件である。
 - ・※印は、資格専門科目であり、卒業単位には算入されない。
 - ・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修 10 科目 19 単位、選択 4 科目 8 単位以上、合計 14 科目 27 単位以上
---------	--

2. 図書館司書

1. 概要

図書館司書とは、「図書館法」に定められた専門的職員で、都道府県や市町村の公共図書館で図書資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務等に従事します。また公共図書館以外に、学校図書館、大学図書館、専門図書館等でも図書館司書資格保持者が多く働いています。資料の収集、組織化、貸出し、レファレンスサービスなど図書館司書の仕事の領域は広く、高度情報化時代の今日、デジタル資料・ネットワーク情報資源への対応やオンライン情報サービスの提供など、あらたな資料・情報に適応した業務も急速に増大しつつあります。

【図書館司書になるには】

公共図書館に正規の専門的職員として勤務するには、各地方公共団体が実施する採用試験に合格する必要があります。

2. 取得要件

所定の単位を修得すること。

3. 交付

取得要件を満たした者には、卒業時に図書館司書の資格認定証（本学様式）が授与されます。

図書館司書専門科目

- リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 2024年度入学生
- 総合心理学部 総合心理学科 2024年度入学生

省令科目		配当年次	学則科目コード	本学開設科目	単位	必修選択の別	科目種別	備考
科目名	単位							
生涯学習概論	2	2	256301	生涯学習概論Ⅱ ①	2	必修	基盤	
図書館概論	2	1	256100	図書館概論	2	必修	基盤	
図書館制度・経営論	2	2	258100	※図書館制度・経営論	2	必修		
図書館情報技術論	2	2	258101	※図書館情報技術論	2	必修		
図書館サービス概論	2	1	258102	※図書館サービス概論	2	必修		
情報サービス論	2	2	258103	※情報サービス論	2	必修		
児童サービス論	2	2	258104	※児童サービス論	2	必修		
情報サービス演習	2	3	258105	※情報サービス演習Ⅰ	1	必修		
		3	258106	※情報サービス演習Ⅱ	1	必修		
図書館情報資源概論	2	1	256101	図書館情報資源概論	2	必修	基盤	
情報資源組織論	2	3	258107	※情報資源組織論	2	必修		
情報資源組織演習	2	4	258108	※情報資源組織論演習Ⅰ	1	必修		
		4	258109	※情報資源組織論演習Ⅱ	1	必修		
図書館基礎特論	1	2	258110	※図書館基礎特論	2	選択		2科目4単位以上 修得すること
図書館サービス特論	1	2	258111	※図書館サービス特論	2	選択		
図書館情報資源特論	1	2	258112	※図書館情報資源特論	2	選択		
図書・図書館史	1	1	258113	※図書・図書館史	2	選択		
図書館施設論	1	2	258114	※図書館施設論	2	選択		
図書館総合演習	1	3	258115	※図書館総合演習	1	選択		
図書館実習	1	4	258116	※図書館実習	1	選択		

- ・①「生涯学習概論Ⅱ」は、博物館学芸員専門科目・社会教育主事任用資格に関する授業科目の「生涯学習概論Ⅱ」としても認定する。
- ・※印は、資格専門科目であり、卒業単位には算入されない。
- ・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修 13 科目 22 単位、選択 2 科目 4 単位以上、合計 15 科目 26 単位以上
---------	--

3. レクリエーション・インストラクター資格

1. 概要

レクリエーション・インストラクターとは、公益財団法人日本レクリエーション協会が認定する指導者資格で、レクリエーションに関する理論や技能を身につけ、対象者や目的に合わせてレクリエーションを企画・実践します。必要な専門知識と指導法、さまざまな遊びのメニューと技術を持ち、人と人との楽しい交流促進や、楽しさの体験に主眼をおいた技術を多くの人々に提供する人材として認定されます。

2. 取得要件

所定の単位を修得し、3・4回生の12月頃に申請手続きを行う必要があります。

3. 交付

申請手続きを行った場合、(公財)日本レクリエーション協会より認定証が授与されます。
(<http://www.recreation.or.jp/>)

4. 必要な費用

現場実習にあたっては、実習先に応じて、別途交通費等が必要となります。

レクリエーション・インストラクターの登録申請には、登録料 16,000 円 (税別) が必要です (2023 年度参考)。また、2 年ごとに更新料として 11,000 円 (税別) を支払う必要があります。

5. レクリエーション現場実習

「レクリエーション現場実習」では、レクリエーション・インストラクターの役割やイベント運営の役割を学ぶため、学外の施設や団体においてレクリエーション領域のプログラムやイベント運営の体験実習を行います。

「レクリエーション現場実習」の履修には、「レクリエーション概論」「レクリエーション実技」を修得しておくことが望ましいです。

レクリエーション・インストラクター資格

■全学部全学科 2024年度入学生

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考
2	256500	レクリエーション概論	2	必修	基盤	
2	256501	レクリエーション実技	1	必修	基盤	
3	256502	レクリエーション現場実習	1	必修	基盤	
2	251408	生涯スポーツ実習 A	1	必修	基盤	
2	251409	生涯スポーツ実習 B	1	必修	基盤	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修 5 科目 6 単位
---------	--------------

4. 社会福祉主事任用資格

1. 概要

社会福祉主事とは、福祉事務所などの行政機関において、福祉ニーズをもった人々の相談・保護・指導などを業務とする人のことです。この資格は任用資格であり、福祉関係諸法の規定により、児童指導員、生活指導員、生活相談員などの任用基礎資格でもあります。

【任用資格とは】

国家公務員や地方公務員に採用された後に、特定の業務に任用されるとき必要となる資格のことです。

2. 取得要件

下記の所定の単位のうち、指定科目 3 科目以上の単位を修得して卒業することによって、任用資格を得ることができます。

3. 交付

3 科目以上の単位を修得したことを証する書類は、大学から発行する卒業証明書と成績証明書の 2 点をもって扱います。ただし、採用の際に「社会福祉主事任用資格単位取得証明書」が必要な場合は、教学課で発行することができますので、申し出てください。

社会福祉主事任用資格に関する授業科目

■全学部全学科 2024年度入学生

指 定 科 目	配当 年次	学則科目コード	本学開設科目	単 位	必修 選択 の別	科目 種別	備 考
心理学	1	251208	心理学	2	選択	基盤	
社会福祉概論	2	601204	社会福祉原論Ⅰ	4	選択	H 専門	2 科目とも修得すること
	2	601205	社会福祉原論Ⅱ		選択	H 専門	
	F2/N3	701001/705003	社会福祉論	2	選択	F/N 専門	
社会保障論	2	601202	社会保障論	2	選択	H 専門	
公的扶助論	2	601203	公的扶助論	2	選択	H 専門	
精神障害者保健福祉論	3	602208	精神保健	2	選択	H 専門	
公衆衛生学	1	600007	公衆衛生学	2	選択	H 専門	
	2	701000	公衆衛生学Ⅰ	2	選択	F 専門	1 科目を修得すること
	2	705000	公衆衛生学Ⅰ	4	選択	N 専門	2 科目とも修得すること
	2	705001	公衆衛生学Ⅱ		選択	N 専門	
栄養学	2	601200	栄養学	2	選択	H 専門	
	2	701013/706000	基礎栄養学Ⅰ	4	選択	F/N 専門	2 科目とも修得すること
	2	701014/706001	基礎栄養学Ⅱ		選択	F/N 専門	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	上記厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する指定科目を 3 科目以上
---------	-----------------------------------

5. 社会教育士・社会教育主事任用資格

1. 概要

社会教育士は、都道府県および市町村のみならず、NPO や企業などと連携して社会教育活動を担う人材に与えられる称号です。主として、地域における人々の学びの支援やネットワークづくりを通して、人づくりや地域づくりを促進する役割を担います。

社会教育主事は、都道府県および市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言、指導にあたる役割を担います。

職務の例としては

- ①教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画、立案、実施
- ②管内の社会教育施設（公民館など）が主催する事業に対する指導、助言
- ③社会教育関係団体の活動に対する助言、指導
- ④管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画、実施

など、その業務は多岐にわたっています。

生涯学習の必要性が叫ばれている昨今、地域住民の多様な学習要求に応じえる社会教育士・社会教育主事の仕事は、今後ますます重要になってきます。また、生涯学習に関わる活動は公の社会教育施設以外でも広く行われていることから、今後そうした場でも本資格による知見を生かしていくことが期待されています。

【任用資格とは】

国家公務員や地方公務員に採用された後に、特定の業務に任用されるとき必要となる資格のことです。

2. 取得要件

社会教育士：次の頁の所定の単位を修得して卒業することによって、「社会教育士（養成課程）」を称することができます。

社会教育主事：次の頁の所定の単位を修得して卒業することによって、任用資格を得ることができます。

3. 交付

次の頁に定める科目の単位を修得した者には、卒業時に社会教育主事（任用資格）および社会教育士に関する単位修得証明書が交付されます。

4. 必要な費用

社会教育実習にあたっては、実習先に応じて、別途実習費、往復交通費等が必要となります。

IV. 資格課程について

社会教育士・社会教育主事任用資格に関する授業科目

- リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 2024年度入学生
- 総合心理学部 総合心理学科 2024年度入学生

省令科目	配当年次	学則科目コード	本学開設科目	単位	必修 選択 の別	科目 種別	備 考
生涯学習概論	2	256300	生涯学習概論Ⅰ	2	必修	基盤	
	2	256301	生涯学習概論Ⅱ	2	必修	基盤	
社会教育経営論	2	601211	社会教育経営論Ⅰ	2	必修	H専門	L履修可
	2	601212	社会教育経営論Ⅱ ①	2	必修	H専門	L履修可
社会教育演習 社会教育実習 社会教育課題研究	3	602211	社会教育課題研究 ②	2	必修	H専門	L履修可
	4	602214	社会教育演習 ③	1	必修	H専門	L履修可
	4	602215	社会教育実習 ③	1	必修	H専門	L履修可
生涯学習支援論	3	602209	生涯学習支援論Ⅰ	2	必修	H専門	L履修可
	3	602210	生涯学習支援論Ⅱ ④	2	必修	H専門	L履修可
社会教育特講	1	251000	思想の世界	2	選択	基盤	
	1	251202	現代社会を考える	2	選択	基盤	
	1	251204	人権を考える	2	選択	基盤	
	1	251410	教育を考える	2	選択	基盤	
	1	256100	図書館概論	2	選択	基盤	
	1	256101	図書館情報資源概論	2	選択	基盤	
	1	150005	異文化理解論	2	選択	L専門	
	2	256200	博物館概論	2	選択	基盤	
	2	256201	博物館経営論	2	選択	基盤	
	2	256500	レクリエーション概論	2	選択	基盤	
	2	601019	地域援助論Ⅰ	2	選択	H専門	4科目8単位以上修得 すること
	2	601020	地域援助論Ⅱ	2	選択	H専門	
	2	601201/705004	生涯スポーツ論	2	選択	H/N専門	
	2	601204	社会福祉原論Ⅰ	2	選択	H専門	
	2	601205	社会福祉原論Ⅱ	2	選択	H専門	
	3	258203	※博物館教育論	2	選択	資格	
	3	602013	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	選択	H専門	
3	602014	社会・集団・家族心理学Ⅱ	2	選択	H専門		
3	602200	障害者・障害児心理学Ⅰ	2	選択	H専門		
3	602201	障害者・障害児心理学Ⅱ	2	選択	H専門		

- ・①「社会教育経営論Ⅱ」を履修するためには、原則「社会教育経営論Ⅰ」を修得していなければならない。
- ・②「社会教育課題研究」を履修するためには、原則「生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ」「社会教育経営論Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない。
- ・③「社会教育演習」「社会教育実習」を履修するためには、原則「社会教育課題研究」「生涯学習支援論Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない。
- ・④「生涯学習支援論Ⅱ」を履修するためには、原則「生涯学習支援論Ⅰ」を修得していなければならない。
- ・※印は、資格専門科目であり、卒業単位には算入されない。
- ・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修9科目16単位、選択4科目8単位以上、合計13科目24単位以上
---------	-----------------------------------

6. 公認心理師国家試験 受験資格（大学指定科目）

1. 概要

公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者を指します。公認心理師法では、業務について以下のように記載されています。

- ① 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- ② 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- ③ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- ④ 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

2. 取得要件

公認心理師の資格を得るためには、以下のいずれかの受験資格を持ち、「公認心理師国家試験」に合格しなければなりません。本学では①に則った教育支援を行います。

- ① 大学において心理学等に関する所定の科目を修め、かつ、大学院において心理学等の所定の科目を修めてその課程を修了した者等
- ② 大学で心理学等に関する所定の科目を修め、卒業後、所定の施設において一定期間の実務経験を積んだ者等
- ③ 主務大臣が①及び②に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認められた者

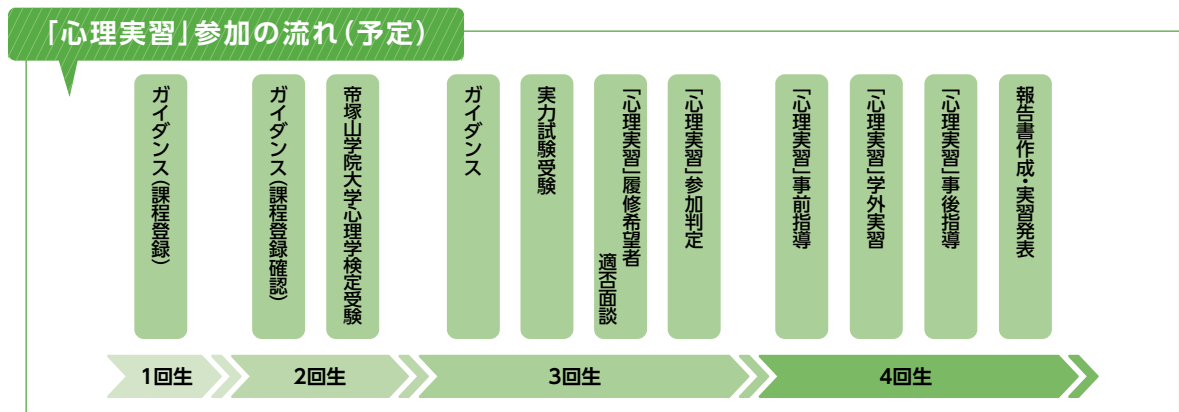
3. 公認心理師科目「心理実習」について

○ 「心理実習」について（概要と履修条件）

4回生配当科目の「心理実習（臨床心理現場実習）Ⅰ・Ⅱ」では、医療・教育・福祉等、各領域で、公認心理師が実際に働くことになる学外の臨床現場での実習を行います。本学の実習では単なる見学以外にも、子どもから大人まで、実際に心理的支援を要する人たちに関わります。そのためには3回生までに実践的な知識・技能・態度を身につけている必要があり、この実習を受けるにあたっては選抜を行います。また学外実習の事前事後には、学内での振り返り機会を用いて発表し理解を深めます。

「心理実習」の履修条件は、3回生までの公認心理師カリキュラム科目の成績や実力試験・面談によります。詳しくは毎学期のガイダンス時に行われる公認心理師ガイダンスにて説明しますので、必ず出席してください。

IV. 資格課程について



Point!



年 2 回行われる公認心理師ガイダンスには必ず出席してください。

4. 交付

大学および大学院で受験資格を取得後、大学および大学院で発行される「卒業証明書・科目履修証明書」「修了証明書・科目履修証明書」等を添付のうえ、国家試験を受験し、それに合格すると公認心理師資格を得ることができます。

5. 必要な費用

心理実習にあたっては、実習先に応じて、別途交通費、抗体検査、ワクチン接種費用等が必要となります。

また、国家試験の受験、合格後の登録には以下の費用が必要になります。

- ・公認心理師国家試験 受験手数料：28,700 円（2023 年度参考）
- ・公認心理師簿 登録手数料：7,200 円 登録免許税 15,000 円（2023 年度参考）

6. その他

公認心理師は 2018 年 9 月 9 日に第一回国家試験があり、2018 年度に第一号が誕生しました。

上記 1～6 の内容については、厚生労働省ホームページ内に掲載されている「公認心理師法概要」「公認心理師法施行令」「公認心理師法施行規則」、その他通知等より引用しています。最新の情報については、厚生労働省の公認心理師ページを参照してください。

公認心理師国家試験 受験資格 (大学指定科目)

■総合心理学部 総合心理学科 2024年度入学生

	省令科目名	配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考		
I	心理学基礎科目	①	602020	公認心理師の職責	2	必修	H 専門			
		②	600002	心理学概論 I	2	必修	H 専門			
		③	601006	臨床心理学概論 I	2	必修	H 専門			
		④	601004	心理学研究法	4	必修	H 専門			
		⑤	601003	心理学統計法 II	2	必修	H 専門	2023年度入学生より		
		⑥	601000	心理学実験	2	必修	H 専門			
II	心理学の基本的理論に関する科目	⑦	602011	知覚・認知心理学	2	必修	H 専門			
		⑧	601013	学習・言語心理学	2	必修	H 専門			
		⑨	601008	感情・人格心理学 I	2	必修	H 専門			
		⑩	602010	神経・生理心理学	2	必修	H 専門			
		⑪	602013	社会・集団・家族心理学 I	2	必修	H 専門			
		⑫	601010	発達心理学 I	2	必修	H 専門			
		⑬	602200	障害者・障害児心理学 I	2	必修	H 専門			
		III	心理状態の観察及び分析並びに心理に関する相談、助言、指導その他の援助等についての基本的理論及び実践に関する科目	⑭	601005	心理的アセスメント	4	必修	H 専門	
				⑮	602001	心理学的支援法 A	2	必修	H 専門	
				⑲	602000	心理演習 (臨床心理学演習)	2	必修	H 専門	
⑳	602022			心理実習 (臨床心理学現場実習) I	1	必修	H 専門			
IV	主な職域における心理学に関する科目	⑯	601017	健康・医療心理学 II	2	必修	H 専門			
		⑰	602207	福祉心理学	2	必修	H 専門			
		⑱	601012	教育・学校心理学	2	必修	H 専門			
		㉑	602006	司法・犯罪心理学	2	必修	H 専門			
		㉒	602012	産業・組織心理学	2	必修	H 専門			
		V	心理学関連科目	㉓	601018	人体の構造と機能及び疾病	2	必修	H 専門	
㉔	602008			精神疾患とその治療	2	必修	H 専門			
㉕	602021			関係行政論	2	必修	H 専門			

- ・公認心理師ガイダンスには必ず出席すること。
- ・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

受験資格要件	必修 26 科目 54 単位
--------	----------------

7. 認定心理士／認定心理士（心理調査）資格

1. 概要

正式には「公益社団法人日本心理学会認定心理士」という資格です。4年制大学における心理学科、または心理学関連専攻の学科を卒業した者（それと同等の学力を有すると認められた者）を対象に、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要最低限の標準的、基礎的学力と技能を獲得していると認定された者に対して与えられる資格です。この資格を認定された者は「認定心理士」と呼ばれます。この資格は日本心理学会の会員に限らず、広く心理学関係者を対象とした心理学関係の資格の中で最も一般的なもので、将来は一層特殊な経験や訓練を要求される資格（例えば、臨床心理士など）の取得に際して、十分な基礎条件となることが期待されています。

【認定心理士とは】

「認定心理士」とは、正式には「公益社団法人日本心理学会認定心理士」（英文名：JPA Certified Psychologist）という資格の敬称です。

認定心理士の資格は一言でいえば「心理学」のミニマムエッセンスを習得しているか否かを認定するものであり、臨床心理士その他のいわゆる職能的な資格とは性質の異なるものです。ミニマムエッセンスを習得している人、ということの意味は、この資格がいわゆる「基礎資格」であるということです。具体的に言えば、「4年制大学における心理学科またはそれに準ずる課程を修了した人（ないしは、それと同等の学力を有すると認められた人）を対象に、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要な最小限の標準的、基礎的学力と技能を習得していると認定された人に対して与えられる資格」です。

※「認定心理士資格申請の手引き」

（発行 / 公益社団法人日本心理学会 <https://www.psych.or.jp/>）

【認定心理士（心理調査）とは】

心理調査に関連する専門科目を修得した認定心理士です。上記の認定心理士と同様に、資格取得に伴う直接的な権益は直ちに得られるものではありません。申請方法や申請料が認定心理士と異なります。

2. 取得要件

資格を得るためには、右記の所定の単位を修得し、申請手続きを行う必要があります。申請手続きについては、卒業年度の11月頃にガイダンスを実施します。

3. 交付

卒業年度に申請手続きを行った場合、日本心理学会による書類審査を経て、翌年度申請時に届け出た住所宛に「認定心理士認定証」が送付されます。

4. 必要な費用

申請時に、審査料11,000円と認定料33,000円の計44,000円と証明書発行料が必要です。（2023年度参考）

認定心理士（心理調査）の審査料は15,000円、認定料は38,500円です。（2023年度参考）

認定心理士／認定心理士（心理調査）資格

■総合心理学部 総合心理学科 2024年度入学生

領域	配当年次	学則科目コード	科目名	資格認定単位数		必修選択の別	科目種別	備考		
				基本主題	副次主題					
1) 基礎科目 (12 単位以上)	a	心理学概論	1	600002	心理学概論 I	2		必修	H 専門	
			1	600003	心理学概論 II	2		必修	H 専門	
	b	心理学研究法	1	600004	心理調査概論	2		選択	H 専門	
			1	600005	心理学統計法 I	2		選択	H 専門	
			2	601004	心理学研究法	4		選択	H 専門	
			2	601000	心理学基礎実験 I	2		必修	H 専門	
	c	心理学実験・実習	1	600001	心理学基礎実験 II	2		必修	H 専門	
			2	601000	心理学実験 ①	2		必修	H 専門	
			2	601005	心理的アセスメント		2	選択	H 専門	
			3	602000	心理演習 (臨床心理学演習)		1	選択	H 専門	3 科目のうち 2 科目選択 必修
3			602016	社会心理学実習 ②		1	選択	H 専門		
3			602011	社会心理学実習 ①		1	選択	H 専門		
2) 選択科目 (16 単位以上)	d	知覚心理学・学習心理学	2	601013	学習・言語心理学	2		選択	H 専門	
			3	602011	知覚・認知心理学	2		選択	H 専門	
	e	生理心理学								
	f	教育心理学・発達心理学	2	601010	発達心理学 I	2		選択	H 専門	
			2	601011	発達心理学 II	2		選択	H 専門	
			2	601012	教育・学校心理学	2		選択	H 専門	
	g	臨床心理学・人格心理学	2	601006	臨床心理学概論 I	2		選択	H 専門	
			2	601007	臨床心理学概論 II	2		選択	H 専門	
			2	601008	感情・人格心理学 I	2		選択	H 専門	
			2	601009	感情・人格心理学 II	2		選択	H 専門	
			3	602001	心理学的支援法 A	2		選択	H 専門	
			3	602002	心理学的支援法 B	2		選択	H 専門	
			3	602003	思春期青年期心理学	2		選択	H 専門	
			3	602007	異常心理学	2		選択	H 専門	
	h	社会心理学・産業心理学	3	602013	社会・集団・家族心理学 I	2		選択	H 専門	
			3	602014	社会・集団・家族心理学 II	2		選択	H 専門	
			3	602004	家族心理学 I	2		選択	H 専門	
			3	602005	家族心理学 II	2		選択	H 専門	
			3	602012	産業・組織心理学	2		選択	H 専門	
3) その他の科目	i	心理学関連科目、卒業論文・卒業研究	3/4		心理学関連の演習 (その他心理学関連科目)	※	※	選択	H 専門	※ i 領域の演習はゼミ担当教員によって資格認定単位数が変わるので注意すること。

- ・①「心理学実験」を履修するには、「心理学基礎実験 I」「心理学基礎実験 II」を修得することが条件となる。
- ・②「社会心理学実習」を履修するためには要件が設けられているので、シラバスを事前に確認すること。
- ・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	次の条件を満たし、合計 36 単位以上修得すること ・基礎科目 a・c 領域で各 4 単位以上、b・c 領域で 8 単位以上、合計 12 単位以上 ・選択科目 d～h 領域については、5 領域のうち 3 領域で各領域 4 単位以上 (そのうち少なくとも 2 単位は基本主題に属すること)、合計 16 単位 ・残りの 8 単位については、a～i の内、いずれかで修得
---------	---

IV. 資格課程について

認定心理士（心理調査）資格

■総合心理学部 総合心理学科 2024年度入学生

領域	配当年次	学則科目コード	科目名	資格認定単位数		必修 選択の別	科目種別	備考	
				基本主題	副次主題				
1) 概論 (基本主題を含む2単位以上)	1	600004	心理調査概論	2		必修	H 専門		
			心理調査法						
2) 統計 (2単位以上)	1	600005	心理学統計法Ⅰ	2		必修	H 専門		
			2	601003	心理学統計法Ⅱ	2	選択	H 専門	
			2	601001	心理統計実習Ⅰ	1	選択	H 専門	
			2	601002	心理統計実習Ⅱ	1	選択	H 専門	
3) 実践 (6単位以上)	3	602016	社会心理学実習 ①	2		必修	H 専門		
			4	603004	卒業研究 ②	4	必修	H 専門	

- ・①「社会心理学実習」を履修するには要件が設けられているので、シラバスを事前に確認すること。
- ・②卒業研究は調査・実験・観察・面接・尺度構成・検査などの方法を用いて、自ら計画し、データの採取、処理、解析を行い、卒業論文の提出が必要である。資格の取得について指導教員に事前に確認すること。
- ・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	認定心理士資格取得要件と合わせて、概論領域から2単位以上、統計領域から2単位以上、実践領域から6単位以上、計10単位以上
---------	--

8. 児童指導員任用資格

1. 概要

児童指導員とは、家庭の事情などが原因で、児童福祉施設等で生活を送っている児童を、保護者に代わり生活指導する人のことです。この資格は任用資格です。

【任用資格とは】

国家公務員や地方公務員に採用された後に、特定の業務に任用されるとき必要となる資格のことです。

2. 取得要件

公立の施設に勤務する場合、まず公務員試験に合格して採用される事が前提となります。特別な資格試験は無く、児童福祉法にもとづく「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」に定められたように、本学の総合心理学科で心理学を修めて卒業することで任用資格を得ることができます。

3. 交付

任用資格の証明は、大学から発行する卒業証明書と成績証明書の2点をもって扱います。

9. 児童福祉司任用資格

1. 概要

児童福祉司とは、地方自治体の児童相談所で、相談、調査、支援などを行う人のことです。この資格は任用資格です。

【任用資格とは】

国家公務員や地方公務員に採用された後に、特定の業務に任用されるとき必要となる資格のことです。

2. 取得要件

児童福祉司任用資格は、特別な資格試験は無く、児童福祉法にもとづく本学総合心理学科で、心理学を修めて卒業し、その後指定施設における1年以上の相談援助業務を経て、得られる任用資格となります。

3. 交付

任用資格の証明は、大学から発行する卒業証明書と成績証明書の2点をもって扱います。

10. 栄養士資格

1. 概要

栄養士は栄養の指導や給食施設の献立作成などを業務とし、保健所、教育委員会、病院、学校、工場、事業所、福祉施設、スポーツ施設等における栄養指導者として、また大学、研究所、食品会社における研究員として活躍するほか、生活改良普及員として活躍することもできます。

2. 取得要件

栄養士は、所定の単位数（科目数）を修得すると、卒業と同時に資格を取得できます。

3. 交付

栄養士免許証は、厚生労働大臣から栄養士養成施設として指定認可された学校に入学し、その課程を履修して卒業した後、各都道府県に申請した者に、都道府県知事名で免許証が交付されます。ただし、大学が一括申請する府県については、卒業時に免許証を交付します。

4. 必要な費用

臨地実習にあたっては、実習先に応じて、別途往復交通費、ワクチン接種費用、資料作成に係る費用が必要となります。

申請料 5,600 円が必要です。(2023 年度参考)

※卒業年度の秋学期に再履修科目があると、大学で一括申請をすることができない場合があります。
(個人申請は可能)

栄養士資格

■食環境学部 食イノベーション学科 2024年度入学生

省令科目 教育内容	単位数		配当 年次	学則科目 コード	科 目 名	必修単位数		科目 種別	備 考
	講義	実験・ 実習				講義	実験・ 実習		
専門分野 社会生活と健康 人体の構造と機能 食品と衛生 栄養と健康 栄養の指導 給食の運営	4	4	2	701000	公衆衛生学 I	2		F 専門	
			2	701001	社会福祉論	2		F 専門	
	8		1	701004	解剖生理学 I	2		F 専門	
			1	701005	解剖生理学 II	2		F 専門	
			1	701006	予防医学	2		F 専門	
			1	701002	生化学	2		F 専門	
	6		1	701007	食品学	2		F 専門	
			1	701009	食品加工学	2		F 専門	
			2	701011	食品衛生学	2		F 専門	
			1	701008	食品学実験		2	F 専門	
			2	701010	食品加工学実習		1	F 専門	
			2	701012	食品衛生学実験		1	F 専門	
	8		2	701013	基礎栄養学 I	2		F 専門	
			2	701014	基礎栄養学 II	2		F 専門	
			2	701016	応用栄養学 I	2		F 専門	
			3	701017	臨床栄養学総論	2		F 専門	
2		701015	基礎栄養学実験		1	F 専門			
3		701018	臨床栄養学実習		1	F 専門			
6		2	701019	栄養教育論 I	2		F 専門		
		2	701020	栄養教育論 II	2		F 専門		
	3	701021	栄養教育論実習		1	F 専門			
	3	701022	公衆栄養学 I	2		F 専門			
4	3	701023	公衆栄養学実習		1	F 専門			
	1	701027	調理学	2		F 専門			
	2	701024	給食経営管理論 I	2		F 専門			
	2	701025	給食経営管理論 II	2		F 専門			
	1	701028	調理学実習 (基礎)		2	F 専門			
	3	701029	調理学実習 (応用)		2	F 専門			
	3	701026	給食経営管理論実習		1	F 専門			
	4	701030	給食経営管理論実習 I (含給食の運営)		1	F 専門			

※上記の科目をすべて修得すること

■食環境学部 管理栄養学科 2024年度入学生

省令科目 教育内容	単位数		配当 年次	学則科目 コード	科 目 名	必修単位数		科目 種別	備 考
	講義	実験・ 実習				講義	実験・ 実習		
専門分野 社会生活と健康 人体の構造と機能 食品と衛生 栄養と健康 栄養の指導 給食の運営	4	4	2	705000	公衆衛生学 I	2		N 専門	
			3	705003	社会福祉論	2		N 専門	
	8		1	705007	解剖生理学 I	2		N 専門	
			1	705008	解剖生理学 II	2		N 専門	
			1	705010	病理学 I	2		N 専門	
			1	705005	生化学	2		N 専門	
	6		1	705017	食品学	2		N 専門	
			1	705019	食品加工学	2		N 専門	
			2	705023	食品衛生学	2		N 専門	
			1	705018	食品学実験		2	N 専門	
			2	705020	食品加工学実習		1	N 専門	
			2	705024	食品衛生学実験		1	N 専門	
	8		2	706000	基礎栄養学 I	2		N 専門	
			2	706001	基礎栄養学 II	2		N 専門	
			2	706004	応用栄養学 I	2		N 専門	
			2	706013	臨床栄養学総論	2		N 専門	
2		706002	基礎栄養学実験		1	N 専門			
3		706017	臨床栄養学実習		2	N 専門			
6		2	706009	栄養教育論 I	2		N 専門		
		2	706010	栄養教育論 II	2		N 専門		
	3	706012	栄養教育論実習		1	N 専門			
	2	706019	公衆栄養学 I	2		N 専門			
4	3	706021	公衆栄養学実習		1	N 専門			
	1	705021	調理学	2		N 専門			
	2	706022	給食経営管理論 I	2		N 専門			
	2	706023	給食経営管理論 II	2		N 専門			
	1	705022	調理学実習		2	N 専門			
	3	706024	給食経営管理論実習		2	N 専門			
4	706027	給食経営管理論実習 I (含給食の運営)		1	N 専門				

※上記の科目をすべて修得すること

11. 管理栄養士国家試験 受験資格

1. 概要

管理栄養士は、栄養士の業務に加え、傷病者に対する療養のために必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状態等に応じた高度の専門知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数の人々に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行います。官公庁、保健所、教育委員会、病院、学校、工場、事業所、福祉施設、スポーツ施設等における栄養指導者として、また大学、研究所、食品会社における研究員として活躍するほか、生活改良普及員として活躍することもできます。

2. 取得要件

管理栄養士になるためには、厚生労働大臣から管理栄養士養成施設として指定認可された学校（修業年限が4年）で所定の単位数を取得して、毎年1回実施される「管理栄養士国家試験」に合格しなければなりません。

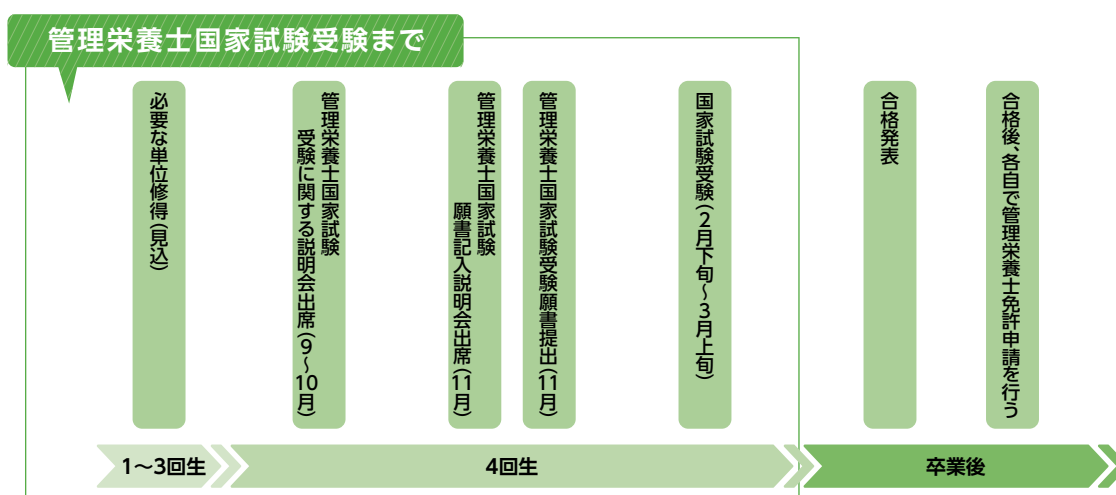
3. 交付

国家試験に合格した者が、管理栄養士免許証の交付を申請すると厚生労働大臣名で管理栄養士登録証が交付されます。

4. 必要な費用

臨地実習にあたっては、実習先に応じて、別途往復交通費、ワクチン接種費用、資料作成に係る費用が必要となります。

国家試験受験時に国家試験手数料 6,800 円、試験に合格した者は申請料 15,000 円が必要です。（2023 年度参考）



管理栄養士国家試験 受験資格

■食環境学部 管理栄養学科 2024年度入学生

省令科目	単位数		配当年次	学則科目コード	科目名	必修単位数		科目種別	備考	
	教育内容	講義				実験・実習	講義			実験・実習
専門基礎分野	社会環境と健康	6	10	2	705000	公衆衛生学Ⅰ	2		N 専門	
				2	705001	公衆衛生学Ⅱ	2		N 専門	
				2	705002	公衆衛生学実習		1	N 専門	
				3	705003	社会福祉論	2		N 専門	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		1	705005	生化学	2		N 専門	
				2	705006	生化学実験		1	N 専門	
				1	705007	解剖生理学Ⅰ	2		N 専門	
				1	705008	解剖生理学Ⅱ	2		N 専門	
				1	705009	解剖生理学実験		2	N 専門	
				1	705010	病理学Ⅰ	2		N 専門	
				2	705011	病理学Ⅱ	2		N 専門	
				3	705012	微生物学	2		N 専門	
	食べ物と健康	8		1	705013	運動生理学	2		N 専門	
				1	705017	食品学	2		N 専門	
				1	705018	食品学実験		2	N 専門	
				1	705019	食品加工学	2		N 専門	
				2	705020	食品加工学実習		1	N 専門	
				1	705021	調理学	2		N 専門	
1			705022	調理学実習		2	N 専門			
2			705023	食品衛生学	2		N 専門			
専門分野	基礎栄養学	2	2	706000	基礎栄養学Ⅰ	2		N 専門		
			2	706001	基礎栄養学Ⅱ	2		N 専門		
			2	706002	基礎栄養学実験		1	N 専門		
	応用栄養学	6	2	706004	応用栄養学Ⅰ	2		N 専門		
			2	706005	応用栄養学Ⅱ	2		N 専門		
			2	706006	応用栄養学実習		1	N 専門		
			4	706008	スポーツ栄養学	2		N 専門		
	栄養教育論	6	2	706009	栄養教育論Ⅰ	2		N 専門		
			2	706010	栄養教育論Ⅱ	2		N 専門		
			3	706011	栄養カウンセリング論	2		N 専門		
			3	706012	栄養教育論実習		1	N 専門		
	臨床栄養学	8	2	706013	臨床栄養学総論	2		N 専門		
			3	706014	臨床栄養学各論Ⅰ	2		N 専門		
			3	706015	臨床栄養学各論Ⅱ	2		N 専門		
			3	706016	栄養アセスメント	2		N 専門		
			3	706017	臨床栄養学実習		2	N 専門		
	公衆栄養学	4	2	706019	公衆栄養学Ⅰ	2		N 専門		
			2	706020	公衆栄養学Ⅱ	2		N 専門		
			3	706021	公衆栄養学実習		1	N 専門		
	給食経営管理論	4	2	706022	給食経営管理論Ⅰ	2		N 専門		
			2	706023	給食経営管理論Ⅱ	2		N 専門		
			3	706024	給食経営管理論実習		2	N 専門		
	総合演習	2	3	706025	管理栄養士演習Ⅰ	1		N 専門		
			4	706026	管理栄養士演習Ⅱ	1		N 専門		
	臨地実習		4	706027	給食経営管理臨地実習Ⅰ(含給食の運営)		1	N 専門		
			4	706028	給食経営管理臨地実習Ⅱ		1	N 専門		
			4	706029	臨床栄養臨地実習		1	N 専門		
			3	706030	公衆栄養臨地実習		1	N 専門		

※上記の科目をすべて修得すること

12. 食品衛生管理者および食品衛生監視員任用資格

1. 概要

食品衛生管理者および食品衛生監視員は共に厚生労働省管轄の国家資格です。前者は会社など企業での職業で、後者は公務員としての職業です。

食品衛生管理者は、食品または添加物を製造、加工する会社や施設におくことが義務づけられており、その当該施設で食品または添加物の製造、加工を食品衛生法上の違反がないように管理する者です。

食品衛生監視員は、国、都道府県、保健所、検疫所などに配置され、食品衛生上注意を必要とする加工食品や添加物の製造、加工、飲食に使用する器具、施設などの監視、指導、検査を行います。

2. 取得要件

食品衛生管理者は、次の頁の所定の単位を修得することによって、資格を取得することができます。

食品衛生監視員は、次の頁の所定の単位を修得することによって、食品衛生監視員（公務員）採用試験受験資格を取得することができます。

食品衛生管理者と食品衛生監視員は別の資格ですが、資格取得に向けた科目の履修方法は同じです。

3. 交付

取得要件を満たした者には、卒業時に「食品衛生管理者及び監視員に関する単位取得証明書」（本学様式）を交付します。

食品衛生管理者および食品衛生監視員任用資格課程

■食環境学部 管理栄養学科 2024年度入学生

区分	配当年次	学則科目コード	本学開設科目	単位	必修選択の別	科目種別	備考
A 群：化学関係	1	704000	食のための化学	2	必修	N 専門	含無機化学
B 群：生物化学関係	1	705005	生化学	2	必修	N 専門	
	1	705007	解剖生理学 I	2	必修	N 専門	
	1	705008	解剖生理学 II	2	必修	N 専門	
	1	705009	解剖生理学実験	2	必修	N 専門	
	2	705006	生化学実験	1	必修	N 専門	
C 群：微生物関係	1	705019	食品加工学	2	必修	N 専門	含食品保存学
	2	705020	食品加工学実習	1	必修	N 専門	含食品保存学
	3	705012	微生物学	2	必修	N 専門	含食品微生物学
D 群：公衆衛生学関係	2	705000	公衆衛生学 I	2	必修	N 専門	含環境衛生学
	2	705001	公衆衛生学 II	2	必修	N 専門	含疫学
	2	705002	公衆衛生学実習	1	必修	N 専門	含環境衛生学
	2	705023	食品衛生学	2	必修	N 専門	含衛生行政学
	2	705024	食品衛生学実験	1	必修	N 専門	
E 群：その他関連科目	1	705010	病理学 I	2	必修	N 専門	
	1	705017	食品学	2	必修	N 専門	
	1	705018	食品学実験	2	必修	N 専門	
	2	705011	病理学 II	2	必修	N 専門	
	2	706000	基礎栄養学 I	2	必修	N 専門	
	2	706001	基礎栄養学 II	2	必修	N 専門	
	2	706002	基礎栄養学実験	1	必修	N 専門	
	2	706004	応用栄養学 I	2	必修	N 専門	
	2	706019	公衆栄養学 I	2	必修	N 専門	
	3	706020	公衆栄養学 II	2	必修	N 専門	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修科目を含めて 43 単位以上
---------	------------------

13. フードスペシャリスト 受験資格

1. 概要

フードスペシャリスト協会が認定する資格です。食品が製造されてから、消費されるまでの幅広い分野で、食品を消費者の好みに合わせた安全な商品や料理に変えていく知識・技術を持つことを認定するものです。食に関する高度な知識と技術を有する専門家で、社会のニーズに応える能力が求められており、食品会社、ホテル、レストラン、デパート、スーパーマーケットなどでの活躍が期待されています。

2. 取得要件

資格を得るためには、次の頁の所定の単位を修得し、フードスペシャリスト認定試験に合格する必要があります。

認定試験は、①フードスペシャリスト資格、②専門フードスペシャリスト（食品開発）資格、③専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格のそれぞれで実施されます。

①フードスペシャリスト資格を有する者、および、その受験者は、加えて②専門フードスペシャリスト（食品開発）資格、③専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格を受験することができます。

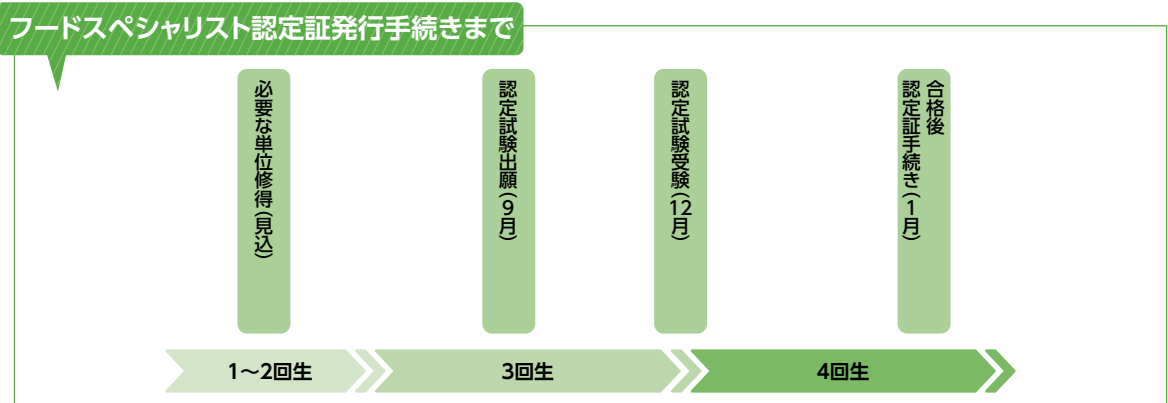
3. 交付

次の頁の所定の単位を修得し、フードスペシャリスト認定試験に合格した者は協会から発行された認定証が、卒業時に交付されます。

4. 必要な費用

下記の通り、フードスペシャリスト認定試験受験時に必要となる受験料の他、試験に合格した者は登録料が必要です。（2023年度参考）

- ①フードスペシャリスト資格：受験料 4,400 円、登録料 4,400 円
- ②専門フードスペシャリスト（食品開発）資格：受験料 2,200 円、登録料 2,200 円
- ③専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格：受験料 2,200 円、登録料 2,200 円



フードスペシャリスト 受験資格

■食環境学部 食イノベーション学科 2024年度入学生

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考
1	700001	食のための化学	2	選択	F 専門	
1	701007	食品学	2	必修	F 専門	
1	701008	食品学実験	2	必修	F 専門	
1	702026	食生活論	2	必修	F 専門	
1	701027	調理学	2	必修	F 専門	
1	701028	調理学実習 (基礎)	2	必修	F 専門	
2	701000	公衆衛生学 I	2	選択	F 専門	
1	701009	食品加工学	2	必修	F 専門	
2	701010	食品加工学実習	1	必修	F 専門	
2	701011	食品衛生学	2	必修	F 専門	
2	701013	基礎栄養学 I	2	必修	F 専門	
2	701014	基礎栄養学 II	2	必修	F 専門	
3	702002	食品の流通と消費	2	必修	F 専門	
3	702010	フードコーディネート論	2	必修	F 専門	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修科目を含め 23 単位以上
---------	-----------------

■食環境学部 管理栄養学科 2024年度入学生

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考
1	704000	食のための化学	2	選択	N 専門	
1	705017	食品学	2	必修	N 専門	
1	705018	食品学実験	2	必修	N 専門	
1	705021	調理学	2	必修	N 専門	
1	705022	調理学実習	2	必修	N 専門	
1	705026	食生活論	2	必修	N 専門	
2	705000	公衆衛生学 I	2	選択	N 専門	
1	705019	食品加工学	2	必修	N 専門	
2	705020	食品加工学実習	1	必修	N 専門	
2	705023	食品衛生学	2	必修	N 専門	
2	705027	食品の流通と消費	2	必修	N 専門	
2	706000	基礎栄養学 I	2	必修	N 専門	
2	706001	基礎栄養学 II	2	必修	N 専門	
3	705028	フードコーディネート論	2	必修	N 専門	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修科目を含め 23 単位以上
---------	-----------------

14. 健康運動実践指導者 受験資格

1. 概要

健康運動実践指導者資格は、健康・体力づくり事業財団が認定する資格です。医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術などを持つことを認定するもので、健康作りを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、ストレッチング、筋力トレーニング等の実践指導を行います。健康増進センター、保健所、民間健康増進施設（フィットネスクラブ等）、介護老人保健福祉施設などで有資格者が活躍しています。

2. 取得要件

次の頁の所定の単位を修得することにより、健康運動実践指導者の受験資格を得ることができます。健康運動実践指導者の称号を得るには、健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験（1次試験：指導実技試験・2次試験：筆記試験）に合格し、健康運動実践指導者台帳に登録することが必要です。認定校の学生として、在学中に試験を受けることを推奨しています（食イノベーション学科は3回生秋学期から、管理栄養学科は4回生秋学期から受験可能）。卒業後に受験する場合は新たに講習（有料）を受けて試験を受けることとなります。また、健康運動実践指導者資格を得てからも、5年ごとの更新が必要で、その際には講習会を受講する必要があります。

3. 必要な費用

試験受験時に、認定試験受験料（筆記＋実技）26,400円、登録料22,000円が必要です。（2024年度参考）

4. その他

健康運動指導士は、健康・体力づくり事業財団が認定する資格です。個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動を実践するための運動プログラムの作成および指導を行います。健康運動実践指導者の資格を取得後健康運動指導士養成講習会を受講し、健康運動指導士試験に合格した上で登録します。

健康運動実践指導者 受験資格

■食環境学部 食イノベーション学科／管理栄養学科 2024年度入学生

養成講習会の科目名	配当年次	学則科目コード	本学開設科目	単位	必修選択の別	科目種別	備考
健康づくり施策概論 (講義)	1	701006	予防医学	2	必修	F 専門	N 生履修可能
運動生理学 (講義)	1	702012	健康運動科学 ①	2	選必	F 専門	左記①より1科目2単位修得すること
	1	705013	運動生理学 ①	2	選必	N 専門	
機能的解剖とバイオメカニクス (講義)	1	701004	解剖生理学 I ②	2	選必	F 専門	左記②より1科目2単位修得すること
	1	705007	解剖生理学 I ②	2	選必	N 専門	
栄養摂取と運動 (講義)	2	701016	応用栄養学 I ③	2	選必	F 専門	左記③より1科目2単位修得すること
	4	706008	スポーツ栄養学 ③	2	選必	N 専門	
体力測定と評価 (講義) (実習)	2	702013	健康運動方法論	2	必修	F 専門	N 生履修可能
健康づくりと運動プログラム (講義)							「健康運動方法論」に含む
運動指導の心理学的基礎 (講義)	3	702017	スポーツ指導論	2	必修	F 専門	N 生履修可能
健康づくり運動の実際 (実習) ウォーキング、ジョギング	1	251407	健康とスポーツ B	1	必修	基盤	
健康づくり運動の実際 (実習) ストレッチング、 ウォーミングアップとクーリングダウン	1	251406	健康とスポーツ A	1	必修	基盤	
健康づくり運動の実際 (実習) 水泳・水中運動、レジスタンスエクササイズ	2	702014	スポーツ健康演習 A	2	必修	F 専門	N 生履修可能
健康づくり運動の実際 (実習) エアロビックダンス、 レジスタンスエクササイズ	2	702015	スポーツ健康演習 B	2	必修	F 専門	N 生履修可能
運動障害と予防・救急処置 (講義) (実習)	2	702016	救急処置	2	必修	F 専門	N 生履修可能

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修 8 科目 14 単位、選択必修 3 科目 6 単位、合計 11 科目 20 単位以上
---------	---

15. 食育インストラクター 3級 受験資格

1. 概要

食育インストラクターは、NPO 法人である日本食育インストラクター協会が認定する民間資格です。「食育」を基礎から学び、日々の生活に活かし、広く推進・社会で活躍できる「食育」の指導者の証となる資格」と定義されています。

2. 取得要件

所定の科目（「食品学」「調理学」「調理学実習」）の単位を修得し、協会が行う資格認定試験に合格することで、資格を取得することができます。

「資格」は1級から4級とプライマリーの5段階に分けて認定されており、3級の資格試験を受験するにはプライマリーか4級を取得していなければなりません。本学では協会が行う研修を受けずに食環境学部2回生以上の学生が受験可能です（試験は学内で実施予定）。

3. 交付

食育インストラクター3級の資格試験に合格した者は協会から認定証が交付されます。

4. 必要な費用

費用として、食育筆記試験受験料5,500円が必要です。

合格後、NPO 日本食育インストラクター協会に取得申請するためには、申請料として6,600円が必要です。（3級受験 2023年度参考）

食育インストラクター 3級 受験資格

■食環境学部 食イノベーション学科 2024年度入学生

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考
1	701007	食品学	2	必修	F 専門	
1	701027	調理学	2	必修	F 専門	
1	701028	調理学実習（基礎）	2	必修	F 専門	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修科目6単位
---------	---------

■食環境学部 管理栄養学科 2024年度入学生

配当年次	学則科目コード	科目名	単位	必修選択の別	科目種別	備考
1	705017	食品学	2	必修	N 専門	
1	705021	調理学	2	必修	N 専門	
1	705022	調理学実習	2	必修	N 専門	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修科目6単位
---------	---------

16. 健康食品管理士 受験資格

1. 概要

健康食品管理士は、一般社団法人日本食品安全協会が認定する民間資格です。「健康食品等の安全性、効果、医薬品との相互作用及びその取り扱いに関する知識を有し、健康食品等を摂取する消費者の健康状態の判断等に一定レベルの能力があると認められた者で、消費者に対し健康食品等を適正に利用することとその被害から守ることに指導的役割を担える人材」と定義されています。

2. 取得要件

下記の所定の単位を修得し、協会が行う資格認定試験（毎年5月、11月）に合格することで、資格を取得することができます。食環境学部 管理栄養学科 3回生以上の学生が受験可能です（試験は学内で実施予定）。

3. 交付

下記の所定の単位を修得し、健康食品管理士認定試験に合格した者は協会から認定証が交付されます。

4. 必要な費用

費用として、受験料 10,000 円（学生）が必要です。

合格後、一般社団法人日本食品安全協会に納める登録料 10,000 円（学生）が必要です（既卒者は 15,000 円）。

登録後の諸経費として、健康食品管理士会年会費 5,000 円、更新料（5年ごと）5,000 円が必要となります。（2023年度参考）

健康食品管理士 受験資格

食環境学部 管理栄養学科 2024年度入学生




区分	科目名	配当年次	学則科目コード	本学開設科目	単位	必修選択の別	科目種別	備考
基礎科目	生化学（栄養化学を含む）	1	705005	生化学	2	必修	N 専門	
	解剖学	1	705007	解剖生理学 I	2	必修	N 専門	
	生理学	1	705008	解剖生理学 II	2	必修	N 専門	
	その他基礎医学系教科	1	701006	予防医学	2	必修	F 専門	N 生履修可
		1	704001	健康医科学	2	必修	N 専門	
		1	705010	病理学 I	2	必修	N 専門	
		2	705011	病理学 II	2	必修	N 専門	
専門科目		3	705012	微生物学	2	必修	N 専門	
	健康食品学	3	705029	健康食品学	2	必修	N 専門	関係法規含む
	食品衛生学（講義）	2	705023	食品衛生学	2	必修	N 専門	関係法規含む
	食品衛生学を含む（実習）	2	705024	食品衛生学実験	1	必修	N 専門	
	臨床検査学又は臨床栄養学	2	706013	臨床栄養学総論	2	必修	N 専門	
		3	706014	臨床栄養学各論 I	2	必修	N 専門	
		3	706015	臨床栄養学各論 II	2	必修	N 専門	
	薬理学	3	705016	薬理学	2	必修	N 専門	関係法規含む
関連法規	1	705019	食品加工学	2	必修	N 専門	関係法規含む	

・「必修・選択の別」は、資格取得における必修・選択である。

取得要件単位数	必修科目を含めて 31 単位以上
---------	------------------

V. 学生生活について

1. 学生生活関連年間スケジュール

春 学 期	4月	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 新入生ガイダンス／新学期ガイダンス／アドバイジング・デイ 健康診断 日本学生支援機構奨学金 進学届提出（予約採用者） 日本学生支援機構奨学金 申請開始（在学採用） 小野奨学会奨学金 申請開始 		
	5月	<ul style="list-style-type: none"> 帝塚山学院大学創立記念日（12日） 小野奨学会奨学金 推薦者決定 		
	6月			
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構奨学金 採用者決定（在学採用） 帝塚山学院大学奨学金 申請開始 		
	8月	<ul style="list-style-type: none"> 小野奨学会奨学金 採用者決定 事務局一斉休暇 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <夏季休業（夏季休暇）> 8月11日から 秋学期ガイダンス開始前日まで </div>	
秋 学 期	9月	<ul style="list-style-type: none"> 秋季入学式 秋学期ガイダンス／アドバイジング・デイ 日本学生支援機構奨学金 2次採用 募集開始 父母等対象懇談会 春季卒業式 		
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構奨学金 2次採用 募集締切 		
	11月	<ul style="list-style-type: none"> 葡萄祭 		
	12月	<ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構奨学金 2次採用 採用者決定 		
	1月		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <冬季休業（冬季休暇）> 年内授業最終日の翌日から 新年授業再開日前日まで </div>	
	2月			
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 大学直通バス定期券申込開始（月末締切） 卒業式 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <学年末休業（春季休暇）> 3月10日から 新学期ガイダンス開始前日まで </div>	

※学費関連のスケジュールは P.156～157「6. 学費」を参照してください。

2. 学籍番号・学生証・通学証明書

1. 学籍番号

学籍番号は、学生一人ひとりに与えられる6桁の番号です。履修登録や試験、授業の出席、その他さまざまな事務手続きに使用します。学籍番号は入学してから卒業後も番号の変更はありません。

学籍番号 24 L 999
 ① ② ③

- ① 入学年度（西暦）の下二桁
※編入学等の場合は除く
- ② 学部・学科のアルファベット
L：リベラルアーツ学科
H：総合心理学科
F：食イノベーション学科
N：管理栄養学科
- ③ 個人番号

2. 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。学期末試験や窓口での手続き、通学定期券の購入など、様々な場面で必要になりますので、常に携帯してください。学生証の記載事項に変更があった場合は、すみやかに学生課に届け出てください。



1) 学生証の提示

次の場合は学生証を提示しなければなりません。

- ① 学期末試験受験時
- ② 各種証明書などの申請時、およびその交付時
- ③ 図書・パソコンなどの貸出時
- ④ 通学定期券または学生割引乗車券の購入時、およびその使用時に交通機関関係員から提示を求められた場合
- ⑤ 本学教職員から提示を求められた場合
- ⑥ 証明書自動発行機利用時

2) 紛失・盗難、汚損・破損したとき

学生証の紛失・盗難にあった場合は、悪用防止のため直ちに最寄の警察署・交番に届出を行い、受理番号を控えたうえで学生課にて再交付を受けてください。再交付には、学生課備え付けの「学生証再交付願」および証明書自動発行機より発行される申請書「学生証再交付料」（2,000円）の提出が必要です。交付は、受付日の翌日午後以降となります。

汚損・破損した場合は、学生証を持参し学生課に申し出てください。

注意事項

- 1 有効期間は4年間です。4年を超えて在籍する場合は再交付しますので、旧学生証を持参し学生課に申し出てください。
- 2 他人に貸与または譲与しないでください。
- 3 紛失・盗難にあった場合は必ず警察に届け出てください。
- 4 退学等によって学籍を離れたときは直ちに学生課へ返却してください。

※他人に貸与・譲与したり、紛失・盗難にあった学生証が悪用されると、本人になりすまして学生ローンなどで借金をされるなど、知らないうちに損害を受けることにもなりかねません。学生証の管理には十分注意してください。

3. 通学証明書

通学証明書は、公共交通機関の通学定期券を購入する際に、学生証とともに提示する必要があります。通学定期券は、現住所の最寄駅から泉北高速鉄道泉ヶ丘駅または南海高野線金剛駅までの最短区間で、通学を目的として利用する場合に限り購入できます。通学証明書の記載事項に変更があった場合は、すみやかに学生課に届け出てください。

紛失・盗難、汚損・破損したとき

証明書自動発行機より「通学証明書再交付申請書」(100円)を発行し、学生課に提出して再交付を受けてください。

注意事項

- 1 有効期間は1年間です。(4月1日～翌年3月31日まで)
- 2 通学定期券の区間を偽って購入したり、通学以外の目的(課外活動・アルバイトなど)で購入する不正購入や、通学定期券を他人に譲り渡すなどの不正使用は絶対に行わないでください。
- 3 退学等によって学籍を離れたときは直ちに学生課へ返却してください。

※自ら記載欄の変更を行うことは認められません。(学生課の変更承認印がない場合は使用できません。)

※不正使用をした場合は、本人に多額の追徴金が課せられるばかりか本学学生に対する発行停止処分を受ける場合があります。

3. 通学

1. 通学手段

本学では、事故防止の観点から、通学には電車・バスなどの公共交通機関を利用することを推奨しています。

【通学手段別利用可否】

通学手段	利用可否
1) 公共交通機関(電車・バス)	可(通学証明書で学割利用可)
2) 自転車	可(申請不要)
3) バイク	可(ただし、バイク登録が必要)
4) 自動車	不可(禁止)
5) 電動キックボード	不可(禁止)

1) バス通学

授業や行事等にあわせて、大学と泉ヶ丘駅、金剛駅との間に大学直通バスを運行しています。「帝塚山学院大学バス乗車証」で、大学への直通バスのほかに路線バスにも乗車することができます。ただし、一部料金を必要とする路線・時間帯がありますのでバス乗車証裏面の注意事項を確認してください。

①大学へのバス

【大学直通バス】

バスのりば	大学までの所要時間
泉北高速鉄道「泉ヶ丘駅」 南側6番のりば（271系統、277系統）	約8分
南海高野線「金剛駅前」 東側大学専用南海バスのりば（272系統）	約10分

【路線バス】

バスのりば	大学までの所要時間
泉北高速鉄道「泉ヶ丘駅」 南側南海バス4番のりば（217系統、226系統） 南側南海バス6番のりば（222系統） 「はるみ小学校前」下車	約8分
南海高野線「金剛駅前」 西側南海バス5番のりば（222系統） 「はるみ小学校前」下車	約15分
西側南海バス4番のりば（250系統） 「桃山学院教育大学前」下車、約700m	約25分

注意事項

- バスは公共交通機関です。通学時には、特に次の事項に注意してください。
 - 乗車時・乗車中は、他の利用客の迷惑とならないようにしましょう。大きな声での会話、座席の占有、割り込み乗車はしないでください。
 - バス内での飲食は控えましょう。
 - その他、マナーやモラルをふまえた行動を心がけ、かつ実践してください。
- 不正乗車やそれに類する行為を行った場合、「学生懲戒規程」に基づいて厳正に処分を行います。
 - 有効期間が切れたバス乗車証を使用した時（故意・過失に関わらず）
 - 他者のバス乗車証を使用した時
 - 自分のバス乗車証を他者に使用させた時
 - バス乗車証の券面を、複製・改変などして使用した時または他者に使用させた時
 - その他、不正乗車やそれに類する行為を行った場合

②帝塚山学院大学バス乗車証の購入

区間	泉北高速鉄道 泉ヶ丘駅～帝塚山学院大学 南海高野線 金剛駅前～帝塚山学院大学
乗車証年額	54,000円
有効期間	4月1日から翌年4月30日まで
購入方法	新入生：入学手続き時 在学生：3月に案内を行う（復学、留学からの帰国などの場合は別途対応）

紛失した場合／払い戻しについて

- 「帝塚山学院大学バス乗車証」は紛失などによる再発行はできません。再購入することになります。再購入時には、残月数相当分の料金が必要です。
- 払い戻しは、原則としてできません。ただし、退学、除籍、休学、留学、転居などにより通学しない事情が生じたときは、利用しない月数分を返金します。

2) 自転車通学

大学に申請する必要はありませんが、指定された駐輪スペースにとめてください。通路や指定場所以外にとめた場合は、チェーンにより施錠し、一定期間経過後は大学側で撤去する場合があります。

<自転車保険への加入について>

2016年7月1日より、大阪府自転車条例が制定され、自転車保険の加入が義務化されています。加入が義務付けられている「自転車保険」は具体的に、自転車事故により他人にケガをさせた場合に損害を補償することができる「賠償責任保険」です。必ず加入してください。

<自転車ヘルメット着用について>

2023年4月1日から「改正道路交通法」が施行され、自転車を利用するすべての人に乗車用ヘルメットの着用が義務化（努力義務）されることとなりました。自分の命を守るため、ヘルメット着用積極的に努めるようにしてください。加えて、自転車に乗る際は交通ルールを守り、安全運転を心掛けてください。

(参考)

- ・自転車ヘルメットの着用について（大阪府）

<https://www.pref.osaka.lg.jp/dorokankyo/osakajitensha/r03jitennshaherumett.html>

- ・大阪府自転車条例

<https://www.pref.osaka.lg.jp/dorokankyo/osakajitensha/>

3) バイク通学

排気量 250cc 未満のバイク（原動機付自転車（原付）・普通自動二輪車（普通二輪）のみ、バイク通学を認めています。希望者は学生課に「バイク申請登録料申請書」（500 円）および他の必要書類を提出し、バイク登録を行う必要があります。未登録バイクはチェーンにより施錠し、一定期間経過後は大学側で撤去する場合があります。

なお、バイク通学は距離や天候による影響を受けることがあり、電車・バスなどの公共交通機関より身体への負担が大きいと考えます。体調が悪い時などは無理をしないようにしてください。

バイク登録が未登録の場合…

入学時に全員が加入する「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」で、学生生活（通学途中を含む）での傷害事故において、保険が適用されません。毎年バイクによる事故が発生していることから、バイク通学する場合は必ずバイク登録を行うようにしてください。

①登録方法

学生課に②の必要書類を提出

↓

仮登録完了。登録ステッカーを配付

↓

バイク安全講習＋効果テストを受講（GW明けに学生課よりポータルにて連絡）

↓

正式登録完了

受講しなかった学生は、仮登録を解除

※一度登録すると、在学期間中有効です。ただし、バイクを乗り換えた時や登録ステッカーを紛失した時は、再登録（無料）が必要となります。

②必要書類

- ・バイク通学届
- ・バイク申請登録料申請書（証明書自動発行機より発行）
- ・誓約書（保証人連署）
- ・運転免許証のコピー
- ・自動車損害賠償責任保険証明書（自賠責保険証明書）
※自賠責保険を更新した場合は、必ず保険証書の写しを提出してください。
- ・学生証
- ・通学証明書（通学定期を引き続き使用したい場合は提出不要）

注意事項

- 1 登録ステッカーは後方から確認できるようバイクのナンバープレート付近に貼付すること。
- 2 指定された駐輪場にとめること。
- 3 車両変更等、登録事項に変更が生じた場合は直ちに届け出ること。
- 4 学内では最徐行すること。
- 5 騒音、空ふかし、迷惑駐車などにより、本学および大学周辺に迷惑をかけること。
- 6 道路交通法を守り、安全運転を心がけること。
- 7 学内駐輪場における車両の盗難、損傷及び事故については大学として一切責任を負わない。

4) 自動車通学の禁止

本学では、自動車（バイク登録済の自動二輪を除く）による学生の通学を、全面的に禁止しています。近隣の時間制駐車場の利用も含め、違反者は学則第 45 条に基づく処罰の対象となります。

5) 電動キックボード通学の禁止

2023 年 7 月 1 日から、道路交通法改正により、運転免許が不要な電動キックボード（特定小型原動機付自転車）の取扱いがスタートしました。

電動キックボードはより身近な乗り物になっていますが、本学周辺は坂が多く、歩道幅が狭いなど、道路環境面においても事故の危険性が高いこと、道路幅ならびに路側帯幅が狭いこと、電動キックボード自体の構造の不安定さ等により、学生の安全性の保証がなく、利用については慎重に考える必要があります。

よって本学において、電動キックボードでの通学ならびに学内での利用について禁止とします。

4. 大学からの連絡・大学への連絡、問い合わせ

1. 大学からの連絡

大学からの連絡には、授業や学生生活に関する重要な情報が多く含まれています。教員や事務局から届く連絡の中から、必要な情報を自ら確認することが求められます。

【大学からの連絡方法】

※◎=かなり頻繁に使用する ○=よく使用する △=あまり使用しない ×=使用しない

手段	教員	事務局
①ポータル	×	◎
② WebClass	◎	×
③就職支援 NAVI	×	◎
④大学ホームページ	×	○
⑤電話	△	○
⑥郵送	×	○

①②③のいずれも
大学メールアドレス
で連絡を受信する
ことが可能です。

1) 帝塚山学院大学ポータルによる連絡（事務局）

事務局から学生への連絡やお知らせ等は、原則として P.193 ~ 195 「3. 帝塚山学院大学ポータル」を通じて通知します。ポータルは、必ず1日1回は確認するよう心がけましょう。

主な連絡事項

- ・ 休講、補講、教室変更、時間割変更、試験、授業に関すること
- ・ 授業アンケート、各種アンケート・調査に関すること
- ・ 学費、奨学金、課外活動、ボランティアに関すること
- ・ 各種申請に関すること

2) WebClass による連絡（教員）

教員から学生への授業に関する連絡やお知らせ等は、原則として P.196 「4. WebClass」を通じて通知します。WebClass は、必ず1日1回は確認するよう心がけましょう。

主な連絡事項

- ・ 課題やレポートに関すること
- ・ 授業の出欠に関すること
- ・ 授業資料に関すること
- ・ 学修面談に関すること

3) 就職支援 NAVI による連絡（事務局）

キャリアセンターから学生への就職やインターンシップに関する連絡やお知らせ等は、P.204 ~ 205 「6. 就職支援 NAVI」を通じて通知します。

4) 大学ホームページによる連絡（事務局）

「重要なお知らせ」や「在学生の方」のページに、授業や学生生活等に関するお知らせを掲載する場合があります。

大学ホームページによる主な連絡事項

- ・授業やガイダンス、台風等非常時の対応に関すること
- ・課外活動、学費、奨学金、大学行事に関すること
- ・大学直通バスの時刻表に関すること
- ・各種申請に関すること

5) 電話による連絡（事務局・教員）

教員や事務局から、電話による連絡を行うことがあります。大学からの着信は代表番号（072-296-1331）で表示されます。着信があった場合には、折り返しの連絡をお願いします。

6) 郵送による連絡（事務局）

成績通知書や授業に関する案内、学費に関する案内等を父母等住所へ郵送します。住所が変更となった場合は、すみやかに学生課まで申し出てください。

2. 大学への連絡、問い合わせ

大学への連絡・問い合わせは、以下の方法で行ってください。どの方法においても、必ず学籍番号（場合によっては学科・学年）と氏名を伝えてから、用件を話すよう心がけてください。

【大学への連絡、問い合わせ方法】

手段	教員	事務局
対面	可	可
WebClass	可	不可
電話	緊急時	可
E-mail	可	可

1) 教員への連絡

原則、対面（授業の前後や、オフィスアワーを活用した研究室への訪問等）もしくは Web Class、E-mail を通して連絡をしてください。

2) 事務局への連絡

対面（窓口）、電話、メールでの連絡を受け付けています。

Point!

代表番号（072-296-1331）に電話をする際は、自動アナウンスの後、問い合わせをする窓口の番号をプッシュしてください。

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 1 番 | 学生課（学生生活、学費、奨学金、保健室関連） |
| 2 番 | 教学課（授業関連） |
| 5 番 | 総務部（BYOD、ポータル、WebClass、図書館、施設、設備関連） |

問い合わせ先がわからない場合は
まずは学生課に問い合わせてください。

※学生相談室、キャリアセンター、アドミッションセンター、ICT課には
直通の番号があります。詳細は大学事務局窓口一覧（裏表紙裏）を参照してください。

対面（窓口）で連絡、問い合わせをする際の注意事項

学籍番号、氏名を伝え、どのような用件で来たのかを簡潔に説明してください。

学生証の提示を求められる場合がありますので、学生証を持参してください。

例) 「24LXXX の〇〇です。学費について相談があるのですが…。」

例) 「24HXXX の〇〇です。履修登録について質問があるのですが…。」

電話で連絡、問い合わせをする際の注意事項

学籍番号、氏名を伝え、用件を簡潔に説明してください。

例) 「24FXXX の〇〇です。テキストの購入について質問があるのですが…。」

例) 「24NXXX の〇〇です。先ほど着信があったのですが…。」

メールで連絡、問い合わせをする際の注意事項

セキュリティ上の観点から、大学メールアドレスを必ず使用してください。

【件名】 何の用件で連絡をしてきたのかわかるように、件名を簡潔につけてください。

【本文】 学籍番号と氏名を必ず記載してください。

丁寧な言葉づかいで、礼儀正しい文章を心がけてください。

顔文字や絵文字は使わないでください。

3. 学生から大学への災害報告について

自然災害による被害が近年広がりを見せています。実家が被害にあった人は下記フォームより必要事項をチェック・入力し、送信してください。状況に変化が生じた場合、再度入力してください。確認後、状況によりポータルを通して大学からみなさんに問い合わせします。その際は速やかに対応をお願いします。



4. サイネージ（電子掲示板）

本学では学生のみなさんに知ってもらいたいことや、課外活動についての情報などを、本館入口および2階事務局前のサイネージを利用して案内しています。



本館入口サイネージ



2階事務局前サイネージ

5. 学生生活のサポート

学生生活に関する相談に対し、教職員一丸となってサポートを行っています。

1. アドバイザー教員制度

学業をはじめとした学生生活全般をサポートするため、学生一人ひとりに「アドバイザー教員」を配置しています。学生は、在学中全期間を通じて、継続的にアドバイザー教員からのアドバイスやサポートを受けることができます。(3回生以上はゼミ担当教員がアドバイザー教員となります。)

2. オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生からの授業に関する相談に応じるため、専任教員がそれぞれ教員研究室に在室している時間のことです。学生は予約なしで自由に訪問することができます。詳細はP.25「3. 学びのサポート」を参照してください。

3. 事務局相談窓口

学生生活に関する相談は学生課でも受け付けています。ひとりで悩まずに、ぜひ気軽に窓口を訪ねてください。内容によっては、教員と連携しながら相談に応じます。

学生生活全般に関する相談窓口【学生課】

学生課では、学生生活全般に関する相談を受け付けています。
学生生活や課外活動、学費や奨学金、留学、休学・退学に関する相談など、わからないことや相談したいことがあれば、まずは学生課に連絡してください。

学生課

TEL : 072-296-1331

【自動アナウンス 1 番】

E-mail : gakusei@tezukayama.ac.jp

本館 2 階
事務局

※窓口取扱時間 月～金 9:00～16:50 (土日祝閉室)

4. 保健室

保健室では、健康診断、健康相談、突発的な傷病に対する応急処置などを行っています。健康上のことなら、何でも気軽にご相談ください。

1) 健康診断について

学生の定期健康診断は「学校保健安全法」により、年1回の受診が義務付けられています。

本学では、疾病の早期発見、学内での感染症拡大予防のため、毎年、4月に新入学生を含む、全学生を対象に定期健康診断を実施していますので必ず受診してください。在学中、就職・実習などで健康診断証明書が必要になる場合がありますが、定期健康診断を受診していないと証明書の発行はできません。慌てないよう計画を立てて発行するようにしてください。結果配付および、自動発行機での証明書発行(発行料100円)の目安は受診後約1か月ですが、準備が整い次第ポータルでお知らせします。

2) 学校において予防すべき感染症について

学校保健安全法により「学校において予防すべき感染症」に罹患した場合、感染拡大防止のため、定められた期間を出席停止としますので、自宅療養に努めてください。学校において予防すべき感染症に罹患した場合は、指定のフォームから速やかに大学へ申し出てください。

詳細は『履修ガイド・時間割表』を参照してください。

健康に関する相談窓口

保健室では、学生のみなさんが心身ともに健やかに充実した学生生活を過ごせるようサポートしています。気になる症状や体調不良、持病のことなどで相談したい場合に相談してください。また、軽い病気やケガの応急処置の他、大学近隣の医療機関の案内もしています。

保健室
TEL : 072-296-1331
【自動アナウンス1番】

本館1階
クリエイティブ
コモンズ
奥

※開室時間 月～金 9:00～16:50 (土日祝閉室)

※急を要する健康上の対応は以下に連絡してください。

<救急安心センターおおさか>

TEL : #7119 (#を押した後に7119を押してください。)

5. 学生相談室

学生相談室では、さまざまな悩みや問題に専門のカウンセラーが相談に応じています。

学生相談室には、面接室があり、周りを気にせずカウンセラーに相談できます。また、フリースペースにカウンセラーが常駐しています。ちょっと疲れたときの休憩や、少しおしゃべりしたいときなど気軽に立ち寄ってください。

相談したいときは、電話、メールでの連絡、直接来室、もしくはポスト（相談室ドア付近）に相談申込票を入れてください。二次元コードから相談 LINE を送ることもできます。

さまざまな悩みや問題に関する相談窓口【学生相談室】

例えばこんな時や、その他どんなことでも構いません。
個人の秘密は固く守ります。気軽にドアをノックしてください。

- 大学に入学したけれど…
 - ・なんとなく雰囲気合わない
 - ・何もしない気がしない
 - ・気持ちが落ち込んでいる
 - ・眠れない、イライラする、不安になる
- 学業のことで…
 - ・勉強の仕方がわからず単位が取れない
 - ・レポートや卒業論文が書けない
 - ・授業に出られない
 - ・退学、休学、復学のこと
- 人間関係のことで…
 - ・友達やクラブ・同好会、アルバイト先のこと、家族のことで悩んでいる
 - ・他人の目が気になって居心地が悪い
 - ・コミュニケーションが苦手な悩んでいる
 - ・孤独を感じる
 - ・メールや SNS のやりとりでトラブルにあった
- その他
 - ・自分は発達障がいじゃないかと思う
 - ・ジェンダーやセクシャリティのことで悩んでいる
 - ・DV やハラスメントを受けた

学生相談室
TEL : 072-296-1334 【内線 375】
E-mail : gakuso@tezukayama.ac.jp

別館 1 階
A140
A141

※開室時間 月～金 9:00～17:20(土日祝閉室※祝日授業設定日は開室)

相談者の秘密を守るために、下記のことには留意しています。

- ・教職員に情報を提供する際には、学生本人の同意を得ています。
- ・他の学生に相談内容や利用状況を伝えていません。
- ・フリースペースでは、他の学生がいることを考慮し、学生の名前を呼ばないようにしています。



学生相談室 LINE

6. その他の相談

栄養に関する相談窓口【栄養相談室】

身体や栄養・食生活についての疑問・悩みについて、医師資格や管理栄養士資格を持つ教員が助言します。

[時間] 毎週火・金 12:30～13:20

[申し込み方法] 前日までに申し込み用紙に記入し、
本館3階 M301 食物栄養第1実験室で予約してください。

[担当者] 食環境学部教員

[場所] 調理準備室（本館3階）

性的被害に関する相談窓口

本学は、大阪府内の大学と大阪府警が連携して、性犯罪被害の減少に向けて防犯対策に取り組む「防犯キャンパスネットワーク大阪」に参加しています。また、みなさんを守るために防犯対策を行うとともに、被害相談窓口を設けています。もし何らかの被害にあい、困ったり悩んでいる場合は、まずは保健室に連絡してください。

保健室

TEL: 072-296-1331

【自動アナウンス1番】

本館1階
クリエイティブ
commons
奥

※窓口取扱時間 月～金 9:00～16:50（土日祝閉室）

また、以下は「防犯キャンパスネットワーク大阪」とつながりがある機関です。

学外の機関ですが、相談に応じてくれるネットワークです。被害にあったときには、一人で悩まず相談してください。

<警察相談専用電話> TEL: #9110 平日9:00～17:45

<性犯罪被害110番> TEL: 0120-548-110 TEL: #8103（24時間対応）

<列車内ちかん被害相談「鉄道警察隊」> TEL: 06-6885-1234（24時間対応）

6. 学費

1. 学費およびその他の納付

学費などの納付は、口座振替となります。窓口（学生課）では取り扱いません。

口座引落日

春学期	5月27日
秋学期	11月27日

※具体的な納付金額等は成績通知書に同封する書面で案内します。

※引落日が土曜日・日曜日または祝日の場合は、その翌日となります。

※一旦納付された学費およびその他の納付金は、返還いたしません。

※納付期日までに所定の納付金が納付されなかった場合は、学則第43条により「除籍」の対象となります。

2. 学費の延納

経済的な事情により、納付期日までに納入が困難な場合は、延納を申し出ることができます。期限までに学生課に延納申請を提出してください。その理由がやむをえないと認められる場合に限り、学費を延納することができます。

※申請料 2,000 円が必要となります。証明書自動発行機で申請書を発行し、提出してください。

延納願手続きについての諸注意

- ・納付期日までに所定の納付金が納入されなかった場合は、学則 43 条により「除籍」の対象となります。
- ・納付期日を過ぎても納入が確認できない場合、学生本人へ連絡させていただく場合がありますのでご了承ください。
- ・学費未納付の学生は、学則第 36 条に定める試験を受けることができません。
- ・留学、短期語学研修中および休学中は、延納が認められません。

3. 学費関連スケジュール

春学期	秋学期	
3月	9月	春学期学費の納入案内送付
4月	10月	学費延納手続 春学期 4月10日～4月最終金曜日 秋学期 10月10日～10月最終金曜日
5月	11月	秋学期学費の納入案内送付
		学費引落 春学期 5月27日 秋学期 11月27日
6月	12月	延納者学費引落 春学期 6月27日 秋学期 12月27日
7月	1月	「除籍」 （「除籍通知」と「復籍願」の案内を学生・父母等へ送付）
9月	3月	「復籍」 希望する場合「復籍願」提出と「復籍料」納入 申請：秋学期復籍 9月1日～14日 春学期復籍：3月1日～14日 復籍日：秋学期復籍 10月1日 春学期復籍：4月1日

納入完了

※諸費用等別途徴収金について

履修を進めるにあたって授業料等の納付金以外にも学外設備の利用料や実習先施設までの交通費などが別途必要になります。

7. 奨学金

本学では、修学の熱意がありながらも経済的理由により学業の継続が困難な学生のために、経済支援を目的とする本学独自の奨学金制度を設けています。また、日本学生支援機構奨学金など学外奨学金制度の申込受付や情報提供も行っています。さらに、主体的な学びを支援し優秀な人材を育成することを目的とするスカラシップ制度も多数設けており、学生の学びをサポートしています。奨学金・スカラシップ制度は学生全体の半数程度に活用されています。

日本学生支援機構奨学金ならびに小野奨学会奨学金については、オンデマンド視聴にて確認いただけるようにしています。

その他の本学の奨学金も随時オンデマンド視聴ができるよう進めていきます。詳しくは学生課よりポータルを通して連絡しますので、忘れずに確認してください。

1. 本学独自の奨学金 [給付]

1) 帝塚山学院大学奨学金

本学の学生のみを対象とした本学独自の奨学金制度です。修学の熱意があり、学業成績が良好で家庭の経済事情により学費の支弁が困難である学生に対し給付します。

対象学年	2～4回生	募集時期	8月上旬～9月上旬	採用決定	10月
給付期間	当該年度のみ				
給付金額	授業料年額相当額の1/3				
成績基準	各学年終了時の累計GPA値が2.0以上の者				
家計基準	本学の定める基準を満たしている者				

※小野奨学金受給者・入試成績優秀者特待生対象者・高等教育の修学支援新制度採用者は出願できません。

2) 帝塚山学院大学学業成績優秀者奨学金

帝塚山学院大学に在学する学生で、学業において特に優秀な成績を修めた者に対して学業を推奨することを目的として奨学金を給付します。

対象学年	2～4回生（在籍期間1年以上あること）	採用決定	6月ごろ
給付期間	当該年度のみ		
給付金額	授業料年額相当額の半額を上限とする		
条件	各学科の年次のうち前学期までの在学期間を通算した累計GPA最上位の者とする。		

※入試成績優秀者特待生は対象外となります。

3) 学校法人帝塚山学院創立100周年記念奨学金

学校法人帝塚山学院の設置校の在籍者で、家計の急変等により経済的に困窮度が高く、修学が困難となった学生・生徒等に対し、学校法人帝塚山学院創立100周年記念基金の一部を用いて、奨学金を給付し、その勉学支援に資することを目的としています。

対象学年	1～4回生	募集時期	4月および10月	採用決定	8月および2月
給付期間	当該年度限りとし、この奨学金の利用は一度限りとする				
給付金額	原則として一人当たり年額60万円以内				
応募資格	(1) 前年度1月から3月と当該年度の4月から12月までの期間に、家計の急変等により経済的に困窮度が高く、経済的理由により修学困難と認められること (2) 学院の他の奨学金の給付を受けていないこと（国および府県の授業料補助制度等により学費等が無償となる者も含む） (3) 以下の学校法人帝塚山学院の設置校在籍者 ・帝塚山学院幼稚園 ・帝塚山学院小学校 ・帝塚山学院中学校高等学校 ・帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校 ・帝塚山学院大学 ・帝塚山学院大学大学院				

2. 高等教育の修学支援新制度（日本学生支援機構奨学金 [給付]、授業料等減免）

国の高等教育の修学支援新制度は、経済的な理由で学び続けることをあきらめずにすむよう、授業料等減免と給付型奨学金により、意欲のある学生のみなさんの「学び」を支える制度です。

対象学年	1～4回生	募集時期	(前半期) 4月頃 (後半期) 9月頃	採用決定	(前半期) 7月頃 (後半期) 12月頃
給付期間	最短修業年限の終期まで（継続審査あり）				
給付金額	下表参照				
条件	日本学生支援機構の定める成績および家計基準等を満たしている者				

・給付金額

世帯の所得金額に基づく区分	給付奨学金		授業料減免額（年額）
	自宅通学（月額）	自宅外通学（月額）	
第Ⅰ区分	38,300円（42,500円）	75,800円	700,000円
第Ⅱ区分	25,600円（28,400円）	50,600円	466,700円
第Ⅲ区分	12,800円（14,200円）	25,300円	233,400円
第Ⅳ区分	9,600円（10,700円）	19,000円	175,000円

※生活保護(扶助の種類を問いません。)を受けている生計維持者と同居している人および児童養護施設等から通学する人は、上表のカッコ内金額となります。

※2 第Ⅳ区分は多子世帯のみ対象。(扶養する子の数が3人以上)

3. 日本学生支援機構奨学金（第1種・第2種）[貸与]

日本学生支援機構の奨学金貸与事業は、教育の機会均等の理念のもと、意欲と能力のある学生が、自らの意志と責任において大学などで学ぶことができるよう、国の重要な教育事業として実施されています。貸与型奨学金貸与者は全学生に対し約1/2の割合となっています。借りた奨学金（貸与型奨学金）は卒業後、全額を返還しなければなりません。利用する際は、借り始めから卒業後の返還までを考えた資金計画を練っておくことが大切です。

日本学生支援機構奨学金について（参考）

●入学後について

【高校で予約採用の申込みをした場合】

大学入学後、「進学届」を提出することで、奨学金手続きが始まります。対象者には必ず連絡しますので、見落とさないようにしてください。その際、「令和6年度大学等奨学生採用候補者決定通知（進学先提出用）」等が必要となります。

【高校で予約採用の申込みをしていない場合】

予約採用の申込みをしていなかったが、入学後に奨学金が必要になった場合は「在学採用」（定期採用）で申込みことができます。「在学採用」申込希望者は、4月のガイダンス期間に必要な書類を学生課で受け取り、オンデマンド配信の説明動画を視聴し、申請を進めてください。

●奨学金の継続について

奨学金は卒業までずっと継続されるかということ、そうではありません。毎年、学業基準と家計基準の審査があります。両方の基準を満たさない場合、奨学金の停止、廃止、警告などといった処置の対象となるため、注意してください。

●奨学金の返還等について

卒業後に奨学金を、いつまでにどのように返還するかといった返還プランを決めておくことが大切です。原則として、貸与型の奨学金は20年以内に返還を済ませなければなりません。貸与した奨学金の返還について前もって計画しておいてください。

V. 学生生活について

日本学生支援機構のホームページで、貸与・返還のシミュレーションができるので活用してみてください。奨学金の返還は、原則「貸与期間終了の翌月から数えて7か月目」から始まります。

貸与・返還のシミュレーションの URL 及び二次元コード

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/document/simulation.html>
(日本学生支援機構ホームページ)



・第一種奨学金（無利子）

対象学年	1～4回生	募集時期	4月	採用決定	7月上旬
貸与期間	最短修業年限の終期まで				
貸与月額	【自宅通学者】20,000円・30,000円・40,000円・54,000円から選択 ※最高月額については、日本学生支援機構の定める基準を満たしている者のみ選択可				
	【自宅外通学者】20,000円・30,000円・40,000円・50,000円・64,000円から選択 ※最高月額については、日本学生支援機構の定める基準を満たしている者のみ選択可				
成績基準	【1回生】高等学校調査書最終2ヶ年の評定平均値が3.5以上の者 ※住民税非課税世帯学生を除く				
	【上回生】各学年終了時の累計GPA値が属する学科の上位1/3以内				
家計基準	日本学生支援機構の定める基準を満たしている者				

・第二種奨学金（有利子）

対象学年	1～4回生	募集時期	4月	採用決定	7月上旬
貸与期間	最短修業年限の終期まで				
貸与月額	20,000円から120,000円のうち1万円単位で選択				
成績基準	【1回生】高等学校における学業成績が平均水準以上の者				
	【上回生】大学における学業成績が平均水準以上の者				
家計基準	日本学生支援機構の定める基準を満たしている者				

※1年次(編入学者は編入年次)に限り、入学時特別増額貸与奨学金(有利子・一時金)を申し込むことができます。第一種・第二種のどちらか(または、両方)と同時申し込みとなり、貸与月額の初回振込時に振り込まれます。貸与額は10万・20万・30万・40万・50万円から選択できます。

4. 地方公共団体・民間団体奨学金

地方公共団体や民間団体による奨学金制度も多数あります。募集の時期は団体により異なりますが、多くは4～5月に集中します。大学に募集依頼があった場合は、そのつどポータルで案内します。大学に直接募集がないものもありますので、出身都道府県市区町村の教育委員会や各団体に各自問い合せてください。

小野奨学会奨学金【給付】

公益財団法人小野奨学会が行っている民間の奨学金制度です。学業、人物ともに優れ、健康で向学心を有する学生に対し給付します。

対象学年	1～3回生	募集時期	4月	採用決定	8月下旬
給付期間	最短修業年限の終期まで				
給付月額	60,000円				
成績基準	【1回生】高等学校最終2ヶ年の評定平均値が3.8以上の者				
	【上回生】現在までの修得単位が秀・優>良+可で、かつ最短修業年限で卒業が可能な者				
家計基準	小野奨学会の定める基準を満たしている者				

※帝塚山学院大学奨学金受給者・入試成績優秀者特待生対象者は出願できません。

8. 教育ローン制度

1. 日本政策金融公庫「国の教育ローン」

日本政策金融公庫が行う「国の教育ローン」は、教育のために必要な資金を対象に、学生の保護者が融資を受けられる制度です。入学時や在学中の費用として幅広く使うことができます。金利など詳しくは日本政策金融公庫「国の教育ローン」にお問い合わせください。

融資限度額	350万円以内
営業時間	9:00~19:00 (月~金)
電話番号	コールセンター:0570-008656 (ナビダイヤル)
URL	https://www.jfc.go.jp/

2. オリントコーポレーション「学費サポートプラン」

本学では、株式会社オリントコーポレーション（以下、オリコ）と提携し、学生支援制度の一つとして提携教育ローン制度（学費サポートプラン）を導入しています。オリコが本学に入学金や授業料などの学納金を一括納入（本学への直接振込により振込手続き不要）し、オリコに分納にて返済する制度です。分割手数料など詳しくはオリコ学費サポートデスクにお問い合わせください。

利用額の上限	500万円以下 ※1回あたりの利用金額は納付書に記載の金額
営業時間	9:30~17:30 (土・日・祝・年末年始を除く)
電話番号	オリコ学費サポートデスク:0120-517-325
URL	https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?do=confirm

9. スカラシップ制度

1. ドミトリースカラシップ【給付】

遠方からの入学者のための借家料援助制度です。

対象学年	1~2回生（編入生は入学時より2年間）	募集時期	4月
給付期間	1年間（条件を満たし申請により1年間継続可能）	給付金額	年額100,000円
条件	保護者居住地が大阪府以外で本学指定の宿舎に居住する者		

※高等教育の修学支援新制度採用者は申請できません。

2. 留学スカラシップ【給付】

海外に留学する学生のための支援制度です。協定校への交換留学生、国際交流基金による留学生を対象としたプログラムがあります。

対象学年	1~4回生	募集時期	プログラムにより異なる
給付期間	当該年度	給付金額	プログラムにより異なる
条件	留学を希望する者で、学内における試験や一定の審査に合格した者		

3. ライセンススカラシップ [給付]

各種検定料支援制度です。

対象学年	1～4回生	募集時期	随時
給付期間	当該年度	給付金額	検定料の半額
条 件	大学が指定する検定に合格または当該の成績を修めた者		

【帝塚山学院大学 ライセンススカラシップ対象資格】

資格の種類	要件に該当する等級または点数等	合格または点数を証明するための必要書類
TOEIC (初めて申請する学生)	400点以上獲得すること	400点以上獲得したことがわかる成績証明書のコピー
TOEIC (申請が複数回の学生)	前回申請時より60点以上、上回ること	前回申請時の成績証明書と今回受験した成績証明書のコピー
実用英語技能検定 (英検)	1級～準2級合格	合格書のコピー
中国語検定	1級～準4級合格	
「ハングル」能力検定	1級～5級合格	
韓国語能力試験 (TOPIK)	3級～6級合格	
実用フランス語技能検定	1級～4級合格	
Microsoft Office Specialist (Word)2016・2019	スペシャリストレベル～エキスパートレベル合格	
Microsoft Office Specialist (Excel)2016・2019	スペシャリストレベル～エキスパートレベル合格	
ITパスポート検定	合格	
ビジネス能力検定	1級～3級合格	
秘書検定	1級～3級合格	
日商簿記検定	1級～3級合格	
販売士	1級～3級合格	
ファイナンシャルプランナー	1級～3級合格	
保育士試験	合格	

(2023年度実績)

※例年2月に学内実施するMicrosoft Office Specialist (Word)・(Excel) 2016・2019につきましては、卒業年度生は申請できません。

※1つの検定試験に対して1回の申請を認めます。

4. キャンパススカラシップ [給付]

課外・自主活動で活躍する学生への支援制度です。


対象学年	1～4回生	募集時期	当該年
給付期間	当該年度	給付金額	表彰および副賞授与
条 件	教職員による推薦、大学または社会に対し著しい功績があった者または団体		

10. アルバイトの紹介

本学では、株式会社学生情報センターが運営する「学生アルバイト情報ネットワーク（バイトネット）」に加盟し、学生にふさわしい良質なアルバイト情報を提供しています。「バイトネット」は、危険を伴うものや教育的に好ましくないものなどを制限し、学業と両立できる安心・安全なアルバイト情報のみを審査して掲載しています。パソコン・スマートフォンから検索・閲覧が可能です。大学ホームページからもリンクしています。万が一のトラブルの際も気軽に相談ができるので安心です。学生の本分である学業との兼ね合いを考えて、アルバイトを選択するよう心がけてください。

1. バイトネットについて

「バイトネット」 帝塚山学院大学専用ページ

U R L	https://www.aines.net/tezuka-gu/	
-------	---	---

2. 新規登録方法

- ① 「バイトネット」 帝塚山学院大学専用ページにアクセス
- ② 「新規登録はこちら」 をクリック
- ③ ユーザー情報登録（任意のメールアドレスを入力）
- ④ 入力したメールアドレス宛に ID・パスワードが届く

3. 利用方法

- ① 「バイトネット」 帝塚山学院大学専用ページにアクセス
 - ② ID・パスワードを入力し、ログインをクリック
 - ③ 職種や沿線など、希望の条件にそって検索
 - ④ 希望の求人先が見つかった場合には、応募方法などを確認し、各自で申し込む
- ※求人先を訪問する際は必ず学生証を携帯すること

注意事項

「バイトネット」では、厳選したアルバイト情報を提供していますが、万が一、アルバイト先でのトラブル（報酬の不払い・条件の変更など）が生じた場合は、速やかに下記の事務局へご相談ください。

学生アルバイト情報ネットワーク大阪事務局 株式会社学生情報センター

住 所	大阪市淀川区西中島5-4-20 中央ビル2F
電話番号	06-4806-0560（フリーダイヤル：0120-749-155）
E-mail	info@aines.net

11. 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

本学では、教育研究活動中の不慮の事故および賠償事故に備えるため、「学生教育研究災害傷害保険」および「学研災付帯賠償責任保険」に全学生を対象として、大学負担において一括して加入し、学生生活をサポートしています。事故発生後は早急に保健室へ届け出てください。

1. 学生研究災害傷害保険

1) 保険の内容

本学の教育研究活動中（通学中も含む）に生じた突発的な事故によって身体に傷害を被ったときに保険金が支払われます。

対象範囲	内容
正課中	講義、実験、実習、演習または実技による授業を受けている間
学校行事中	入学式、オリエンテーション、卒業式、大学祭などの教育活動中
キャンパス内にいる間	授業間の休憩中あるいは昼休み中など、上記以外で大学にいる間
課外活動中	キャンパスの内外を問わず課外活動を行っている間
通学中	住居と学校施設などとの往復の間
学校施設など相互間の移動中	課外活動などへ参加するため学外へ移動している間

2) 保険金の種類と金額

- ①死亡保険金………事故の発生の日からその日を含めて180日以内に死亡した場合
 ②後遺障害保険金………事故の発生の日からその日を含めて180日以内に後遺障害が生じた場合

補償範囲	①死亡保険金	②後遺障害保険金
正課中・学校行事中	2,000万円	程度に応じて 120万円～3,000万円
正課中・学校行事中以外で学校施設にいる間 学校施設外での課外活動（クラブ活動）中 通学中・学校施設など相互間の移動中	1,000万円	程度に応じて 60万円～1,500万円

- ③医療保険金………傷害を被り、医師の治療を受けた場合
 ④入院加算金………上記医療保険金の治療日数の中に医師の指示に基づき病院に入院した日数が含まれている場合

【医療保険金（医師の治療を受けた場合）および入院加算金】

事故発生時の活動の種別			治療日数（※）	医療保険金	入院加算金 （180日限度）
正課中・学校行事中	（対象外）	（対象外）	1日～ 3日	3,000円	
			4日～ 6日	6,000円	
			7日～ 13日	15,000円	
	（治療日数4日以上が対象）	（治療日数14日以上が対象）	14日～ 29日	30,000円	
			30日～ 59日	50,000円	
			60日～ 89日	80,000円	
			90日～ 119日	110,000円	
			120日～ 149日	140,000円	
			150日～ 179日	170,000円	
			180日～ 269日	200,000円	
		270日～	300,000円		

+ 入院した場合

（※）

実際に入院または通院した日数をいいます。傷害を被り治療を開始した日から「医師が必要であると認めた治療が完了した日」間の実治療日数であり、治療期間の全日数が対象になるのではないことにご注意ください。

注意事項

- 上記の保険金は生命保険、健康保険、他の傷害保険、加害者からの賠償金と関係なく支払われます。
- 保険金は上記金額に限定されているので2口以上の加入はできません。
- 同日に複数の病院へ通院した場合でも治療日数は1日となります。1日のうちに2つの病院へ通院しても、治療日数は2日とはなりませんのでご注意ください。
- 接触感染予防保険金（※3）

補償範囲	支払保険金
臨床実習中	1事故につき15,000円（定額払）

（※3）臨床実習の目的で使用される施設内で、感染症の病原体に予期せず接触し、かつ、その原因となる事故の発生の日からその日を含めて180日以内にその接触感染に対する感染症予防措置を受けた場合が対象です。

2. 学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）

1) 保険の内容

学生が正課、学校行事、課外活動およびその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより法律上の侵害賠償責任を負担することにより被る侵害を補償します。

2) 補償の対象になる事故の例

- 授業での実験中、間違っって薬品を混ぜ、爆発事故を起こしてしまい、他の学生に火傷を負わせてしまった。
- インターンシップ活動中、派遣先の機械を無断で使用し、誤って壊してしまった。
- 学校の行事で、焼鳥屋の模擬店を出店したが、食中毒を出してしまい、5人が入院してしまった。
- 授業を受けるため学校に行く途中、駅の階段を駆け降りたとき、誤って老人にぶつかってしまい、ケガをさせてしまった。

3) 補償金額

補償内容など	補償金額など
支払限度額	対人補償と対物補償合わせて1事故につき1億円限度

3. 『学研災付帯学生生活総合保険』（略称「付帯学総」）（任意加入）

学生の活動範囲は学内のみならず、学外への広がりと多様化を呈しています。そこで本学では、学生生活全般に対応できる補償制度として『学研災付帯学生生活総合保険』（略称「付帯学総」）の加入を推薦しています。「付帯学総」では「学研災」では補償されない学内外におけるケガや病気の治療費の実費（健康保険等の自己負担分）の補償などがあります。入学前に加入している方もいます。詳細につきましては、下記にて確認するようにしてください。

東京海上日動火災保険株式会社 関西公務金融部 大阪公務課 電話番号 06-6203-0518
 (営業時間：平日の9：00～17：00)

12. 下宿

本学では、自宅外からの通学を希望している学生が安心してより良い部屋探しができるよう、株式会社学生情報センター（ナジック）に下宿紹介に関する諸業務を委託し、安全で優良な住まいの紹介や相談に応じています。ひとり暮らしに関して些細なこと、どうしてもわからないこと、困っていること、何でも気軽に相談してください。なお、本手続きにて入居した場合は、本学独自の奨学金制度「ドミトリースカラシップ」（大阪府以外の遠隔地出身学生に対しての借家料援助制度）の対象になります。

※高等教育の修学支援新制度採用者は「ドミトリースカラシップ」の対象外となります。

1. Nasic（ナジック）とは


株式会社学生情報センター（ナジック）では、全国674校の大学・専門学校から委託を受けて下宿紹介に関する諸業務を行っています。ナジックは学生に対して、単に部屋の紹介をするだけでなく、「安心・安全・愛情」をコンセプトに、入居学生の生活を24時間サポートしています。(2023年4月現在)

2. 下宿紹介・入居手順

- ①「帝塚山学院大学ひとり暮らしガイド」より入居希望の物件を検討する。
 - ②ナジックへ連絡する。その際、帝塚山学院大学の学生であることを必ず伝える。
 - ③ナジックにて下宿の相談、物件の見学などを行う。
 - ④希望物件の申込・契約手続きを行う。
 - ⑤学生課に住所変更届を提出する。
- ※「ドミトリースカラシップ」の対象となるのは、上記入居手順にて、契約した場合に限ります。毎年4月に学生課への申し込みが必要になりますので、大学ホームページやポータルを確認してください。詳細はP.161「9. スカラシップ制度」を参照してください。

3. 問い合わせ先

株式会社学生情報センター（ナジック）大阪ミナミ店

住所	大阪市中央区日本橋1-17-17 ピカソ日本一ビル5階	U R L
電話番号	0120-356-554	https://749.jp/
営業時間 定休日	4月～9月／10：00～17：00 水曜・日曜・祝日休 10月～1月／9：00～18：00 水曜休 2月～3月／9：00～18：00 無休	

4. 遠隔地被扶養者証

下宿している学生は父母等の健康保険証とは別に、本人だけの保険証（遠隔地被扶養者証）を作ることができます。父母等の加入している保険証交付機関に在学証明書を添えて申請することで、交付されます。医療費の負担軽減のために交付を受けましょう。

13. 課外活動

大学は学問の研究・真理の探究の場であることは言うまでもありませんが、同時に人間形成の場でもあります。課外活動は学生の自主的な活動の場であり、仲間と力を合わせてひとつの目標に向かって進んでいく過程で生涯の友を見つけ、他人を理解し、自己を見出すという大きな意義があります。ぜひとも課外活動に積極的に参加し、個性や能力を伸ばし、協調性豊かな幅広い人間的成長を遂げてください。

1. クラブ・同好会について

- ・クラブ・同好会あわせて約40団体あり。
- ・活動日をうまく組み合わせることで、複数の部に入部・入会することが可能です。課外活動に参加することで、仲間も増え、より充実した大学生活につながります。加入はとても簡単です。気になるクラブ・同好会の活動日に活動場所へ行き、申し出てください。各部の代表の説明に従い進めることで、加入できます。

2. クラブ・同好会の設立について

<クラブの設立について>

- ・同好会として1年以上活動を続け、10名以上の学生が加入している同好会はクラブ設立を願い出ることが可能です。
- ・「クラブ設立願」「部則」「部員名簿」「過去1年間の活動報告書」を添えて学生課を通じ、学生会へ提出し、許可を得てください。

<同好会の設立について>

- 同好会の設立には 5 名以上の学生の加入が必要。
- 専任教職員から顧問を決定。
- 「団体設立願」「部則」「部員名簿」を添えて学生課を通じ、学生会へ提出。
- 指導員を必要とする場合で本学教職員以外から依頼するときは、「学生団体指導員依頼願」に履歴書（自筆・写真貼付）を添えて学生課に提出し、許可を受けてください。（指導員が大学生の場合、所属大学の在学証明書も必要）
- 連盟など学外団体に加入する場合、「学外団体加入願」に団体規約・役員などを記載した書類を添えて学生課に提出し、許可を受けてください。

3. ボランティア活動

堺市内や大阪狭山市内でのボランティア活動を中心に、学生が地域に根ざした社会に貢献する活動に参加することを応援しています。大学に寄せられた地域のボランティアの情報はサイネージ等でお知らせします。また、本学ではボランティア部「Sky drop」がボランティア活動を行っています。興味がある学生は、「Sky drop」の活動も確認してください。

4. 学生会執行委員会

学生会執行委員会はすべての部活動等の団体と大学祭実行委員会を統括しています。さらに学生からの相談・質問の対応を行い、大学への帰属意識や愛着を高める企画を計画するなど、さまざまな活動に取り組んでいます。

他の部活動や大学祭実行委員会、CLA とも兼任は可能です。みなさんも学生会の一員として大学を盛り上げませんか。学生会の活動は学生会のInstagramで確認することもできます。

場 所	クラブハウス 2 号館 C308
電話番号	072-296-5890
E-mail	tk.izumigaoka@gmail.com



学生会Instagram

5. 葡萄祭実行委員会（大学祭実行委員会）

本学の大学祭は「葡萄祭」と言い、毎年秋に開催しています。葡萄祭は葡萄祭実行委員が中心となり、企画・運営しています。委員みんなで頑張ることはとてもいい経験となり、終わったあとの充実感、達成感は言葉では言い尽くせません。ぜひみなさんも葡萄祭実行委員になり、一緒に葡萄祭を盛り上げ、楽しみましょう。希望される方は葡萄祭実行委員会の部室を訪ねてください。

場 所	クラブハウス 2 号館 C111
-----	------------------

6. CLA (Campus Life Adviser)

CLA は学生主体の後輩学生のキャンパスライフを支援する組織です。困りごとの相談対応も行います。スタッフは事前に研修を受け、コミュニケーションの取り方などを学びます。入学前スクリーニングも担当し、先輩学生として新入生をリードします。CLA の活動を通して身につくものは将来役に立つものばかりです。CLA の活動に興味ある人、CLA に相談したいと思った人、ぜひ CLA の部室を訪ねてください。

7. CL (Creative Library) プロジェクト

本館 1 階クリエイティブコモンズ内にある書架の一部を、マイクロライブラリーとして学生が主体となり運営しています。書架に設置する書籍の選択を行い、Web を利用した貸し出しシステムを導入しています。本棚に手作りの POP を置いたり、感想共有カードを制作したりすることを通じて、より多くの学生に利用してもらう取り組みを展開しています。

興味のある学生、質問がある学生は、学生課を訪ねてください。

8. キッチンカープロジェクト

食堂の混雑緩和、学生の企画力の向上を目的とするプロジェクトです。キッチンカーの選定をはじめキッチンカーに関わることは学生が主体で進めています。葡萄祭では人気のキッチンカーをお呼びし、盛り上げてもらっています。

興味がある人は学生課を訪ねてください。

14. 学生生活を送る上での注意事項

1. キャンパスマナー

マナーを守り、みんなで快適な大学生活を送れるようにしましょう。

- ・周囲に迷惑をかけるような行動は慎みましょう。
- ・学内ならびに大学周辺は禁煙です。
- ・飲食禁止の教室や施設では飲食をしないでください。
- ・コモンズなどの会話可能なスペースであっても、大声での会話や音を出しての動画の視聴等は慎みましょう。
- ・共有スペースでは長時間の占有はせず、ゆずりあって利用しましょう。また、場所取りや荷物の放置はしないようにしましょう。
- ・ソファスペースをはじめ、共有スペースでの昼寝、睡眠は慎みましょう。
- ・ゴミは指定のゴミ箱に捨てましょう。

2. 各自の持ち物の管理

各自の持ち物（特に現金や貴重品）の管理には十分注意し、盗難の発生を未然に防ぐように努めてください。特に、貴重品の入った荷物を教室や食堂に置いたまま席を立つ姿を見かけます。盗難防止のためには、貴重品は必ず持ち歩くなど、自己管理に努めましょう。万一、学内で盗難にあった場合は、学生課に「盗難届」を提出してください。

持ち物の管理について

- 1 貴重品は常に身につけておくこと。
- 2 教室、図書館、食堂などで荷物を置いたまま席を立たないこと。
- 3 ロッカーを使用する際には必ず施錠すること。
- 4 課外活動で部室などを利用する際にも、貴重品は必ず身につけ、各自の責任で管理すること。
- 5 自転車・バイクには必ず厳重に鍵をかけること（二重ロック）。

3. 拾得物・遺失物

- 拾得物・遺失物については、学生課が取り扱っています。学内で物を紛失したり、拾ったりした場合、ただちに学生課に届け出てください。
- 拾得物は学生課で保管しています。拾得物はその学期に限り保管します。引き取りがなかったものは、学期末に廃棄します。
- 食品類（弁当を含む）は衛生上の問題があるため、翌日に容器ごと廃棄します。容器が入っていたカバンやランチバッグ等のみ保管します。
- 学生証等、持ち主が判明する場合は、ポータルよりお知らせします。
- 遺失物の受け取りの際は、必ず本人が学生証を持参して学生課まで申し出てください。

4. 禁止事項

1) 喫煙

学内および周辺のバス停、住宅街、通学路などにおける喫煙を禁止します。

2) 飲酒

学内および周辺のバス停、住宅街、通学路などにおける飲酒を禁止します。

3) 騒音

学内や近隣に迷惑になるような行為（集団で騒ぐ、過度の騒音、打ち上げ花火など）を禁止します。

4) 物品販売

学内での学生による物品販売および金銭上の収受を伴う行為は、大学祭など特別な許可が得られた場合を除き、原則として禁止します。

5) 無許可での調理器具（火気・IH）の持ち込み・使用

大学祭や各種学内イベントなどで特別な許可が得られた場合を除き、学内に調理器具などの火気（IHも含む）を持ち込んで使用することを禁止します。

6) 無許可印刷物の掲示・配布

学内および周辺における無許可印刷物の掲示・配布を禁止します。学内でポスターなど掲示または配布する場合、必ず学生課で許可をとってください。

7) その他

学内の器物を損壊（落書きを含む）することや、21：30以降に学内施設に無許可で出入りすることを禁止します。

5. 生活上の諸注意

1) 飲酒

新入生歓迎会やクラブ・同好会の打ち上げ会などで、20歳未満の者に飲酒をさせることは違法ですので、決して行ってはいけません。20歳未満の者は誘いがあっても、断る勇気を持ってください。また、20歳以上であっても過度な飲酒や、他の人への飲酒の強要は絶対にしないでください。

自分が飲酒に強い体質か弱い体質かは、アセトアルデヒド脱水素酵素の有無によります。おおよその判別はアルコール・パッチテストで分かり、保健室でもチェックできますので、確認したい学生は保健室を訪ねてください。

2) 薬物

危険ドラッグ、シンナー、覚せい剤、大麻といった薬物の乱用が大きな社会問題になっています。薬物乱用は本人の精神と身体に悪影響を及ぼすだけでなく、さらには友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく社会全体に計り知れない害悪をもたらします。薬物の所持・使用はれっきとした犯罪です。遊びのつもりや友達に誘われても絶対に使用しないでください。

3) カルト団体

キャンパスの内外で、カルト団体の構成員がサークル活動などを装って学生を勧誘するケースが、例年多数確認されています。最初は本来の活動目的を隠してボランティア、セミナー、合宿などの活動に誘い、友好的な人間関係を築いたうえで、知らず知らずのうちにマインド・コントロールを行います。そのような団体と関わりを持つと、貴重な時間が奪われるばかりか、身体的・精神的・経済的に深刻な被害を受けるだけでなく、友達を勧誘することで周囲との信頼関係を壊すことにもなりかねません。このようなカルト団体に入らないよう十分注意してください。少しでも不審に思ったときは、はっきりと断る勇気が大切です。決して、電話番号や住所などの個人情報には教えてはいけません。

もし被害に遭ってしまった場合は、直ちに学生課や各種相談窓口にご相談してください。

4) SNS

X(旧 Twitter)、Instagram や Tik Tok、LINE など、SNS は便利で楽しい反面、リスクが伴います。ネット上では完全なセキュリティーや匿名性はないものと考え、十分意識した上で利用するようにしてください。何気ないつぶやきや友達同士のおしゃべりでも、全世界に情報を発信しているのと同じことで、個人情報の漏えい、名誉毀損、プライバシーの侵害など大きな問題になることがあります。最近では X (旧 Twitter) などへの不適切な書き込みや写真の投稿により、社会的に非難を受け、法的に罰せられるケースも起きています。自分は冗談のつもりでも、不適切な書き込みや写真の投稿は絶対にしないでください。

5) 悪質商法

学生をねらった悪質な物品販売や入会勧誘の被害が多発しています。巧妙な手口で近づくとまい話にはのらないように気をつけてください。もし被害に遭ってしまった場合は、一定期間内であれば契約を解除できるクーリング・オフ制度を利用することもできますので、直ちに学生課や各種相談窓口にご相談してください。

悪質商法の手口

- アポイントメントセールス
電話やメールで「抽選に当たった」などと言って呼び出し、高額な商品などを契約させる
- キャッチセールス
街角でアンケート調査と称して呼び止め、事務所やカフェなどに同行させ、高額な商品などを契約させる
- マルチ商法
「商品を購入して会員になり、人を紹介すれば利益が得られる」などと言って販売組織に加入させ、商品売りつける

- ・架空請求・不当請求
電話、メール、ハガキ、封書などを使って根拠のない請求をし、金銭を支払わせる
- ・その他
デット商法、資格商法、点検商法、催眠商法、無料商法、預り金商法などがある

クーリング・オフ制度

訪問販売や電話勧誘販売などにおいて、期間内であれば、消費者は販売業者に対し、書面によって申し込みの撤回や契約の解除ができる制度です。クーリング・オフをする場合には、必ず書面で行い、証拠が残るように「内容証明郵便」で送るのが確実です。

消費者トラブルに関する相談窓口

消費者ホットライン	局番なし 188番 (または、0570-064-370) 月～金 9:00～17:00 土・日・祝 10:00～16:00 (市町村により異なる場合がある)
堺市消費生活センター	072-221-7146 月～金 9:00～17:00

6) 学生ローン

「学生ローン」は、利用手続きの簡易さから安易な気持ちで利用する人がいるようですが、ごくわずかな借金でも金利が高いため返済額が、雪ダルマ式に増えていきます。その返済のために他のローンも利用せざるを得なくなり、巨額の返済に追われることがありますので、利用には十分気をつけてください。

7) 防犯対策

「自分の身は自分で守る」という、意識と行動が大切です。日頃から未然防止を心がけましょう。

- ・甘い誘いに乗らない
- ・深夜の一人歩きは避ける。遠回りでも、明るい人通りの多い道を選ぶ。
- ・不用意にドアを開けない。
- ・戸締りは確実にする。
- ・エレベーター内での密室を利用した犯罪、エスカレーターや階段での盗撮に注意を払う。
- ・歩きながら電話やメールをしない。
- ・おかしいと思ったら110番をする。

15. 学生の懲戒

学生が犯罪や不正行為等の非違行為を行った場合、一般の社会人と同様に法的な処分の対象となりますが、本学では、これとは別に教育的指導の観点から、このような行為を行った学生に対して懲戒処分を行います。学則第45条に基づいて処分を行います。

16. ハラスメント防止

ハラスメントは教育・研究活動の前提である自由と平和を脅かす人権侵害です。帝塚山学院大学の構成員は誰一人として、ハラスメントの被害者にも加害者にもなってはなりません。互いを独立した人格として尊重し、ハラスメントを防止していくことは、本学の構成員一人一人が負う基本的な義務であると考え、全学を挙げてハラスメントの防止に努めています。

1. ハラスメントとは

Q. ハラスメントとは何ですか？人権問題なのですか？

A ハラスメントとは、本人の意図には関係なく、他人に対する発言や行動が相手に不快感や不利益を与えたり、相手の尊厳を傷つけたりする人権侵害行為です。主なものとしてセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等があります。

セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反する性的な発言や行動によって、相手に精神的苦痛を与えたり、不快な思いをさせたりすることを指します。例えば、性的な発言や行為（卑猥なことを言ったり、不必要に身体に触れたり、個人に関わる性的な内容の情報を広めたりすることなど）をすることなどです。

アカデミック・ハラスメント

教育・研究上の力関係や上下関係を利用して、相手の教育・研究上または修学上の利益や権利を侵害することを指します。例えば、必要な教育的指導を理由なく拒否したり、過度の課題を強要したりすることなどです。

パワー・ハラスメント

職務上の地位や人間関係の有意性を利用して、適正な範囲を超えて指導や注意を行うことにより、継続的に精神的・身体的苦痛を与えることを指します。例えば、指導的立場にある者が指導を受ける者を繰り返し侮辱したり、暴言を吐いたりすることなどです。また、学生同士の課外活動の場も、地位の優位性を背景にした上記のような行為は、パワー・ハラスメントとみなされます。

その他のハラスメント

つぎのような行為も一種のハラスメントです。

- ・飲み会などで、参加者に飲酒・イッキ飲みなどを強要する。
- ・ゼミやクラブ・同好会のメーリングリスト、ホームページやブログ、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）などで、人格を侵害するような侮辱・中傷・虚偽のうわさを流す。
- ・執拗にメールを送信したり、SNSで個人を特定して嫌がらせをする。
- ・交際相手に身体的・精神的・性的な暴力をふるう。

2. ハラスメントにあったとき

Q. ハラスメントの被害にあったときは、どうすればいいのでしょうか？

A 本学はハラスメントに関する相談に対応するため、相談員（半数以上は女性）を配置しています。ハラスメント被害にあっていて感じ、悩んでいるときは、相談員に相談してください。解決に向けてサポートします。相談受付は、面談だけでなく、電話やメールでも可能です。学内のサイネージに掲示している相談窓口または学生課を訪ねてください。

Q. 相談に行ったことが分かってしまうことはありませんか？

A 相談内容や個人の秘密は絶対に守られます。ハラスメントに関する相談または申し立ての各手続きにかかわったすべての人には、相談者およびその関係者のプライバシーを保護するため厳格な守秘義務が課せられています。相談したり救済を求めたことで仕返し（二次被害）を受けることがないように相談者は守られています。

Q. 卒業・退学後でも被害について相談に行ってもいいですか？

A 在学中に受けた被害について、卒業・退学後でも相談・申立ができます。

Q. ハラスメントの加害者にならないために気をつけるべきことは何ですか？

A 相手が嫌がっていることが分かった場合には、決して同じ発言や行動を繰り返してはいけません。また、拒否の意思表示がないからといって同意あるいは合意していると勘違いしてもいけません。相手の意思を尊重することが何よりも大切です。

Q. ハラスメントについてもっと知りたいのですが？

A 「帝塚山学院大学ハラスメント防止ガイドライン」をポータル「キャビネット」に掲載しています。また、ハラスメントに関する一般的な書籍・雑誌を図書館にそろえています。

17. Voices 制度

本学では大学が主宰者となって、学生からの意見、要望、提案などを聞き、それらを大学の充実発展に役立てることができるように適切に対処することを目的とした「Voices 制度」があります。

この制度における学生から大学への意見、要望、提案の方法は、以下の2通りあります。

- ①大学が設置している Voices という意見箱に投函する
- ②大学メールアドレスから、指定のメールアドレスに送信する

投函された意見の内容について審議・検討し、大学としての回答を文書によって公表します。学生から大学ないし個人への無責任な意見・批判や品位を欠いた非難・中傷を避けるために、投函学生は自身の学籍番号、氏名を明記することを原則とします。ただし大学は学生の氏名を絶対に公表しません。

設置場所

本館2F エレベーターホール

18. 障がいがある人とともに

本学では、本学に在籍する障がいがある学生と障がいのない学生が相互に人格と個性を尊重しあいながら、全ての人が安心して有意義な学生生活を送ることができる環境作りに努めています。

1. 視覚障がいのある人に対して

- ①困っているなと思ったら、声をかけてください。
- ②歩行のじゃまにならないように、ベンチ、灰皿、看板などを所定の位置から動かさないでください。

歩くときは

杖の反対側の半歩前に立ち、肘の少し上を握ってもらいます。引っ張ったり、杖をつかんでガイドすることは、相手を動きにくくしたり、恐怖心をもたらします。歩く速度は相手に合わせ、狭いところでは縦一列になり、ゆっくりと通過します。

戸口を通過するときは

戸口の前で立ち止まり、戸口がどちらに開くのかを伝えてください。

階段では

階段に対して直角に近づき一旦停止し、上りか下りかを伝え、下りの場合は常に一步先を歩いてください。上り（下り）の終わりにも一旦停止をしてください。

声をかけるときは

「そこ」「あちら」などの曖昧な指示語は使わないように、具体的に表現してください。

2. 車椅子を使用している人に対して

- ①困っているなと思ったら、声をかけてください。
- ②何かの介助が必要な場合、どのように介助したらよいのか聞きましょう。
- ③介助を行う場合は、一つ一つの動作のたびに必ず声をかけてください。

平地での基本姿勢

動きははじめるときには「押しますよ」と声をかけ、ブレーキを解除してゆっくりと押し出してください。

階段を上がるには（車椅子前向き）

車椅子の後部にあるレバーを踏み、前輪（キャスト）を上げて段に乗せ、次に後輪を押し上げます。

階段を下りるには（車椅子後ろ向き）

後ろ向きになって後輪から降ろし、前輪を上げて後に引きます。なるべく衝撃を与えないようにゆっくり降ろします。

エレベーターの利用法

学内エレベーターは障がいのある人や高齢者優先です。（介助者の同乗可）

電動車椅子の場合

電動車椅子が立ち往生しているのを見かけたら、まず安全な場所に移動させます。そのためには電動車椅子を手動に切り替えます。切り替え方式は車椅子により異なりますので、利用者に確認してください。電動車椅子は、利用者の体重と合わせて100kgの重さがあります。危険ですので決して安易に抱えたりしないようにしてください。

3. 聴覚障がいのある人に対して

- ①困っているなと思ったら、声をかけてください。
- ②聴覚障がいといっても、障がいの程度は一人ひとり異なります。全く聞こえない、高い音は分かる、低い音は分かるなど、さまざまです。
- ③コミュニケーションの方法は、手話、指文字、口話、筆談などいろいろあります。相手に合わせていろいろな方法を組み合わせましょう。

会話するときのポイント

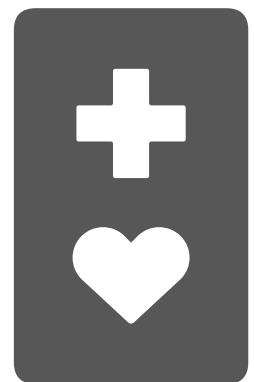
- ・背後や横から声をかけても、なかなか気づかないものです。正面から相手の目を見て、声をかけましょう。
- ・ゆっくり、口を大きく開けて、少しずつ言葉を区切って話しましょう。
- ・聴覚障がい者は表情や身振り、手振りも見ています。話の内容に合わせて表情や身振り、手振りをつけましょう。
- ・話の内容が通じているかどうか確認しながら話しましょう。
- ・話が分からなかったときには、聞き返しましょう。
- ・うまく伝わらないなと思ったら、筆談を交えてみましょう。

4. 発達障がいのある人に対して

人それぞれ顔かたちが違うように、物事の捉え方も一人ひとり異なります。発達障がいのある人は、多数派（定型発達）の人とは異なった捉え方をしています。ところが、私たちの住む社会は多数派の人に合わせて作られているので、発達障がいのある人は、さまざまな生きづらさを抱えています。誰もがより充実した社会生活をおくるためには、一人ひとりの捉え方の違いに対する理解と共感が必要です。

5. ヘルプマークを所持している人に対して

ヘルプマークとは、外見からはわからない援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成されたマークです。このマークをみかけたら、困っているようであれば声をかける、エレベーター優先、食堂では席を譲るなどの思いやりのある行動をお願いします。



6. 合理的配慮について

1) 合理的配慮とは

学生のみなさんには、学ぶ権利があります。しかし、心身の機能等に何らかの制限や特性がある場合、多くの方が何気なく適応している方法や環境ではうまく学べない状況が生じることがあります。みなさんが平等に教育を受けるにあたって障壁となっている設備・前例・ルール・慣行に対しては、合理的配慮（変更および調整）を求めることができます。これは、障害者権利条約・障害者差別解消法でも認められている権利です。

2) 合理的配慮でできる配慮・支援

どのような配慮・支援ができるかは、障害や疾患名で決まるのではなく、**個々の学生に応じて調整**されます。希望する配慮内容については、詳しくお聞きしていきますが、すべてが実施できるとは限りません。合理的配慮は、**機会均等**（どのようにすれば、学ぶことができるか）を目指すもので、結果（単位取得や成績評価）の緩和や保証をするものではありません。

3) 対象者

合理的配慮の対象となる学生は、「身体障害者・知的障害者・精神障害者（発達障害を含む）・その他の心身の機能の障害がある者」（障害者差別解消法 第2条）です。

4) 申請から配慮開始までの流れ

本学では、以下の手続きに従って対応します。申請を希望する学生は、早めに相談してください。（申請が遅くなると、学期内の対応が間に合わなくなる場合があります。）

- ① 配慮を希望する場合は、本学の学生相談室へ連絡してください。
- ② 面談を実施し、現在のご本人の状態・症状や困りごとを具体的にお聞きします。そのうえで、どのような配慮が必要かを一緒に考えていき、文書を作成します。
- ③ 学内会議に提出し、承認されれば各担当教員へ周知します。
- ④ 配慮対応開始後も、学生相談室で面談の機会を設け、継続的にサポートします。

5) 相談先

帝塚山学院大学 学生相談室（別館1階 A140・141）

開室時間：月～金 9：00～17：20

TEL：072-296-1334（音声案内の後、内線番号「375」を押してください）

メール：gakuso@tezukayama.ac.jp

LINE：お友達登録後、チャットにてやり取りが可能になります。



学生相談室 LINE

7. 相談窓口

本学にはいくつかの相談窓口があります。学生生活を送る中で困ったなと思うこと、気づいたことや改善してもらいたいことがあれば、一人で抱え込まずに、アドバイザー教員や学生課、保健室、学生相談室などいずれの窓口でも結構ですので、まずは相談してみてください。

また、本学では、障がいのある学生の学生生活をサポートする委員会を設置しています。障がいのある学生で大学生活を送る上で大学に知っておいてほしいことや気にかけてほしいことなどがあれば、アドバイザー教員や学生課、保健室、学生相談室などいずれの窓口でも結構ですので、まずは相談するようにしてください。

Ⅵ. 学籍の異動・ 各種申請書等について

1. 学籍の異動

1. 休学

病気その他やむを得ない理由によって、就学できない場合は、休学を願い出ることができます。休学しようとする場合は、「休学願」を学生課に提出して、許可を得なければなりません。

休学期間	春学期休学の場合	4月1日～9月30日
	秋学期休学の場合	10月1日～翌3月31日
必要書類	○休学願 ○休学理由を証明する書類（病気、ケガの場合は診断書等または父母等による事情書）	
提出期限	春学期または通年（春学期および秋学期）休学の場合	当該年度の4月30日まで
	秋学期休学の場合	当該年度の10月31日まで
提出先	学生課	
手続きの流れ	1. 【学生】 学生課に休学の意思があることを連絡する 2. 【学生】 アドバイザー教員またはゼミ担当教員の面談を受ける 3. 【学生】 必要書類を提出する 4. 【事務局】 学内会議確認後、父母等宛に通知書を送付	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休学期間は原則として年度、学期を単位とし、年度をこえることはできない。休学の継続を希望する者は、改めて願い出る。 ・ 休学の期間は、原則として2年を超えることができない。 ・ 休学の期間は、在学年数に算入しない。 ・ 休学期間中は、在籍料を納付するものとし、この期間の授業料および教育充実費および実験実習費は全額を免除する。 	

2. 復学

休学期間が終了し、復学しようとする場合は、「復学願」を学生課に提出して、許可を得なければなりません。

必要書類	復学願
提出期限	休学者に休学期間満了前に案内
提出先	学生課
手続きの流れ	1. 【事務局】 休学者に休学期間満了前に案内 2. 【学生】 学生課に復学の意思があることを連絡する 3. 【学生】 必要書類を提出する 4. 【事務局】 学内会議確認後、父母等宛に通知書を送付

3. 退学

病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする場合は、「退学願」を学生課に提出して、許可を得なければなりません。

必要書類	退学願
提出先	学生課
手続きの流れ	1. 【学生】 学生課に退学の意思があることを連絡する 2. 【学生】 アドバイザー教員またはゼミ担当教員の面談を受ける 3. 【学生】 必要書類を提出する 4. 【事務局】 学内会議確認後、父母等宛に通知書を送付

4. 再入学

退学となった場合で、再度就学可能となった場合、再入学を願い出ることができます。詳細は、学生課にお問い合わせください。

5. 除籍

以下に該当する場合は、除籍となります。

①在学年数が学則第 37 条第 2 項に規定された年数を超える場合	学則第 37 条第 2 項 在学年数は、必要とする修業年限の 2 倍を超えることはできない。
②休学の期間が学則第 19 条第 2 項に規定された期間を超える場合	学則第 19 条第 2 項 休学の期間は、原則として 2 年を超えることができない。
③長期にわたって無届で欠席した場合	学則第 23 条
④学則第 43 条第 2 項の場合	学則第 43 条第 2 項 学費の納入を怠った者は、除籍する。
⑤休学期間が終了するにもかかわらず、案内された期日までに復学、休学または退学の手続きをとらない場合	
⑥死亡または長期にわたり行方不明の場合	

6. 復籍

除籍になった学生が、元の学年に戻るための手続きを復籍といいます（学則第 23 条の 2）。

この制度は、除籍になった学期の開始日から起算して 2 年以内の人が対象です。対象となる除籍者の詳しい条件は学則を参照してください。申請手続きには、「復籍願」の提出と復籍料の納入が必要となります。申請に係る日程は下記のとおりです。詳細は学生課へお問い合わせください。

復籍に関わる日程	申請期間 (期間最終日が土・日曜日に当たる場合は 翌月曜日までとする)	復籍日
春学期から復籍する場合	3 月 1 日～3 月 14 日	4 月 1 日
秋学期から復籍する場合	9 月 1 日～9 月 14 日	10 月 1 日

7. 転学

本学から他の大学に転学を志願する場合は、転学を願い出ることができます。詳細は、学生課にお問い合わせください。

8. 転学部、転学科

転学部、転学科を志願する場合は、原則として所定の期間に「転学部・転学科・転課程願」を教学課に提出してください。転出した者は、転入先の学科および年次の在学者に係る教育課程を履修することになります。転入前の既修得単位が全て転入先で認められるとは限りませんので、教学課で事前によく相談してください。

Ⅵ. 学籍の異動・各種申請書等について

希望先の学部・学科に欠員がある場合のみ転学部、転学科の願い出を受け付けます。各学部・学科の欠員の有無は、願い出の受付を開始する際にお知らせします。

転学部、転学科を願い出にあたっては、原則として、累計 GPA が 2.8 以上であることを条件とします。ただし、食環境学部内の転学科においては、累計 GPA に関わらず願い出ることができます。

いずれも学部・学科による審査および選考（書類審査、面接、筆記試験等）を受けるものとします。

必要書類	転学部・転学科・転課程願	
提出先	教学課	
提出期間	春学期からの場合	1 年次または 2 年次の 12 月 1 日から年内授業最終日まで ※食イノベーション学科から管理栄養学科への 転学科は 1 年次の 12 月 1 日から年内授業最終日まで
	秋学期からの場合	2 年次の 6 月 1 日から 6 月末日まで ※食イノベーション学科から管理栄養学科への転学科は 対象外
手続きの流れ	<ol style="list-style-type: none"> 【学生】 教学課に転学部、転学科の意思があることを連絡する 【学生】 アドバイザー教員の面談を受ける 【学生】 必要書類を提出する 【転入学部、学科】 審査および選考 【事務局】 学内会議確認後、父母等宛に通知書を送付 	
転学部、転学科の時期	学年または学期のはじめ ※原則として 3 年次進級時まで ※食イノベーション学科から管理栄養学科への転学科は 2 年次進級時まで	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・転入学部、学科での審査および選考が行われますので、志願者全てが転学部または転学科を許可されるわけではありません。 ・一度許可された学生の再度の転学部、転学科は認められません。 ・他学部からの食環境学部管理栄養学科への転学部は認められません。 	



必要書類の提出について

- 1 提出は本人または父母等に限りません。
- 2 窓口で提出する際は必ず学生証を提示してください。
- 3 原則、電話による申請はできません。

2. 証明書・申請書・届書・願書

各種証明書および申請書は本館2階に設置している証明書自動発行機で発行することができます。その他、各種手続きの支払いは全て申請書もしくは証紙での支払い（電子マネー）となります。証明書自動発行機については、P.185「4. 証明書自動発行機」を参照してください。

※現金および交通系ICカードの支払いは対応していません。

※2024年4月時点の情報となります。申請書名や対応時間が変更になる場合があります。

1. 証明書

証明書	証明料	備考	担当窓口
在学証明書	100円		学生課
卒業見込証明書			
成績証明書			
健康診断証明書		定期健康診断を受けていない場合は発行不可	
学割証	—		

2. 申請書

申請書名	申請料	備考	担当窓口
追試験受験料（公欠以外）	1科目 1,000円	支払い後、別紙「追試験願」に添えて窓口に申請書を提出	教学課
学生証再交付料	2,000円	支払い後、窓口に申請書を提出	学生課
通学証明書再交付料	100円		
資格取得見込証明書発行料			
推薦書発行料			
英文証明書発行料	500円		
延納申請料	2,000円	発行前に大学ホームページにて延納理由を事前登録し、申請書を提出	

※学生証、通学証明書は、受付日の翌開室日午後以降に再交付します。

※資格取得見込証明書、推薦書、英文証明書は、受付日から開室日7日程度で発行します。必ず余裕をもって申請してください。

証紙

申請書以外は証紙を購入し、所定の書式とともに事務局に提出してください。

3. 届書

各種届書を提出する場合は、担当窓口にて用紙を受け取り、必要事項を記入の上、各窓口にて提出してください。

届書	備考	担当窓口
講義欠席届（公欠）	学校において予防すべき感染症に罹患、忌引き、正課の学外実習により欠席した場合、事由により証明する書類を添えて提出。	教学課
長期欠席届	連続して2週間以上にわたって授業を欠席する場合、証明する書類を添えて提出	
住所変更届	通学証明書を添えて提出	学生課
保証人変更届	保証人が死去・離別などのため変更となる場合提出	
改姓届	公的機関の証明書（戸籍抄本）を添えて提出	

4. 課外活動における各種届書・願書

[各種届書]

大学ホームページ「在学生の方へ」からダウンロードすることができます。
 期限が指定されているものは、必ず期限内に提出してください。

届書	備考	担当窓口
講義欠席届 (課外活動)	事前に学生課に届け出ている活動について、課外活動(行事・試合)終了後、7日以内に提出 ※課外活動で講義を欠席した場合はすべて欠席扱いです。 ※承認された「講義欠席届(課外活動)」はすみやかに科目担当教員へ直接提出してください。	学生課
行事終了報告書	学内・学外行事、公式試合、合宿の終了後、7日以内に要項などの資料および関係領収書のコピーを添えて提出	
廃部届	クラブ・同好会活動が不可能になったとき提出	
入部届・退部届	入部・退部の際、部長の承認後提出	

[各種願書]

大学ホームページ「在学生の方へ」からダウンロードすることができます。

届書	備考	担当窓口
団体設立願	新しく同好会を設立しようとするとき、会則などを添えて提出	学生課
クラブ設立願	公認同好会がクラブ設立を希望するとき、部則などを添えて提出	
学生団体指導員 依頼願	公認クラブ・同好会が本学の教職員以外の指導者に指導を依頼するとき、指導員の履歴書(写真貼付)を添えて提出(指導員が学生の場合は所属大学の在学証明書も必要)	
学外団体加入願	公認クラブ・同好会が大学外の団体に加入するとき、規約などを添えて提出	
行事願	公認クラブ・同好会が主催または共催のもとで発表会、展示、見学を行うとき、または試合などに参加するとき、合宿を行うとき(学外の団体が主催する場合も含む)、いずれも顧問の承認(捺印)を得たうえで実施日の7日前までに提出	

3. 学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)

1. 学生団体旅行の運賃割引

JR各社を利用して引率教職員と学生8名以上の団体が、発着駅および経路を同じくして、全行程を同一人員で合宿・遠征などの課外活動やゼミ旅行などを行う場合、所定の手続きを行うことで、団体学生割引を受けることができます。学生は普通運賃が5割引になります。JR各駅などに備え付けてある「団体旅行申込書」を学生課へ提出して大学の証明を受け、乗車日の14日前までに申し込み、乗車券を購入してください。

※ JR以外の鉄道会社では条件が異なる場合があります。

2. 個人学生割引

JR 各社を利用して片道 100km を越える区間を、以下の利用目的で乗車する場合に限り使用することができます。個人学生割引により、普通運賃が 2 割引になります。証明書自動発行機より「学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）」（無料）を発行してください。

※ JR 以外の鉄道会社にも同様の制度がありますので、各鉄道会社の窓口にて確認してください。

○利用目的

学割証は学生の自由な権利として使用することを前提としたものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度です。以下の目的をもって旅行する必要がある場合に限り、利用することができます。

- ・ 休暇、所用による帰省
- ・ 実験実習などの正課の教育活動
- ・ 学校が認めた特別教育活動
- ・ 体育・文化に関する正課外の教育活動
- ・ 就職または進学のための受験など
- ・ 学校が修学上適当と認めた見学または行事への参加
- ・ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- ・ 父母等の旅行への随行

注意事項

- ・ 有効期限は発行日から 3 ヶ月以内です。ただし、卒業・退学などで学籍を失ってからの使用はできません。
- ・ 学生証を携帯しない場合は購入および使用できません。
- ・ 本人以外の者が使用するなどの不正使用は絶対に行わないでください。
※不正使用をした場合は、本人に多額の追徴金が課せられるばかりか本学学生に対する発行停止処分を受ける場合があります。

4. 証明書自動発行機

本館 2 階エレベーターホール内とステューデントコモンズ内に、証明書自動発行機を設置しています。各種証明書および申請書の発行、各種支払い手続きの際に利用してください（現金および交通系 IC カードでの支払いは対応していません）。



注意事項

●利用可能時間

月曜～金曜 9:00～18:00 土曜 9:00～13:00

※日祝および事務局一斉休暇期間中は利用できません。

●対応電子マネー

楽天 Edy	PayPay	LINE Pay
Alipay	WeChat	楽天 Pay
nanaco	メルペイ	au Pay

※上記以外の電子マネーは使用することが出来ません。事前にチャージの準備をしてください。

（楽天 Edy のみ本館 1 階の総務部でチャージすることができます。）

●利用上の注意

- ・ 学生証を持参の上、使用してください。（学生証をかざす必要があります。）
- ・ 学生証を忘れた場合や、パスワードを忘れた場合は、本人確認ができるもの（運転免許証や健康保険証など）を持参の上、学生課に問い合わせてください。

5. オープンバッジ (デジタル証明書)

本学では、学内における様々なプログラム等の認定に際し、従来の紙媒体の証明書のほかにオープンバッジを発行しています。

オープンバッジは、知識・スキル・経験のデジタル証明です。偽造や改ざんが困難なブロックチェーン技術を活用しているため、信頼性も高いものとなっています。世界共通の技術標準規格に沿って発行されており、様々な機関からのバッジを自分のオープンバッジウォレットに保管することができるため、学修履歴やスキルを統一して管理することができます。

取得したオープンバッジは、オンラインやSNSでの共有、履歴書やメールの署名欄への添付といったような電子データとしての活用や、バッジ画像と共に二次元コードを印刷することで名刺等の紙面でも活用することもできます。

オープンバッジウォレットへのログインや活用方法の詳細は
株式会社 LecoS の提供するホームページを確認してください。

<https://www.lecos.co.jp/index.html>



【2023年度オープンバッジ発行 (実績)】

- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム
- ・リベラルアーツ学科メジャー・マイナーコース

1. オープンバッジの受け取り方法

① ポータルに受け取り方法案内のお知らせが届く

オープンバッジの発行対象者となった学生には、ポータルにお知らせが届きます。

② 大学メールアドレスに受け取り手続き用のメールが届く

大学メールアドレスに「オープンバッジ授与のお知らせ」というタイトルのメールが届きます。

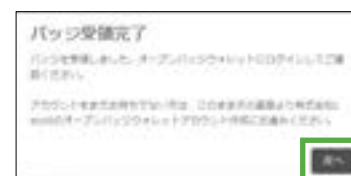
送信元：OpenBadge <noreply_openbadge@netlearning.co.jp>
件名：オープンバッジ授与のお知らせ
※受信拒否設定等しないようお願いいたします

メール本文にある **オープンバッジ受領** ボタンをクリックしてください。

- 本学で今までにオープンバッジを受け取ったことがある学生は、「オープンバッジ受領」をクリックすれば受け取り手続き完了です。
- 他機関でバッジを受け取ったことがあり既にウォレットを作成している場合は、ウォレットにログインし、大学メールアドレスを追加登録 (P.188) した後、改めて「オープンバッジ受領」をクリックしてください。



「オープンバッジ授与のお知らせ」メール



オープンバッジを初めて受け取る場合は ③へ

本学で受け取ったことがある場合は手続き完了 (④へ)

③ オープンバッジを初めて受け取る場合はウォレットアカウントを作成

はじめてオープンバッジを受け取る場合は、オープンバッジを保管する「オープンバッジウォレット」のアカウント登録が必要です。

氏名と任意のパスワードを入力し、画面の指示に沿って進めてください。



大学メールアドレスに「オープンバッジサービス仮登録のお知らせ」というタイトルのメールが届きます。

送信元：OpenBadge <noreply_openbadge@netlearning.co.jp>
 件 名：オープンバッジサービス仮登録のお知らせ
 ※受信拒否設定等しないようお願いいたします

メール本文にある **登録完了** ボタンをクリックすると、バッジの受け取り手続きが完了です。



「仮登録のお知らせ」メール

④ オープンバッジ受け取り完了

翌日までに「オープンバッジ発行完了のお知らせ」というタイトルのメールが大学メールアドレスに届きます。

かならずオープンバッジウォレットにログインして、受け取ったオープンバッジを確認してください。

2. オープンバッジウォレットの設定（メールアドレスの追加）

オープンバッジウォレットとはオープンバッジ保有者が Web 上でバッジを貯めておく入れ物のことです。ウォレットにログインすると、受け取ったバッジを一覧で管理することや、バッジを外部（第三者）へ公開することができます。

ウォレットは大学卒業後も使用します。そのため、卒業後も使用できる「WEB メールアドレス（Gmail など）」を追加登録する必要があります。

① オープンバッジウォレット

(<https://www.lecos.co.jp/index.html>) にログインし、右上の人型のアイコンをクリック。



② [ユーザー設定] をクリック。

③ 項目「メールアドレス」より **メールアドレス追加** ボタンをクリック。



④ ポップアップが表示されるので、追加したいメールアドレス（卒業後も利用できるもの）を入力。
確認コードが登録したメールアドレス宛に送られます。

送信元：OpenBadge <noreply_openbadge@netlearning.co.jp>
件名：オープンバッジ メール認証の確認コード案内
※受信拒否設定等しないようお願いいたします



↓ 確認コード受信

確認コードを入力するポップアップが表示されるので、入力。



⑤ 認証コードの入力が完了し、認証欄に認証済みのマークが表示されたら完了です。

Ⅶ. ICT環境・各種システムについて

1. BYOD

「BYOD」とは Bring Your Own Device という言葉の頭文字を取った言葉で、学生が大学に個人所有のパソコンを持参して学修に活用することを指します。本学では、学生の自学自習を支える仕組みとして BYOD を導入しており、学生が一人一台の端末を所有して、授業等で活用することを推奨しています。そのため本学では、BYOD 端末でのインターネット接続が可能になるよう、学内のほぼ全域で Wi-Fi 環境を整備しています。

BYOD の推進により、学生は学内外でいつでも、どこでも、学びを進めることが可能となります。また同時に、履修登録や成績の確認、休講等の大学からのお知らせの確認や、課外活動、インターンシップ、就職活動での活用といった、授業外のような場面における使用が見込まれます。

BYOD を活用して、パソコン等の ICT 機器を効果的、効率的に使用するスキルを身につけることは、社会に出た後にも役立つ力になると考えます。本学では入学後から卒業まで、BYOD で利用できる学内サービスを整えていますので、ぜひ積極的に活用してください。

1. BYOD の活用例

授業での活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義資料の閲覧、課題の提出 ・ レポートやプレゼン資料の作成 ・ オンデマンド授業の受講 ・ オンライン上での学生同士の共同作業 ・ テツカポートフォリオへの入力
授業以外での活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ WebClass を活用した準備学習の実施 ・ 空き時間における自習 ・ e ラーニングの実施 ・ 履修登録、成績の確認、大学からのお知らせの確認 ・ プレイスメントテストの受験 ・ オンライン上での各種ガイダンスへの参加 ・ 課外活動での活用 ・ 就職活動、インターンシップでの活用（エントリーシートの作成、オンライン説明会・面接等）



授業資料や提出課題など、
 学びに必要な情報をデータ化することで
 パソコンだけで「情報収集」「課題の提出」
 を行い、荷物がコンパクトになります。

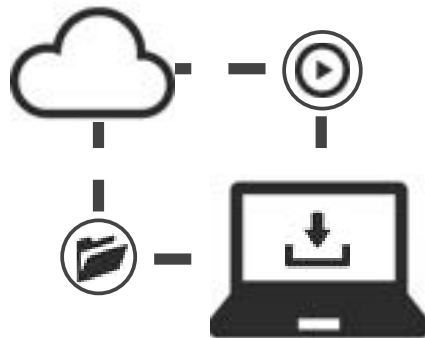
スマートフォンと併用することで、
 スマートフォンでオンライン講義を視聴、
 パソコンで講義資料を作成、
 2 台活用で作業分担が行えます。





.....
 パソコン 1 台で「コミュニケーション」
 「動画の視聴」「図の作成」「検索」など
 様々な事柄に対応できます

プレゼンテーションや課題の発表など、
 パソコンをプロジェクターに接続して
 大画面での発表を行うことができます



.....
 クラウドのストレージを活用することで
 パソコンにデータが無くても、
 インターネットを利用し、
 どこでも作業が可能です。

2. BYOD で利用できる本学のサービス

Microsoft Office ライセンス	在学期間中の利用が可能な Microsoft Office ライセンスを無償提供しています。詳細は新入生ガイダンスや「情報活用基礎」の授業内で説明します。
学内 Wi-Fi	BYOD 端末で学内 Wi-Fi を利用することができます。詳細は新入生ガイダンスで説明します。
大学メールアドレス	在学期間中の利用が可能な大学メールアドレスを発行しています。教員や事務局へメールで問い合わせをする際は、必ず大学メールアドレスを使用してください。詳細は新入生ガイダンスや「情報活用基礎」の授業内で説明します。
学内での印刷	BYOD 端末から印刷することができるプリンターを設置しています。
e ラーニング	「英語」「数学」「日本語」「情報倫理」の e ラーニングコンテンツを提供しています。詳細は「基礎演習」や該当の各授業内で説明します。

※本学のサービスは在学期間中のみ利用可能です。卒業、退学と同時に、それぞれ利用できなくなります。

3. BYOD 端末を利用する上で気をつけること

1) パソコンの管理について

自身のパソコンは紛失や盗難にあうことがないように、厳重に管理してください。

特に、共有スペースに置きっぱなしにすることのないよう注意してください。また、第三者が容易にログインできないよう、ログイン時のパスワード等を設定し、そのパスワード等を忘れることのないよう、各自でしっかり管理してください。

2) 情報の取り扱いについて

個人情報を取り扱う際には、その取扱いに十分気をつけてください。

3) セキュリティの更新について

Windows Update やセキュリティソフトは最新の状態に保ってください。

4) 充電について

原則、自宅で十分に充電をした上で大学に持参してください。学内でバッテリーが切れた場合は、学内の空きコンセントを利用して充電することができますが、学内機器の電源ケーブルを抜いての充電や、他の人の迷惑になるような場所での充電はしないでください。

5) 学内でのオンデマンド形態での授業（以下、オンデマンドでの授業）の受講について

学内でオンデマンドでの授業を受講する場合は、原則、各授業に割り当てられている教室（配当教室）または空き教室を使用してください。

【学内でのオンデマンドでの授業の受講】

○＝オンデマンドでの授業の受講に適している △＝あまり適していない

×＝適していない

	発話が不要な授業 (オンデマンドでの授業)	発話が必要な授業 (Zoom 等)	自習	備考
配当教室	○	○	○	
空き教室	○	○	○	ポータル 「施設・設備予約システム」 より確認可能
ダイニング commons (食堂)	△	×	△	昼休みなど混雑時は 授業や自習での 使用はしないでください。
クリエイティブ commons	△	×	△	
スチューデント commons	△	×	△	
自学自習 commons	○	×	○	

6) 学内のパソコンで使えるヘッドセットについて

学内のパソコンで使えるヘッドセットは、3.5mm のフォーンプラグ（ミニプラグ）と呼ばれる端子を持ち、さらにスピーカーとマイクの端子が別々にわかれているものです。

※端子が 1 本しかないものはマイクとして使用できません。

※端子が 1 本しかないものは、学内 PC にイヤホンとして接続した際、

音が小さくなったり、音が出ない場合があります。

※ iPhone のイヤホンは非対応の場合があります。



2. システム利用許可証

入学時に配布する「システム利用許可証」には、学内のシステムを利用するために必要なユーザー名とパスワード、大学メールアドレスが記載されています。

個人のユーザー名、パスワードが他人に知られてしまうと、自分の成績を見られる可能性や、個人データが流出する可能性があるため、他人に知られないよう、厳重に管理し、絶対に失くさないようにしてください。万が一、紛失やパスワード漏えいの可能性のある場合は、直ちに学生証を持参して ICT 課に申し出てください。



3. 帝塚山学院大学ポータル

帝塚山学院大学ポータルは(以下、「ポータル」)、大学や授業に関するお知らせ、履修登録、単位修得状況などの情報を各個人専用のページから確認することのできるツールです。また、授業支援システム「WebClass」やWeb履修申請、学修ポートフォリオシステム「テヅカポートフォリオ」、「就職支援NAVI」等のオンラインサービスを利用するための入り口となります。



1. ポータルの主な機能

1) カレンダー

ホーム画面にはカレンダーが表示され、大学行事や各自が履修している授業の予定が表示されます。各授業にカーソルをあてると授業の詳細が表示されます。各授業の最新の教室を確認する際に活用してください。

2) 新着お知らせ

ホーム画面には事務局からの新着お知らせが表示されます。緊急のお知らせは上部に、重要なお知らせは【重要】と表示がされます。未読のお知らせは太字で表示されます。お知らせは一日一回必ず確認するよう心がけてください。過去のお知らせは、上部メニュー「お知らせ一覧」より確認することができます。「お知らせ一覧」では、配信部署やキーワードでお知らせを検索することも可能です。

3) 指定リンク

ホーム画面最下部の「指定リンク」に、教学課が配信する各種資料のうち重要度の高い資料を掲載しています。配信された資料をどこに保存したのかわからなくなった場合には、まずこちらを確認してください。

【指定リンク掲載の主な資料】

リンク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帝塚山学院大学ホームページ ・ 大学便覧 ・ 履修ガイド・時間割表 ・ Web シラバス
授業関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間割等訂正事項 ・ 各種マニュアル（履修登録、履修辞退、授業アンケート等） ・ 試験について
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアワー一覧 ・ e ラーニング教材について ・ ポータルマニュアル動画 ・ WebClass マニュアル動画 ・ 学校において予防すべき感染症に関する連絡フォーム

4) 休講・補講の確認

上部メニュー「休講補講等一覧」より、休講・補講や教室変更についての情報を確認することができます。

5) 履修時間割

上部メニュー「履修時間割」より、各自の時間割を確認することができます。全回オンデマンド授業の科目は最下部にある「OD」の行に表示されます。

6) アンケート

上部メニュー「アンケート」より、授業アンケートや事務局の各種アンケートに回答することができます。

7) キャビネット

上部メニュー「キャビネット」より、事務局公開の各種資料を確認することができます。

【キャビネット掲載の主な資料・マニュアル】

システム関連	<ul style="list-style-type: none"> WebClass マニュアル BYOD 関係マニュアル テヅカポートフォリオ学生用マニュアル 他
授業関連	<ul style="list-style-type: none"> レポート作成共通要領 成績分布一覧 授業アンケート結果 Zoom 学生使用マニュアル 他
学生関係諸規程	<ul style="list-style-type: none"> 各種規程

8) 各種支援メニュー

上部メニュー「各種支援メニュー」より、授業支援システム「WebClass」や学修支援メニューに移動することができます。

ポータル > 各種支援メニュー > 学修支援メニュー



2. ポータル使用上の留意事項

1) ログイン ID やパスワードを忘れた場合

ログイン ID やパスワードを忘れた場合は、ICT 課へ連絡してください。

2) ログインがロックされた場合

ポータルログイン時、複数回ログインに失敗すると、ログイン ID にロックがかかります。ロックがかかった場合は、ICT 課へ連絡してください。

4. WebClass

WebClass は、教員と学生がコミュニケーションをとり、双方向の授業を展開していくための学びのプラットフォームとなるツールです。授業科目ごとに、資料や教材の確認、レポート提出、テストやアンケートの実施、教員からの連絡の確認、出席確認等を行うことができます。「WebClass」の各授業での利用については、担当教員の指示に従ってください。

WebClass には、ポータル「履修時間割」またはポータル上部メニュー「各種支援メニュー」>「授業支援システム」からアクセスしてください。

ポータルと WebClass の連携は夜間にまとめて行われます。ポータルで行った履修登録が WebClass に反映されるのは翌日からとなりますので、注意してください。また、夜間連携の時間（午前 3 時～ 4 時頃）は使用をしないようにしてください。

5. テツカポートフォリオ

「テツカポートフォリオ」は、入学から卒業までの大学生活における、学修や各種活動の成果を収集および記録するための Web システムです。「テツカポートフォリオ」に記録を蓄積することで、大学生活を通じたみなさんの成長過程や学びに対する理解度などが、学修成果として可視化されます。

1. 「テツカポートフォリオ」の目的

大学生活を通して得た成果の記録とその定期的な振り返りにより、修得した科目によって身につけた知識・技能や「帝塚山学院大学生の 10 のちから」の修得状況をみなさん自身が認識し、学びをより主体的かつ効果的に深められるようにすることを大きな目的としています。自分自身の持つ知識やスキルを都度認識しながら、それを基に新たなことを学ぶ姿勢や、必要なことを補っていく姿勢は、現代社会においてとても重要です。大学在学中にそのような姿勢が身につけられるよう、本学教育理念でもある「自学自習」を意識しながら大学での学習や活動に取り組んでください。

ポータル > 各種支援メニュー > 学修支援メニュー > テヅカポートフォリオ

The screenshot displays the 'Tezuka Portfolio' interface. At the top, there are navigation tabs for 'ダッシュボード' (Dashboard) and '未読コメント' (Unread Comments). Below this, the user's login information is shown: '前回ログイン: 3ヶ月前 (2023/09/13 23:27:14)'. The main section is titled '入力状況' (Input Status) and shows a grid of buttons for course evaluations across the years 2020, 2021, 2022, and 2023. A green arrow points to a button for '7月' (July) in 2023, with the text 'クリックすると入力画面に移動' (Click to move to the input screen). Below this is a table for '修得単位・GPA' (Credits and GPA), showing data for the years 2020 through 2023. The table has columns for '年度' (Year), '修得単位数' (Credits), and 'GPA'. The '修得単位数' table shows: 2020 (24, 18, 42, 120), 2021 (21, 23, 44), 2022 (16, 13, 29), 2023 (5, 5). The 'GPA' table shows: 2020 (3.25, 2.89, 3.10, 3.07), 2021 (3.24, 2.83, 3.02), 2022 (3.36, 3.23, 3.31), 2023 (2.14, 2.14). Below the table is a bar chart titled 'GPA順位 (累計対象: 両学年・該当所属・在籍の学生)' (GPA Ranking) for 'リベラルアーツ学科' (Liberal Arts Department), showing the number of students in each GPA range from -0.5 to -4.0. The chart shows: -0.5 (8人), -1.0 (8人), -1.5 (18人), -2.0 (18人), -2.5 (33人), -3.0 (43人), -3.5 (43人), -4.0 (18人). At the bottom is a stacked bar chart titled 'カリキュラム_成長推移' (Curriculum Growth Trend) showing cumulative GPT from 2020 to 2023. The chart shows a steady increase in GPT over time, with a green arrow pointing to a horizontal line representing the target GPT.

入力状況

青色=入力済み
赤色=未入力・入力途中
※鍵マーク🔒は入力時期ではない項目

修得単位・GPA

卒業要件単位数に算入されない科目は算定対象外です。

GPA 順位

累計 GPA 値の分布と自身の値の位置を表示しています。

カリキュラム 成長推移

カリキュラム・ツリーに基づいて、GPTが積み上げられます。

$$GPT = GP(\text{成績}) \times \text{単位数の総和}$$

グラフ上にカーソルを合わせると、カリキュラム・ツリーの項目と累計 GPT を表示

※複数項目にまたがる科目は GPT を按分

緑線の目標 GPT は「目標 GPA × 目標単位数」

※目標 GPA は 3.0 (優)、目標単位数は 124 単位に設定

2. 「テツカポートフォリオ」を活用した学修成果の振り返りと学修計画策定（半期ごと）

半期ごとに、テツカポートフォリオを活用し以下の取り組みを行っています。実施のタイミングは「履修ガイド」を参照ください。アドバイザー教員などから入力の指示があります。

1) 履修した科目に対する自己評価

学期末（成績評価前）に、科目ごとに設定されている到達目標に対する自己評価を行います。到達目標はシラバスに記載されています。

入力方法

- ①メニューの【科目達成度の自己評価】をクリック



- ②表示された画面で **回答する** をクリック

- ③履修科目の到達目標に対して、5段階で自己評価

- ④画面の一番下まで進んだら、**保存して次へ** ボタンをクリック
次の科目を自己評価し、終わりまで繰り返す



結果確認方法

- ①メニューの【科目学修の進捗】をクリック

- ②表示された画面で [達成度] タブをクリック

- ③レーダーチャート
どのようなバランスで力が身についたかを「成績評価」と「自己評価」で確認



- ④蓄積された力の達成度
それぞれの力がどのくらいついたかを確認

2) 「帝塚山学院大学生の 10 のちから」に対する自己評価

学期末ごとに、「ディプロマ・ポリシールーブリック」を用い、「帝塚山学院大学生の 10 のちから」の達成状況について自己評価を行います。

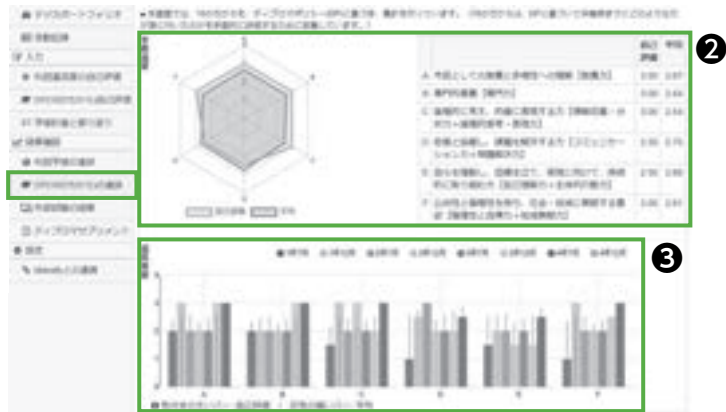
入力方法

- ①メニューの [DP (10 のちから) 自己評価] をクリック
- ②表示された画面で [回答する] をクリック
- ③10 のちからを自己評価
- ④画面の一番下まで進み [更新] をクリック



結果確認方法

- ①メニューの [DP (10 のちから) の進捗] をクリック
- ②学修成果レーダーチャート
どのようなバランスで力が身についたか「自己評価」と「学科の平均」で確認
- ③成長推移
それぞれの力が学生生活でどのように推移したかを確認



3) 学修計画と振り返り

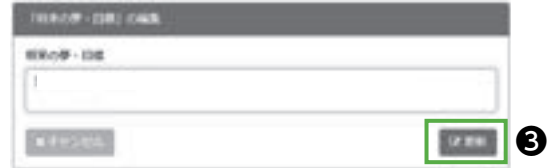
各学期の初めに、ポートフォリオで可視化された学修成果などを確認し、前学期の振り返りや今後の学修計画の検討を行います。

将来の夢・目標

①メニューの [学修計画と振り返り] をクリック

②表示された画面で **編集** をクリック

③将来の夢・目標を入力したら、**更新** をクリック



学修計画と振り返り

①メニューの [学修計画と振り返り] をクリック

②表示された画面で **回答する** をクリック

③画面の一番下まで解答し、**更新** をクリック



3. 「テツカポートフォリオ」を活用した活動の記録

大学生活では、学内外で様々なことを経験し、その中で気づきや学びを得る機会が多くあります。その内容を「活動記録」として「テツカポートフォリオ」にデータで蓄積していくことができます。

貴重な経験（インプット）をしても、時間が経つと記憶は自然と薄れていきます。その都度「活動記録」として記録（アウトプット）することで、気づきや学びを定着させ、自身の成長につなげることができます。

また、記録を蓄積しておくことで、後から自身の経験を振り返ることもできます。大学在学中の取り組みや、それらを通しての成長過程は、就職活動の際にも問われることが多く、「活動記録」はそのような際にも役立ちます。

登録方法

①メニューの [活動記録] をクリック

表示された画面で **新規作成** をクリック



②各項目を入力し **登録する** をクリック



ポートフォリオで可視化される主な学修成果

- ・自身の修得単位数、単位修得状況
- ・GPA 値、入学年度と所属が同じ学生内での GPA 順位（分布）、および GPT 値
※ GPA と GPT の詳細は P.48 ～ 51 「13. 成績評価・単位の認定・GPA 制度」を参照
- ・カリキュラム・ツリーで目標とされている項目ごとの教員評価（成績評価）および自己評価
※カリキュラム・ツリーは所属学科のページを参照
- ・ディプロマ・ポリシーおよび「帝塚山学院大学生の 10 のちから」の達成状況
- ・自らが登録した「活動記録」（上記「3. 「テツカポートフォリオ」を活用した活動の記録」参照）

テツカポートフォリオ入力通知・ログインアプリ「Manafy」

Manafy（マナフィー）はスマートフォン向けの通知・ログインアプリです。テツカポートフォリオと連携し、必要な情報が入力されていない時に通知され、入力箇所に直接アクセスできます。

アプリの利用方法は、ポータルキャビネット>システムマニュアル内のインストールマニュアルを確認してください。右記の二次元コードよりインストール動画を閲覧することも可能です。

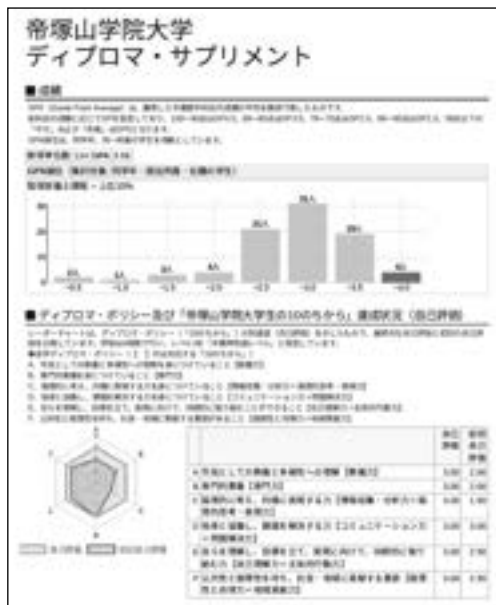
※動画では「テツカポートフォリオ」の名称やアクセス方法などが異なります。本学では、まずポータルにログインし、学修支援メニューから「テツカポートフォリオ」にアクセスしてください。



インストール動画

4. 「ディプロマ・サプリメント」の発行

本学では、成績証明書や卒業証明書に加え、「ディプロマ・サプリメント」を発行します。「ディプロマ・サプリメント」は「テツカポートフォリオ」に蓄積された情報をもとに大学生活を通じた学修成果を補助的に示すことができる資料です。発行時期は 3 年次および卒業時で、必要に応じて就職活動等に活用することも可能です。詳細は発行時にお知らせします。



【内容】

- ・ テツカポートフォリオに蓄積された自身の学びの成果をもとにした数値・グラフ
- ・ 成績状況（修得単位数・GPA・GPA 順位（分布））
- ・ ディプロマ・ポリシー及び「帝塚山学院大学生の 10 のちから」達成状況（自己評価）
- ・ カリキュラム目標達成状況（GPA・GPT・自己評価）

【活用方法（例）】

- ・ 自身の学びの振り返り：これまでの学びの振り返りや整理、及び今後の学修計画の策定に活用。
- ・ 就職活動での活用
 - (1) 自己分析への活用：学修成果を確認し、強みの発見など自己分析の一つとして利用
 - (2) 自己 PR 資料として活用

5. 「テツカポートフォリオ」活用のスケジュール

前記 1. ～ 4. に基づく「テツカポートフォリオ」の活用スケジュールは下図のとおりです。

授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
10のちから	授業の履修 自己評価 成績評価	自己評価 成績評価	自己評価 成績評価	自己評価 成績評価	自己評価 成績評価 ディプロマ・サブリメント (在学中)の発行	自己評価 成績評価	自己評価 成績評価	自己評価 成績評価 ディプロマ・サブリメント (卒業時)の発行
学修計画と振り返り	入学(入学時目標) アドバイザー面談 入力	アドバイザー面談 入力	アドバイザー面談 入力	アドバイザー面談 入力	アドバイザー面談 入力	アドバイザー面談 入力	アドバイザー面談 入力	アドバイザー面談 入力

6. 就職支援 NAVI

「就職支援 NAVI」は、帝塚山学院大学の学生向けの最新求人情報や先輩の活動体験記の閲覧をはじめ、就職活動に役立つさまざまな機能を用意しています。満足のいく就職活動にするため、積極的に活用してください。

ポータル > 各種支援メニュー > 学修支援メニュー > 就職支援 NAVI



1. 就職支援 NAVI の主な機能

1) 求人を探す

帝塚山学院大学の学生を対象とした 1 万を超える求人情報を閲覧することができます。求人情報は毎日更新されます。

2) 会員登録・変更

入学手続き時に提出された情報が入力されています。登録情報はオンライン履歴書に反映されますので、携帯番号など登録情報に変更があった際は、随時、各自で最新情報に更新をしてください。ただし、メールアドレスは大学付与のメールアドレスを登録しています。こちらは変更しないでください。

3) 進路希望登録

大学卒業後の進路希望を登録してください。随時変更可能です。

4) オンライン履歴書登録

大学指定の履歴書をオンラインで作成できる機能です。手書き様式で履歴書が必要な学生はキャリアセンターで配布しています。トピックスからのダウンロードも可能です。

5) 個人（グループ）面談予約

キャリアセンター職員による個別面談（相談）予約をすることができます。

また、本館 2 階学生コモンズ内のオンライン就活用ブースもこちらから予約可能です。

6) 支援行事の参加予約

事前申込が必要であるキャリアセンターが主催する就職支援行事の参加申し込みができます。

7) マイ求人管理

スケジュールの管理や気になった求人情報の保存等を行うことができます。

8) OC・IS (サポーターズ企業) / OC・IS (オススメ企業)

キャリアセンターが推奨するオープンカンパニーやインターンシップの情報を閲覧することができます。

9) 就職活動体験記検索

先輩が内定獲得や就職した企業の体験談を閲覧することができます。

10) 学校推薦一覧

帝塚山学院大学の学生を対象とした学校推薦の求人情報を閲覧することができます。

11) 就職活動体験記報告 (内定時)

応募企業から内定を獲得した場合、引き続き就職活動を継続する場合、後輩の為に内定先情報をこちらに登録してください。

12) 進路報告 (進路決定時)

卒業後の進路 (就職) 先が決定した時、こちらに登録をしてください。

13) その他の機能

- ・お知らせ
連絡事項や学内行事も確認することができます。
- ・トピックス
キャリアサポートガイド (デジタル版) の閲覧や就職活動証明書等をダウンロードできるようにしています。
- ・スケジュール
各自の就職支援行事日程を確認することができます。

7. 公式 SNS アカウント

学生広報と大学による公式アカウントです。学生生活の日常やイベント、ニュースを発信しています。



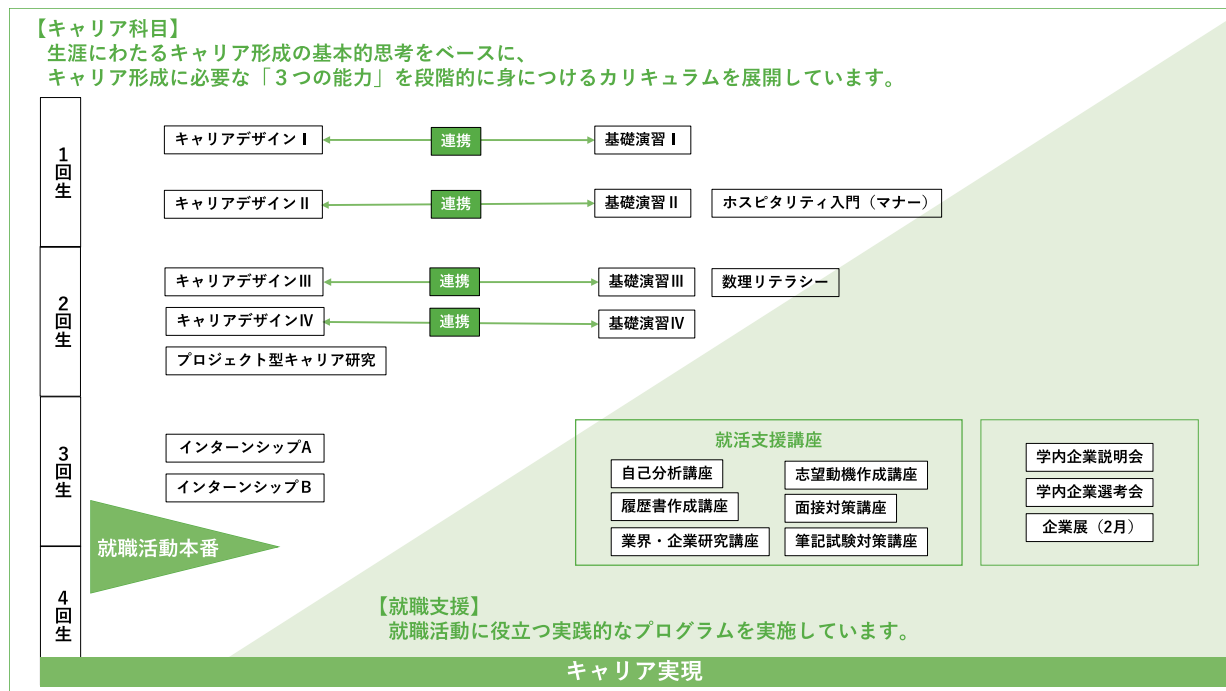
帝塚山学院大学公式 Instagram

Ⅷ. キャリア形成について

Ⅷ. キャリア形成について

本学では、1 回生から将来の目標を見つけるためのサポートを展開し、みなさんのキャリア形成を支援しています。

【キャリア支援プログラム】



まずは自分を知ること。成長を継続的に確認する。

社会生活に求められる基礎的な能力・態度・志向を「汎用的能力」といいます。

本学では、「汎用的能力」の成長を図るため、入学直後に適性検査を行い可視化することで、自分の目標や課題を持って有意義な学生生活を送ることができるようサポートしています。

そして2 回生以降も適性検査を行い、自分の成長や変化を確認し、更なる成長を目指せるよう継続的にチェックできるようにしています。

また、大学生になってからの活動歴を記録していく「テヅカポートフォリオ」を導入しており、将来の就職活動に活かすことができるようにしています。

1. キャリア形成科目

1) 「キャリアデザイン」

- ・「キャリアデザインⅠ」（春学期）、「キャリアデザインⅡ」（秋学期）【1 回生対象】
全学必須科目とし、会社の仕組みや働き方など職業理解について学修します。
- ・「キャリアデザインⅢ」（春学期）、「キャリアデザインⅣ」（秋学期）【2 回生以上対象】
選択科目として、グループディスカッションなどアクティブラーニングを多く取り入れ、社会で求められるスキルを身に付けます。自分は将来、どのような生活を送りたいのか、どのような仕事や働き方をしたいのか、などを考え、その実現に向けて自分の人生計画をデザインすることを目的とした学習内容になっています。
- ・「プロジェクト型キャリア研究」
選択科目として、実際の企業での働き方や仕事の進め方について学修します。キャリアデザインで学んだ知識も活用し、大学生の早い段階から社会への理解や興味を抱けるような学びを体験します。

2) インターンシップ

「インターンシップA」(5日間、35時間以上)

「インターンシップB」(2週間以上)

将来の就職活動に向け、実際に企業における仕事の体験を通じて、仕事とは何かという基本を実体験し、自らの就業力を高めます。また、業界や業務内容の理解を深めることで、幅広い職業選択能力を身に付けると共に、自分の適性や価値観の自己理解も深めます。学年や目的に応じて選択できるよう、カリキュラム内に2種類のインターンシップを配置しています。

2. キャリアセンターによる就職支援

就職活動は一人ひとり持っている価値観や置かれる状況が異なります。そこでキャリアセンターでは、それぞれの学生の状況に応じたきめ細かいサポートをしています。

就職・進路に関するどんな些細なことでもお気軽に相談してください。

1) 学年別就職ガイダンス

2～4年生に対して学期ごとのガイダンス期間に、学年別の就職ガイダンスを実施しています。最新の就職状況はもちろん、それぞれの学年で状況に応じたその時点でやるべきことをお伝えします。原則、全員参加必須です。

2) 帝塚山学院大学サポーターズ企業制度

キャリアセンターではお勧めしたい優良企業を「帝塚山学院大学サポーターズ企業」として参画依頼を行っています。学内説明会やインターンシップの受け入れだけでなく、学校推薦を含む積極的な採用をいただいている企業です。2024年3月末時点では160社の企業にご協力いただいております。

3) 就職支援 NAVI

4年間を通して、キャリアセンターからの情報発信はこちらを通して行います。学生のみなさんは、個別面談や支援行事の参加予約、インターンシップや大学求人閲覧、就職に関する進路情報登録はもちろん、オンライン履歴書の(作成)登録、最終的には就職・卒業後の進路先決定報告まで行う帝塚山学院大学生には欠かせないツールになっています。(P.204「6. 就職支援 NAVI」参照)

3. キャリアセンターの活用

1) 進路・就職に関する相談

進路・就職に関するどんな些細なことでもキャリアセンターに気軽に相談してください。

就職支援 NAVI から、一人20分間の個人面談(対面およびオンライン)を予約することができます。

【主な相談内容】

- ・履歴書、エントリーシートの書き方指導や添削
- ・面接練習
- ・業界、企業研究の仕方
- ・インターンシップについて

2) 就職支援講座および就職関連学内イベント

キャリアセンター主催にて学内イベント（就職支援講座や学内合同企業説明会や単独企業説明会など）を行っています。これらのイベントはすべて就職支援 NAVI やキャリアセンター LINE にてお知らせしますので、必ず確認するようにしてください。

3) 求人票

大学に届く求人票は就職支援 NAVI の「求人を検索する」から見るすることができます。また、学校推薦求人も就職支援 NAVI にて確認できます。

4) 就職活動証明書

就職活動と授業が重なった場合の欠席の証明となる就職活動証明書をキャリアセンター窓口にて発行しています。ただし、公欠扱いにはなりません。評価上の取り扱いは各授業担当教員が判断します。この証明書は企業様にもご記入いただく必要がありますので、その企業に出向く前に記入用紙を窓口まで取りに来てください。

※オンライン選考等の場合は、対応方法をキャリアセンターに相談してください。

5) 内定報告・進路決定報告

企業から内定をいただいた場合と、その中から進路決定した場合には、それぞれ必ず就職支援 NAVI で入力するかキャリアセンター窓口まで報告してください。

6) キャリアセンター LINE

以下の二次元コードを読み込み、友だち登録およびアンケートに回答してください。就職支援講座や企業説明会などの学内イベント情報をお知らせします。また、チャットでキャリアセンターに相談することもできます。3 回生以上の学生を対象にしていますので、3 回生の春に必ず登録してください。

①二次元コードを読み込む



【キャリアセンター LINE】

②読み込むと返信がくるので登録アンケートに回答する



Ⅸ. 学内施設について

1. コモンズ

学内には、学生のみなさんが自由に使用することのできるコモンズを設置しています。お互いに気持ちよく利用ができるよう、共有スペースでのマナーを順守して利用してください。

本館 1 階



[ダイニングコモンズ (学生食堂)]

リラックスエリア

食事を取りながら、友人や教職員と交流したり、休息するためのコモンズです。

ゼミやクラブ活動の交流会や課外活動を行うことができます。

本館 1 階



[クリエイティブコモンズ]

プレゼンテーション・ワークショップエリア

発表や講演会、ガイダンス、セミナーなどに利用できるアクティブラーニングコモンズです。

80人程度着席でき、プレゼンテーションなどの学びのアウトプットに活用できます。

本館 2 階



[スチューデントコモンズ]

グループ学修・アドバイスエリア

学生同士での学び合いなどグループ学修を行ったり、履修や学生生活、就職など大学生活に必要なサポートを受けることができるコモンズです。

本館 2 階



[ナレッジコモンズ]

リサーチ&知的探究エリア

書籍、AV資料などの図書館資料を活用できます。情報収集・分析に最適で、探究心が刺激されるエリアです。

ナレッジコモンズルーム

発表の練習や自主学修グループでの勉強会を行うことができます。

本館 4 階



[自学自習コモンズ]

集中学修エリア

周囲の雑音に気を取られることなく、研究や課題とじっくり向き合うことのできるコモンズです。

個別学修デスクで集中して自主学修できます。

※自学自習コモンズ内は会話禁止

	活用例			使用可能 機材	コモンズ内の 音声	利用方法
	ワー ク ゼ ン テ ー シ ョ ン 等	グ ル ー プ デ ィ ス カ シ ョ ン 等	自 主 学 修			
ダイニング コモンズ	○	○	○	モニター サイネージ		機材を利用する場 合は申請が必要
クリエイティブ コモンズ	◎	◎	○	可動機・椅子 モニター ホワイトボード		大きな音出しや、 スペースを占有する 場合は申請が必要
スチューデント コモンズ	×	◎	○	可動機・椅子 モニター		
ナレッジ コモンズ	×	×	◎			
ナレッジコモンズ ルーム	○	○	◎	電子黒板 ホワイトボード		ナレッジコモンズ ルームを占有する 場合は申請が必要
自学自習 コモンズ	×	×	◎		無	

コモンズの利用・空き教室の利用について

コモンズは共有スペースです。周囲に迷惑をかけるような行為は慎んでください。

イベント等でコモンズの一部スペースを占有して利用したい場合や、申請が必要な機材を利用する場合は学生課に相談してください。

コモンズの他に、空き教室を利用して学修することも可能です。教室を占有したい場合を除き、空き教室の利用に申請は不要です。

CL (Creative Library) プロジェクト クリエイティブコモンズ

大阪発祥の“まちライブラリー”を基にクリエイティブコモンズの本棚を学生プロジェクトで運営しています。

本棚には学生が選んだ本を並べており、イベント等を通じて本で人と人がつながり、楽しみを共有し合う活動をしています。

本棚の本は貸し出しも可能です。

※選書方法・貸出方法はコモンズ本棚の掲示を参照すること。

※詳細はP.167「V. 学生生活について」の「課外活動」を参照すること。

ラーニングサポートデスク

ラーニングサポートデスクは、1年次の学修をサポートするための窓口です。学修を進める上で心配なことや困ったことについて、先輩学生が親身になってサポートやアドバイスを行います。

【主なサポートの内容】

- ・ 基盤教育科目の必修科目に関すること
 - ・ 論述レポートの書き方
 - ・ 予習、復習、ノートテイク、要約、図書館活用、文献参照など学修技術全般
 - ・ その他、大学での学修に関すること
- ※詳細は教学センターにて確認してください。

2. 図書館（ナレッジcommons）

大学図書館は、学生生活に欠かせない施設です。高校時代に比べて図書館の資料を使って学修しなければならないケースが多くなってきます。授業においても教室でノートをとるだけでなく、図書館の資料を使って自ら調査し、自身の考えをレポートにまとめたり、発表したりする機会が増えます。

新入生ガイダンス期間中に図書館オリエンテーションを行っていますので、その際に利用の仕方をしっかり身につけて、在学中、図書館を有効に活用してください。

1. 開館日・開館時間

開館日：日曜・祝日、夏季一斉休業期間（8月中旬）、年末年始を除く毎日。

開館時間：月～金 9：00～19：00（休暇中16：50） 土 9：00～12：50

利用上の注意

館内には荷物を持ったまま入ることができますが、貴重品は各自責任を持って管理してください。食事、雑談は禁止です。もちろん携帯電話での通話も禁止です。他の利用者に迷惑がかからないように利用してください。

2. 蔵書冊数

・図書	181,068冊
・雑誌	895種
・AV資料	4,387本
(2023年3月現在)	

3. 閲覧

図書館では、読みたい本を直接書架から取り出して、館内で自由に閲覧できます。

4. 貸出・返却

ほとんどすべての図書が貸出可能です。本を借りる場合は、本と学生証をカウンターで提示してください。返却のときは、本をカウンターにお持ちいただくか、閉館時は返却ポストをご利用ください。

	貸出冊数	貸出期間
大学院生	20冊以内	1カ月以内
学部学生	20冊以内	2週間以内

5. 蔵書検索（OPAC）

資料を探すときは、図書館ホームページの蔵書検索（OPAC）を利用すると、早く、的確に、資料を見つけることができます。新着資料もリアルタイムにヒットしますし、貸出状況も同時にわかります。

6. AV資料の利用

図書館内ではDVDを視聴することができます。利用手続についてはカウンターにお問合わせください。

7. その他サービス

図書館では、図書館資料の閲覧、貸出のほかに次のようなサービスをしています。

○利用者サービス

貸出状況・貸出履歴・予約状況の確認、予約、他機関への複写・貸借の申し込み、購入希望の申し込みを図書館ホームページから行うことができます。ただし、パスワードが必要です。カウンターで仮パスワードの発行を受けてください。

○予約サービス

借りたい図書が貸出中のとき、その図書を予約できます。

○リクエストサービス

学習用その他の理由で、図書館に備えてほしい資料の購入希望ができます。

○コピーサービス

著作権法を守ったうえで、図書館蔵書のコピーができます。

○レファレンスサービス

図書館の利用の仕方や資料の検索方法、資料の所在調査など、わからないことにお答えします。

○相互利用サービス

本学図書館に求める資料がない場合、他館を直接訪れて利用させてもらうための紹介状の発行や、他館からの資料の借用、コピーの取り寄せなどができます。

○データベース検索サービス

CiNii、日経テレコンなどにアクセスして検索できます。

○国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、本学図書館でデジタル画像の閲覧と複写ができるサービスです。

○電子ブックサービス

大学ネットワークから閲覧可能な電子ブックサービスを提供しています。契約タイトル・学外からの利用方法については図書館ホームページを参照してください。



図書館ホームページ

3. PC ルーム

PC ルームの空き状況や利用方法については、本館 4 階 ICT スタッフルームで問い合わせてください。(窓口取扱時間は裏表紙裏を参照してください。)



[PC ルーム A (M 415)]

50 台程度の Windows 端末が設置されている教室です。授業で使用していない時間帯は自習室として使用することができます。利用申請は不要です。



[PC ルーム B (M 423)]

40 台程度の Mac 端末があり、クリエイティブ系演習科目で使用されます。授業で使用していない時間帯は課題制作や自習で使用することができます。利用申請は不要です。



[PC ルーム C (M 418)]

18 台程度の Mac 端末が設置されている教室です。授業が実施されていない時間帯には自習で使用することができます(最大 21:30 まで)。利用時は本館 4 階 ICT スタッフルームで事前に利用申請をする必要があります。



[撮影スタジオ (M 422)]

主に映像撮影で使用されます。利用申請が必要です。



[サウンドスタジオ (M 421)]

主に音声録音・編集で使用されます。利用申請が必要です。

PC ルーム利用の際の注意事項

- ・動画や音楽を視聴する際は、有線のイヤホンかヘッドホンを使用してください。
- ・周囲に迷惑をかけるような行為(大声で騒ぐ等)があった場合は退出していただきます。
- ・プリンターでの印刷については、極力ミスプリントをなくし用紙の無駄遣いをしないようにお願いします。
- ・ICT 課管理の施設・設備・機器に対して故意に損害を与えた場合には賠償を求めることがあります。
- ・Mac 端末については、授業や個人で Mac の使用経験のある学生のみ利用可能としています。

4. 体育館・テニスコート・グラウンド

1. 体育館等のスポーツ施設の使用について

1) 施設使用手続きについて

- ①クラブによる使用の場合
月ごとに施設・設備予約システムより申請し、承認を得た上で使用すること。
- ②有志グループによる使用の場合
施設・設備予約システムより申請した上で使用すること。

2) 使用可能時間

授業や学校行事が優先されるため、空き時間の利用となります。

- ①使用可能日と時間帯については施設・設備予約システムで確認の上、申請すること。
※日曜日、祝日、その他大学が定める休日、ならびに長期休暇（夏季・冬季・春季）中については、随時要相談
- ②事務局一斉休暇期間中（夏季・冬季）は原則として使用は認めません。
- ③使用時間は9：00～21：30（活動は21：00まで。21：30までに完全下校。時間外使用は顧問もしくは大学が認める指導者が帯同する場合のみ認める）。
- ④入試等、学校行事が予定されている日は使用不可。

3) 活動に対する鍵の受渡について

土日祝は事務局閉室のため、土日祝に活動を行い、鍵が必要となる場合、金曜日までに学生課に申請し、平日9：00～16：40までに鍵を受け取ること。

※土日祝の鍵の受渡は守衛室で対応

4) 用具の破損・紛失など

施設内の器具や用具などを損傷または紛失した場合、学生課まで届け出ること。

5) 事故への対応について

事故が発生した場合、直ちに学生課に知らせること。また、学生課不在の場合は守衛室に連絡すること。使用中に起こった事故について、大学にその責任を求めないこと。

2. 使用上の注意

1) 体育館

【体育館】アリーナ フィットネスルーム（トレーニングコーナー）

体育館は施錠しています。利用の際は学生課で鍵を借り、利用終了後、速やかに鍵を返却してください。

利用の際は、下記の点を遵守してください。守らない場合、施設利用禁止となることがありますので、注意してください。

- (1) 館内はすべて土足禁止。体育館シューズを使用すること。
- (2) アリーナ、フィットネスルーム内での飲食は禁止。ただし、運動中の水分補給は例外とする。水・茶・スポーツドリンクは認めるが、ペットボトルなどふたの付いているものに限る。1階ホール、地下1階ホール（ベンチのある場所）での飲食は許可する。
- (3) 貴重品は更衣室の鍵付きロッカーまたは、体育館更衣室前の貴重品ロッカーに保管し、各自で責任をもって管理すること。
- (4) スポーツ用具を使用したい場合は、学生課に申し出ること。
- (5) 授業で使用している用具の貸し出しはしていません。（ゼミなど担当教員の許可があった場合のみ可能）。

- (6) 用具は所定の場所で使用すること。所定の場所以外や学外への持ち出しは禁止。
- (7) 用具の片付けなど、整理整頓を心掛けること。
- (8) 用具を破損した場合は、必ず学生課に申し出ること。
- (9) アリーナを使用した場合は、使用後モップで清掃すること。
- (10) 更衣室のロッカーは個人専用のものはないので、運動着などを放置しないままにしない。放置してあるものは撤去する。

2) テニスコート

【テニスコート / 多目的コート】

- (1) コート面保護のため、スパイクシューズやハイヒールなどで立ち入らないこと。また、石や金属などのコート面を傷つけるようなものを持ち込まないこと。
- (2) 運動時の水分補給以外の飲食は禁止。
- (3) 貴重品は更衣室の鍵つきロッカーまたは、体育館更衣室前の貴重品ロッカーに保管し、各自で責任をもって管理すること。
- (4) テニス用具を使用したい場合は、学生課に申し出ること。
- (5) テニスコートは施錠されています。学生課で鍵を受け取り開錠し、各自管理し使用後は施錠をして返却すること。
- (6) 使用後はブラシで砂をならし、整備すること。コート内の整理整頓を心がけること。
※使用の目的により、使用上の注意が異なるのでコート内の掲示で確認すること。

○目 的 (テニス、フットサルなど)

通常テニスコート2面ですが、支柱・ネットを取り外すと、多目的に使用することができます。

○使用時間の限度と共有

原則としてオールコートの使用は、2時間を限度とします(クラブ活動を除く)。ただし、使用終了の報告後、他団体の使用予定がなく、延長したい場合には申し出ることができます。その間、本学の学生および教職員からの使用の申し出があったときには共有すること。

○多目的コートのブラシの掛け方

- ・コートの外側から円を描くようにして、ブラシがけすること。
- ・雨上がりなどでコート面が湿っているときはブラシ掛けをしないでください。

3) グラウンド

【人工芝 / グラウンド】

- (1) スパイクシューズやハイヒール、下駄、スリッパなどで立ち入らないこと。(アップシューズ、運動靴は可。)
- (2) 土や泥、ごみがついたままの靴などで立ち入らないこと。(マットで取り除いてからグラウンドへ入ること。)
- (3) 運動時の水分補給以外の飲食は禁止。
- (4) 喫煙は厳禁。火気、花火の使用も禁止。
- (5) やり投げ、円盤投げ、砲丸投げの投てき競技の禁止。
- (6) 車両の乗り入れ禁止。
- (7) 芝をむしり取ることや、縦に裂く行為の禁止。
- (8) 酸、アルカリなどの人工芝を傷める洗剤、化学薬品(石灰系の白粉ライン材など)などの使用の禁止。
- (9) タータンの使用は授業以外では禁止。
- (10) テントや机を直接人工芝に置かないこと。(養生材(コンパネなど)を敷いた状態で置くことは可。)
- (11) ホースで水を撒く際、ホースの先をグラウンドに向けずに、先を上に向けて撒くこと。

5. クラブハウス

1. クラブハウス使用における注意事項

ドアや窓の施錠など、部屋の管理は各クラブが責任を持って行ってください。部屋の清掃と盗難に注意してください。火災防止のため、ストーブなどの使用は禁止します。なお、使用時間は 21：30 までとします。

2. クラブハウス案内図

クラブハウス 1 号館

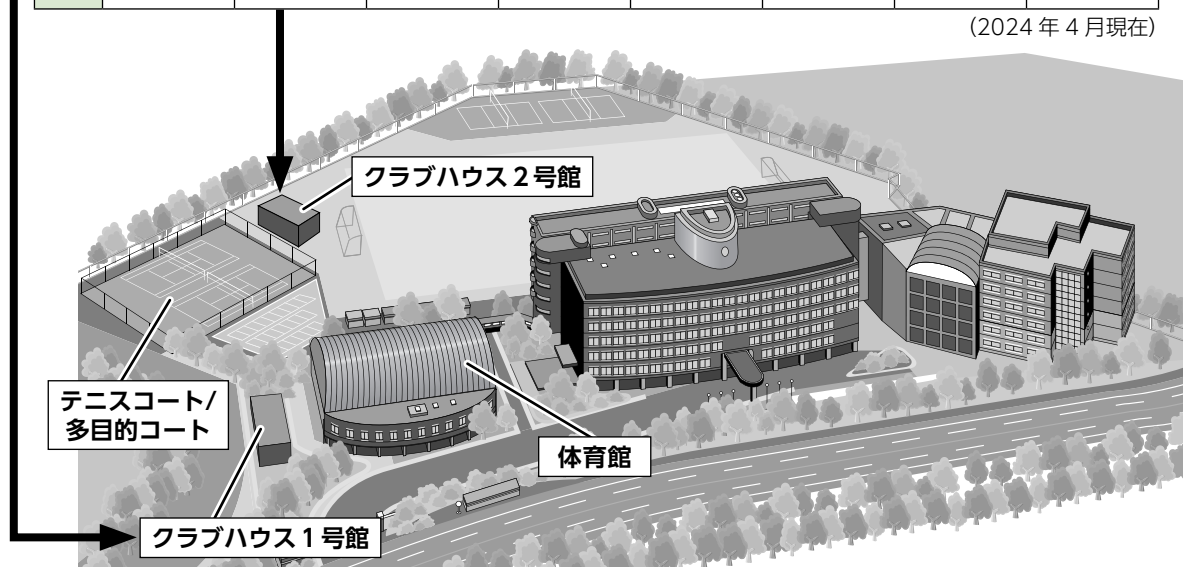
2 F	ホール	C207 Bulkum	C208 裏千家 茶道部	C209 フットサル部	C210 料理部	C211 Sky drop
	C201	C202	C203 武者小路千家 茶道部	C204 漫画部	C205	C206 ボードゲーム

1 F	C106 軽音楽部	C107 軽音楽部	C108 スカバンド部	C109 スカバンド部	C110	C111 葡萄祭
	C101 スタジオ		C102 JAZZ部	C103 JAZZ部	C104 葡萄祭	C105 軽音楽

クラブハウス 2 号館

2 F	C401	C402 バドミントン 部	C403 バスケット ボール部	C404 野球部	C405 合気道部	C406	C407	C408 映像研究会
1 F	C301 女子 サッカー部	C302 女子 サッカー部	C303 女子 バレー部	C303	C305 文芸部	C306 写真部	C307 ダンス部	C308 学生会

(2024 年 4 月現在)



6. その他の施設

1. ダイニングcommons (食堂)

営業時間以外も開放しています。昼食時など混雑時には、ゆずりあって利用しましょう。

【営業時間と場所】

- 営業時間 月～土 11:30～14:00
※授業調整期間中・長期休暇期間中は休業もしくは営業時間の変更があります。
- 場所 本館1階

2. ソレイユ (売店)

ソレイユでは、文房具・日用品・軽食などを販売しています。

【営業時間と場所】

- 営業時間 月～金 9:00～17:00
土 9:00～13:00
※授業調整期間中・長期休暇期間中は休業もしくは営業時間の変更があります。
- 場所 別館1階

3. 心理教育相談センター

帝塚山学院大学大学院附属心理教育相談センターでは、臨床心理士／公認心理師（本学教員ならびに相談員）が、さまざまな心の問題や生きにくさを感じている学外の方に対して、心理療法や支援を行っています。

同時に、本センターは臨床心理士／公認心理師養成のトレーニング機関でもあるため、本学臨床心理学専攻の大学院生が、教員のスーパーヴィジョン（助言・指導）を受けながら心理療法を行っています。

医療従事者と同じく、守秘義務が法的に課せられているため、心理教育相談センターには関係者以外の立ち入りを固く禁止しています。また、来談者への配慮として、可能な限り他者との接触がないよう取り組んでいます。

X. 学則・規程

学則・規程

学則及び履修規程以外の規程については、ポータル「キャビネット」にて参照することができます。

1. 帝塚山学院大学学則

帝塚山学院大学学則

第1章 総則

(名称)

第1条 本学は、帝塚山学院大学と称する。

(目的)

第2条 本学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、「力の教育」、すなわち意志の力、情の力、知の力、躯幹の力を含む全人教育を以って有為な人材を社会に送り出すという帝塚山学院建学の精神を継承しながら、豊かな教養を身につけ自学自習の教育によって求知心を育み、社会に貢献し得る品性高い人材を育成することを目的とする。

(自己点検・評価)

第3条 本学は、常に教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表し、その改善・充実に努める。

2 前項の点検及び評価の実施のために、自己点検・評価委員会を置く。同委員会に関する規程は、別に定める。

3 第1項の自己点検・評価に加え、教育研究等の総合的な状況について、定期的に文部科学大臣の認証を受けた評価機構の評価（以下「認証評価」という）を受けるものとする。

4 第1項の点検及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

(教育組織)

第4条 本学に、次の学部及び学科を置く。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

総合心理学部

総合心理学科

食環境学部

食イノベーション学科

管理栄養学科

2 本学に大学院を置く。ただし、大学院に関して必要な事項は、別に定める。

(学部及び学科の人材養成目的等)

第5条 本学の学部、学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

《リベラルアーツ学部》

社会の急速な変化に対応できる広い視野、判断力を有し、企画力、実践力、推進力のある総合的、学際的教養を身につけた人材の育成を目指す。

リベラルアーツ学科

社会の急速な変化に対応できる広い視野、

判断力を有し、企画力、実践力、推進力のある総合的、学際的教養を身につけた人材の育成を目指す。

《総合心理学部》

多様化、複雑化が進み、様々な問題や課題が山積する現代社会において、本学で身につけた豊かな教養を基盤に、心理学の知識、技能を理論的かつ実践的に展開する能力を習得するとともに、これらを生かし社会の多様な分野で活躍可能な人材を養成する。

総合心理学科

本学で習得した豊かな教養と心理学の知識・技能を活かして心と体の健康を総合的に理解し、臨床心理学、行動科学、健康発達科学の各分野を中心に幅広く地域・社会・産業に貢献できる人材を養成する。

《食環境学部》

「食」と「栄養」に関する幅広い知識と「食」の課題に取り組む社会人基礎力を有し、「食」「栄養」と「健康」との関連を理解した上で人々の生活の質と地域社会の発展に寄与する実践力を持つ専門家を養成する。

食イノベーション学科

「食」に係る事業において、「食の安全・安心」「食品ロス」「食育」等の「食」の課題を、デジタルトランスフォーメーションを推進しながら解決できる人材を養成する。

管理栄養学科

病院で医療チームの一員として傷病者の健康管理を行うとともに、専門的な知識を生かし企業や事業所において栄養ケアや健康管理を行う管理栄養士を養成する。また生命科学的な視点から栄養・食生活と健康に関する課題に取り組み、創造的に解決できる人材を養成する。

(学生定員)

第6条 各学部及び学科の学生定員は、次のとおりとする。

【入学定員】

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

120名

総合心理学部

総合心理学科

130名

食環境学部

食イノベーション学科

40名

管理栄養学科

80名

【収容定員】

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

480名

総合心理学部

総合心理学科	520名
食環境学部	
食イノベーション学科	160名
管理栄養学科	320名

第2章 学年、学期及び休業日 (学年)

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を分けて、次の2学期とする。

春学期

4月1日から9月30日まで

秋学期

10月1日から翌年3月31日まで

2 必要がある場合、学長は、前項の学期の期間を変更することができる。

(授業期間)

第9条 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

(各授業科目の授業期間)

第10条 各授業科目の授業は、14週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (2) 日曜日
- (3) 創立記念日(5月12日)
- (4) 夏季、冬季及び学年末休業に関しては、別に定める本学の学年暦による。
- 2 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、編入学、退学、休学、転学部、転学科、転学、留学、除籍及び復籍

(入学時期)

第12条 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(入学資格)

第13条 入学する資格のある者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者

と同等以上の学力があると本学で認めた者

(入学試験)

第14条 入学志願者に対して選抜試験を行い、学長が教授会の意見を聴いて、入学を許可する者を決定する。

(入学出願)

第15条 入学志願者は、入学願書に、別に定める書類及び入学検定料をそえて、所定の期日までに、提出しなければならない。

(入学手続)

第16条 入学試験に合格した者は、所定の期日までに本学所定の誓約書及びその他の書類を提出し、入学金を納入しなければならない。

(編入学)

第17条 編入学する資格のある者は、次の各号の一に該当する者とし、編入学年次は、第2年次又は第3年次とする。

- (1) 短期大学を卒業した者
- (2) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校専門課程を修了した者。ただし、修業年限が2年以上であり総修業時間1,700時間以上を修了した者
- (5) 前各号と同等以上の学力があると本学で認めた者

2 第14条から第16条までの規定は、編入学に準用する。

3 編入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱いについては、卒業要件単位の2分の1を上限として、教授会の意見を聴いて学長が決定する。

(退学及び再入学)

第18条 病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする者は、退学願を提出し、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。

2 前項によって退学した者が、再入学を願い出るときは、願い出の理由によって、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。

(休学及び復学)

第19条 病気その他やむを得ない理由によって就学できない者は、休学を願い出ることができる。その場合、休学願を提出し、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。

2 休学の期間は、原則として2年を超えることができない。

3 休学の期間は、在学年数に算入しない。

4 休学者が復学しようとするときは、復学願を提出し、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。

(転学部及び転学科)

第20条 学内において転学部又は転学科を志願する者は、当該学部長に願い出て、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。

(転学)

第21条 本学から他の大学に転学を志願する者がある場合は、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。

(留学)

- 第 22 条 外国の大学で学修することを志願する者がある場合は、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。
- 2 前項により留学した期間は、修業年限に含めることができる。
 - 3 前 2 項のほか、外国の大学で修得した単位の認定等に関し必要な事項は、別に定める。

(除 籍)

- 第 23 条 次の各号の一に該当する者については、学長が教授会の意見を聴いて、除籍する。
- (1) 在学年数が第 37 条第 2 項に規定された年数を超える場合
 - (2) 休学の期間が第 19 条第 2 項に規定された期間を超える場合
 - (3) 長期にわたって無届で欠席した場合
 - (4) 第 43 条第 2 項の場合
 - (5) 休学期間が終了したにもかかわらず、期日までに復学、休学又は退学の手続きを行わない場合
 - (6) 死亡又は長期にわたり行方不明の場合

(復 籍)

- 第 23 条の 2 本学に復籍を志願する者がある場合は、学長が教授会の意見を聴いて、これを許可することがある。
- 2 本学に復籍を願い出ることができる者は、本学を除籍になった者で、除籍になった学期の開始日から起算して 2 年以内の者とする。ただし、第 23 条第 1 号に規定する在学年数を超えて除籍となった者及び復籍後に再び除籍となった者は復籍することができない。
 - 3 除籍となった学期に復籍することはできない。
 - 4 復籍後の在学期間は除籍前の在学期間に通算する。

第 4 章 科目等履修生・聴講生・外国人学生及び特別課程履修生

(科目等履修生)

- 第 24 条 授業科目の一部について履修を志願する者があるときは、本学の教育に支障のないかぎり、学長が教授会の意見を聴いて、科目等履修生として許可することがある。
- 2 科目等履修生が受講した科目について試験を受け、合格した場合は、学長が教授会の意見を聴いて、当該科目の単位を授与する。
 - 3 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

- 第 25 条 第 13 条各号の一に該当する者が、授業科目の一部について聴講を願い出るときは、本学の教育に支障のないかぎり、学長が教授会の意見を聴いて、聴講を許可することがある。
- 2 聴講した科目の単位取得の認定は行わない。

(特別聴講学生)

- 第 26 条 他の大学との協議に基づき、当該大学に在学中の者で、授業科目の一部について聴講を願い出るときは、本学の教育に支障のないかぎり、学長が

教授会の意見を聴いて、特別聴講学生として聴講を許可することがある。

(外国人学生)

- 第 27 条 外国人で第 14 条によらないで入学を志願する者がある場合は、学長が教授会の意見を聴いて、外国人学生として入学を許可することがある。

(特別課程履修生)

- 第 28 条 学校教育法第 105 条に定める特別課程を履修しようとする者がある場合は、学長が教授会の意見を聴いて、特別課程履修生として履修を許可することがある。
- 2 特別課程履修生が所定の課程を修了したときは、学校教育法に定める履修証明を与えることができる。

第 5 章 教育課程及び履修方法

(授業科目及び単位数)

- 第 29 条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 リベラルアーツ学部、総合心理学部及び食環境学部の授業科目及びその単位数は、別表 (1) のとおりとする。
 - 3 前項に定める科目のほか、臨時に授業科目を開設することがある。この科目に関する事項は、開設ごとに定める。
 - 4 博物館学芸員課程に関する科目、図書館司書課程に関する科目、社会教育主事課程に関する科目、認定心理士／認定心理士 (心理調査) 課程に関する科目、食品衛生管理者及び食品衛生監視員課程に関する科目、フードスペシャリスト養成課程に関する科目、レクリエーション・インストラクター養成に関する科目、管理栄養士課程に関する科目、栄養士課程に関する科目、健康運動実践指導者養成課程に関する科目、公認心理師 (大学指定科目) に関する科目、食育インストラクターに関する科目及び健康食品管理士養成に関する科目は、それぞれ別表 (2)、別表 (3)、別表 (4)、別表 (5)、別表 (6)、別表 (7)、別表 (8)、別表 (9)、別表 (10)、別表 (11)、別表 (12)、別表 (13) 及び別表 (14) のとおりとする。

(単位算定基準)

- 第 30 条 前条に定める授業科目の単位数の算定は、前条第 1 項に規定する授業の方法に応じ、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(履修方法)

- 第 31 条 履修方法は、履修規程に定める。

(教室等以外の場所での履修)

- 第 32 条 第 29 条第 1 項に定める講義、演習、実験、実習及び実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。
- 2 前項に規定する授業方法により修得する単位数

は、60 単位を超えないものとする。

(他の大学又は短期大学における授業科目等の履修等)

第 33 条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学等との協議に基づき、学生に当該大学又は短期大学等の授業科目等を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目等について修得した単位については、学長が教授会の意見を聴いて、30 単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認めることができる。

(大学以外の教育に資する施設等における学修)

第 34 条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校等の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学長が教授会の意見を聴いて、単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 35 条 教育上有益と認めるときは、新たに本学の第 1 年次に入学した学生が、本学に入学する前に大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位(「科目等履修生」として修得した単位を含む)を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、学長が教授会の意見を聴いて、第 33 条及び前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認めることができる。

(単位の授与)

第 36 条 単位の授与は、試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して行う。

2 成績の評価は、100 点法に基づき、60 点以上を合格とする。合格した科目に対しては、所定の単位を与える。

(修業年限及び在学年数)

第 37 条 修業年限は、4 年とする。ただし、編入学生の修業年限は、第 2 年次に入学した者については 3 年、第 3 年次に入学した者については 2 年とする。

2 在学年数は、必要とする修業年限の 2 倍を超えることはできない。

3 大学の学生以外の者として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案し、2 年を上限として第 1 項の修業年限に通算することができる。

第 6 章 卒業及び学位並びに資格等の取得

(卒業時期)

第 38 条 卒業の時期は、原則として学年又は学期の終わりとする。

(卒業の認定)

第 39 条 第 37 条に定める期間在学し、別表に掲げる授業科目の中から所定の履修方法にしたがって、次

の単位数を修得した者に対し、学長が教授会の意見を聴いて、卒業と認定し、卒業証書・学位記を授与する。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科 124 単位以上

総合心理学部

総合心理学科 124 単位以上

食環境学部

食イノベーション学科 124 単位以上

管理栄養学科 124 単位以上

2 本学は、別に定めるところにより、本学の学科に 3 年以上在学した学生が、卒業の要件として本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第 37 条第 1 項の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

3 本学は、別に定めるところにより、卒業に必要な要件を満たす者が、合理的な理由により卒業を延期し引き続き在学を希望する場合は、卒業を延期することができる。

(学位の授与)

第 40 条 学長は、教授会の意見を聴いて、次の区分にしたがって学士の学位の授与を決定する。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科 学士 (リベラルアーツ)

総合心理学部

総合心理学科 学士 (心理学)

食環境学部

食イノベーション学科 学士 (食産業学)

管理栄養学科 学士 (栄養学)

(資格等の取得)

第 41 条 本学において取得することができる資格等及び免許状の種類は、次のとおりである。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

博物館学芸員、図書館司書、社会教育主事及びレクリエーション・インストラクター

総合心理学部

総合心理学科

博物館学芸員、図書館司書、社会教育主事、認定心理士/認定心理士(心理調査)、レクリエーション・インストラクター及び公認心理師受験資格(大学指定科目)

食環境学部

食イノベーション学科

フードスペシャリスト、レクリエーション・インストラクター、栄養士、健康運動実践指導者及び食育インストラクター

管理栄養学科

食品衛生管理者及び食品衛生監視員、フードスペシャリスト、レクリエーション・インストラクター、管理栄養士受験資格、栄養士、健康運動実践指導者、食育インストラクター及び健康食品管理士

2 博物館学芸員の資格を得ようとする者は、本学則第 39 条に定める単位のほか、別表(2)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は別に定める。

3 図書館司書の資格を得ようとする者は、第 39

条に定める単位のほか、別表(3)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。

- 4 社会教育主事の資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(4)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 5 認定心理士／認定心理士(心理調査)の資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(5)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 6 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(6)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 7 フードスペシャリスト受験資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(7)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 8 レクリエーション・インストラクター資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(8)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 9 管理栄養士受験資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(9)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。また、食環境学部管理栄養学科の学級数は、原則2とする。
- 10 栄養士資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(10)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。また、食環境学部食イノベーション学科の学級数は、原則1とする。
- 11 健康運動実践指導者受験資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(11)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 12 公認心理師受験資格(大学指定科目)を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(12)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 13 食育インストラクター受験資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(13)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。
- 14 健康食品管理士受験資格を得ようとする者は、第39条に定める単位のほか、別表(14)に規定する専門科目を履修しなければならない。履修方法は、別に定める。

第7章 学費 (学費)

- 第42条 本学において徴収する学費は、別表(21)のとおりとする。
- 2 第17条による編入学の学費は、前項と同様とする。
 - 3 在籍生の学費の納入期日は、春学期5月27日、秋学期11月27日とする。ただし、各納入期日

が土曜日、日曜日又は祝日の場合はその翌日とする。

- 4 すでに納入した学費は返還しない。
- 5 在籍生の学費を納入期日までに納付できない者で延納を希望する者は、申請期日までに延納許可願と延納料を提出・納入し許可を得なければならない。
- 6 延納の納入期日は、春学期6月27日、秋学期12月27日とする。ただし、各納入期日が土曜日、日曜日又は祝日の場合はその翌日とする。
- 7 在籍生の学費納入期限は春学期7月17日、秋学期1月17日とする。ただし、各学費納入期限が土曜日、日曜日又は祝日の場合はその翌日とする。

(学費の納入及び免除等)

- 第43条 在籍生の学費を納入しない者は、本学則第36条に定める試験を受けることができない。
- 2 前条第7項に規定する学費納入期限まで在籍生の学費の納入を怠った者は、除籍する。
 - 3 前項の規定によって除籍された者が復籍を願い出るときは、復籍願の提出及び別表(21)に規定する復籍料の納入を行う。
 - 4 休学期間中は、在籍料を納付するものとし、この期間の授業料、教育充実費及び実験実習費は全額を免除する。
 - 5 第37条に定める修業年限以上在学し、かつ、第39条の規定により卒業の認定をされなかった者のうち、卒業の認定を受けるための不足単位数が8単位以下の者で、かつ、翌年度の履修登録単位数が16単位以下の者は、当該学期の授業料の半額を免除し、教育充実費及び実験実習費は全額を免除する。
 - 6 第37条に定める修業年限を春学期末に充足し、かつ第39条の規定により卒業の認定をされなかった者のうち、卒業の認定を受けるための不足単位数が8単位以下の者で、かつ翌学期の履修登録単位数が16単位以下の者は、当該学期の授業料の半額を免除し、教育充実費及び実験実習費は全額を免除する。
 - 7 第37条に定める修業年限以上在学し、前項及び前々項の規定の対象とならない者は、教育充実費及び実験実習費の全額を免除する。

第8章 賞罰 (表彰)

- 第44条 学業が特に優秀な者又は学生の模範となる行為をした者は、学長が教授会の意見を聴いて、これを表彰する。

(懲戒)

- 第45条 この学則に違反し、又は本学の教育方針に反する行為があった者は、学長が教授会の意見を聴いて、これを懲戒する。
- 2 懲戒は、訓告、停学(有期又は無期)及び退学とする。
 - 3 懲戒退学は、次の各号の場合に限る。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められ

る者

- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- 4 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 教職員組織

(学長、副学長、学部長)

- 第46条 本学に学長を置く。学長は校務を掌り、所属教職員を統督する。
- 2 本学に副学長を置く。副学長に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 本学の各学部に学部長を置く。学部長に関し必要な事項は、別に定める。

(教職員)

- 第47条 本学に次の教職員を置く。

教授
准教授
講師
助教
助手
事務職員
その他

(役職員)

- 第48条 本学に、別に定めるところにより役職員を置く。
- 2 役職員の任免は、学長の内申により、理事長が行う。

第10章 運営管理

(運営管理)

- 第49条 本学運営管理のため、別に定めるところにより管理職員を置く。
- 2 管理職員の任免は、理事長が行う。

第11章 大学評議会

(大学評議会)

- 第50条 本学に大学評議会を置く。
- 2 大学評議会は、学長、副学長、学部長、教務部長、学生部長、学科長、大学事務局長及び大学事務局次長（以下「評議員」という）をもって組織する。ただし、学長が必要とする場合には、評議員以外の教職員及び学外の有識者に出席を求めることができる。
- 3 大学評議会の規程は、別に定める。

(大学評議会での意見聴取事項)

- 第51条 大学評議会は、全学に関わる次の事項について、学長の求めに応じ意見を述べるものとする。
- (1) 学則その他諸規程の制定改廃に関する事項
 - (2) 教育研究及び組織運営に関する事項
 - (3) 教育課程の編成方針に関する事項
 - (4) 教員の教育研究業績の基準に関する事項
 - (5) 学生の厚生補導に関する事項
 - (6) 内部質保証に関する事項
 - (7) 予算に関する事項
 - (8) その他、学長が必要とする事項

(全学委員会の設置)

- 第52条 大学評議会のもとに、全学委員会を置く。
- 2 全学委員会に関する規程は、別に定める。

第12章 教授会

(教授会)

- 第53条 本学に教授会を置く。
- 2 教授会は、学長、副学長、教授、准教授、専任講師、大学事務局長及び大学事務局次長をもって組織する。ただし、学長が必要とする場合には、その他の教職員を加えることができる。
- 3 学長は、教授会を招集し、その議長となる。
- 4 教授会の規程は、別に定める。

(教授会での意見聴取事項)

- 第54条 教授会は、学長が決定を行う次の事項について意見を述べるものとする。
- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
 - (2) 学位授与に関する事項
 - (3) その他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長が掌る教育研究に関する事項について、学長等の求めに応じ、意見を述べるることができる。

第13章 事務局

(事務局)

- 第55条 本学に事務局を置く。
- 2 事務局に関する規程は、別に定める。

第14章 図書館

(図書館)

- 第56条 本学に図書館を置く。
- 2 図書館に関する規程は、別に定める。

第15章 機構

(基盤教育機構)

- 第57条 本学に基盤教育機構を置く。
- 2 基盤教育機構に関する規程は、別に定める。

(社会連携機構)

- 第57条の2 本学に社会連携機構を置く。
- 2 社会連携機構に比較文化研究所を置く。
 - 3 社会連携機構及び比較文化研究所に関する規程は、別に定める。

第16章 教育研究附属施設等

(教職実践研究センター)

- 第58条 本学に教職実践研究センターを置く。
- 2 教職実践研究センターに関する規程は、別に定める。

(国際交流センター)

- 第59条 本学に国際交流センターを置く。
- 2 国際交流センターに関する規程は、別に定める。

(心理教育相談センター)

- 第60条 本学大学院に心理教育相談センターを置く。
- 2 心理教育相談センターに関する規程は、別に定める。

第17章 学則の変更

(学則の変更)

- 第61条 この学則の変更は、大学評議会の意見を聴いて、

理事会が行う。

聴講料（半期週1コマ） 10,000円
ただし、登録料については、本学卒業生は免除する。

附 則

1 本学則は、昭和41年4月1日から施行する。

中略

(施行期日)

1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。
(経過措置)

2 人間科学部心理学科及び食物栄養学科は令和6年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は改正後の学則第4条の規定にかかわらず、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程及び資格等の取得については、従前によるものとする。

3 令和6年度から令和8年度における収容定員は、第6条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

6年度 7年度 8年度

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

480名 480名 480名

総合心理学部

総合心理学科

130名 260名 390名

食環境学部

食イノベーション学科

40名 80名 120名

管理栄養学科 80名 160名 240名

人間科学部

心理学科 390名 260名 130名

食物栄養学科 360名 240名 120名

管理栄養士課程

240名 160名 80名

健康実践栄養士課程

120名 80名 40名

別表(1)～別表(14) 省略

別表(15) 学費

入学検定料	30,000円
入学金	250,000円
授業料	880,000円
教育充実費(リベラルアーツ学部)	300,000円
教育充実費(総合心理学部)	300,000円
教育充実費(食環境学部)	340,000円
実験実習費	30,000円

休学期間中

在籍料	120,000円
-----	----------

科目等履修生

選考料	5,000円
登録料	10,000円
受講料(1単位)	10,000円

ただし、本学卒業生については、選考料・登録料は全額、受講料は半額免除する。

聴講生

登録料	5,000円
-----	--------

2. 帝塚山学院大学履修規程

帝塚山学院大学履修規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、帝塚山学院大学学則第31条の規定に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めるものとする。

第2章 授業科目

(授業科目)

第2条 授業科目の区分は、別表第1のとおりとする。

第3章 卒業に必要な単位数

(卒業に必要な単位数)

第3条 各学部、学科の卒業に必要な単位数は、別表第1のとおりとする。

第4章 履修方法

(履修方法)

第4条 各学年次において履修することのできる授業科目は、当該学年次及び下位の学年次に配当されている科目とする。

2 授業科目においてクラス分けがある場合は、その指示に従わなければならない。

3 履修登録の前にあらかじめ手続きが必要な授業科目について、手続きを行っていない場合は、当該授業科目の履修を認めない。

4 履修登録者数が5名以下の授業科目については、原則として開講しない。ただし、修学上必要と認められる授業科目及び資格科目についてはこの限りではない。

(履修条件)

第5条 履修条件が設定されている授業科目について、その条件を満たさない場合は、当該授業科目の履修を認めない。

2 3年次配当の必修演習科目の履修条件は、次の各号の掲げるとおりとする。

〔リベラルアーツ学部〕

3年次配当の演習科目「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の履修は、卒業要件単位のうち、以下に掲げる単位数以上を修得していること、かつ、原則として「リベラルアーツ入門」、「日本語表現法」を修得していることを条件とする。

リベラルアーツ学科	48 単位
-----------	-------

〔総合心理学部〕

3年次配当の演習科目「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の履修は、卒業要件単位のうち、以下に掲げる単位数以上を修得していることを条件とする。

総合心理学科	60 単位
--------	-------

〔食環境学部〕

3年次配当の演習科目「専門演習」の履修は、卒業要件単位のうち、以下に掲げる単位数以上を修得していることを条件とする。

食イノベーション学科	60 単位
管理栄養学科	70 単位

3 4年次配当の必修演習科目の履修条件は、次のとおりとする。

〔リベラルアーツ学部〕

4年次配当の演習科目「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の履修は、原則として「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を修得済みであり、かつ、卒業要件単位のうち、以下に掲げる単位数以上を修得していることを条件とする。

リベラルアーツ学科	設定せず
-----------	------

〔総合心理学部〕

4年次配当の演習科目「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」の履修は、原則として「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を修得済みであり、かつ、卒業要件単位のうち、以下に掲げる単位数以上を修得していることを条件とする。

総合心理学科	設定せず
--------	------

〔食環境学部〕

4年次配当の演習科目「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」の履修は、原則として「専門演習」を修得済みであり、かつ、卒業要件単位のうち、以下に掲げる単位数以上を修得していることを条件とする。

食イノベーション学科	設定せず
管理栄養学科	90 単位

第5章 履修科目の登録

(履修科目の登録)

第6条 学生は、毎学年指定の期間内にその学年に履修する授業科目の登録を行わなければならない。

2 登録した授業科目の変更及び取消は、原則として認めない。ただし、指定された期間内に限り登録した授業科目の履修辞退を認める。

3 秋学期科目の修正登録は、指定の期間内に限り認める。

4 指定された期間内に履修登録を完了していない者は、その学年又は学期の授業及び試験を受けることができない。

(年間に履修できる単位数)

第7条 年間に履修できる単位数は、次のとおりとする。

リベラルアーツ学科	44 単位
総合心理学科	44 単位
食イノベーション学科	44 単位
管理栄養学科	48 単位

前年度末又は前学期末までの累計 GPA が 3.00 以上の場合、年間に履修できる単位数を 48 単位以内とし、3.50 以上の場合、年間に履修できる単位数を 50 単位以内とする。

2 次の科目については、年間に履修できる単位数に含めない。

- ・自由科目
- ・集中講義科目として開講する演習科目、実習科目
- ・カレッジコミュニティ

- ・現地講義
 - ・プロジェクト型キャリア研究
 - ・インターンシップ科目
 - ・海外研修科目
 - ・単位互換制度による他大学開設科目
- 3 履修辞退した授業科目については、年間に履修できる単位数から除外する。

(他学科開講科目)

- 第 8 条 所属学科以外の学科専門科目を他学科開講科目として履修することができる。
- 2 他学科開講科目として履修を認める授業科目については、別に定める。
 - 3 他学科開講科目の修得単位の卒業要件単位への算入方法は、所属学科の定めによる。

(単位互換制度)

- 第 9 条 単位互換の対象科目は、大学コンソーシアム大阪の単位互換制度に参加する大学の提供科目とする。
- 2 単位互換制度への出願資格は原則として 3 年次以上とし、本学の学部学生で、かつ、本学で許可を得た者に限る。出願等については、当該年度用に発行される案内、要項等を熟読のうえ、指定期日までに手続きを行う。
 - 3 単位互換制度による修得単位の卒業単位への算入方法は、所属学科の定めによる。
 - 4 単位互換制度に関する質問等があれば、科目提供大学に直接問い合わせず、本学事務局に申し出る。

第 6 章 授業 (授業時間帯)

第 10 条 授業時間帯は、次のように定める。

1 時限	9:20 ~ 11:00
2 時限 (前半)	11:10 ~ 12:50
2 時限 (後半)	11:50 ~ 13:30
3 時限	13:40 ~ 15:20
4 時限	15:30 ~ 17:10
5 時限	17:20 ~ 19:00
6 時限	19:10 ~ 20:50

(メディアを利用して行う授業)

- 第 11 条 メディアを利用して行うオンデマンド形態の授業は、インターネットその他の適切な方法により、双方向の通信手段を用いて行う。
- 2 前項の形態の授業を実施する授業科目については、シラバスに明示する。

(授業調整期間)

- 第 12 条 学年暦において、授業期間外に授業調整期間を定め、授業回数や進行状況に応じ、補講、試験等を実施する。
- 2 授業回数の確保のため、休講に対しては原則として授業調整期間に補講を実施する。
 - 3 授業の進行状況等により、授業調整期間に試験を実施することがある。

(警報発令時における授業、試験)

- 第 13 条 大阪府の「泉州地域」に区分される市町に気象庁による「特別警報」又は「暴風警報」が発令された場合は、次の表のとおり取り扱う。

午前 7 時までに解除された場合	平常どおり 1 時限から授業実施
午前 7 時を過ぎて午前 11 時 30 分までに解除された場合	1、2 時限は休講 3 時限から授業実施
午前 11 時 30 分を過ぎて解除された場合	終日休講

泉州地域：

- 堺市、和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町
- 2 前項に規定する地域以外に居住する学生でその居住区域に「特別警報」又は「暴風警報」が発令された場合は、欠席した授業又は試験について申し出により公欠として取り扱う。
 - 3 授業及び試験開始後に「特別警報」又は「暴風警報」が発令された場合は、直ちにその時限の授業及び試験を中止する。ただし、状況により当該時限終了まで実施する場合がある。

(自然災害や交通ストライキ等による交通機関運休時における授業、試験)

- 第 14 条 自然災害(台風・大雨・地震等)や交通ストライキ等により、南海電鉄高野線(難波駅～橋本駅の全区間)、泉北高速鉄道のいずれか一つの交通機関が運休となった場合は、次の表のとおり取り扱う。

午前 7 時までに運転再開した場合	平常どおり 1 時限から授業実施
午前 7 時を過ぎて午前 11 時 30 分までに運転再開した場合	1、2 時限は休講 3 時限から授業実施
午前 11 時 30 分を過ぎて運転再開した場合	終日休講

- 2 次の各号に掲げる交通機関が運休となった場合も前項と同様とする。
 - (1) JR 大阪環状線及び大阪メトロが同時に運休
 - (2) JR 阪和線及び南海電鉄本線が同時に運休
 - (3) 南海電鉄金剛駅及び泉北高速鉄道泉ヶ丘駅よりキャンパス間の南海バスが同時に運休
- 3 前各項に規定する以外の通学経路上の交通機関が運休となった場合は、欠席した授業又は試験について申し出により公欠として取り扱う。
- 4 第 1 項及び第 2 項の交通機関より計画運休が発表された場合は、学長が授業、試験の実施について判断する。
- 5 第 1 項及び第 2 項の基準に関わらず、学長が学生の安全確保のために必要と認めた場合又は通学困難等と認めた場合は、休講措置を取る。

(事故等による交通機関の一時的な運転見合わせにおける授業、試験)

- 第 15 条 事故等により、交通機関が一時的に運転見合わせとなった場合は、平常どおり授業を実施する。
- 2 通学経路上の交通機関が一時的に運転見合わせとなった場合は、欠席した授業又は試験について申し出により公欠として取り扱う。

第7章 授業の出欠席

(授業の出席)

第16条 学生は、単位を修得しようとする授業科目に出席しなければならない。

2 授業担当教員は、授業時間に出席をとらなければならない。

(欠席限度)

第17条 授業時間数の3分の1以上を欠席した者は、原則としてその授業科目の単位を修得することができない。

(長期欠席)

第18条 連続して2週間以上にわたって授業を欠席する場合は、「長期欠席届」を大学事務局に提出しなければならない。この場合、欠席理由を証明する書類等を添付しなければならない。

(学校において予防すべき感染症による欠席)

第19条 学校において予防すべき感染症により欠席した場合は、その旨の診断書又は学校指定の証明書を添えて、出校後2週間以内に「講義欠席届(公欠)」を大学事務局に届け出なければならない。

2 前項による届出があったときは、当該欠席を公欠として取り扱う。

(忌引きによる欠席)

第20条 忌引きにより欠席した場合は、忌引きであることを証明する書類を添えて、「講義欠席届(公欠)」を出校後2週間以内に大学事務局に届け出なければならない。

2 前項による届出があったときは、当該欠席を公欠として取り扱う。

3 忌引きとして認められる欠席日数は、次のとおりの連続した日数とする。

父母	7日
同居の祖父母	5日
兄弟姉妹	5日
別居の祖父母	3日
同居の三親等以下の親族	3日
三親等の親族	2日
その他の親族	1日

(正課の学外実習による欠席)

第21条 正課の学外実習により授業を欠席する場合は、実習期間が決定次第、「講義欠席届(公欠)」を大学事務局に届け出なければならない。

2 前項による届出があったときは、当該欠席を公欠として取り扱う。

3 公欠として認められる欠席日数は、当該実習の日数とする。

(就職活動による欠席)

第22条 就職活動による欠席であることを報告する場合は、事前に手続きを行い、出校後2週間以内に当該授業科目の授業担当教員に「就職活動証明書」を提出しなければならない。ただし、資格科目及び実験、実習を伴う科目については受け付けない。

2 就職活動による欠席は公欠としない。

第8章 評価

(成績評価)

第23条 学習の評価は100点法により行い、60点以上を合格とする。

2 学業成績・単位修得証明書には、上位より秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)をもって記載し、単位認定科目は認定と記載する。不可(59点以下)及び失格科目については不合格とし、学業成績・単位修得証明書に科目の記載をしない。

(GPA制度)

第24条 前条の成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点(Grade Point Average)(以下「GPA」という)を用いる。

2 GPAは、評点のうち、100～90点につき4.0、89～80点につき3.0、79～70点につき2.0、69～60点につき1.0、不可(59点以下)及び失格につき0をそれぞれ評価点(Grade Point)として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、卒業の要件に含まれる登録科目(履修辞退科目、単位認定科目を除く。)の総単位数で除して算出する。

(失格制度)

第25条 授業時間数の3分の1以上を欠席した場合は、原則として該当科目の単位修得を認めず、試験受験やレポート提出に関わらず、授業担当教員において失格と評価する。

第9章 試験

(試験)

第26条 試験は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、授業科目によってはレポート、作品、実技等をもって各試験に替えることもある。

(1) 学期末試験

規定の授業回数終了後、原則として授業調整期間に実施される試験をいう。

(2) 授業内試験

学期末試験以外に平常の授業内に行う試験をいう。

(3) 追試験

病気、事故その他やむを得ない理由で学期末試験を欠席した者に対して行う試験をいう。

(学期末試験の受験資格)

第27条 次の各号に掲げる者には学期末試験を受験する資格を与えない。

(1) 指定された期間内に履修科目の登録をしていない者

(2) 学費未納の者。ただし、学費の延納を認められた者は除く。

(3) 教授会において受験することが不適当と認められた者

(追試験)

第28条 追試験を受けようとする者は、病気、事故その他やむを得ない理由を明記した「試験欠席届・追試験願」を指定の期日までに大学事務局に提出し、手数料(1科目につき1,000円。ただし、公欠扱いとなる欠席の場合は不要)を納入しなければならない。この場合、欠席理由を証明する書類等を添付しなければならない。

2 追試験手続きは、本人又は父母等が行う。

- 3 追試験の成績は2割減点される。ただし、公欠扱いとなる欠席の場合は減点措置を実施しない。
- 4 追試験を欠席した場合は、再度の追試験は実施しない。

(試験における遵守事項)

第29条 試験についての遵守事項は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 試験開始時間に20分以上遅刻した者はその試験の受験資格を失う。
- (2) 試験開始後20分間は試験場を退出することができない。
- (3) 試験において指定されたもの以外のものを持ち込んだ場合は、試験問題との関連があるなしにかかわらず、不正行為とみなす。
- (4) 試験において不正行為をした者は、試験における不正行為の処分に関する規程に従って処分される。ただし、不正行為の態様によっては別途処置を受けるとともに、学則第45条によって懲戒することがある。

(レポート)

第30条 学期末試験に代わるレポートについては、レポート題目、提出期限、提出先、分量、形式等を掲示する。

- 2 レポート提出については、授業担当教員の指示に従わなければならない。

(卒業研究)

第31条 演習科目「卒業研究」において卒業論文等を提出しようとする者は、「研究計画書」を指定の期日までに担当教員に提出し、その指導を受けなければならない。

- 2 卒業論文等は、指定の期間内に各学科指定の場所に提出しなければならない。
- 3 卒業論文等の審査は、各学科で行う。

第10章 成績通知

(成績通知書)

第32条 春学期終了時の成績通知書は、9月上旬に学生本人及び父母等の連名宛に送付する。ただし、集中講義科目、単位互換科目の成績は記載されていないことがある。秋学期終了時の成績通知書は、1～3年次生は3月中旬に学生本人及び父母等の連名宛に送付、卒業年次生については卒業式当日に学生本人に配付する。

(成績評価のWeb公表)

第33条 成績評価のWeb公表は、次の各号に掲げるとおりにより行うものとする。

- (1) 成績評価は、学生本人がWeb上でも参照できるものとする。ただし、利用に際しては、学生個別のIDとパスワード認証を必要とする。
- (2) 各学期の成績評価は、成績通知書の送付時期に合わせて開示する。ただし、卒業年次生の秋学期終了時の成績評価については、教授会意見聴取後、直ちに開示することとする。(卒業の可否については、学生本人及び父母等の連名宛に郵送にて通知する。)

(成績に関する問い合わせ)

第34条 成績に関する問い合わせは、次の各号に定める期限又期間のとおり「成績に関する照会」により大学事務局にて行う。

- (1) 春学期科目
当該年度の9月20日まで
- (2) 通年、秋学期科目
当該年度の3月20日まで
- (3) その他(集中講義等)
成績通知後1週間以内

第11章 アドバイザー教員

(アドバイザー教員による学生指導)

第35条 学業をはじめ学生生活全般を支援するため、学生一人ごとにアドバイザー教員を置く。

- 2 学生は、在学中全期間を通じて、継続的にアドバイザー教員に指導、助言を求めることができる。
- 3 アドバイザー教員による学生指導に関する規定は、別に定める。

(GPAと学修指導)

第36条 1学期のGPAが1.5未満の学生には、アドバイザー教員による学修指導面談を行う。

- 2 GPA1.0未満が2学期連続した場合は、原則として学生本人及び父母等と学科長が面談し、就学意思の確認を行う。

第12章 学籍異動

(退学)

第37条 病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする者は、「退学願」を大学事務局に提出して、許可を得なければならない。

- 2 「退学願」を提出する前に、アドバイザー教員に相談する。

(休学)

第38条 病気その他やむを得ない理由によって就学できない者は、休学を願い出ることができる。

- 2 休学しようとする者は、「休学願」を大学事務局に提出して、許可を得なければならない。
その場合、休学理由を証明する書類(病気、ケガの場合は診断書等)を添付する必要がある。
- 3 休学しようとする者は、原則として次の各号に定める願い出期限までに「休学願」を大学事務局に提出しなければならない。

- (1) 春学期又は通年
当該年度の4月30日まで
- (2) 秋学期
当該年度の10月31日まで

- 4 休学期間は原則として年度、学期を単位とし、年度を超えることはできない。休学の継続を希望する者は、改めて願い出のものとする。
- 5 休学の期間は、原則として2年を超えることができない。
- 6 休学の期間は、在学年数に算入しない。
- 7 休学期間中は、在籍料を納付するものとし、この期間の授業料、教育充実費及び実験実習費は全額を免除する。

(転学部、転学科)

第39条 学内において、転学部又は転学科を志願する者は、所属の学科長を経て学部長に願い出ることが

- できる。
- 2 志願先の学部・学科に欠員がある場合に限り転学部・転学科の願い出を受け付ける。
 - 3 転学部・転学科の願い出にあたっては、原則として、累計 GPA が 2.8 以上であることを条件とする。ただし、食環境学部内の転学科については、GPA に関わらず願い出ることができる。
 - 4 食環境学部管理栄養学科への他学部からの転学部は認められない。
 - 5 転学部・転学科は、受入学部・学科での審査基準に基づき、審査及び選考を行う。
 - 6 転学部・転学科は、原則として 3 年次進級時までとする。ただし、食イノベーション学科から管理栄養学科への転学科は 2 年次進級時までとする。
 - 7 転学部・転学科の時期は、学年又は学期の始めとする。
 - 8 転学部・転学科を志願する者は、原則として次の各号に定める期間内に「転学部・転学科願」を大学事務局に提出しなければならない。
 - (1) 春学期からの場合
1 年次または 2 年次の 12 月 1 日から年内授業最終日まで
 - (2) 秋学期からの場合
2 年次の 6 月 1 日から 6 月末日まで
 - 9 転学部・転学科した者は、転学部・転学科後の属する学科及び年次の在学者に係る教育課程を履修する。
 - 10 一度許可された学生の再度の転学部・転学科は認められない。

(規程の改廃)

第 40 条 この規程の改廃は、大学評議会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 30 年 9 月 1 日から施行する。
- 4 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 5 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 6 この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
- (経過措置)
- 2 令和 5 年度以前の入学者及び令和 5 年度以前の入学者の属する年次に編入学、転学又は再入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前によるものとする。

別表第 1 (第 3 条関係)

卒業に必要な総単位数 (2024 年度入学生)

リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科		卒業要件詳細		卒業要件 単位数合計
基礎教育科目	導入学習	2 単位	必修	必修・選択必修科目の 単位を含み 38 単位
	A 群 (先人の知を受けつぐ)	2 単位	選択必修	
	B 群 (世界と今を読み解く)	2 単位	選択必修	
	C 群 (未来をひらく)	2 単位	選択必修	
	キャリア形成	4 単位	必修	
	外国語	8 単位	選択必修	
	情報処理	2 単位	必修	
学科専門科目	資格基礎		選択	124 単位
	基礎科目	2 単位	必修	
	基幹科目	6 単位	選択必修	
	展開科目	28 単位	選択必修	
関連科目	演習科目	8 単位	必修	38 単位
	上記基礎教育科目・学科専門科目の 余剰修得単位		選択	
	他学科開講科目	選択 上限 30 単位	上限 8 単位	
	単位互換制度による修得単位			

総合心理学部 総合心理学科		卒業要件詳細		卒業要件 単位数合計
基礎教育科目	導入学習	2 単位	必修	必修・選択必修科目の 単位を含み 28 単位
	A 群 (先人の知を受けつぐ)	2 単位	選択必修	
	B 群 (世界と今を読み解く)	2 単位	選択必修	
	C 群 (未来をひらく)	2 単位	選択必修	
	キャリア形成	4 単位	必修	
	外国語	8 単位	必修	
	情報処理	2 単位	必修	
学科専門科目	資格基礎		選択	124 単位
	基礎科目	6 単位	必修	
	基幹科目	24 単位	選択必修	
	展開科目		選択	
関連科目	演習科目	8 単位	必修	20 単位
	上記基礎教育科目・学科専門科目の 余剰修得単位		選択	
	他学科開講科目	選択 上限 20 単位	上限 8 単位	
	単位互換制度による修得単位			

食環境学部 食イノベーション学科		卒業要件詳細		卒業要件 単位数合計
基礎教育科目	導入学習	2 単位	必修	必修・選択必修科目の 単位を含み 26 単位
	A 群 (先人の知を受けつぐ)			
	B 群 (世界と今を読み解く)	6 単位	選択必修	
	C 群 (未来をひらく)			
	キャリア形成	4 単位	必修	
	外国語	8 単位	必修	
	情報処理	2 単位	必修	
学科専門科目	資格基礎		選択	124 単位
	基礎科目	2 単位	必修	
	基幹科目	2 単位	選択必修	
	専門分野	38 単位	必修	
関連科目	展開科目	14 単位	選択	20 単位
	演習科目	6 単位	必修	
	上記基礎教育科目・学科専門科目の 余剰修得単位		選択	
	他学科開講科目	選択 上限 20 単位	上限 8 単位	

食環境学部 管理栄養学科		卒業要件詳細		卒業要件 単位数合計
基礎教育科目	導入学習	2 単位	必修	必修・選択必修科目の 単位を含み 26 単位
	A 群 (先人の知を受けつぐ)			
	B 群 (世界と今を読み解く)	6 単位	選択必修	
	C 群 (未来をひらく)			
	キャリア形成	4 単位	必修	
	外国語	8 単位	必修	
	情報処理	2 単位	必修	
学科専門科目	資格基礎		選択	124 単位
	基礎科目	2 単位	選択必修	
	専門基礎分野	26 単位	必修	
	専門分野	24 単位	必修	
関連科目	演習科目	6 単位	必修	30 単位
	上記基礎教育科目・学科専門科目の 余剰修得単位		選択	
	他学科開講科目	選択 上限 20 単位	上限 8 単位	
	単位互換制度による修得単位			

XI. 付録

1. 災害時の備え

大地震や火災などの災害が発生した場合は、日頃から適切な準備をし、落ち着いて行動することが大切です。いざという時、身の安全が守れるよう、日頃からどう行動するべきかを考え備えておきましょう。

1. 地震が起きた場合

- ①まず、身の安全を確保する
 - ・窓や棚、ガラスなど危険物から離れる。
 - ・机の下などに身を隠し、落下物から身を守る。身を隠す物がない場合は、鞆などで頭を保護する。
 - ・実験・実習室など火元がある場合、コンセントやガスの元栓など火元の確認をし、すばやく火の始末をする。
- ②周囲の状況を確認する
 - ・ドアや窓を開け、脱出口を確保する。
 - ・出火した場合は、「2. 火災が起きた場合」の対応をする。
 - ・負傷者がいる場合は、応急措置を行う。困難と判断した場合は、すみやかに周りに助けを求める。
- ③避難をする
 - ・教職員や非常放送の指示に従い、落ち着いて避難する。
 - ・火災が発生している場合は、できるだけ煙を吸わないように、タオルなどで口を覆うようにする。
 - ・エレベーターを使用せず、階段で移動する。

2. 火災が起きた場合

- ①周囲に火災発生を知らせる
 - ・小さな火事でも一人で対応せず、大声で周りの人に知らせて協力を求める。
 - ・非常ベルを押す。
- ②初期消火にあたる
 - ・消火器や消火栓を使用し消火に努める。
 - ・炎が天井に達するまで大きくなった場合は、すみやかに避難する。
- ③避難をする
 - ・教職員や非常放送の指示に従い、落ち着いて避難する。
 - ・できるだけ煙を吸わないように、タオルなどで口を覆うようにする。
 - ・エレベーターを使用せず、階段で避難する。

3. キャンパス内避難経路・避難場所

『履修ガイド・時間割表』内学舎配置図を参照してください。

4. 大学からの安否確認

ポータルから安否確認のページを案内します。日頃と同様に定期的にポータルを確認するようにしてください。詳細は P.152 「3. 学生から大学への災害報告について」を参照してください。

5. 安否情報

○災害用伝言ダイヤル（171）

災害時に、固定電話、携帯電話などの電話番号宛に安否情報（伝言）を音声で録音（登録）し、全国からその音声を再生（確認）することができます。

- 伝言を録音する
171 + 1 + 電話番号を市外局番から（スマートフォンでも可）→録音（30 秒）
- 伝言を再生する
171 + 2 + 電話番号を市外局番から（スマートフォンでも可）→再生

○災害用伝言板

スマートフォンのインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話番号をもとにして全国から伝言を確認できます。

ドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi	
au	http://dengon.ezweb.ne.jp/	
ソフトバンク	http://dengon.softbank.ne.jp/	

6. 日頃から携帯しておく便利なもの

- 現金（公衆電話用に 10 円玉・100 円玉が必要）
- 本人確認書類（学生証・健康保険証・運転免許証など）
- スマートフォン（充電器・バッテリーも）
- ハンカチ
- ティッシュ
- 筆記用具
- 飲料水・携行食
- マスク


7. 非常持ち出し品

- ホイッスル
- 軍手
- 懐中電灯（予備電池も）
- ナイフ・はさみ
- 携帯ラジオ（予備電池）
- 救急セット
- 常備薬
- マスク
- ウェットティッシュ
- エマージェンシーシート
- タオル
- ポリ袋
- レインコート
- 飲料水・非常食

8. 全国瞬時警報システム（Jアラート）発令時の対応

東アジア情勢の緊張の高まりに伴い、弾道ミサイル情報など、対処に時間的余裕のない事態に関する緊急情報を迅速に伝達するために、全国瞬時警報システム（Jアラート）が導入されました。ミサイル発射の情報や避難の呼びかけなどの緊急情報については、Jアラートにより伝達され、その情報が携帯電話・スマートフォンの緊急速報メールや行政からの防災行政無線などを通じて伝達されます。また、Jアラート発令時は、テレビやラジオの情報を確認してください。

帝塚山学院は、ミサイルが発射され、近畿地方にJアラートが発令された場合、学生のみなさんの安全を確保するため休校とすることがあります。その場合は、大学ホームページ、帝塚山学院大学ポータルなどの手段で連絡します。危機対応の詳細については、以下のサイトを参照してください。

内閣官房 国民保護 ポータルサイト	https://www.kokuminhogo.go.jp/	
-------------------------	---	---

2. AED（自動体外式除細動器）

AEDとは、心臓がけいれんし、血流を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）に対して、電気ショックを与え正常なリズムに戻すための医療機器です。AEDは一般市民にも使えるように設計されています。倒れている人を見たら、勇気を持って、心肺蘇生をしましょう。

AED 設置場所

本学では玄関ホールと体育館入口、クラブハウス2号館に設置しています。扉を開けたらブザーが鳴り、緊急事態が発生したことを周囲の人にも知らせるようになっています。

救命方法の基礎知識

- ①反応の有無を確認してください。
- ②呼びかけて反応がなければ、119番通報と同時に、学内では保健室、教職員などにも連絡をしてください。AEDの手配をするよう、近くにいる学生にも協力を求めてください。
- ③胸と腹部が動いていなければ、気道を確保し、直ちに心臓マッサージ（胸骨圧迫）をしてください。
- ④AEDが到着するまで胸骨圧迫を続けてください。
 - ・平らな場所にあお向けに寝かせ、そのわきに両膝立ちになります。
 - ・胸の真ん中（胸骨の下半分）に両方の手のひらの付け根を重ねます。
 - ・体重をかけ、少なくとも5cm沈むように圧迫します。
 - ・1分間に少なくとも100回のテンポで圧迫します。
- ⑤AEDが到着したら
 - ・フタを開け電源を入れてください。
 - ・音声メッセージと点滅するランプにより操作方法が指示されますので、落ち着いて指示に従ってください。
- ⑥電気ショックをかけた後も救急隊が到着するまで胸骨圧迫を繰り返してください。



3. 教育後援会・同窓会

1. 教育後援会

帝塚山学院教育後援会は帝塚山学院の施設・設備の充実を助け、園児・児童・生徒・学生の教育活動を援助し、その福利厚生に寄与することを目的として組織され、活動しています。

2. 同窓会

帝塚山学院大学同窓会は1972年に設立され、正会員（卒業生）・準会員（在学生）・特別会員をもって組織し、会員相互の親睦をはかるとともに母校帝塚山学院大学の発展に寄与することを目的とするものです。主な活動は総会・親睦会の開催、広報誌発行のほか講演会など生涯学習の場を提供しています。

同窓会室（本館4階M411）

TEL・FAX：072-296-5890

E-mail：dosokai@tezuka-gu.ac.jp

※開室時間 月～金 10：00～16：00（土日祝閉室）



同窓会ホームページ

4. 学院歌・校歌・祝歌（あかね雲）・学生之歌

帝塚山学院歌

流れるように
quasi 2/4 (M.M.♩=72)

寿岳文章 作詞
山田耕筈 作曲

のびやまぬ みやこな にわづき
そのおかきょうのやちまた ゆくりか
にさまこそかわれこのちをよ
しとさだめてまなびやのーもとーいしお
きしそのかみのーひとはいきた
りさかえあれやてづかのやまのーな
にーおえるーわれらがくーいんー

(一) のびやまぬ みやこ難波津
昨日の丘 けふの八ちまた
ゆくりかに さまこそかはれ
この地を よしと定めて
学び舎の 基石置きし
そのかみの 人は活きたり
栄えあれや 帝塚の山の
名に負へる われらの学院

(二) さち多き 夢のかけはし
かつらぎの みねのあなたを
西雲 たなびくあした
すくよかに 生おそだつべく
えらばれて この学び舎に
むれつどふ 若きいのちよ
栄えあれや 帝塚の山の
名に負へる われらの学院

(三) 西のかぜ 葦間をわたり
あけはなつ 心のまどに
かぐはしく 通ふいくとせ
つぎの代を になふはわれと
つぶらなる 眼をかがやかせ
もの学ぶ けなげの子らよ
栄えあれや 帝塚の山の
名に負へる われらの学院

帝塚山学院大学校歌「若き空」

♩=90

喜多條忠 作詞
南平林龍 作曲
南平林龍 編曲

1. わかきーいのちの かがやきが つどいし
2. ゆめのーゆくえは ちがつて も あしたを
3. まもりーそだつ た でんとう は りそうの
じゅうの まなびや は うるわしのお か てづかや ま
みつめる まなざしで ともとかた らう てづかや ま
せかいを めざすため いにしえのお か てづかや ま
ときめきの まどあけて あるいてゆくーひとをーあいして
ぬくもりを たずさえて たびにでるーゆめをーしんじて
ことのはを ひもといて みちひらくーつねにーまなんで
あいされる ころけだかき ひとになる
おいかけて ゆめをすてない ひとになる
あたらしい つよいやさしい ひとになる
る つよいやさしいーひとになる

(一) 若きいのちの 輝きが
集いし自由の 学舎は
美しい丘 帝塚山
ときめきの 窓開けて 歩いてゆく
人を愛して 愛される
こころ 気高き 人になる

(二) 夢の行方は 違っても
明日を見つめる まなざしで
友と語らう 帝塚山
ぬくもりを 携えて 旅に出る
夢を信じて 追いかけて
夢を 捨てない 人になる

(三) 守り育った 伝統は
理想の世界を 目指すため
古の丘 帝塚山
言の葉を ひもといて 道拓く
常に学んで 新しい
強い やさしい 人になる

祝歌（あかね雲）

明るく輝かしく
小野 十三郎 作詞
川澄 健一 作曲

1. あか - ね - ぐ - も きよらかにみず
2. まつ - か - ぜ - は さわやかにおか
もにうつりながれゆくとしつ
べをわたりはるかなりわがみ
きちのにーとーりは つよくはばた
ふきあーげは たかくあがり
きていくたびか ことほぎうた いしむ
あしたまた ことほぎうた はむ
とものかーどで ああてづーかや
とものかーどで ああてづーかや
まはくあのがく えん とわに
まへいわのがく えん とわに
かわらぬ ころのふーるさと
かわらぬ ころのふーるさと

(一) 西雲清らかに
水面にうつり
流れゆく歳月
野に鳥は強く羽ばたき
いくたびかことほぎ歌いし
友の門出
あゝ 帝塚山 白壁の学園
とわにかわらぬ
心のふるさと

(二) 松風はさわやかに
丘辺をわたり
はるかなりわが道
噴泉は高くあがりて
あしたまたことほぎ歌わん
友の門出
あゝ 帝塚山 平和の学園
とわにかわらぬ
心のふるさと

帝塚山学院大学学生の歌

昭和44年度英文学科1回生 今井 千容子 作詞
小野 十三郎 補詞
昭和44年度英文学科3回生 今西 由起子 作曲
川澄 健一 補訂編曲

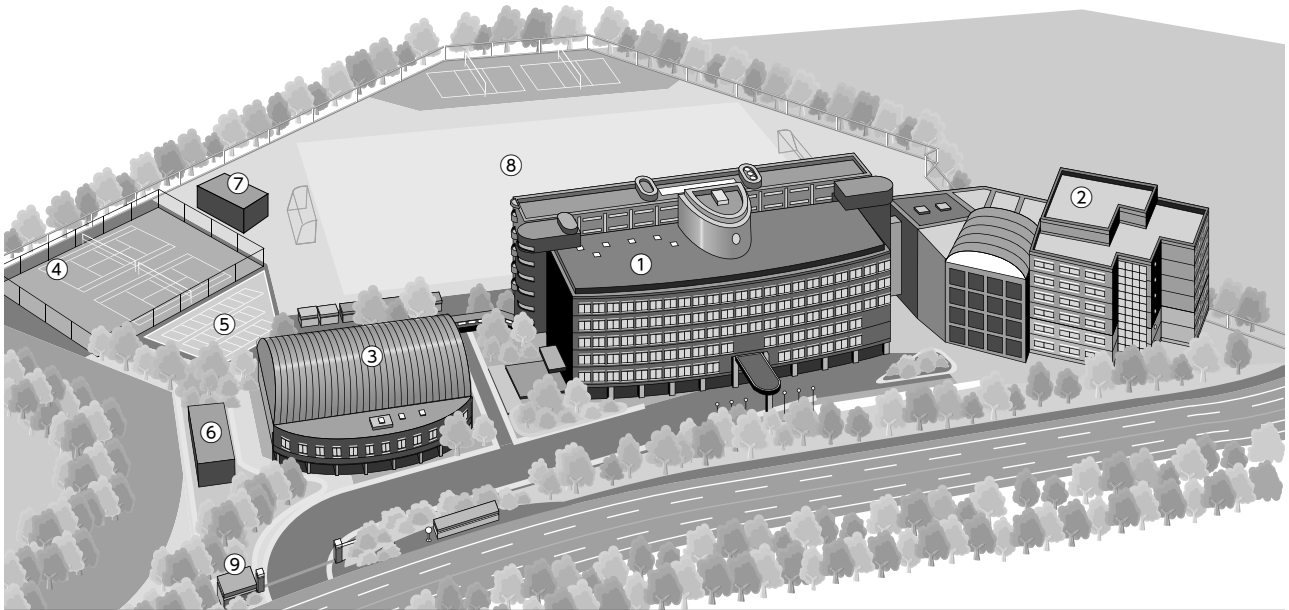
あかるく ♩=108

1. はれたひにーはーおもてにでよう かぜか
2. あめのひにーもーテラスによろう うすも
おるみどりのそのう おもいでが
やのけむれるおかべ このつどい
一ゆうきをよぶ きつとくるそのときーとも
一みらいをよぶ
と かつらうーともよともよともよー

(一) 晴れた日にはおもてに出よう
風がかおる緑の園生
思い出が勇気をよぶ
きつとくる そのとき
友とかたろう
友よ 友よ 友よ

(二) 雨の日にもテラスによろう
うす霧のけむる丘辺
このつどい未来をよぶ
きつとくる そのとき
友とかたろう
友よ 友よ 友よ

キャンパスマップ

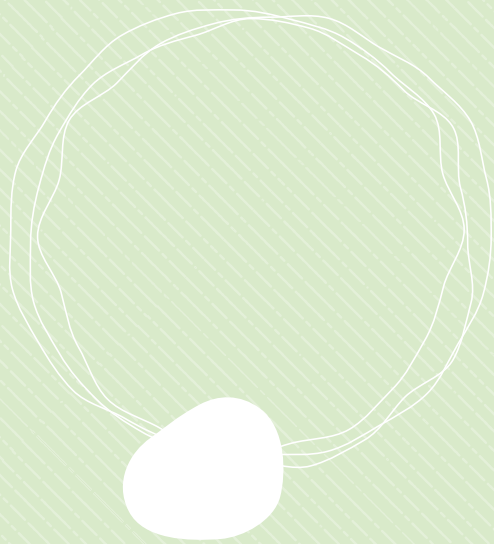


- | | | |
|---|--|--|
| <p>① 本館 1階</p> <p>本館 2階</p> <p>本館 3階</p> <p>本館 4階</p> | <p>総務部、保健室、
ダイニングcommons（食堂）、
クリエイティブcommons
教学センター、学生センター、
キャリアセンター、
アドミッションセンター、
スチューデントcommons、
ナレッジcommons（図書館）</p> <p>教職実践研究センター
自学自習commons、ICTスタッフルーム</p> | <p>② 別館 ソレイユ（売店）、学生相談室、
心理教育相談センター</p> <p>③ 体育館</p> <p>④ テニスコート/多目的コート</p> <p>⑤ バイク、自転車置き場</p> <p>⑥ クラブハウス 1号館</p> <p>⑦ クラブハウス 2号館</p> <p>⑧ グラウンド</p> <p>⑨ 守衛室</p> |
|---|--|--|

大学事務局窓口一覧

学生生活、課外活動、 奨学金、学費、諸届、 証明書発行、国際交流、 海外留学、産学官連携、 ボランティア に関すること	学生センター 学生課 TEL : 072-296-1331 【自動アナウンス 1番】 E-mail : gakusei@tezukayama.ac.jp	本館 2階 事務局	履修、授業、試験、 成績、資格課程、 大学院に関すること	教学センター 教学課 TEL : 072-296-1331 【自動アナウンス 2番】 E-mail : kyomu@tezukayama.ac.jp	本館 2階 事務局
学生生活全般の相談 に関すること	学生相談室 TEL : 072-296-1334 【内線 375】 E-mail : gakuso@tezukayama.ac.jp	別館 1階 A140・ A141	学修成果可視化（テツ カポートフォリオ）、 教育の質保証、教育 改善に関すること	教学センター 企画課 TEL : 072-296-1331 【自動アナウンス 2番】 E-mail : kikaku@tezukayama.ac.jp	本館 2階 事務局
健康診断、応急措置、 健康相談に関するこ と	保健室 TEL : 072-296-1331 【自動アナウンス 1番】	本館 1階 クリエイ ティブ commons奥	図書館資料の閲覧、 貸出に関すること	ナレッジcommons（図書館） TEL : 072-296-1331 【自動アナウンス 5番】 E-mail : toshokan@tezuka-gu.ac.jp	本館 2階 ナレッジ commons
就職活動の支援、 インターンシップ、 進路相談 に関すること	キャリアセンター TEL : 072-296-2034 E-mail : careercenter@tezuka-gu.ac.jp	本館 2階 事務局	BYOD、 学内の ICT 環境、 授業支援システム に関すること	総務部 ICT 課 TEL : 072-247-4539 E-mail : ict-info@tezuka-gu.ac.jp	本館 1階 事務局
大学広報、入学案内、 大学・大学院入試 に関すること	アドミッションセンター TEL : 072-290-0652 E-mail : koho@tezuka-gu.ac.jp	本館 2階 事務局	施設・設備 に関すること	総務部 TEL : 072-296-1331 【自動アナウンス 5番】	本館 1階 事務局

窓口取扱時間 月～金 9:00～16:50(土日祝閉室)
※長期休暇時、窓口取扱時間を変更する場合があります。



帝塚山学院大学

〒590-0113

大阪府堺市南区晴美台4-2-2

TEL(072)296-1331(代)

FAX(072)292-2135

学籍番号

氏名
